

前橋市0891遺跡

(一) 三夜沢国定停車場線社会资本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

群馬県前橋土木事務所

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

前橋市0891遺跡

(一) 三夜沢国定停車場線社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

群馬県前橋土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書は、(一)三夜沢国定停車場線社会資本総合整備(防災・安全) (交安・重点)事業に伴う発掘調査を実施した前橋市0891遺跡の報告書です。

この事業は歩行者や自転車の安全な通行を確保するために歩道を整備するものです。令和5年度の完成を目指して、目下、建設事業が鋭意進められています。

前橋市0891遺跡は、平成29年・令和元年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施しました。遺跡の発掘調査で、5世紀末から10世紀にかけての竪穴建物や中世の井戸、江戸時代の遺構が発見されました。特筆される遺構として、23号竪穴建物から5世紀末から6世紀初頭にかけての土器がまとまって出土し、その当時の人々が暮らした様子の一端が明らかになりました。

調査の成果は粕川地区の古墳時代から平安時代にかけての生活や他地域との交流を考える上で、重要な資料となるものと考えています。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでは、群馬県前橋土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会をはじめ、関係機関および地元関係者の皆様には多大なるご指導とご協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が粕川地域における歴史の解明に広く役立てられることを念じて、序といたします。

令和4年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

1. 本書は、(一)三夜沢国定停車場線社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に伴い発掘調査された前橋市0891遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 遺跡の所在地は下記の通りである。

群馬県前橋市柏川町深津17-4・19-10・19-11・19-12・19-13・20-7・31-6・32-5・33-6・33-7・33-8・43-6・44-15・45-2・45-4・130-3・132-3、群馬県前橋市柏川町女潤1018-3番地
3. 事業主体 群馬県前橋土木事務所
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 発掘調査の期間と体制は次の通りである。

【平成29年度】

履行期間 平成30年2月1日～3月31日
調査期間 平成30年3月1日～3月31日
調査担当 専門員 石川真理子、専門調査役 桜岡正信

【令和元年度】

履行期間 令和元年7月1日～令和2年2月29日
調査期間 令和元年7月1日～8月31日/令和2年1月1日～1月31日
調査担当 主任調査研究員 岩上千鶴、専門調査役 飛田野正佳、上席調査研究員 関 俊明
遺跡掘削工事請負 株式会社飯塚組 地上測量委託 技研コンサル株式会社 空中写真撮影 技研コンサル株式会社

6. 整理事業の期間と体制は次の通りである。

整理期間 令和3年4月1日～令和4年1月31日
整理担当 専門員(主任)石川真理子
金属製品・有機質遺物保存処理 専門員(主任)板垣泰之、専門調査役 関 邦一
遺物洗浄・注記 シン技術コンサル株式会社
7. 本書作成の担当者は以下の通りである。

編集 石川真理子 デジタル編集 主任調査研究員・資料統括 齋田智彦
本文執筆 石川真理子・中沢 悟
遺構写真撮影 発掘調査担当者
遺物写真撮影 (石器・石製品)専門調査役 岩崎泰一 (縄文土器・土師器・須恵器)石川真理子
(陶磁器)専門調査役 大西雅広 (金属製品)板垣泰之
遺物観察 (石器・石製品)岩崎泰一 (縄文土器)石川真理子
(土師器・須恵器)専門調査役 神谷佳明 (陶磁器)大西雅広 (金属製品)板垣泰之

8. 発掘調査諸資料及び出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
9. 発掘調査および報告書作成に際して、下記の方々に機関にご協力・ご指導をしていただきました。記して感謝いたします。(敬称略・順不同)群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会

凡例

目 次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第4章	まとめ	
第1節	前橋市0891遺跡について	110
第2節	古墳時代の土器について	110
第3節	深津の寄居について	113
	遺物観察表	114

第1章 発掘調査の概要

第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の過程	1
第3節	調査・整理の方法	3

写真図版

報告書抄録

付図 前橋市0891遺跡 全体図(1:600)

第2章 地理的環境と歴史的環境

第1節	地理的環境	6
第2節	歴史的環境	7
第3節	基本土層	16

第3章 検出された遺構と遺物

第1節	竪穴建物	27
第2節	竪穴状遺構	78
第3節	井戸	80
第4節	溝	90
第5節	土坑	97
第6節	ピット	102
第7節	遺構外出土遺物	108

挿図目次

第1図 前橋市0891遺跡の位置·····	4	第51図 23号竪穴建物出土遺物(1)·····	66
第2図 調査区位置図·····	5	第52図 23号竪穴建物出土遺物(2)·····	67
第3図 周辺遺跡·····	9	第53図 23号竪穴建物出土遺物(3)·····	68
第4図 基本上図·····	17	第54図 23号竪穴建物出土遺物(4)·····	69
第5図 1区・2区・3区全体図·····	18	第55図 24号竪穴建物·····	70
第6図 1区A～D全体図·····	19	第56図 25号・26号竪穴建物·····	70
第7図 4区全体図·····	20	第57図 27号竪穴建物·····	71
第8図 4区旧石器・レンチ全体図·····	21	第58図 27号竪穴建物カマドと出土遺物·····	72
第9図 5区・6区・7区・8区全体図·····	22	第59図 28号竪穴建物と出土遺物·····	73
第10図 9区全体図·····	23	第60図 29号竪穴建物と出土遺物·····	74
第11図 10区1面・2面全体図·····	24	第61図 30号竪穴建物·····	75
第12図 11区1面・2面全体図·····	25	第62図 30号竪穴建物振り方・カマド·····	76
第13図 12区1面・2面全体図·····	26	第63図 30号竪穴建物出土遺物·····	77
第14図 1号竪穴建物·····	28	第64図 2号竪穴状道構·····	78
第15図 2号竪穴建物·····	29	第65図 2号竪穴状道構横出し遺物·····	79
第16図 3号竪穴建物と出土遺物·····	30	第66図 3号竪穴状道構·····	79
第17図 4号竪穴建物と出土遺物·····	31	第67図 4号竪穴状道構·····	80
第18図 5号竪穴建物·····	32	第68図 5号竪穴状道構·····	80
第19図 5号竪穴建物カマド·····	33	第69図 1号～3号井戸と2号・3号井戸出土遺物·····	81
第20図 5号竪穴建物出土遺物·····	34	第70図 4号井戸·····	82
第21図 6号竪穴建物·····	35	第71図 4号井戸出土遺物·····	83
第22図 6号竪穴建物カマドと出土遺物·····	36	第72図 5号・6号井戸·····	84
第23図 7号竪穴建物·····	37	第73図 5号・6号井戸上層断面と6号井戸出土遺物·····	85
第24図 7号竪穴建物カマドと出土遺物·····	38	第74図 7号井戸と出土遺物·····	86
第25図 8号竪穴建物·····	39	第75図 8号・9号井戸·····	87
第26図 9号竪穴建物と出土遺物·····	40	第76図 10号・11号井戸と10号井戸出土遺物·····	88
第27図 10号竪穴建物・カマドと出土遺物·····	41	第77図 12号井戸と出土遺物·····	89
第28図 11号竪穴建物·····	42	第78図 1号・6号溝·····	91
第29図 11号竪穴建物カマドと出土遺物(1)·····	43	第79図 1号・6号溝出土遺物·····	92
第30図 11号竪穴建物と出土遺物(2)·····	44	第80図 2号・3号溝と2号溝出土遺物·····	93
第31図 12号竪穴建物・カマドと出土遺物·····	45	第81図 4号・5号溝·····	94
第32図 13号竪穴建物・カマドと出土遺物·····	46	第82図 7号・9号・10号溝·····	95
第33図 14号竪穴建物·····	47	第83図 8号・11号溝·····	96
第34図 14号竪穴建物振り方・上層断面·····	48	第84図 2号・5号・7号～9号・11号・14号土坑と8号土坑出土遺物·····	98
第35図 14号竪穴建物カマドと出土遺物(1)·····	49	第85図 16号～20号土坑と18号・20号土坑出土遺物·····	99
第36図 14号竪穴建物と出土遺物(2)·····	50	第86図 21号～27号・31号土坑と31号土坑出土遺物·····	100
第37図 15号・16号竪穴建物と15号竪穴建物出土遺物·····	51	第87図 32号・33号・35号～37号土坑と33号土坑出土遺物·····	101
第38図 16号竪穴建物出土遺物·····	52	第88図 38号・39号・41号・45号・46号土坑·····	102
第39図 17号竪穴建物と出土遺物·····	53	第89図 1号～14号ビット·····	104
第40図 18号竪穴建物·····	54	第90図 15号～28号ビット·····	105
第41図 18号竪穴建物カマドと出土遺物(1)·····	55	第91図 29号～42号ビット·····	106
第42図 18号竪穴建物と出土遺物(2)·····	56	第92図 43号～50号ビット·····	107
第43図 19号竪穴建物・カマド·····	57	第93図 道構外出土遺物(1)·····	108
第44図 21号竪穴建物·····	58	第94図 道構外出土遺物(2)·····	109
第45図 21号竪穴建物振り方・上層断面·····	59	第95図 竪穴建物出土土器(1)·····	111
第46図 21号竪穴建物カマドと出土遺物(1)·····	60	第96図 竪穴建物出土土器(2)·····	112
第47図 21号竪穴建物と出土遺物(2)·····	61	第97図 深津の寄居(引用文献2)·····	113
第48図 22号竪穴建物·····	62	第98図 深津の寄居付近の図 明治(引用文献75)·····	113
第49図 22号竪穴建物カマドと出土遺物·····	63	第99図 深津の寄居付近の図 昭和(引用文献76)·····	113
第50図 23号竪穴建物・カマド·····	65		

表 目 次

第1表 前橋市0891遺跡 調査経過·····	2	第5表 溝一覧表·····	92
第2表 周辺遺跡一覧表·····	10	第6表 土坑一覧表·····	97
第3表 竪穴建物一覧表·····	27	第7表 ビット計測表·····	103
第4表 井戸一覧表·····	83	第8表 遺物観察表·····	114

写真目次

PL. 1	1 1区～11区調査区全景(南から)	PL. 13	1 1区～A 15号・16号竪穴建物上層断面A'-A' (西から)
	2 1区4号・5号・6号・7号・10号・11号竪穴建物全景(上から)		2 1区～A 15号竪穴建物全景(西北から)
PL. 2	1 2区1号竪穴建物検出状況(北から)		3 1区～A 15号竪穴建物遺物出土状態(西から)
	2 2区1号竪穴建物全景(南から)		4 1区～A 15号竪穴建物遺物出土状態(北東から)
	3 2区1号竪穴建物全景(南から)	PL. 14	5 1区～A 15号竪穴建物遺物出土状態(南から)
	4 2区1号竪穴建物焼上・炭化物検出状況(南から)		1 1区17号竪穴建物上層断面A'-A' (南から)
	5 2区2号竪穴建物全景(北東から)		2 1区17号竪穴建物全景(南西から)
PL. 3	1 1区3号・4号竪穴建物地盤状況(南から)		3 1区17号竪穴建物掘り方全景(南西から)
	2 1区3号竪穴建物上層断面A'-A' (西から)		4 1区17号竪穴建物遺物出土状態(南から)
	3 1区3号竪穴建物全景(西から)	PL. 15	5 1区17号竪穴建物遺物出土状態(西から)
	4 1区3号竪穴建物内集石全景(西から)		1 9区18号・19号竪穴建物、3号・4号竪穴状構全景(南から)
PL. 4	5 1区3号竪穴建物全景(西から)		2 9区18号・19号竪穴建物全景(南西から)
	1 1区4号竪穴建物全景(南から)	PL. 16	3 9区18号竪穴建物遺物出土状態(南西から)
	2 1区4号竪穴建物全景(西から)		4 9区18号竪穴建物掘り方全景(南西から)
	3 1区4号竪穴建物遺物出土状態(南から)	PL. 17	5 9区18号竪穴建物遺物出土状態(南西から)
	4 1区4号竪穴建物掘り方全景(南から)		6 9区18号竪穴建物カマド上層断面E' (西から)
	5 1区5号～7号竪穴建物地盤状況(南から)		7 9区18号竪穴建物カマド掘出上状態(南西から)
PL. 5	1 1区5号竪穴建物全景(南から)	PL. 18	8 9区18号竪穴建物カマド掘り方上層断面C'-C' (南から)
	2 1区5号竪穴建物カマド上層断面C'-C' (南から)		9 9区19号竪穴建物全景(西から)
	3 1区5号竪穴建物カマド掘出上状態(西から)		2 9区19号竪穴建物上層断面B'-B' (東から)
	4 1区5号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)		4 9区19号竪穴建物掘り方上層断面A'-A' (西から)
	5 1区5号竪穴建物全景(西から)	PL. 19	5 9区19号竪穴建物掘り方全景(西から)
	6 1区5号竪穴建物掘り方全景(南から)		1 9区19号竪穴建物カマド上層断面E' (西から)
	7 1区6号竪穴建物カマド上層断面E'-E' (西から)		2 9区19号竪穴建物カマド全景(西から)
PL. 6	8 1区6号竪穴建物カマド全景(南西から)		3 9区19号竪穴建物カマド全景(西から)
	1 1区7号竪穴建物全景(南から)	PL. 20	4 9区19号竪穴建物カマド上層断面E'-E' (西から)
	2 1区7号竪穴建物全景(西から)		5 1区～E 21号・22号・23号竪穴建物全景(北東から)
	3 1区7号竪穴建物カマド掘出状況(西から)		1 1区～E 21号竪穴建物全景(西から)
	4 1区7号竪穴建物カマド掘出状況(南から)		2 1区～E 21号竪穴建物上層断面A'-A' (西から)
	5 1区7号竪穴建物カマド上層断面B'-D' (南から)		3 1区～E 21号竪穴建物遺物出土状態(西から)
PL. 7	1 4区8号竪穴建物検出状況(南から)	PL. 21	4 1区～E 21号竪穴建物遺物出土状態(西から)
	2 4区8号竪穴建物北半全景(南から)		5 1区～E 21号竪穴建物カマド上層断面E'-E' (西から)
	3 1区9号竪穴建物掘出状況(南から)		1 1区～E 21号竪穴建物カマド上層断面E'-E' (西から)
	4 1区9号竪穴建物掘り方全景(南から)	PL. 22	2 1区～E 21号竪穴建物カマド上層断面I'-I' (西から)
	5 1区10号竪穴建物掘り方全景(南西から)		3 1区～E 21号竪穴建物カマド上層断面F'-F' (西から)
PL. 8	1 1区10号竪穴建物掘り方上層断面A'-A' (北東から)		4 1区～E 21号竪穴建物カマド上層断面H'-H' (北から)
	2 1区10号竪穴建物カマド上層断面B'-D' (南から)		5 1区～E 22号竪穴建物全景(南から)
	3 1区10号竪穴建物カマド掘り方上層断面B'-D' (南から)	PL. 23	1 1区～E 22号竪穴建物掘り方全景(南西から)
	4 1区10号竪穴建物カマド掘り方全景(南西から)		2 1区～E 22号竪穴建物掘出上状態(西から)
	5 1区～E 11号竪穴建物北半分(南から)		3 1区～E 22号竪穴建物カマド上層断面A'-A' (西から)
PL. 9	1 1区～E 11号竪穴建物北半分(南から)		4 1区～E 22号竪穴建物カマド上層断面F'-F' (南から)
	2 1区～E 11号竪穴建物カマド上層断面C'-C' (南から)		5 1区～E 22号竪穴建物カマド掘出上状態(南から)
	3 1区～E 11号竪穴建物カマド周辺(南から)	PL. 24	6 1区～E 22号竪穴建物カマド上層断面E'-E' (南から)
	4 1区～E 11号竪穴建物全景(北から)		7 1区～E 22号竪穴建物カマド上層断面F'-F' (西から)
	5 1区～E 11号竪穴建物半分(南から)		8 1区～E 22号竪穴建物カマド掘り方全景(南から)
	6 1区～E 11号竪穴建物カマド全景(西から)	PL. 25	1 1区～E 23号竪穴建物全景(西から) 次は遺物番号
	7 1区～E 11号竪穴建物カマド上層断面H'-H' (西から)		2 1区～E 23号竪穴建物遺物出土状態(西から)
	8 1区～E 11号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)		3 1区～E 23号竪穴建物遺物出土状態(西から)
PL. 10	1 1区～E 12号竪穴建物全景(西から)		4 1区～E 23号竪穴建物遺物出土状態(西から)
	2 1区～E 12号竪穴建物カマド上層断面D'-D' (南から)		5 1区～E 23号竪穴建物遺物出土状態(西から)
	3 1区～E 12号竪穴建物上層断面A'-A' (南から)	PL. 24	1 1区～E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)
	4 1区～E 13号竪穴建物全景(南から)		2 1区～E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(南から)
	5 1区～E 13号竪穴建物掘り方全景(南から)		1 1区～E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)
	6 1区～E 13号竪穴建物カマド掘り方上層断面B'-B' (南から)	PL. 25	2 1区～E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)
PL. 11	1 1区～E 14号竪穴建物全景(西から)		3 1区～E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)
	2 1区～E 14号竪穴建物遺物出土状態(南から)		4 1区～E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)
PL. 12	1 1区～E 14号竪穴建物カマド上層断面C'-C' (西から)		1 1区～E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)
	2 1区～E 14号竪穴建物カマド焼土検出状況(南東から)		2 1区～E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)
	3 1区～E 14号竪穴建物カマド全景(南東から)		3 1区～E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)
	4 1区～E 14号竪穴建物カマド上層断面B'-B' (北東から)		4 1区～E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(北から)
	5 1区～A 15号・16号・17号竪穴建物全景(南から)		

	5	1区-E	23号窓穴建物物マド上層断面E-E' (北から)		6	4区9号・10号井戸全景(北から)
	6	1区-E	23号窓穴建物物マド全景(西から)		7	4区9号井戸全景(南から)
	7	1区-E	23号窓穴建物物マド上層断面G-G' (西から)		8	4区9号井戸上層断面A-A' (南から)
	8	1区-E	23号窓穴建物物マド上層断面G-G' (西から)	PL. 39	1	4区10号井戸全景(北から)
PL. 26	1	1区-D	24号窓穴建物物マド上層断面(南から)		2	4区10号井戸上層断面A-A' (南から)
	2	1区-D	24号窓穴建物物マド上層断面A-A' (西から)		3	4区11号井戸全景(西から)
	3	1区-D	24号窓穴建物物マド上層断面A-A' (西から)		4	4区12号井戸全景(東から)
	4	1区-D	25号窓穴建物物マド全景(南から)		5	4区11号・12号井戸、1号・5号・6号溝全景(南から)
	5	1区-D	25号窓穴建物物マド上層断面A-A' (西から)	PL. 40	1	4区1号・6号溝全景(北から)
PL. 27	1	1区-D	26号窓穴建物物マド全景(南から)		2	5区1号溝全景(北から)
	2	1区-D	27号窓穴建物物マド全景(西から)		3	5区1号溝上層断面B-B' (南から)
PL. 28	1	1区-D	27号窓穴建物物マド全景(南から)		4	5区1号溝全景(南から)
	2	1区-D	27号窓穴建物物マド全景(西から)	PL. 41	1	1区-B 2号溝全景(西から)
	3	1区-D	27号窓穴建物物マド全景(南から)		2	1区-C 3号溝全景(南から)
	4	1区-D	27号窓穴建物物マド上層断面B-B' (南から)		3	4区4号溝全景(北から)
	5	1区-D	27号窓穴建物物マド全景(西から)		4	4区5号溝上層断面A-A' (北から)
	6	1区-D	27号窓穴建物物マド全景(西から)		5	4区5号溝全景(南から)
	7	1区-D	27号窓穴建物物マド上層断面C-C' (南から)		6	4区6号溝全景(南から)
	8	1区-D	27号窓穴建物物マド下掘り全景(西から)		7	4区6号溝上層断面G-G' (東から)
PL. 29	1	4区29号・30号窓穴建物物全景(南から)			8	10区7号・9号・10号溝全景(北から)
	2	4区29号窓穴建物物掘り方全景(南から)			2	10区7号溝全景(北から)
PL. 30	1	4区28号窓穴建物物掘り方全景B-B' (東から)			3	10区9号溝上層断面A-A' (西から)
	2	4区28号窓穴建物物上層断面A-A' (北から)			4	10区10号溝全景(西から)
	3	4区28号窓穴建物物出土状態(西から)		PL. 42	5	10区10号溝上層断面A-A' (西から)
	4	4区28号窓穴建物物北側周溝(南から)			1	11区8号溝全景(北から)
	5	4区28号窓穴建物物全景(南から)			2	11区1号溝全景(南から)
	6	4区28号窓穴建物物掘り方上層断面B-B' (北から)			3	11区8号溝全景(東から)
	7	4区28号窓穴建物物掘り方上層断面A-A' (西から)			4	11区8号溝上層断面A-A' (東から)
	8	4区28号窓穴建物物出土状態(南から)			5	11区11号溝上層断面A-A' (北から)
PL. 31	1	4区28号・29号・30号窓穴建物物全景(南から)			6	11区11号溝上層断面A-A' (北から)
	2	4区29号窓穴建物物全景(南から)	PL. 43		1	12区2号土坑全景(東から)
PL. 32	1	4区30号窓穴建物物全景(西から)			2	12区2号土坑上層断面A-A' (東から)
	2	4区30号窓穴建物物上層断面B-B' (北西から)			3	1区5号土坑全景(南から)
	3	4区30号窓穴建物物遺物出土状態(南から)			4	1区5号土坑上層断面A-A' (南から)
	4	4区30号窓穴建物物出土状態(南から)			5	1区9号土坑全景(西から)
	5	4区30号窓穴建物物掘り方全景(西から)			6	1区9号土坑上層断面A-A' (西から)
PL. 33	1	4区30号窓穴建物物マド上層断面H-H' (西から)			7	1区11号土坑全景(西から)
	2	4区30号窓穴建物物カドマド掘り方上層断面H-H' (西から)			8	1区11号土坑全景(西から)
	3	4区30号窓穴建物物貯藏室全景(西から)	PL. 44		1	1区14号土坑全景(南から)
	4	4区30号窓穴建物物P1全景(南から)			2	1区14号土坑上層断面A-A' (南から)
	5	9区2号・3号・4号窓穴状遺構全景(南東から)			3	1区16号土坑全景(北から)
PL. 34	1	4区5号窓穴状遺構全景(北から)			4	1区16号土坑上層断面A-A' (北から)
	2	9区2号窓穴状遺構全景(南東から)			5	3区17号土坑全景(南から)
	3	9区3号窓穴状遺構全景(西から)			6	1区18号土坑全景(北から)
	4	9区4号窓穴状遺構全景(西から)			7	1区18号土坑遺物出土状態(北から)
	5	4区5号窓穴状遺構全景(東から)			8	9区19号土坑上層断面A-A' (南から)
PL. 35	1	2区1号・2号・3号井戸全景(南から)	PL. 45		1	9区20号土坑上層断面A-A' (東から)
	2	2区2号・3号井戸全景(北から)			2	9区20号土坑遺物出土状態(北から)
PL. 36	1	2区1号井戸全景(東から)			3	9区21号土坑全景(北から)
	2	2区1号井戸上層断面A-A' (東から)			4	9区21号土坑上層断面A-A' (北から)
	3	2区2号・3号井戸全景(南から)			5	9区22号土坑全景(西から)
	4	2区2号井戸全景(南から)			6	9区24号土坑上層断面A-A' (南東から)
	5	2区3号井戸遺物出土状態(北から)			7	9区24号土坑全景(南西から)
	6	2区3号井戸全景(北から)			8	9区25号土坑全景(南西から)
	7	1区4号井戸遺物出土状態(南東から)	PL. 47		1	9区26号土坑全景(東から)
	8	1区4号井戸全景(北東から)			2	9区27号土坑上層断面A-A' (南から)
PL. 37	1	6区5号・6号井戸全景(西から)			3	1区-D 31号土坑全景(西から)
	2	6区5号井戸上層断面A-A' (南西から)			4	1区-D 31号土坑上層断面A-A' (東から)
	3	6区5号井戸全景(南西から)			5	1区-E 32号土坑全景(西から)
	4	6区6号井戸上層断面B-B' (西から)			6	4区33号土坑全景(北から)
	5	6区6号井戸遺物出土状態(南西から)			7	4区33号土坑上層断面A-A' (北から)
PL. 38	1	1区-E 7号井戸全景(南から)	PL. 48		8	4区33号土坑遺物出土状態(東から)
	2	1区-E 7号井戸全景(南から)			1	4区35号土坑全景(南から)
	3	1区-E 7号井戸上層断面A-A' (南から)			2	4区35号土坑上層断面A-A' (西から)
	4	9区8号井戸全景(南から)			3	4区36号土坑全景(南から)
	5	9区8号井戸全景(南西から)			4	4区37号土坑全景(南から)

- 5 4区37号土坑上層断面a-a' (南から)
 6 4区38号土坑全景(南から)
 7 4区38号土坑上層断面a-a' (南から)
 8 4区39号土坑全景(北から)
- PL. 49 1 2区1号ビット上層断面a-a' (南東から)
 2 2区2号ビット全景(東から)
 3 2区2号ビット上層断面a-a' (東から)
 4 2区3号ビット全景(北から)
 5 7区3号ビット全景(西から)
 6 7区6号ビット全景(西から)
 7 7区7号・8号ビット全景(東から)
 8 7区8号ビット全景(東から)
 9 6区10号ビット全景(東から)
 10 6区11号ビット全景(東から)
 11 6区12号ビット上層断面a-a' (東から)
 12 6区12号ビット全景(西から)
 13 6区12号ビット上層断面a-a' (南から)
 14 1区3号ビット全景(南から)
 15 1区13号ビット上層断面a-a' (南から)
- PL. 50 1 1区14号ビット全景(南から)
 2 1区14号ビット上層断面a-a' (南から)
 3 1区15号ビット全景(南から)
 4 1区15号ビット上層断面a-a' (南から)
 5 1区16号ビット全景(南から)
 6 1区16号ビット上層断面a-a' (南から)
 7 1区17号ビット全景(南から)
 8 1区17号ビット上層断面a-a' (南から)
 9 1区18号ビット全景(南から)
 10 1区18号ビット上層断面a-a' (南から)
 11 9区19号ビット上層断面a-a' (西から)
 12 9区20号ビット全景(西から)
 13 9区20号ビット上層断面a-a' (南から)
 14 9区21号ビット上層断面a-a' (西から)
 15 1区22号ビット全景(南から)
- PL. 51 1 1区-A 22号ビット上層断面a-a' (東から)
 2 1区-A 23号ビット全景(南から)
 3 1区-A 23号ビット上層断面a-a' (南から)
 4 9区24号ビット全景(南から)
 5 4区25号ビット全景(南から)
 6 4区26号ビット全景(南から)
 7 4区26号ビット上層断面a-a' (南から)
 8 4区27号ビット全景(南から)
 9 4区27号ビット上層断面a-a' (南から)
 10 4区28号ビット全景(南から)
 11 4区28号ビット上層断面a-a' (南から)
 12 4区29号ビット全景(南から)
 13 4区29号ビット上層断面a-a' (南から)
 14 4区30号ビット全景(南から)
 15 4区30号ビット上層断面a-a' (南から)
- PL. 52 1 4区31号ビット全景(南から)
 2 4区31号ビット上層断面a-a' (南から)
 3 4区32号ビット全景(北から)
 4 4区32号ビット上層断面a-a' (北から)
 5 10区33号ビット全景(南から)
 6 10区33号ビット上層断面a-a' (南から)
 7 10区34号ビット全景(南から)
 8 10区34号ビット上層断面a-a' (南から)
 9 10区35号・36号ビット全景(南から)
 10 10区35号・36号ビット上層断面a-a' (南から)
 11 10区37号ビット全景(南から)
 12 10区37号ビット上層断面a-a' (南から)
 13 10区38号ビット全景(南から)
 14 10区38号ビット上層断面a-a' (南から)
 15 10区39号ビット全景(南から)
- PL. 53 1 10区39号ビット上層断面a-a' (南から)
 2 10区40号ビット全景(南から)

PL. 54 ~ PL. 65 遺物写真

第1章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経緯

1 埋蔵文化財調査に至る経緯

前橋市0891遺跡は、(一)三夜沢国定停車場線社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に伴う埋蔵文化財の調査が実施された。本書はその埋蔵文化財発掘調査報告書である。

群馬県教育委員会文化財保護課(以下、文化財保護課)は、前橋土木事務所に対して、当該事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、試掘確認調査の必要がある旨を回答した。

文化財保護課による試掘確認調査は、平成29年8月に実施した。重機を用いて事業地内の4か所をトレンド状に掘削した。平面及び土層断面から遺構があることが確認され、本調査が必要と判断された。

この試掘確認調査の結果を基に、文化財保護課から事業を実施するにあたり、埋蔵文化財調査が必要である旨を前橋土木事務所あてに通知し、また、前橋市教育委員会に対しても試掘確認調査の結果を報告した。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団により平成30年3月、令和元年7月・8月、令和2年1月に本調査を実施した。

第2節 調査の過程

1 平成29年度調査

平成29年度調査は平成30年3月1日から31日までの1か月間である。1区～3区、5区～7区を調査した。宅地や農地への進入路等を確保する必要があり、狭小な調査区もあった。竪穴建物14棟、井戸7基、溝1条、土坑11基、ピット18基を調査した。1区は、ほぼ調査区全体にわたり遺構が検出された。

確認調査によって想定された遺構数を上回る遺構が検出され、協議の結果、次年度以降の調査で調査することになった。竪穴建物は3棟(8号・11号・14号竪穴建物)

については、次年度以降の調査で継続することになった。

2 令和元年度調査

令和元年度の調査は令和元年7月1日から8月31日までの2か月、令和2年1月の計3か月調査した。平成29年度調査からの継続調査であることから、区名称や遺構番号は連続するように付した。

(7・8月調査)

平成29年度調査の継続である1区、調査区中央部の4区、8区、調査区北端の9区を調査した。竪穴建物18棟(継続調査も含む)、竪穴状遺構4棟、井戸5基、溝5条、土坑20基、ピット14基を調査した。8区では近世以降と思われる耕作痕が発見された。近現代の搅乱が部分的に及んでおり、畦畔の検出が不明瞭な箇所もあった。竪穴建物等の遺構は検出されていない。平成29年度の継続調査の竪穴建物を含むが、1区・4区・9区に竪穴建物等の遺構が集中していた。

(令和2年1月調査)

低地部である10区から12区の調査をした。12区は他の調査区と同様の調査を行ったが、遺構の検出には至らなかった。10区・11区で溝5条、土坑1基、ピット18基、水田を調査した。

As-BないしAs-Kを混土する遺構面を第1面とし、粘性のある黒色土上面を第2面として調査を行った。

第1面では水田、溝1条、ピット8基を調査した。10区のピットは水田に相当する面を掘り込んで確認された。11区で検出した水田は、畦畔の検出が不明瞭な箇所もあるが、7面の耕作区画が検出された。第2面では溝4条、ピット10基を調査した。7号・9号溝は平面形状などから中世と考えられる。

第1章 発掘調査の概要

第1表 前橋市0891遺跡 調査経過

		平成29年放査			令和元年度調査								
		2018年3月			2019年7月			2019年8月			2020年1月		
		上旬	中旬	下旬									
1区	表土掘削												
	遺構調査												
	全景写真												
	空堀												
2区	トレンチ調査												
	表土掘削												
	遺構調査												
	全景写真												
3区	空堀												
	表土掘削												
	遺構調査												
	全景写真												
4区	空堀												
	トレンチ調査												
	表土掘削												
	遺構調査												
5区	全景写真												
	空堀												
	表土掘削												
	遺構調査												
6区	全景写真												
	空堀												
	表土掘削												
	遺構調査												
7区	全景写真												
	空堀												
	表土掘削												
	遺構調査												
(1・2面)	全景写真												
	トレンチ調査												
	表土掘削												
	遺構調査												
9区	全景写真												
	表土掘削												
	遺構調査												
	全景写真												
10区 (1・2面)	表土掘削												
	遺構調査												
	全景写真												
	トレンチ調査												
11区 (1・2面)	表土掘削												
	遺構調査												
	全景写真												
	表土掘削												
12区 (1・2面)	遺構調査												
	全景写真												

第3節 調査・整理の方法

1 調査区の設定

調査区の設定は宅地や畠地への進入路等で分断されていましたことから、北から順に1区、2区…12区となるように設定した。令和元年度の調査でも踏襲し、設定した。1区より北側の調査区は、北端の調査区を9区とし、そこから1区までの間の調査区を1区～A～Eとした。

グリッドの設定は調査区内では行わず、世界測地系による平面直角座標系IX系(平成14年国土交通省告示第9号)に基づき、東経139度50分0秒、北緯36度0分0秒を原点とし、1m四方の区画を1単位として設定した。本報告書の呼称は、座標数値の下3桁で標記している。

2 発掘調査の方法

各調査区の調査では、調査範囲について安全対策を講じた上で、調査を開始した。確認調査データを基に遺物包含層・遺構確認面を確認したうえで、重機による表土掘削を行った。狭小な調査区は重機の作業場所が十分に確保できなかったため、人力で掘削を行った。その後、ジョレン等を用いて精査し、遺構確認を行った。

確認した遺構は、土層観察のために一方向又は十字・二方向の土層観察ベルトを残し、掘り下げを行った。堅穴建物は基本的には、床面及び掘り方面的の調査を実施しカマドについても使用面、掘り方面的の調査を実施した。各遺構の調査終了後は、重機及び手作業による調査区の埋め戻しを行い、全ての調査が終了となった。

遺構写真は調査担当者が、デジタルカメラによる撮影とプローニー版モノクロフィルム撮影を併用して行った。また、平成29年度調査では遺跡全景をラジコンヘリによる空中写真撮影を委託実施した。令和元年度調査では、高所作業車による撮影をした。

遺構平面測量に関しては、地上測量を委託して行った。

3 整理作業の経過と方法

整理作業実施にあたっては、文化財保護課の調整を受け、群馬県前橋土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で、整理作業の委託契約が交わされ、同年4月1日より当事業団で整理作業を開始した。

遺物整理は土器、石器、金属器類に分類し、それぞれ接合作業を行い、遺構毎に掲載遺物を選び出した。掲載遺物については必要に応じて復元作業をしたのち、写真撮影と図化作業を行った。遺物写真是、デジタルカメラを用いて撮影し、画像補正を行って印刷原稿データとした。

遺物実測は長焦点実測用写真や三次元測定機を併用し素図を作成した。トレース図を作成後、スキャニングし、デジタルデータ化した。

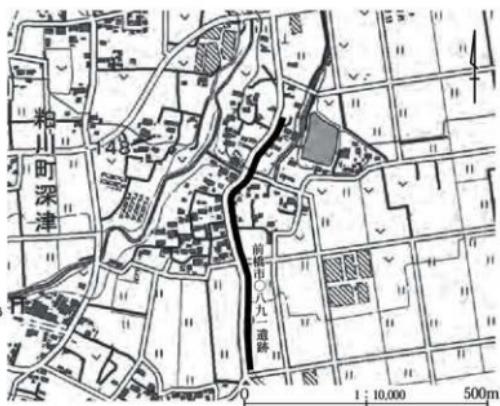
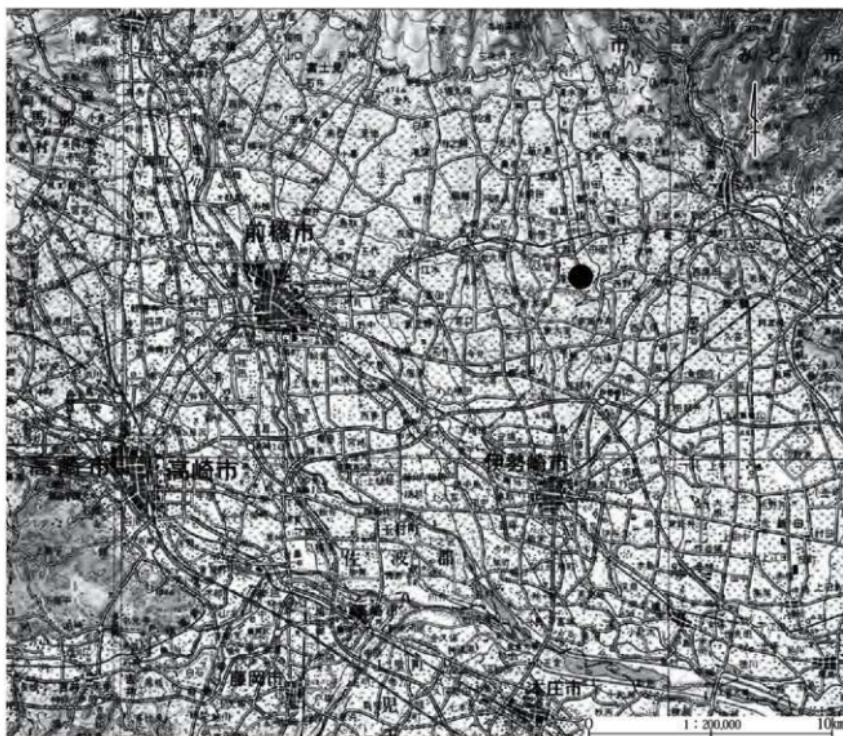
調査で出土した金属製品は当事業団で保存処理作業を行い、鏽等で形状が不明な金属器については、X線写真により形状を確認したのちに実測図を作成した。土器・石器と同様に作業を行い、デジタルデータ化した。

遺構写真是発掘調査で撮影・記録したデータから、報告書掲載写真を選び出したのち、画像補正し印刷原稿データとした。

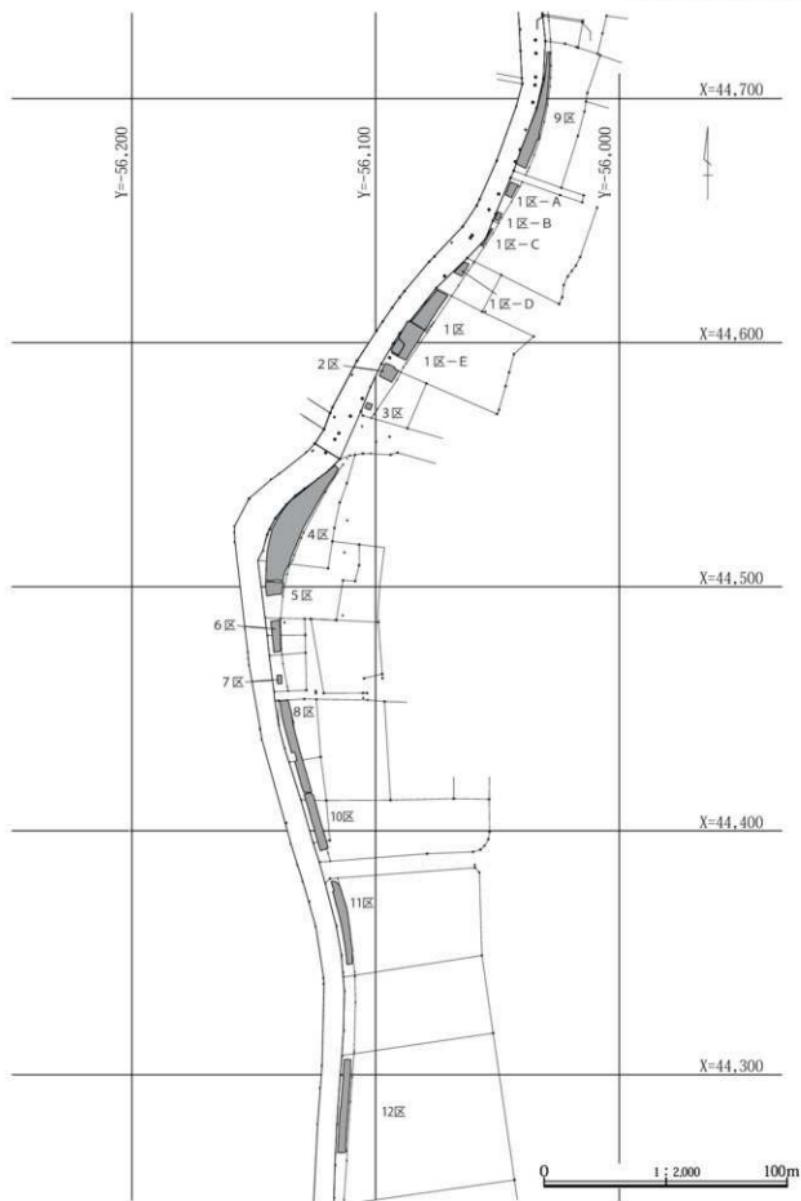
これらの遺構・遺物に関するデータ及び本文文字原稿を編集し、令和4年3月に発掘調査報告書『前橋市0891遺跡』を刊行した。



6区作業状況(北から)



第1図 前橋市0891遺跡の位置(国土地理院20万分の1地勢図「長野」「宇都宮」、2万5000分の1地形図「大湖」拡大使用)



第2図 調査区位置図

第2章 地理的環境と歴史的環境

第1節 地理的環境

前橋市0891遺跡は、前橋市粕川町大字深津に所在する。本遺跡がある粕川町は赤城山南麓のほぼ中央部にあたる。東は桐生市新里町、南は伊勢崎市と接している。赤城山山頂の火口湖である小沼を源流とする粕川が町の中央を南流する。

赤城山は約50万年から活動を始めた複合成層火山である。現在、山頂部はいくつかの峰の複合体のようにみえるが、元々は富士山のような円錐火山であった。約20万年前に大規模な山体崩壊が発生した。約4.2万年前まで大規模な軽石噴火し、中央火口丘群を形成した。約2.5万年前の小沼の噴火以降、目立った火山活動は確認されておらず、現在までに火山麓扇状地が形成された。山麓は山体を流下する河川による開析作用によって、開析谷が形成されている。赤城白川・荒砥川・神沢川・粕川等の河川沿いは、土砂が堆積し、扇状地を形成している。

本遺跡がある粕川町は、前橋市東部地域赤城火山斜面にあり、平均勾配が2°程の緩い斜面で、一般の火山裾野と同様に火山碎屑物(火砕岩類)で形成される。放射谷は比較的浅いものが多く、その谷底部はかなり高いところまで水田化されており、その尾根にあたる部分には古くから集落が発達している。斜面の末端は比高10m前後に直線的な山麓崖をなしている。

粕川左岸地域と右岸地域の一部では、標高200m前後から起伏の少ない台地地形への変化がみられる。分厚い砂壌土の堆積が確認され、この傾向は荒砥川まで続いている。また、粕川と荒砥川に挟まれた地域で、2本の河川により形成された扇状地であり、粕川・荒砥川扇状地と呼ばれる。この扇状地は、地図上で等高線が平行して同心円状に走るという特徴を持つ。粕川町の大部分が該当する。この扇状地の形成時期は、粕川村教育委員会による発掘調査の結果から縄文時代中期後半から後期初頭が想定される。

深津地区は、桂川や東神沢川等の河川や扇状地内に残る赤城山麓の残丘地からの湧水等により一部が開析さ

れ、良好な水田地帯となっている。この水田の多くは、粕川を沿うように放射状に広がる扇状地形の微高地に造られている。赤城山から流れたローム2次堆積面上にあたり、砂壌土性の土地である。赤城山南斜面は地下水位が低く、粕川のほかに、桂川や石田川等の小河川が流れているが、水量が乏しく、伏流する傾向がみられる。群馬用水の開通までは、澁水時で水利慣行としての通し水や番水等が行われ、水利争いも度々生じていた。明治10年の郡村誌には、深津地区でも「旱魃ノ患アリ」と水利の状況が記されている。溜池の築造とともに開かれた地域である。小河川の補助的水源として数多くの溜池が分布している。県内でも榛名山東麓と並んで特に多い地域である。平安時代末期以降の安定化あるいは開発の進行にとって大事な役割を果たしてきたと考えられる。現在、40か所の溜池が存在する。本遺跡の東側には泉川支流を水源とする新沼がある。文久2年(1862年)に猪熊理平治たちが竣工したといわれ、字本郷東田の22町あまりを灌漑している。

調査地付近の標高は約140～160mである。本遺跡は粕川と桂川に挟まれた場所にあり、扇状地と同扇状地により残丘された独立丘陵等が入り混じる複雑な地形である。遺跡の東側は、昭和53年から行われた県営圃場整備事業により整備された田畠が広がる。西側には粕川の支流である桂川が南流している。桂川に向かって緩やかな傾斜がみられる。粕川より東側には大間々扇状地が広がる。南約2kmに多田山丘陵、南西約1.5kmに大室古墳群があり、近接する場所でも古墳や古墳群が確認されている場所である。

第2節 歴史的環境

柏川村では昭和54年から圃場整備事業に伴い、遺跡分布調査や大規模な緊急発掘調査が行われた。北部の中之沢地区、室沢地区、月田地区と南部の深津地区、一日市地区に遺跡が集中していることが明らかになった。縄文時代は中之沢地区・室沢地区・月田地区的町北部に集中しているが、弥生時代は南部に集中する。奈良・平安時代になると、柏川町全域に満遍なく分布している。

旧石器時代

赤城山南麓は、岩宿遺跡(みどり市)や武井遺跡(桐生市新里町)、下触牛伏遺跡(伊勢崎市)等学史的にも顕著な遺跡が数多く知られている。

柏川町で主な遺跡として、前橋市0532遺跡(栗原東遺跡)が挙げられる。細石刃やナイフ形石器が出土した。本遺跡の南に位置する多田山丘陵では、丘陵全域から石器群が確認されている。

縄文時代

赤城山の裾野に発達した山麓台地上に遺跡の分布が広がる。赤城山南部山麓では集落や陥し穴が数多く発見されている。前期の遺跡は標高約500～400mの馬の背状の丘陵性地形に多く立地している。前期に遺跡数が急増する傾向がみられる。前期の遺跡では、室田地区に所在する前橋市0533遺跡(大林遺跡)や前橋市0573遺跡(大平遺跡)が挙げられる。両遺跡とともに前期の竪穴建物が検出され、市指定史跡に登録されている。

中期以降になると、前橋市0668遺跡(後原遺跡)(21)、前橋市0646遺跡(新宿遺跡)等が挙げられ、比較的の標高が高い平坦な台地上に立地するようになる。

弥生時代

赤城山南麓地域では、標高約100～180mの丘陵性台地又は扇状地を含む低台地上に遺跡が多く造られるようになる。遺跡分布範囲は桐生市新里町・前橋市柏川町・伊勢崎市赤堀町・前橋市荒砥地区に特に遺跡が集中する。

本遺跡から北西に約700m位置する前橋市0676・0668遺跡(西原遺跡)(14・21)は、赤井戸式期の環濠集落で

ある。竪穴建物や環濠の一部から赤井戸式期終末期の様相を示す良好な遺物が出土している。環濠内に約20棟が検出されている。前橋市0692遺跡(堤頭遺跡)(40)は、縄文時代前期・弥生時代後期から奈良・平安時代にかけての複合集落である。弥生時代の竪穴建物12棟検出されている。

古墳時代

弥生時代末から古墳時代前期の遺跡は柏川町南部の地域に集中するようである。古墳時代中期後半から集落は扇状地面上に造られるようになり、後期になると大規模集落が出現する。前橋市0652遺跡(前田遺跡)(10)、前橋市0685遺跡(浜沢遺跡)(30)、前橋市0712遺跡(五反田遺跡)(63)が挙げられる。その中でも前橋市0712遺跡では、100棟を超える大集落を形成していた。

生産遺構では、前橋市0668遺跡(三ヶ尻西遺跡)(21)と前橋市0668・0548・0680(松原田遺跡)(21・23・24)が挙げられる。前橋市0668遺跡では箱形炉や鍛冶工房、前橋市0668・0548・0680遺跡では、箱形炉と砂鉄溜土坑が検出された。製鉄や鍛鍊等の生産に関する作業をしていた可能性が考えられる。

また、前橋市0668遺跡(三ヶ尻西遺跡)(21)からは古墳時代前期の水田が確認され、赤城山南麓地域で最も古い水田である。

柏川地区でも数多くの古墳がある膳地区の前橋市0646・0649遺跡(白藤古墳群)は、5世紀後半から7世紀代に造られた古墳群である。数多くの円墳・方形周溝墓・小石室で構成されており、赤城山南麓地域の初期群集墳の典型と考えられる。深津地区では前橋市0697・0897遺跡(近戸古墳群)(27・28)・前橋市0708・0887遺跡(三騎堂古墳群)(64・65)が挙げられる。前橋市0697・0897遺跡と前橋市0708・0887遺跡は、本遺跡から1km圏内にある古墳群である。いずれの古墳群も円墳がまとまって造られていた。

6世紀の古墳は、本遺跡から西に約1.5kmに位置する前橋市0548遺跡(西原古墳群)(23)、前橋市0584遺跡(月田古墳群)が挙げられる。いずれも小型の前方後円墳を中心に大小の円墳で構成される群集墳である。月田古墳群の中には、県指定史跡の壇塚古墳群と鏡手塚古墳が含まれる。首長層が埋葬されたものと推定される鏡手塚古

第2章 地理的環境と歴史的環境

墳や地蔵塚古墳、二子塚古墳と直径50mの大型円墳である「上毛古墳総覧」柏川村22号古墳の築造を契機に、月田古墳群が形成されていったと考えられている。遺物も多数出土しており、赤城山南麓の終末期群集墳の典型例のひとつと位置付けられる。

本遺跡の南西約2kmに前橋市0240遺跡(大室古墳群)(59)がある。史跡整備された国指定史跡前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳で構成されている。前二子古墳は、大室古墳群の中核をなす前方後円墳であり、明治11年に行われた発掘調査では、数多くの副葬品が出土した。中二子古墳は全長111mを測り、最大の古墳である。現在は、盾持人埴輪と円筒埴輪が密接して置かれ、当時の様子が復元されている。

また、南に約1.2kmには多田山丘陵の北端の小丘上に造られた赤堀茶臼山古墳がある。伊勢崎市指定史跡である。昭和4年に行われた発掘調査では、数多くの副葬品の他に、家形埴輪や円筒埴輪等が出土した。出土した埴輪の特徴から5世紀中頃に築造されたと考えられる。

奈良・平安時代

隣接する新里村(現桐生市新里町)の分布調査により赤城南麓における集落遺跡の在り方についての指摘があつた(新里村教育委員会1984)。遺物が広範囲に分布しているのは、西面田・深津地区の標高200m以下の沖積地に面した台地上である。

集落以外の遺跡では宇通遺跡がある。平安時代後期の群馬県における代表的な山岳寺院であり、仏堂とみられる礎石建物等が検出された。中国製の陶磁器や金銅製女神小座像や経軸の飾り金具等の信仰道具が出土した。

この時期における行政単位に郡・郷・里があり、深津には「深渠郷」があったようである。10世紀前半ごろの郡郷名が記された和名類聚抄に記載されている郷推定地であるが、はっきりとはいえない。大字名である深津の由来と言われている。

中世

中世の石造物が比較的多い地域である。五輪塔・板碑・宝塔等の信仰遺物が、柏川地区全域に多宝塔の一種である「赤城塔」や凝灰岩製の石仏が多く分布している。深津三ヶ尻にある赤城塔は、形態的な特徴から鎌倉時代後期

から室町時代初頭のものと推定される。

前橋市0700遺跡(深津坂田城跡)(50)は本遺跡に隣接する遺跡である。市指定史跡に指定され、中世の地方豪族である深渠氏の居館と伝えられる。堀の内と呼ばれる方で160mの二重堀に囲まれた一郭が本丸と推定される。現在は、北東隅に一部堀が残っているのみである。

前橋市0661遺跡(女渕城跡)は、中世末期の城である。市指定史跡に指定され、本丸を中心として堀や低い土居が残存する。現在、女渕城址公園として整備されている。水を湛えた堀は後世に用水路に改修されたと考えられる。

前橋市0649遺跡(崩城跡)(9)はその周辺一帯が県指定史跡に指定されている。「武田勝頼による素肌攻め」で落城し、廢城となった。発掘調査では丸馬出を構成すると考えられる三日月堀が検出された。15世紀後半から16世紀のかわらけ・内耳鍋が出土した。現在でも土塁・曲輪・堀等が保存されている。

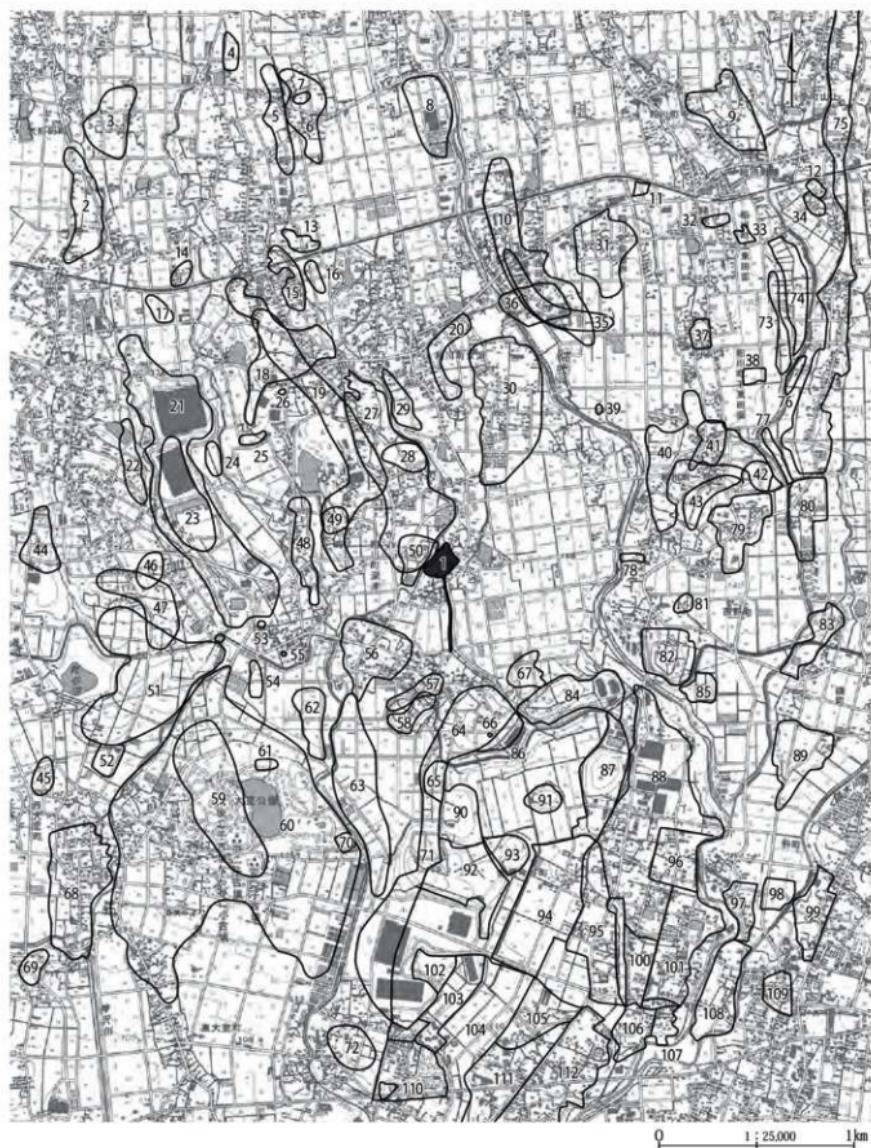
この他に室沢地区に所在する前橋市0511遺跡(室沢跡)や中地区に所在する前橋市0893遺跡(中村城跡)等がある。

近世

本遺跡内から近世の土坑が検出されている。勢多郡深津村である。寛政3年に書かれた「村明細帳控」(文久2年に書き改められた)('柏川村誌' 1972年所収)に概要が記載されている。石高964石余、反別146町3反余。人・家・馬は、家161棟・人631人・馬40頭と記載されている。

引用参考文献

- 柏川村1972「柏川村誌」
- 柏川村教育委員会1985「柏川村の道路－道路詳細部分調査報告書－」
- 柏川村1994「柏川村百年史」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1996「荒畠ノ坊遺跡II」
- 新里村教育委員会1984「新里の遺跡表」
- 前橋市教育委員会文化財保護課2013「前橋市道路分布地図－市内道路詳細分類調査報告書－」
- 前橋市1971「前橋市史 第一巻」
- 前橋市教育委員会2013「安通・御内2遺跡」



第3図 周辺道路

第2章 地理的環境と歴史的環境

第2表 周辺遺跡一覧表

遺跡 No.	名称(遺跡)	時代							報告書等	備考	
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世		
1	前橋市0891遺跡 深津寄居	○	○	○	○	○	○	○	○	2・30	本遺跡
2	前橋市0522遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	30	分布調査
3	前橋市0523遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	30	分布調査
4	前橋市0628遺跡 女潤-02	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
5	前橋市0631遺跡 新屋-02 新屋-03	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
6	前橋市0629遺跡 女潤-05 女潤-06 女潤-27	○	○	○	○	○	○	○	○	30 30 30	
7	前橋市0633遺跡 女潤-28(柏川53号墳) 女潤-29(柏川52号墳)	○	○	○	○	○	○	○	○	1	
8	前橋市0626遺跡 稲里-14	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
9	前橋市0649遺跡 慶城 南曲輪外脇 慶城 北郭 慶城 馬出し塀 慶城 南曲輪外脇 白藤古墳群 勝-01 勝城跡	○	○	○	○	○	○	○	○		
10	前橋市0652遺跡 田面-01 田面-02・前田 田面-03 田面-04 前田	○	○	○	○	○	○	○	○	31	
11	前橋市0651遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	18	
12	前橋市0535遺跡 白山神社路地	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
13	前橋市0673遺跡 新屋-09・西宿 西宿	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
14	前橋市0676遺跡 新屋-12・西原桜塚	○	○	○	○	○	○	○	○	32	
15	前橋市0674遺跡 大塚	○	○	○	○	○	○	○	○	32	
16	前橋市0675遺跡 新屋-11・稻荷田 稻荷田 稻荷田	○	○	○	○	○	○	○	○	32	
17	前橋市0667遺跡 女潤-23 女潤-24 女潤-25	○	○	○	○	○	○	○	○	30 30 30	
18	前橋市0665遺跡 女潤-21・大塚吹上 深津坂塚 切通 庚塚	○	○	○	○	○	○	○	○	30 30 30	試掘調査
19	前橋市0684遺跡 女潤-30(柏川54号墳) 深津-43(柏川55号墳) 深津-44(柏川56号墳) 深津-45(柏川58号墳) 深津-46(柏川65号墳) 深津-47 墓天古墳 (柏川59号墳) 深津-48・丸塚古墳 (柏川57号墳) 深津-50 稲荷山 (柏川60号墳) 近戸古墳 女潤-21・大塚・吹上	○	○	○	○	○	○	○	○	1 35	

遺跡 No.	名称(遺跡)	時代								報告書等	備考	
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	不明		
20	前橋市0663遺跡	女闘-14・木ノ下 木下		○						30		
				○	○	○				30		
				○	○	○				30		
21	前橋市0668遺跡	女闘-26 込街口-03 長岡・深津-02・松原田 深津-07・深津地区遺跡群 深津-57・三ヶ夙西 西原 長岡遺跡 三ヶ夙西道路 後原道路 三ヶ田遺跡 東原遺跡 タカラ沢B道路 後原遺跡 東原道路 深津-03・長岡遺跡	○									
			○	○	○							
			○	○	○	○				37		
			○	○	○	○	○			34・35		
			○	○	○	○	○			32		
			○	○	○	○	○			74		
			○	○	○	○	○			32		
			○	○	○	○	○			32		
			○	○	○	○	○			32		
			○	○	○	○	○			32		
			○	○	○	○	○			74		
22	前橋市0679遺跡	込街口-10 込街口-11 タカラ沢	○							30		
				○	○					30		
				○	○					30		
				○	○					30	試掘調査	
23	前橋市0548遺跡	西原古墳群 長岡 長岡・深津-02・松原田 深津-07・深津地区遺跡群 東原(長谷川養鶏場部分)	○							32・33		
			○							37		
			○							37		
			○							34・35		
24	前橋市0680遺跡	松原田	○							34		
25	前橋市0682遺跡	深津-04	○	○	○					34・35		
26	前橋市0683遺跡	深津-05	○	○	○					30		
27	前橋市0697遺跡	深津-06・深津地区遺跡群 深津地区遺跡群・近戸古墳群	○	○	○	○	○	○		34		
		○	○	○	○	○	○			35		
		友成	○	○	○	○	○	○		35		
28	前橋市0897遺跡	深沢遺跡群・近戸古墳群 近戸3号墳(柏川66号墳) 近戸4号墳(柏川165号墳)	○							35		
			○							35		
			○							35		
29	前橋市0664遺跡	下池口-1	○	○	○					32		
30	前橋市0685遺跡	女闘-09 女闘-10 女闘-11 女闘-12 女闘-13 女闘-14 女闘-15 女闘-16 女闘-17 女闘-18	○							30		
			○	○	○					30		
			○	○	○					30		
			○	○	○					30		
			○	○	○					30		
			○	○	○					30		
			○	○	○					30		
			○	○	○					30		
			○	○	○					30		
			○	○	○					30		
31	前橋市0686遺跡	前戸口-01 前戸口-02	○	○	○	○				30		
32	前橋市0688遺跡	白音寺		○	○					32		
33	前橋市0809遺跡	勝-02	○	○	○	○				30		
34	前橋市0693遺跡	勝-09 大尺古墳 〔柏川78号墳〕	○							I		
		勝-10 (柏川79号墳)	○							I		
		田面-14 (柏川51号墳)	○							I		
35	前橋市0694遺跡	田面-15 (柏川70号墳)	○							I		
		田面-16 (柏川69号墳)	○							I		

遺跡 No.	名称(遺跡)	時代								報告書等	備考	
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	不明		
36	前橋市0880遺跡	田面館					○			4		
37	前橋市0689遺跡	田面-06			○	○	○		○	30		
38	前橋市0690遺跡	田面-07	○		○	○	○			30		
39	前橋市0691遺跡	田面-08				○	○			30		
40	前橋市0692遺跡	一日市-05		○								
		堤頭		○	○	○	○			36		
		一日市城		○	○		○			32		
		船川町一日宿後		○			○	○		39		
41	前橋市0890遺跡	一日市城						○	4			
42	前橋市0912遺跡	間後百々目本		○						32		
43	前橋市0713遺跡	一日市-02			○		○			30		
		一日市-03			○					30		
		一日市-04	○	○		○	○			30		
		込傍丁-13		○						30		
44	前橋市0695遺跡	女潤大塚B				○				30		
		込傍丁大塚			○					30		
		込傍丁-16	○							30		
45	前橋市0826遺跡	中島		○						8・9		
46	前橋市0701遺跡	深津-13		○						30		
		深津-14		○						30		
47	前橋市0229遺跡	七ツ石古墳群		○								
		深津-51〔船川61号墳〕		○						1		
		西大室古墳群〔荒砥62号墳〕		○						16		
48	前橋市0698遺跡	西大室古墳群・七ツ石		○						16		
		深津-08・三ヶ尻		○	○	○						
		三ヶ尻		○	○	○				34		
49	前橋市0699遺跡	深津-10		○								
50	前橋市0700遺跡	西道		○	○	○	○			34・37		
		深津-12				○						
		坂田城				○						
		深津館				○				7		
51	前橋市0716遺跡	西大室遺跡群 北山		○	○	○	○			16		
		西大室遺跡群 七ツ石		○	○					16		
52	前橋市0228遺跡	大室元城				○				2		
53	前橋市0585遺跡	西大室遺跡群 元城跡				○				16		
		三ヶ尻古墳		○						34		
54	前橋市0703遺跡	深津-16		○	○							
55	前橋市0704遺跡	深津-17		○	○					30		
56	前橋市0705遺跡	深津-18		○	○							
		深津-19		○	○	○				34・35		
		深津-20		○	○	○						
		深津-25		○	○							
		深津道路群・打越前		○								
57	前橋市0711遺跡	深津-53〔船川61号墳〕		○						1		
		深津-54〔船川62号墳〕		○						1		
		深津-55・丸山 〔船川63号墳〕		○						1		
		深津-26			○	○	○			30		
58	前橋市0707遺跡	深津-28		○	○	○				30		

遺跡 No.	名称(遺跡)	時代								報告書等	備考
		旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 良	平 成	中 世	近 世	不 明	
59	後二子古墳(荒砥55号墳)			○						15・73	
	後二子並小二子古墳			○						3	
	中二子古墳 M- 9 〔荒砥229号古墳〕			○						27	
	小二子古墳 M-11 〔荒砥56号古墳〕			○						28	
	西大室遺跡群 II 上圓引 〔荒砥59号墳〕			○						30	
	前二子古墳(荒砥51号墳)			○						21	
	小二子古墳			○						27	
	小二子古墳			○						27	
	中二子古墳 M- 9 〔荒砥229号墳〕			○						27	
	内塙遺跡群X M 4号墳			○						18	
	内塙遺跡群III 下圓引 II			○						19	
	内塙遺跡群II M 1号墳 〔荒砥57号墳〕			○						29	
	内塙遺跡群V 内塙			○						29	
	内塙遺跡群M 3号墳			○						18	
	内塙遺跡群X 下圓引 II			○						18	
	内塙遺跡群XI 下圓引 II		○	○						19	
60	内塙遺跡群IV 内塙		○	○						20	
	内塙遺跡群V 内塙		○	○						25	
	内塙遺跡群VI 内塙		○	○						23	
	西大室遺跡群 II 上圓引 〔荒砥59号墳〕		○	○	○	○	○	○	○	28	内塙遺跡群内試掘調査
			○								試掘調査
61	前橋市0822遺跡	内塙遺跡群VII 下圓引 II			○					25	
62	前橋市0706遺跡	内塙遺跡群VI 下圓引 II			○					24	
63	深津-22			○	○					32	
	深津-23			○	○	○				32	
	深津-24			○	○	○				32	
	深津地区遺跡群・五反田		○	○	○	○					
	西大室遺跡群・下圓引 (久保寺)†・三駒堂		○	○	○	○				28	
64	B・C・D・E区										
	深津-27		○		○	○				30	
	深津-30			○	○					30	
	深津-31		○							30	
	深津-32			○	○					30	
	深津-33			○	○					30	
	深津-35			○	○					30	
	深津-36			○	○					30	
	深津-37		○		○	○				30	
	深津-38			○						30	
	深津-39				○	○				30	
	深津-40・三駒堂古墳群			○	○	○				35	
	深津-34・前原		○	○		○				35	
	深津遺跡群・三駒堂古墳群				○						
65	深津遺跡群・前原		○								
	深津-40・三駒堂古墳群			○						35	
	深津遺跡群・三駒堂古墳群			○							
66	前橋市0715遺跡	深津-56 (柏川67号墳)			○					1	
67	前橋市0714遺跡	稻荷山		○	○	○	○			32	
68	前橋市0265遺跡	大室城					○			2・22	
		大室城遺跡				○					

遺跡 No.	名称(遺跡)	時代								報告書等	備考
		旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 良	平 安	中 世	近 世		
69	地田栗 I	○									
	地田栗 II		○								
	地田栗 III		○							24	
70	前橋市0598遺跡 内輪道路群 梅木北	○	○	○						17	
71	今井三駕堂	○	○	○	○	○	○			12・13	
	今井見切塚	○	○	○	○	○	○			12・13	
	深津-41	○									
	深津-42		○	○							
72	荒砥245号墳	○								1	
	下荒砥古墳群										
	[荒砥250号墳]	○									
73	小林03遺跡		○							72	
74	小林04遺跡	○	○							72	
75	小林01遺跡	○	○							72	
76	小林05遺跡	○	○							72	
77	小林02遺跡	○	○							72	
78	柴師跡遺跡			○	○	○				30・48	
79	圓前遺跡		○	○	○					30・48	
80	中居遺跡	○		○	○					30・48	
81	沖田遺跡	○	○							48	
82	西瀬訪神社丘・西瀬訪神社丘古墳群	○	○							48・55	
83	天幕城跡	○	○	○						48・49・69・70	
84	吉沢峯古墳群	○	○	○	○					48・53・69	
85	南下道遺跡	○	○	○	○					30・48	
86	大宝院前遺跡	○	○	○	○					48・67	
87	轟山古墳群・轟山遺跡	○								6・48	
88	今井北原道路	○	○	○	○					41・42・44・45・48・50・56	
89	磯前原遺跡	○	○	○	○					48・59	
90	茶臼山古墳群	○								6・48・49・60・61・62・69	
91	毒島城跡	○								48・49・69	
92	今井三駕堂遺跡	○	○	○	○					5・10・11・12・13・48	
93	灘訪山遺跡	○								48	
94	多田山遺跡	○	○	○	○					48・51・65・66	
95	今井西原遺跡	○	○	○	○					48・63	
96	おばんべち古墳群・おばんべち道路	○	○	○	○					48・64・71	
97	中脇西遺跡	○	○	○	○					30・48	
98	中脇東遺跡									30・48	
99	社南遺跡	○	○							48・47・48・58	
100	軽塙遺跡	○	○			○	○			48	
101	御伊勢板遺跡・宝珠寺裏遺跡	○	○	○	○					48・59・62・65・71	
102	見切塚古墳群・見切塚道路	○	○							6・11・12・13・14・48・58・69	
103	田向遺跡	○	○	○	○					48・68	
104	柳田遺跡	○	○	○	○					49・48・52	
105	田向遺跡	○	○	○	○					43・48・57	
106	今井神社遺跡	○								30・48	
107	城古墳群	○								48	
108	赤堀城跡				○					48・49・69・71	
109	田宿遺跡	○	○	○	○					48・67	
110	田向古墳群	○								6・48	
111	赤坂北遺跡	○	○	○	○					30・48	
112	今井学校道路	○	○	○	○					41・48・54・57・58・62・64・71	

引用文献

- 1 駿馬県1938「上毛古墳縦覧」
- 2 山崎一1971「群馬県古城址の研究 上巻」
- 3 群馬県教育委員会1973「群馬県古墳地図」
- 4 山崎一1979「群馬県古城址の研究」補遺篇 上巻
- 5 群馬県史編纂委員会1981「群馬県史」資料編2
原始古代3 弥生・土師
- 6 群馬県史編纂委員会1981「群馬県史」資料編3 原始古代3 古墳
- 7 群馬県教育委員会1989「群馬県の中世城跡」
- 8 群馬県教育委員会1988「阿彌井戸山・伊勢山・大道・山王・明神山」
- 9 群馬県教育委員会2003「中屋敷I道路・明神山・伊勢山道路・中島道路・西裏遺跡」
- 10 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2004「今井三騎堂跡
-旧石器時代-」
- 11 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2004「多田山古墳群
-古墳時代編-」
- 12 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005「今井三騎堂・今井見切塚遺跡-歴史時代編-」
- 13 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005「今井三騎堂・今井見切塚遺跡-縄文時代編-」
- 14 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007「今井見切塚跡・
-旧石器時代編-」
- 15 前橋市1971「前橋市史 第一巻」
- 16 前橋市教育委員会1982「富田遺跡群・西大室遺跡群」
- 17 前橋市教育委員会1988「内堀遺跡群」
- 18 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1995「内堀遺跡群Ⅳ」
- 19 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1995「内堀遺跡群Ⅲ」
- 20 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1995「内堀遺跡群Ⅴ」
- 21 前橋市教育委員会1993「前二子古墳」
- 22 前橋市教育委員会1993「文化財調査報告書」第23集
- 23 前橋市教育委員会1993「市内遺跡発掘調査報告書」
- 24 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1994「地田梁ノ道跡」
- 25 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1994「内堀遺跡群Ⅳ」
- 26 前橋市教育委員会1995「中二子古墳」
- 27 前橋市教育委員会1997「小二子古墳」
- 28 前橋市教育委員会2015「西大室遺跡群」
- 29 前橋市教育委員会2015「西大室遺跡群Ⅱ」
- 30 前橋市教育委員会文化財保護課2013「前橋市道路分布図
-市内道路詳解部分調査報告書-」
- 31 桐川村教育委員会1982「前田F1-昭和55年度県営闘場整備事業に
伴う発掘調査報告書(1)」
- 32 桐川村教育委員会1985「桐川村の遺跡
-遺跡詳細部分調査報告書-」
- 33 桐川村教育委員会1985「西原古墳群」
- 34 桐川村教育委員会1985「深津地区遺跡群」
- 35 桐川村教育委員会1986「深津地区遺跡群」
- 36 桐川村教育委員会1988「堤頭遺跡」
- 37 桐川村教育委員会1990「西迎遺跡」
- 38 桐川村教育委員会2015「白藤古墳群」
- 39 桐川村教育委員会2009「桐川町一日市宿後遺跡」
- 40 伊勢崎市教育委員会2005「五日牛新田遺跡、五日牛南畠II遺跡、五
日牛清水II遺跡、柳田II遺跡」
- 41 伊勢崎市教育委員会2006「平成17年度市内遺跡確認調査報告書」
- 42 伊勢崎市教育委員会2006「今井北原遺跡Ⅱ」
- 43 伊勢崎市教育委員会2006「平成17年度伊勢崎市文化財保護年報」
- 44 伊勢崎市教育委員会2008「今井北原遺跡Ⅱ」
- 45 伊勢崎市教育委員会2008「平成19年度伊勢崎市文化財保護年報」
- 46 伊勢崎市教育委員会2009「社南遺跡」
- 47 伊勢崎市教育委員会2009「平成20年度伊勢崎市文化財保護年報」
- 48 伊勢崎市教育委員会2012「伊勢崎市道路分布図-市内道路詳解分
布調査報告書」
- 49 赤堀村1978「赤堀村誌」
- 50 赤堀村教育委員会1981「今井北原古墳及び住居跡発掘調査概報」
- 51 赤堀村教育委員会1982「多田山東道路発掘調査概報」
- 52 赤堀村教育委員会1982「今井柳田道路発掘調査概報」
- 53 赤堀村教育委員会1986「吉沢峯古墳発掘調査概報」
- 54 赤堀町教育委員会1989「昭和33年度町内遺跡調査概報」
- 55 赤堀町教育委員会1975「西野瀬防護社丘古墳群発掘調査概報」
- 56 赤堀町教育委員会1989「一般県道三夜沢固定停車場線改良第一種
工事施工地内埋蔵文化財発掘調査事業に伴う北原遺跡第2地点の発
掘調査概報」
- 57 赤堀町教育委員会1990「平成元年度町内遺跡発掘調査概報」
- 58 赤堀町教育委員会1991「平成2年度町内埋蔵文化財発掘調査概報」
- 59 赤堀町教育委員会1992「平成3年度町内遺跡発掘調査概報」
- 60 赤堀町教育委員会1996「平成7年度町内遺跡発掘調査概報」
- 61 赤堀町教育委員会1997「平成8年度町内発掘調査概報」
- 62 赤堀町教育委員会1998「平成9年度町内発掘調査概報」
- 63 赤堀町教育委員会1999「平成10年度町内埋蔵文化財発掘調査概報」
- 64 赤堀町教育委員会2000「平成11年度町内埋蔵文化財発掘調査概報」
- 65 赤堀町教育委員会2001「平成12年度町内遺跡発掘調査概報」
- 66 赤堀町教育委員会2002「平成13年度町内遺跡発掘調査概報」
- 67 赤堀町教育委員会2003「平成14年度町内埋蔵文化財発掘調査概報」
- 68 赤堀町2004「赤堀町誌」
- 69 赤堀町教育委員会2004「天幕城遺跡」
- 70 赤堀町教育委員会2004「平成15年度町内遺跡発掘調査概報」
- 71 新里村教育委員会1984「新里村の遺跡」
- 72 前橋市教育委員会1992「後二子古墳・小二子古墳」
- 73 粕谷村教育委員会1994「長岡遺跡」
- 74 中寺地引説「上野国多摩郡深津村」明治六年四月 群馬縣立文書
館所蔵 本郷周辺を中心加除筆して作成
- 75 群馬県勢多那村川田全圖1/3000 作成年代未記載
同様な図が群馬県勢多那郡南木本郷地区全圖 1/3000がある。そこ
には昭和35年拾玉調整と記載されていた。この頃はほぼ全域で作
製されたものと思われる。公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業
団で県内多くの市町村の図を複写して保管している。

第3節 基本土層

本遺跡の基本土層は第4図に示した通りである。調査時に記録したものである。

遺跡の地形全体は、赤城山から関東平野に向かって緩やかに傾斜する。西側に桂川が南流している。桂川に流れ込む水路があり、東から西にも傾斜している。

遺跡全体が南北に細長いこともあり、各調査区で土層の堆積状況が異なる。1区から3区と9区が北、4区から8区が中央、10区から12区が南である。各調査区の土層は対応ができるよう、土層番号を統一した。

1層(1-1・1-2)は客土を含む表土である。1-1層は小礫、ロームを含み、均質でしまりのない層である。1-2層は、炭化物を微量、黄色土粒を含む均質でしまりのない層である。宅地や田、畑の耕作土である。10区から12区かけては、県営圃場整備事業の対象地となっていたと推定され、その際の客土等も含まれると考えられる。

2層(2-1・2-2)は灰黄褐色土であるが、2-1層は上層に鉄分凝集が見られ、2-2は全体に鉄分凝集が見られる。近現代と考えられる水田耕作土・水田耕盤土と考えられる。10区・11区・12区のみで確認された。

3層(3-1・3-2・3-3)は1区から3区、5区にのみ確認された土層である。3-1層は粗粒砂と黄色土粒を均一に含み、鉄分凝集が見られるしまりのない暗褐色土である。3-2層は黄褐色砂質土を主体とする層である。3-3層は3-2層土中の粒子を上層に含む灰白色土である。近世の堆積と考えられる。

4層(4-1・4-2)は1区から3区で確認された土層である。他の調査区では確認されていない。灰色砂層と暗褐色土の2層に大きく分けられる。4-1層は灰色砂層である。7層に細分することができる、均質でしまりのない層で、褐色砂層と互層をなす層序も確認された。4-2層は灰褐色土塊が混じる暗褐色土である。上層は粘性がないが、下層は粘性のある層である。中世の洪水層であると考えられる。

5層はAs-Bないし、As-Cが混入する黒褐色土である。この層に対応する層は各調査区で確認されている。軽石が混入することから古代に相当すると考えられる各調査区に堆積しているようである。

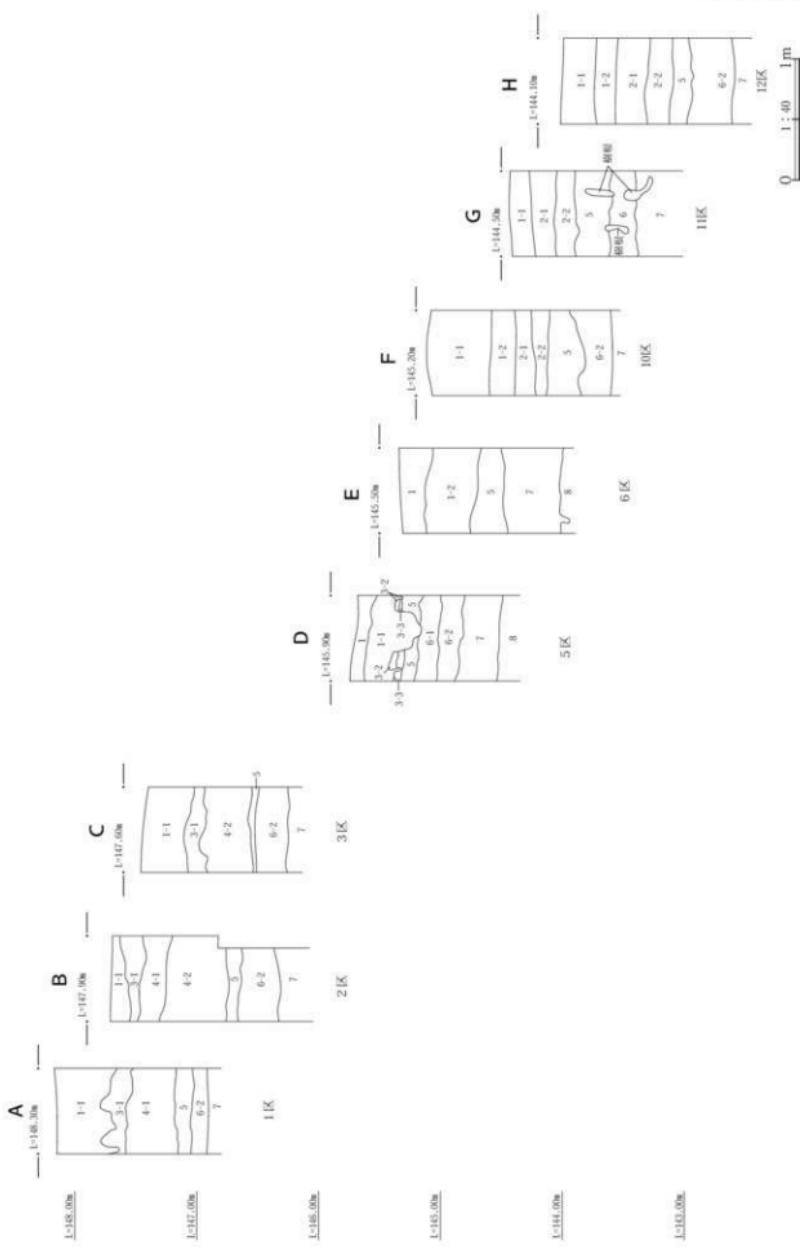
6層(6-1・6-2)は大きく2層に分けられる。6-1層は灰白色シルト質土が帶状に互層をなす黒褐色土である。緻密な層で、硬くしまりの強い層である。6-2層は6-1層よりもしまり、粘性が少ない層である。古代から繩文晩期と考えられる。

7層は灰褐色土混入する黄色粒(As-YPか)を主体とする黄褐色土である。上部ローム層の上位に相当すると考えられ、繩文時代の包含層と考えられる。

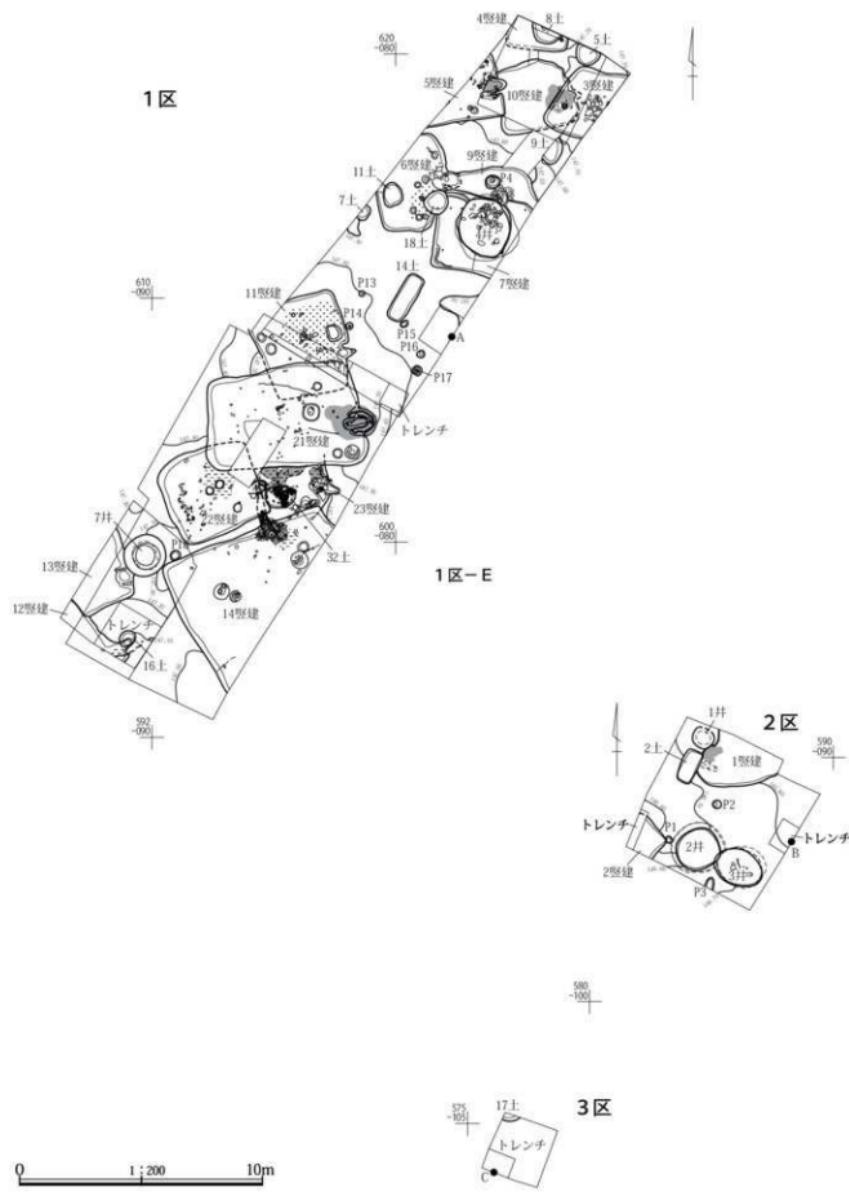
8層は粘性の強いシルト質のにぶい橙色土である。繩文時代の包含層と考えられる。

基本土層

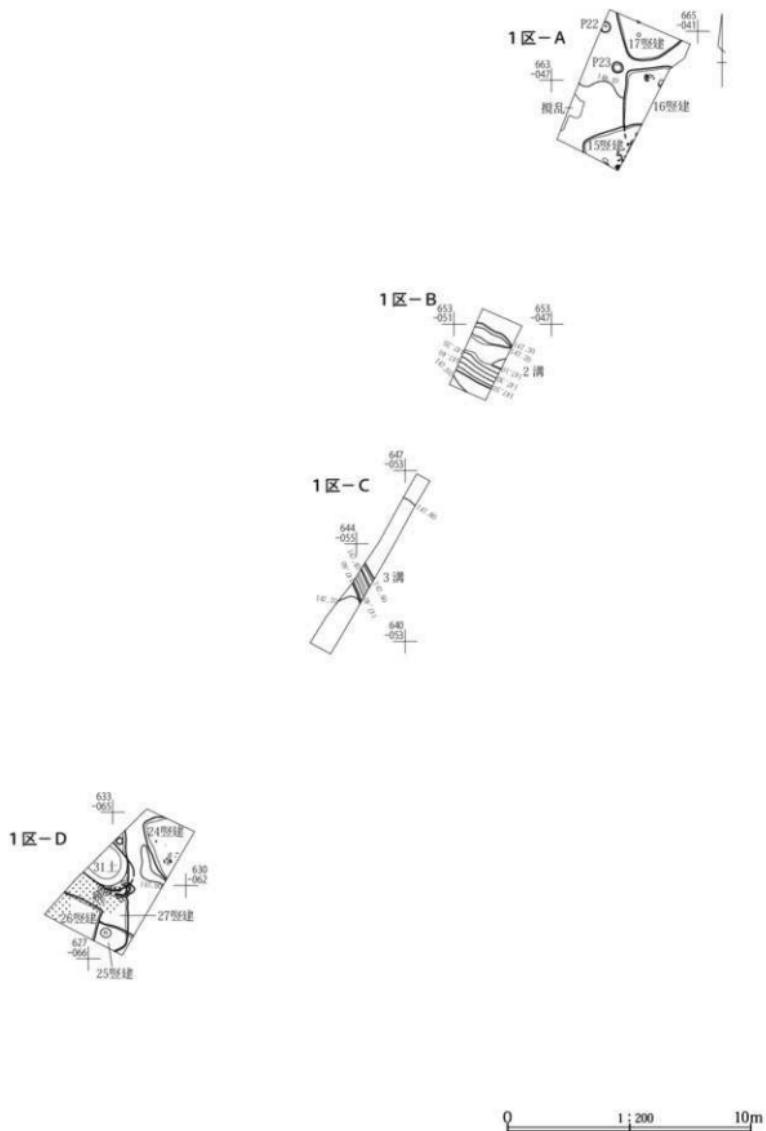
- 1-1 暗褐色土 小礫、ローム含む。均質でしまりのない層。(表上)
- 1-2 暗褐色土 炭化物微量。黄色土粒(ロームか)含む。
均質でしまりのない層。(表上)
- 2-1 灰黄褐色土 シルト質、上層に鉄分凝集あり。(近現代水田面か)
- 2-2 灰黄褐色土 シルト質。全体に斑状の鉄分凝集。(近現代水田耕盤上)
- 3-1 暗褐色土 粗粒砂と黄色土粒を均一に含む。鉄分凝集あり。
しまりなし。
- 3-2 黄褐色土 黄褐色砂質土を主体とする層。
- 3-3 灰白色土 上層に黄褐色砂質土粒含む。
- 4-1 灰色砂層 均質でしまりのない層。褐色砂層と互層をなす層序も含む。7層に細分できる。
- 4-2 暗褐色土 灰褐色土塊混入。
- 5 黑褐色土 As-ないし、As-C混入。
- 6-1 黒褐色土 灰白色シルト質土が帶状に互層をなす。緻密な層で、硬くしまりの強い層。
- 6-2 黑褐色土 灰白色シルト質土が帶状に互層をなす。緻密な層。
6-1層よりもしまり、粘性がややない層。
- 7 黄褐色土 灰褐色土混入する黄色粒(As-YPか)を主体。
にぶい橙色土 シルト質。粘性の強い。
- 8



第4圖 基本土層

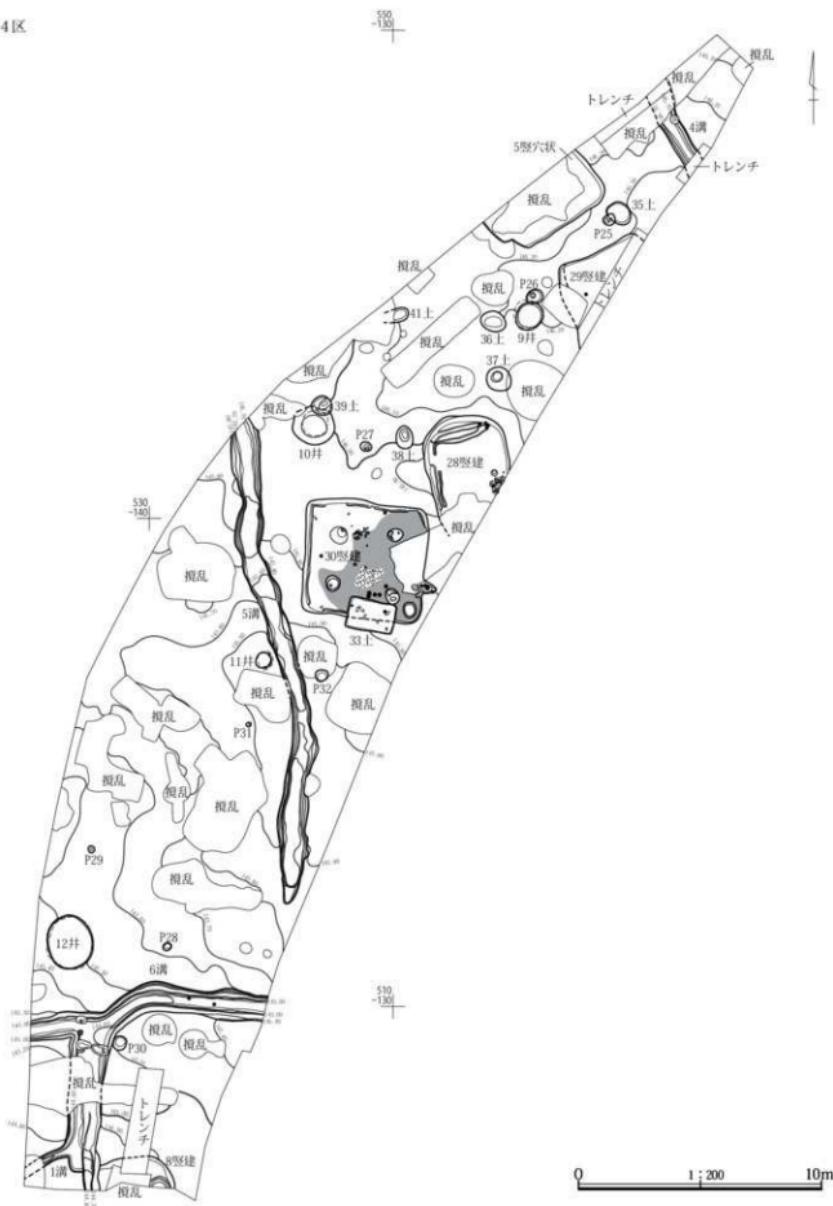


第5図 1区・2区・3区全体図



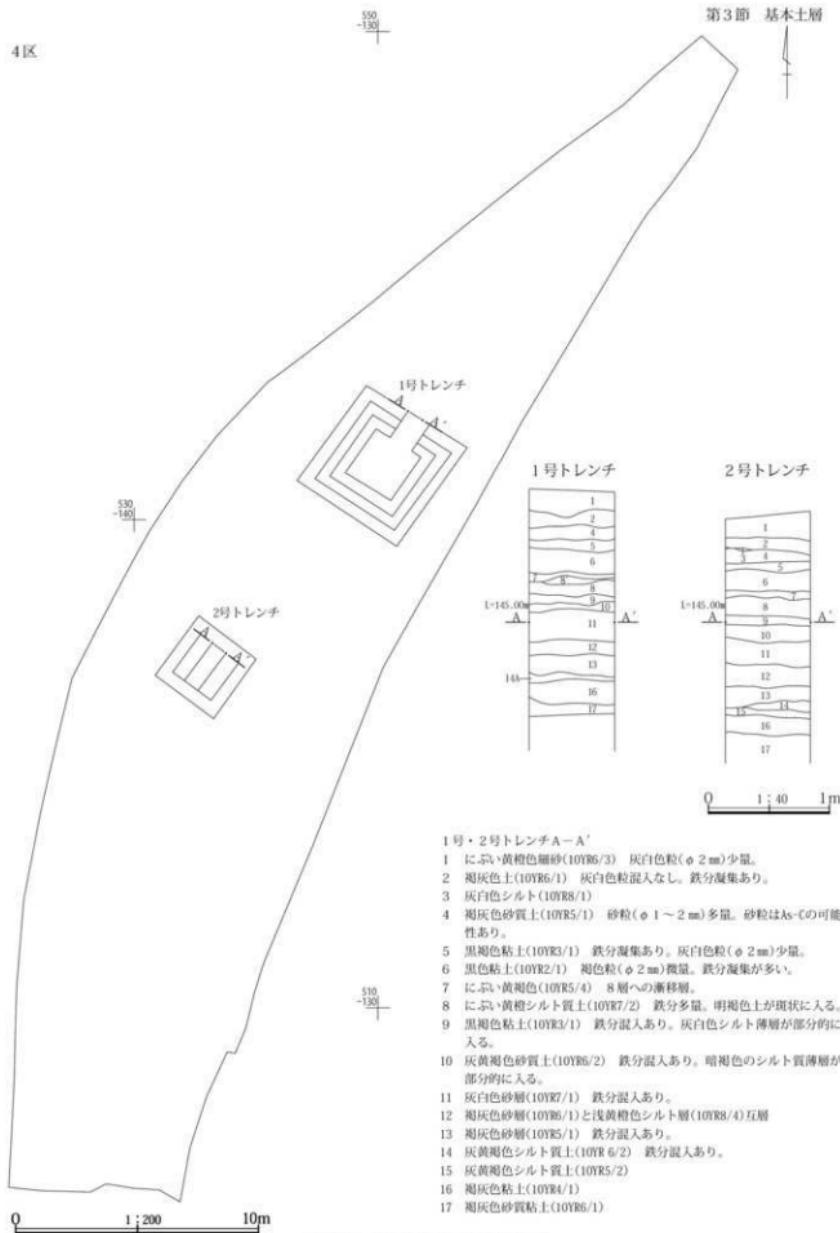
第6図 1区A～D全体図

4区



第7図 4区全体図

4区

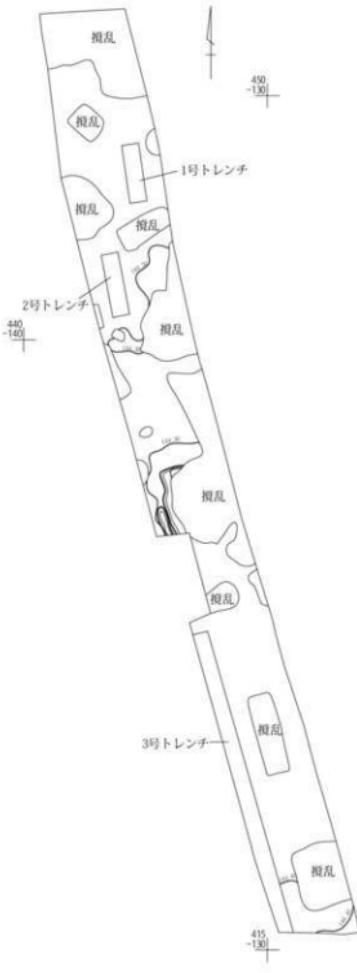


第8図 4区旧石器トレンチ全体図

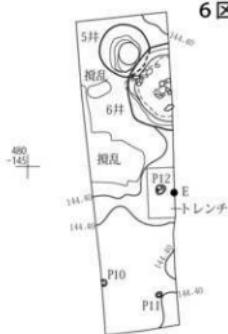
5・6・7区



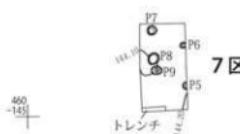
8区



6区



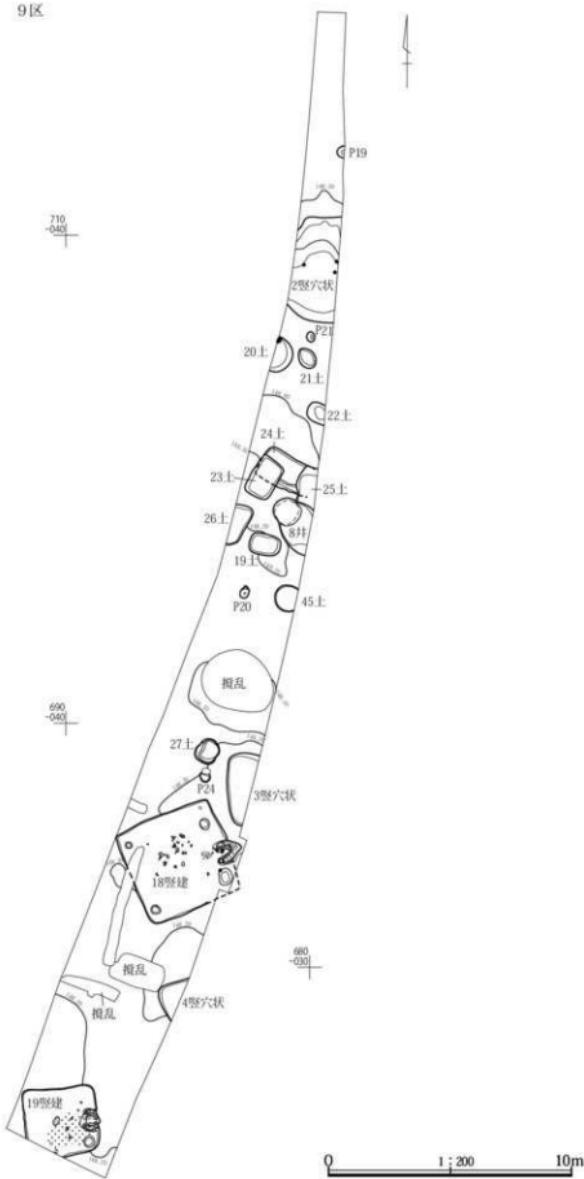
7区



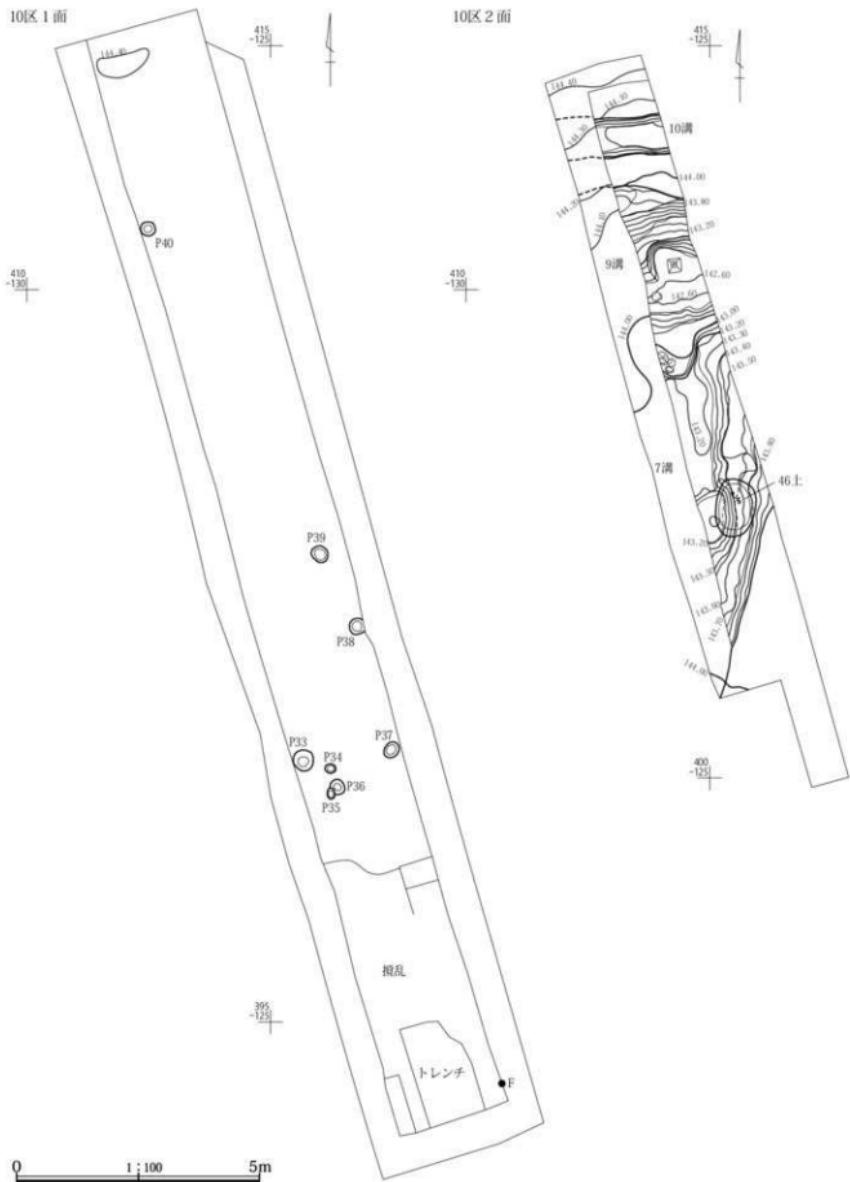
0 1 200 10m

第9図 5区・6区・7区・8区全体図

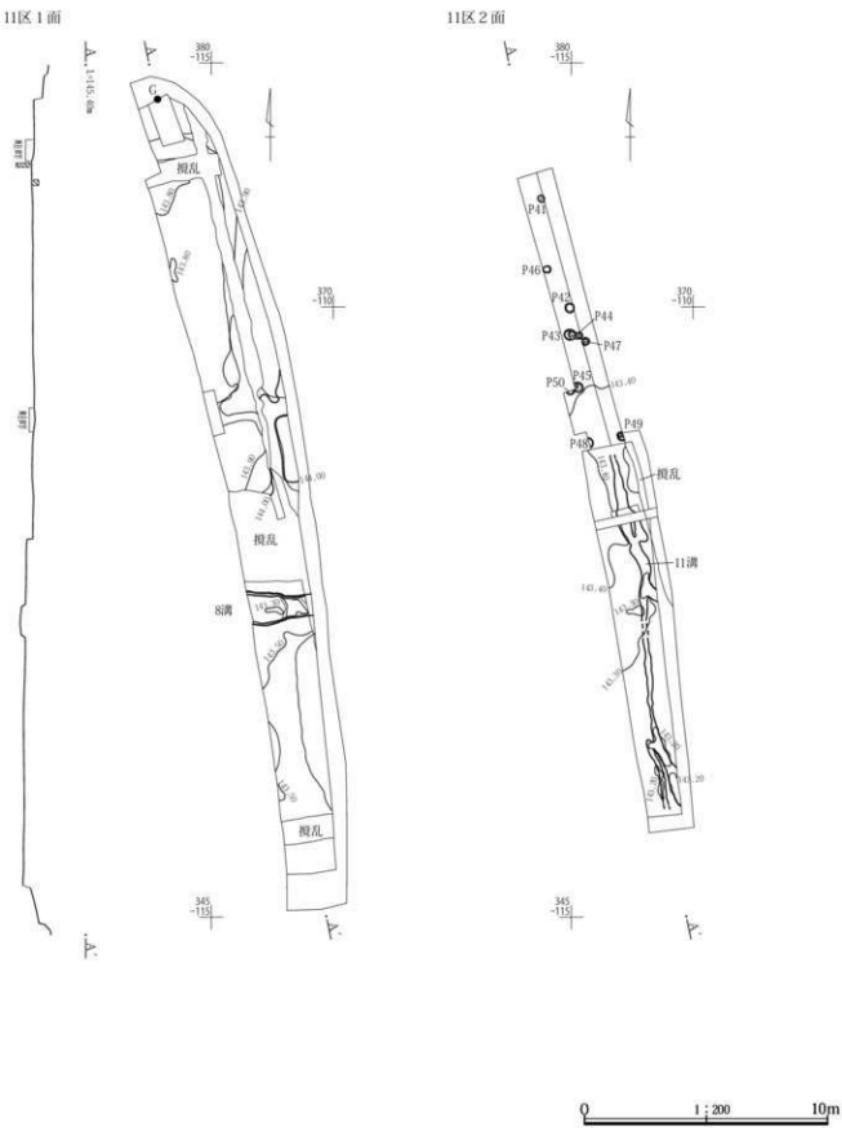
9区



第10圖 9区全体図



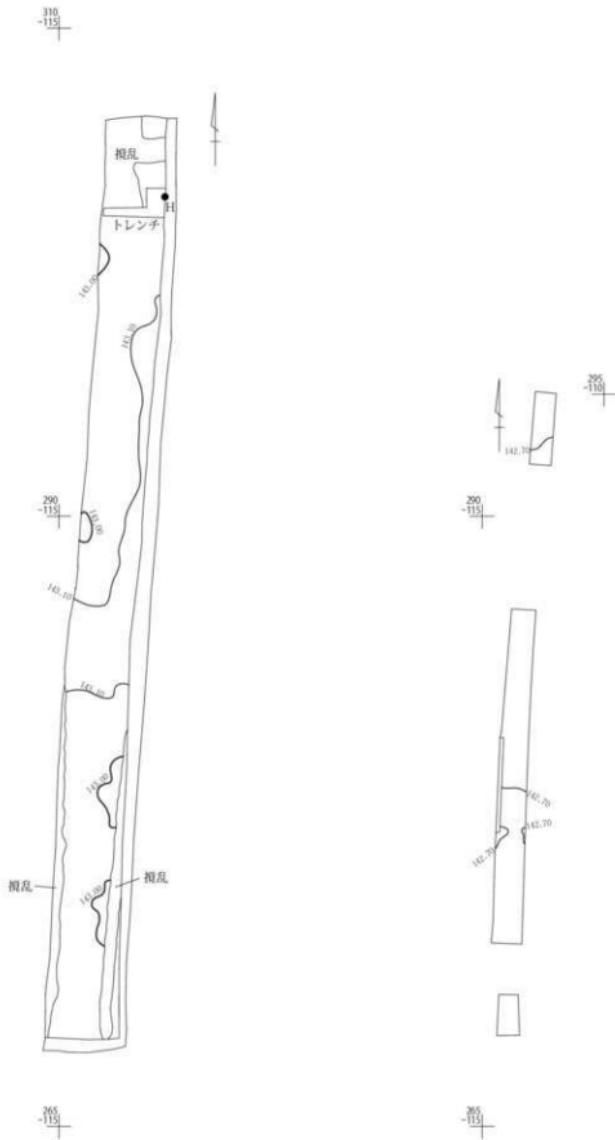
第11図 10区1面・2面全体図



第12図 11区1面・2面全体図

12区 1面

12区2面



第13図 12区1面・2面全体図

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 壁穴建物

調査区内から30棟の壁穴建物が検出された。そのうちの20号壁穴建物を欠番とした。1区21棟、2区2棟、4区3棟、4区・5区1棟、9区2棟の合計29棟を報告する。壁穴建物の一覧については、第3表の通りである。

第3表 壁穴建物一覧表

調査区分	物差し建物番号	位置	規模				重複	(カマド)規模				
			長軸方位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		日→新	方位	長軸	短軸	
2	1	X=44,598 ~ 44,591 Y=-56,092 ~ 56,095	N-45° -W	(2.80)	(2.28)	(0.05 ~ 0.13)	(4.98)	1号壁穴建物→1号井戸、2号土坑	—	—	—	
2	2	X=44,595 ~ 44,587 Y=-56,096 ~ 56,098	N-50° -W	(1.53)	(1.42)	(0.09 ~ 0.16)	(1.52)	2号壁穴建物→1号ビット	—	—	—	
1	3	X=44,616 ~ 44,619 Y=-56,070 ~ 56,073	N-38° -E	(3.20)	(2.00)	(0.14 ~ 0.20)	(5.00)	10号壁穴建物→3号壁穴建物	—	—	—	
1	4	X=44,620 ~ 44,621 Y=-56,072 ~ 56,075	N-80° -W	(2.55)	(1.30)	(0.05)	(2.07)	8号土坑→4号壁穴建物	—	—	—	
1	5	X=44,616 ~ 44,620 Y=-56,073 ~ 56,078	N-80° -E	(3.28)	(2.58)	(0.10 ~ 0.22)	(3.82)	10号壁穴建物→5号壁穴建物	N-80° -E	1.14	1.10	
1	6	X=44,612 ~ 44,616 Y=-56,077 ~ 56,080	N-88° -E	(4.00)	(2.88)	(0.05 ~ 0.20)	(7.21)	6号壁穴建物→7号・9号壁穴建物、11号・18号土坑	N-107° -E	1.52	0.92	
1	7	X=44,610 ~ 44,614 Y=-56,074 ~ 56,078	N-18° -E	(3.65)	(3.20)	(0.10 ~ 0.30)	(9.44)	6号・9号壁穴建物→7号壁穴建物→4号戸戸、18号土坑	N-14° -E	(0.54)	(0.40)	
4	8	X=44,699 ~ 44,703 Y=-56,138 ~ 56,143	N-14° -E	(4.23)	(3.55)	(0.22 ~ 0.28)	(10.92)	8号壁穴建物→1号講	—	—	—	
1	9	X=44,613 ~ 44,615 Y=-56,074 ~ 56,078	N-80° -E	(3.95)	(1.43)	(0.15 ~ 0.21)	(3.33)	6号壁穴建物→9号壁穴建物→7号壁穴建物、18号土坑、4号(y)	—	—	—	
I	10	X=44,616 ~ 44,619 Y=-56,072 ~ 56,075	N-77° -E	3.23	2.88	0.07 ~ 0.25	(6.98)	3号・5号壁穴建物→10号壁穴建物	N-72° -E	0.40	0.43	
I-E	11	X=44,605 ~ 44,610 Y=-56,081 ~ 56,085	N-74° -E	4.95	(3.95)	(0.16 ~ 0.27)	(15.88)	11号壁穴建物→21号壁穴建物	N-83° -E	0.82	0.80	
I	12	X=44,595 ~ 44,597 Y=-56,090 ~ 56,093	N-47° -W	(3.32)	(0.83)	(0.35 ~ 0.32)	(1.68)	16号土坑→13号壁穴建物→12号壁穴建物	N-45° -E	(0.95)	(0.85)	
I	13	X=44,593 ~ 44,600 Y=-56,090 ~ 56,093	N-68° -E	(2.58)	(2.75)	(0.24 ~ 0.42)	(3.76)	13号壁穴建物→7号井戸、12号壁穴建物	N-67° -E	(0.70)	1.00	
I-E	14	X=44,593 ~ 44,601 Y=-56,082 ~ 56,089	N-22° -W	7.25	(5.78)	(0.35 ~ 0.42)	(22.83)	14号壁穴建物→22号・23号壁穴建物	N-73° -E	1.22	0.98	
I-A	15	X=44,659 ~ 44,661 Y=-56,043 ~ 56,045	N-72° -E	(2.50)	(1.65)	(0.27 ~ 0.33)	(2.20)	16号壁穴建物→13号壁穴建物	—	—	—	
I-A	16	X=44,660 ~ 44,663 Y=-56,042 ~ 56,044	N-0° -EW	(2.25)	(1.75)	(0.26 ~ 0.21) (0.0 ~ 0.22)	(3.01)	16号壁穴建物→15号壁穴建物	—	—	—	
I-A	17	X=44,663 ~ 44,665 Y=-56,041 ~ 56,044	N-20° -W	(2.00)	(1.80)	(0.10 ~ 0.12)	(2.47)	—	—	—	—	
9	18	X=44,681 ~ 44,686 Y=-56,033 ~ 56,037	N-80° -E	4.18	4.08	0.04 ~ 0.10	15.78	—	N-75° -E	1.12	0.98	
9	19	X=44,672 ~ 44,675 Y=-56,038 ~ 56,041	N-83° -E	3.00	2.80	0.09 ~ 0.16	(7.15)	—	N-101° -E	0.65	0.90	
20		X=44,602 ~ 44,607 Y=-56,080 ~ 56,085	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
I-E	21	X=44,602 ~ 44,607 Y=-56,080 ~ 56,085	N-77° -E	6.67	4.23	0.17 ~ 0.47	21.94	21号壁穴建物→11号・22号・23号壁穴建物	N-80° -E	1.37	1.00	
I-E	22	X=44,599 ~ 44,603 Y=-56,085 ~ 56,089	N-65° -E	3.95	3.65	0.29 ~ 0.46	(11.55)	14号・23号壁穴建物、32号土坑→22号壁穴建物→21号壁穴建物	N-62° -E	0.63	0.52	
I-E	23	X=44,601 ~ 44,603 Y=-56,082 ~ 56,085	N-83° -E	(2.80)	(1.98)	(0.25 ~ 0.29)	(5.11)	23号壁穴建物→14号・21号・22号壁穴建物→32号土坑	N-106° -E	1.28	1.25	
I-D	24	X=44,630 ~ 44,632 Y=-56,081 ~ 56,083	N-20° -W	(2.45)	(2.00)	(0.21 ~ 0.29)	(2.56)	—	—	—	—	
I-D	25	X=44,627 ~ 44,628 Y=-56,064 ~ 56,065	N-62° -W	(1.55)	(0.90)	(0.15 ~ 0.18) (0.21 ~ 0.29)	(1.17)	27号壁穴建物→25号壁穴建物→26号壁穴建物	—	—	—	—
I-D	26	X=44,627 ~ 44,629 Y=-56,065 ~ 56,067	N-62° -W	(2.30)	(1.30)	(0.21 ~ 0.24) (1.16 ~ 0.19)	(2.30)	25号・27号壁穴建物→26号壁穴建物	—	—	—	—
I-D	27	X=44,627 ~ 44,632 Y=-56,064 ~ 56,067	N-90° -E	(4.80)	(3.44)	(0.18 ~ 0.24)	(8.46)	27号壁穴建物→25号・26号壁穴建物、31号土坑	N-95° -E	0.96	0.77	
4	28	X=44,529 ~ 44,534 Y=-56,125 ~ 56,128	N-10° -W	(4.87)	(3.44)	(0.21 ~ 0.42)	(11.55)	—	—	—	—	
4	29	X=44,536 ~ 44,541 Y=-56,119 ~ 56,123	N-16° -W	3.85	3.50	(0.16 ~ 0.21)	(6.61)	—	—	—	—	
4	30	X=44,525 ~ 44,530 Y=-56,128 ~ 56,133	N-80° -E	5.03	4.80	(0.06 ~ 0.34)	21.27	30号壁穴建物→33号土坑	N-98° -E	0.77	(0.73)	

出土遺物から壁穴建物の時期を推定し本文中に記載した。時期が推定できないものは不明とした。

出土遺物から時期はおおむね5世紀後半から9世紀前半である。29棟の壁穴建物のうち、全形が判明したのは4棟である。残りの25棟は調査区外に壁穴建物が広がるため、一部のみの調査となつた。

第3章 検出された遺構と遺物

カマドの調査ができたのは15棟である。北壁あるいは、東壁に構築されている例が多かった。

1号竪穴建物(第14図、PL. 2)

位置 2区

X=44,588 ~ 44,591 Y=-56,092 ~ 56,095

重複 1号井戸、2号土坑

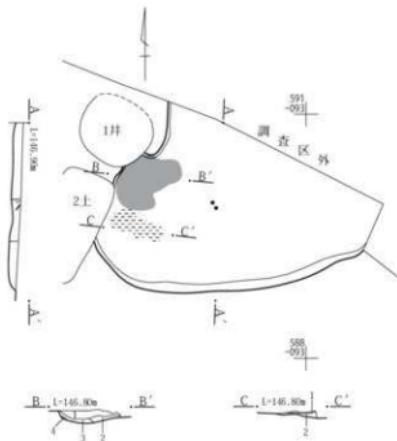
形状 不明

規模 長軸(2.80)m 短軸(2.28)m

深さ(0.05 ~ 0.13)m

方位 N-45°-W

面積 (4.98) m²



第14図 1号竪穴建物

0 1:60 2m

カマド 未確認

柱穴 未確認

床面 灰白色土少量、黒色粘土斑を含み、鉄分凝集がみられる暗褐色土で作られていた。

出土遺物 土師器片

所見 1号井戸、2号土坑に切られる。竪穴建物の大半は調査区外である。掘り込みも浅かった。灰白色土粒を少量、炭化物粒を微量に含み、鉄分凝集がみられる暗褐色土で埋没していた。南西隅付近には焼土粒、炭化物がまとまって検出したが、カマドとは認定できなかった。

1号竪穴建物 A-A'

1 暗褐色土 灰白色土少量。黒色粘土斑に含む。鉄分凝集あり。

1号竪穴建物 B-B'

1 暗褐色土 焼土塊多量。灰白色土粒中量。炭化物粒微量。

2 暗褐色土 鉄分、灰白色砂微量。

3 黒褐色土 灰白色粘土、炭化物粒、焼土粒、鉄分微量。

4 暗褐色土

1号竪穴建物 C-C'

1 炭化物層 焼土粒、灰白色土粒微量。

2 暗褐色土

2号竪穴建物(第15図、PL. 2)

位置 2区

X=44,585 ~ 44,587 Y=-56,096 ~ 56,098

重複 1号ピット

形状 不明

規模 長軸(1.53)m 短軸(1.42)m

深さ(0.09 ~ 0.16)m

方位 N-50°-W

面積 (1.52) m²

カマド 未確認

柱穴 未確認

床面 灰白色土粒少量、炭化物微量含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物 なし

所見 2区南西コーナー部分で確認され、竪穴建物の一部分を調査した。南東コーナー部分で1号ピットに切られる。黒褐色土粒、炭化物粒微量、黄灰色土を含む暗褐色土で埋没していた。出土遺物も乏しく、時期は不明である。



第15図 2号壁穴建物

3号壁穴建物(第16図、PL. 3・5・54)

位置 1区

 $X=44,616 \sim 44,619$ $Y=-56,070 \sim 56,073$

重複 10号壁穴建物(7世紀前半)→3号壁穴建物(9世紀後半)

形状 不明

規模 長軸(3.20)m 短軸(2.00)m

深さ(0.14 ~ 0.20)m

方位 N-38°-E

面積 (5.00) m²

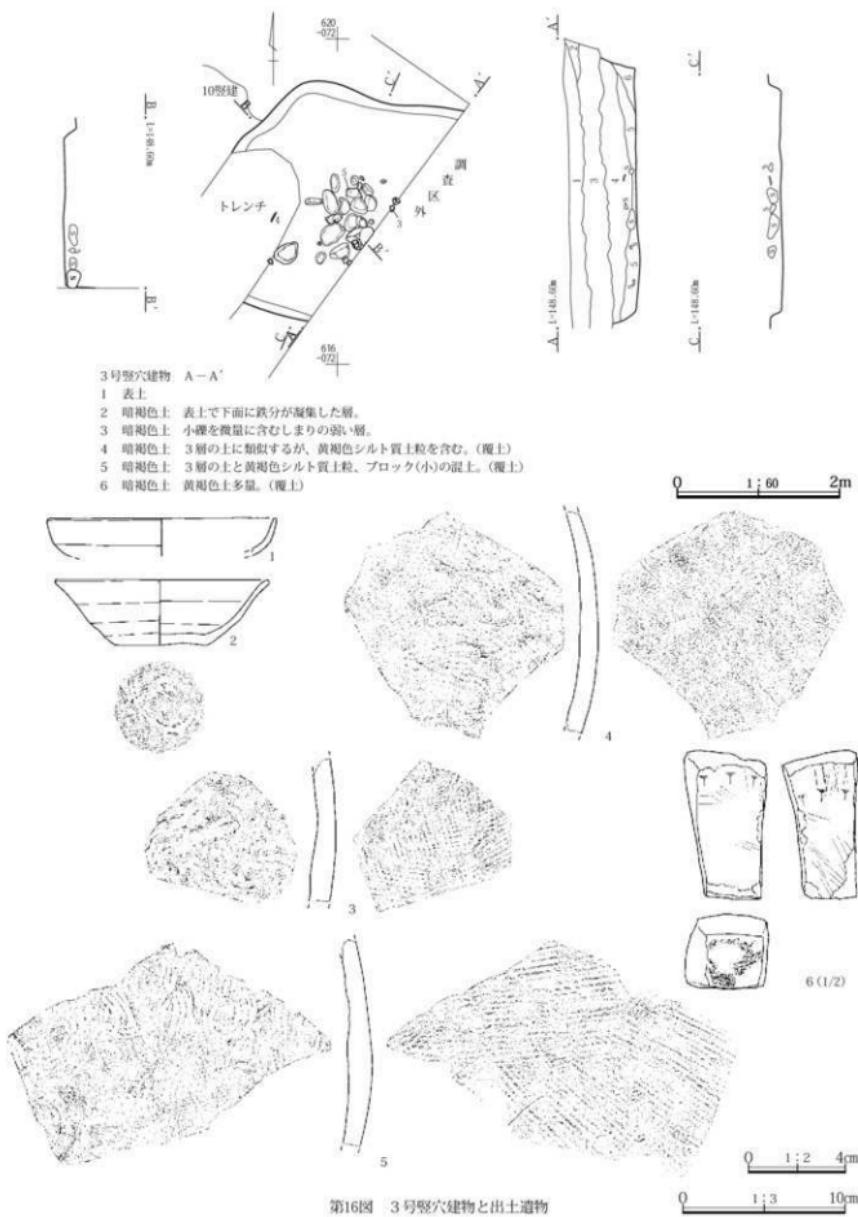
カマド 未確認

柱穴 未確認

床面 黄褐色土を多量に含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物 土師器杯1個・須恵器杯1個・須恵器壺破片3個出土。須恵器壺は内面に青海波紋、外面並行鼓目で、平安時代ではなく古墳時代の須恵器壺破片と思われる。

所見 壁穴建物の半分程度が調査区外である。出土遺物から10号壁穴建物より新しい。黄褐色土が多量含む暗褐色土で埋没していた。壁穴建物の中央部に須恵器壺(第16図5)を含む集石を検出した。礫の大きさは径10~35cmである。壁穴建物が使用されなくなった後に廃棄されたものと考えられる。新しい時代の出土遺物から9世紀第4四半期と考えられる。



第16図 3号竖穴建物と出土遺物

4号壁穴建物(第17図、PL. 1・3・4・54)

位置 1区

 $X=44,620 \sim 44,621$ $Y=-56,072 \sim -56,075$

重複 8号土坑

形状 不明

規模 長軸(2.55)m 短軸(1.30)m

深さ(0.05)m

方位 N-86°-W

面積 (2.07) m²

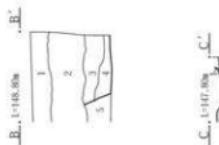
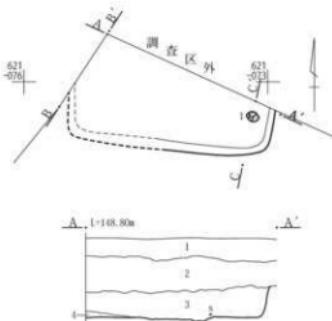
カマド 平安時代のカマドは東壁に構築していることが多いが、その部分は調査区外となっており不明。

柱穴 未確認、おそらく無いと思われる。

出土遺物 土師器杯・高杯。掲載した出土遺物は、床面、掘り方からの出土である。1は出土例の少ない底部および体部下半を手持ちヘラ削りした土師器杯である。2は高杯の脚部付近である。

所見 1区の最も北端に位置する。壁穴建物中央から北側が調査区外である。南側に接して3号・5号・10号壁穴建物が密集して作られている。

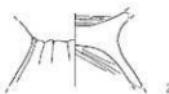
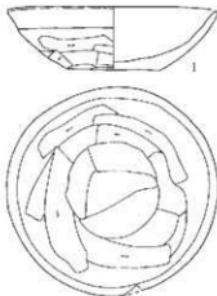
壁穴建物の覆土は白色粒子、黄色粒、灰白色土粒を含む暗褐色土で埋没していた。出土遺物から9世紀末から10世紀第1四半期と考えられる。



4号壁穴建物 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土 均一な表土。
- 2 暗褐色土 小礫を微量に含む表土。
- 3 暗褐色土 白色粒と黄色粒を少量含む均質な層。
- 4 暗褐色土 灰白色シルト質土粒を含む。
- 5 暗褐色土 (地山層)

0 1:60 2m



0 1:3 10cm

第17図 4号壁穴建物と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5号竪穴建物(第18~20図、PL. I・4・5・54)

位置 I区

X=44,616 ~ 44,620 Y=-56,075 ~ 56,078

重複 なし 形状 長方形と思われる

規模 長軸(3.28)m 短軸(2.58)m

深さ(0.10 ~ 0.22)m

方位 N-80°-E

面積 (3.82) m²

カマド 東壁に構築されていた。燃焼部内側の袖部は焼けて焼土化していた。燃焼部右側に小さな石が5個据え付けられた状態で出土した。粘土で塗いたカマドの芯材

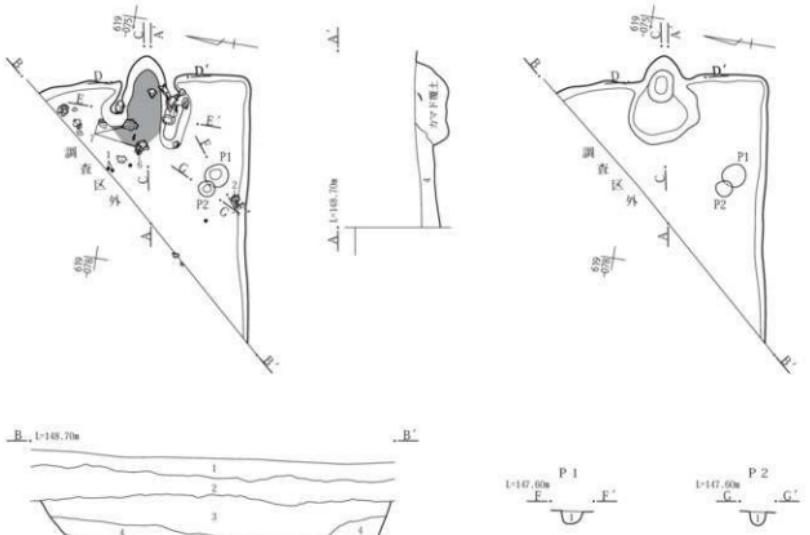
に石が使用されていたものと思われる。

柱穴 P1・P2の2基を検出したが、柱穴ではないと思われる。深さ約15cmで、焼土粒、炭化物粒を含む暗褐色土で埋没していた。

床面 灰黄色土を含み、鉄分凝集がみられる暗褐色土で、カマド周辺には硬化面が広がる。

出土遺物 カマド周辺から多くの遺物が出土している。土師器杯・土師器甕・底面系切後周回転ヘラ削りの須恵器杯・外面印の須恵器甕がある。

所見 竪穴建物の1/2ほど残存する。出土遺物から8世紀末から9世紀第1期四半期と考えられる。



5号竪穴建物 A-A'・B-B'

1 暗褐色土 しまりの弱い暗褐色土。

2 暗褐色土 1層に似ているが、1層よりか固く結まっている。

3 暗褐色土 2層に近い暗褐色土、2層より土層が密。

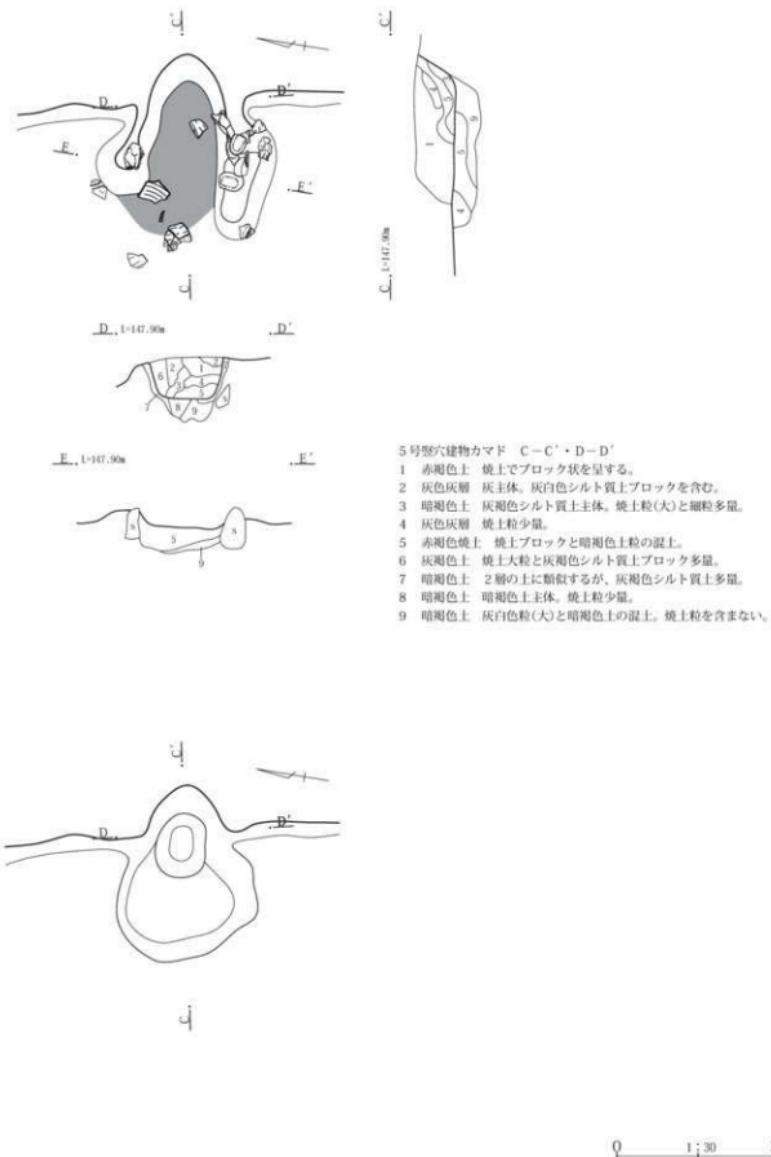
4 暗褐色土 灰白色粒を全体に少量含む。

P1・P2 F-F'・G-G'

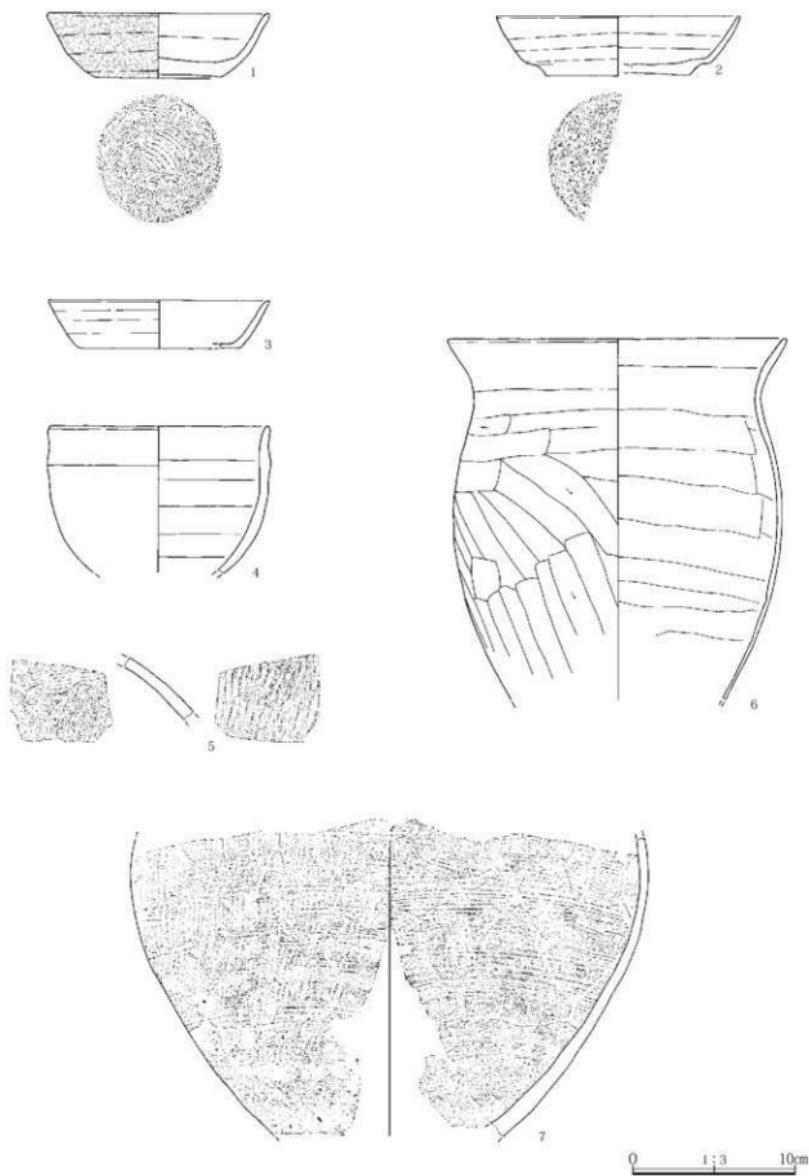
1 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒微量。

0 1:60 2m

第18図 5号竪穴建物



第19図 5号壁穴建物カマド



第20図 5号堅穴建物出土遺物

6号壁穴建物(第21・22図、PL. I・4・5)

位置 I区

 $X=44,612 \sim 44,616$ $Y=-56,077 \sim 56,080$

重複 建物の覆土から床下部分まで7号・9号壁穴建物、11号土坑と18号土坑に掘り込まれている。7号壁穴建物、18号土坑は6号壁穴建物カマド右側に掘られており、土師器コの字口縁甕が出土している。6号壁穴建物の遺物と思われる。11号土坑は、6号壁穴建物より新しい。

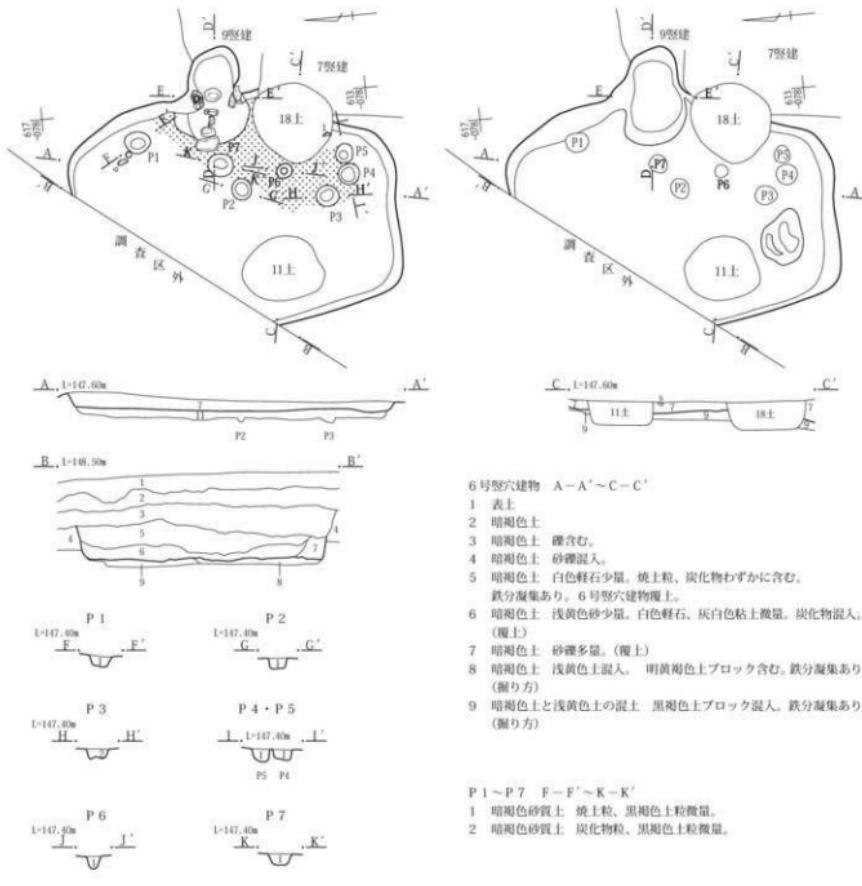
形状 東西方向に長い長方形。

規模 長軸(4.00)m 短軸(2.88)m

深さ(0.05 ~ 0.20)m

方位 N-88°-E 面積 (7.21) m²

カマド 東壁中央付近に構築されていた。袖部分が壁面付近につくられ、燃焼部から煙道部の大部分は壁面を掘り込んで作られていた。焚口部分に袖石がほぼ据えられた状態で残っていた。天井石の下部分から焚口手前床面



第21図 6号壁穴建物

第3章 検出された遺構と遺物

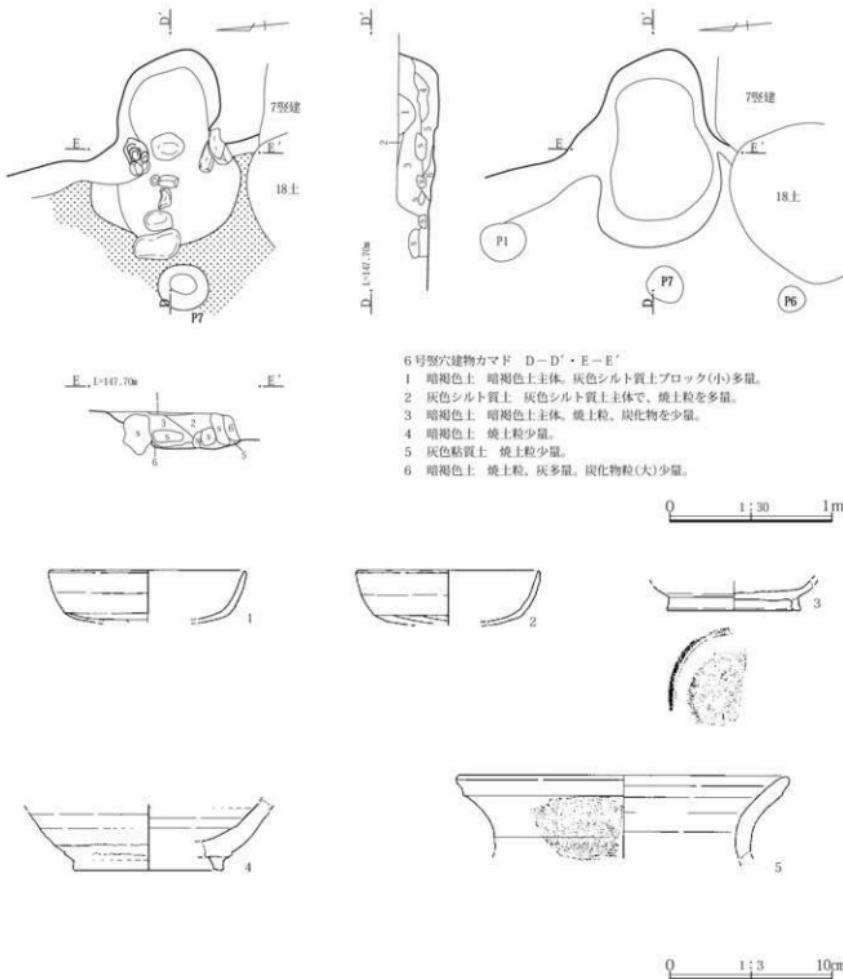
にかけて、多くの石が散在するように出土した。このよう にカマド手前に、カマドを作った石や粘質土と焼土粒 が散在する調査例は多い。カマドが使用されなくなった 段階で、カマドを廃棄した結果と思われる。

柱穴 小穴である P 1 ~ P 7 の 7 基を検出した。小さな 建物であり、柱穴はなかったものと思われる。

床面 カマド手前床面に多くの焼土粒が残っていた。

出土遺物 土師器杯・須恵器杯・須恵器壺・須恵器甕 が出土している。

所見 出土遺物から 8 世紀第 4 四半期から 9 世紀前半と 考えられる。



第22図 6号窯穴建物カマドと出土遺物

7号壁穴建物(第23・24図、PL. I・4・6・54)

位置 1区

 $X=44,610 \sim 44,614$ $Y=-56,074 \sim 56,078$

重複 9号壁穴建物(9世紀前半)→6号壁穴建物(9世紀後半)→4号井戸・18号土坑

形状 方形

規模 長軸(3.65)m 短軸(3.20)m

深さ(0.10~0.30)m

方位 N-18°-E 面積 (9.44) m²

カマド 北壁東寄りに構築されていた。4号井戸により

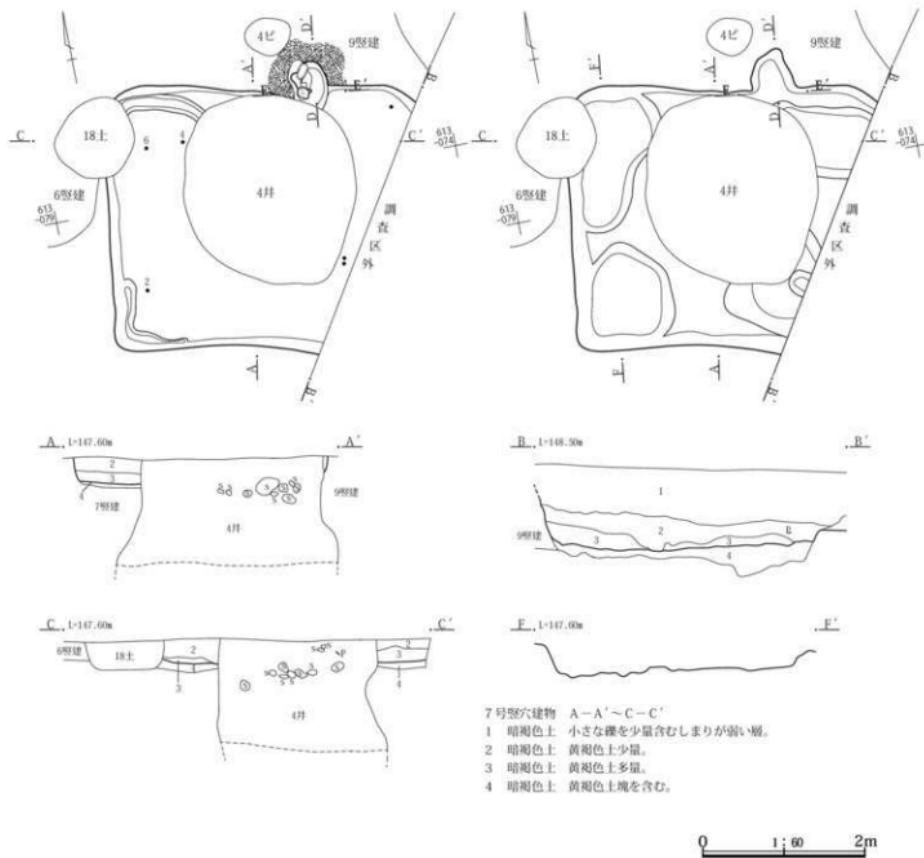
焚口付近が壊れされていた。燃焼部から上の部分はほとんど残っていなかった。燃焼部を囲むように馬蹄形に持ち込まれた灰白色の粘土が残っていた。

柱穴 確認できなかった。

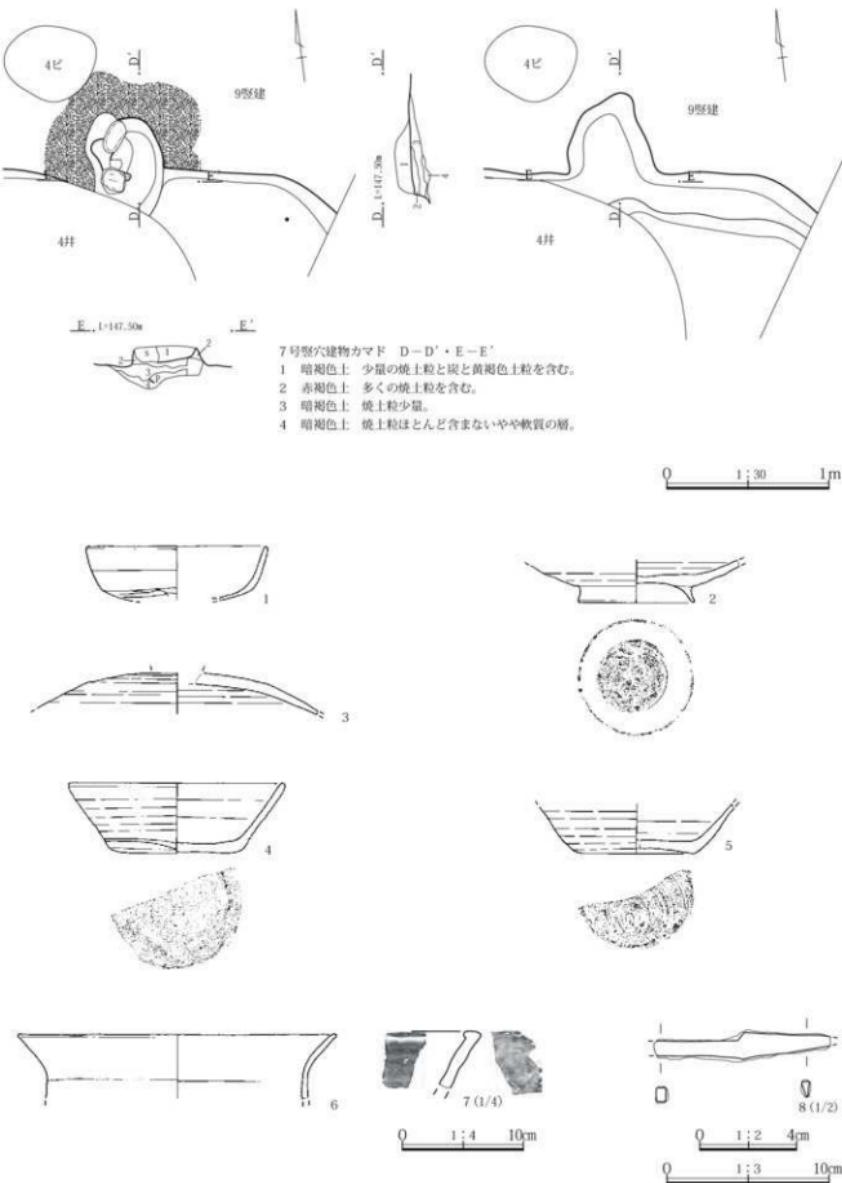
床面 黄褐色土塊を含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物 土師器杯・土師器甌・須恵器杯蓋・須恵器杯・須恵器皿が出土している。

所見 4号井戸に壁穴建物の大部分を切られる。出土遺物から9世紀中頃と考えられる。



第23図 7号壁穴建物



第24図 7号堅穴建物カマドと出土遺物

8号壁穴建物(第25図、PL. 7)

位置 4・5区

 $X=44,499 \sim 44,503$ $Y=-56,138 \sim 56,143$

重複 1号溝

形状 長方形

規模 長軸(4.23)m 短軸(3.55)m

深さ(0.22 ~ 0.28)m

方位 N-14°-E

面積 (10.92) m²

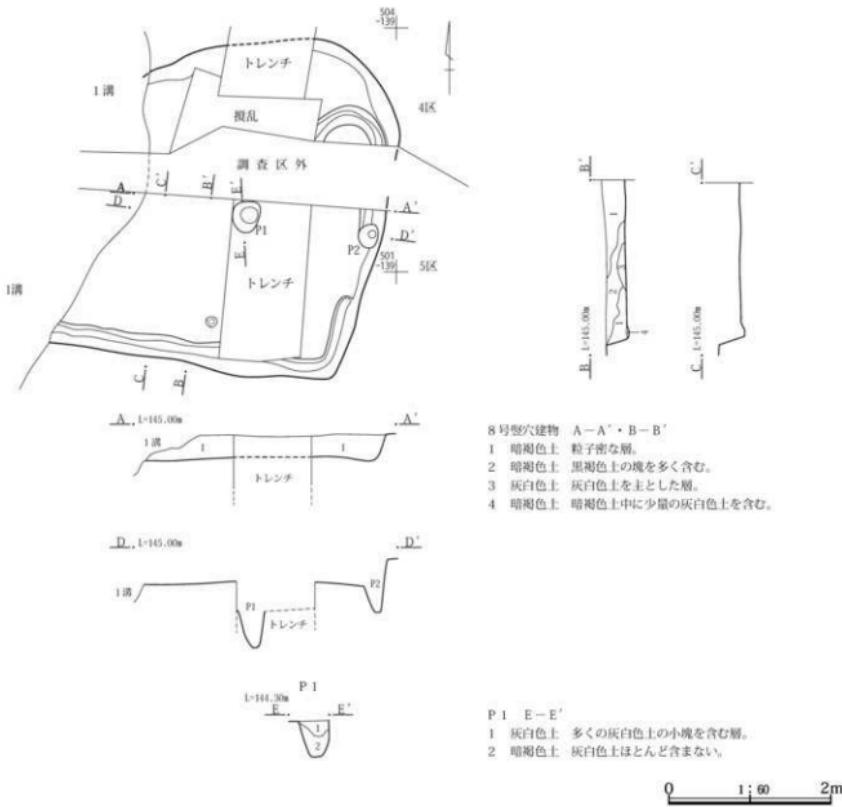
カマド 北壁から東壁付近に構築していたと思われるが、その部分は発掘できなかったので不明。

柱穴 小穴のP1・P2を検出した。深さの平均は約37.5cmである。

床面 灰白色土を含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物 なし

所見 平成29年度と令和元年度に調査を行った。4区・5区にまたがっている。1号溝や搅乱、トレーニングにより壊されており、床面は1/2程度が残存するのみである。残存する南と東の壁には幅12 ~ 15cm、深さ0.1 ~ 0.5cmのごく浅い周溝状の溝が掘られていた。出土遺物も乏しく、時期は不明であるが、他の壁穴建物と同じ頃と思われる。



第25図 8号壁穴建物

第3章 検出された遺構と遺物

9号竪穴建物(第26図、PL. 7)

位置 1区

X=44,613 ~ 44,615 Y=-56,074 ~ 56,078

重複 6号竪穴建物(8世紀後半)→7号竪穴建物(9世紀後半)、4号井戸、4号ピット

規模 長軸(3.95)m 短軸(1.43)m

深さ(0.15 ~ 0.21)m

方位 N-80°-E 面積 (3.33) m²

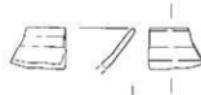
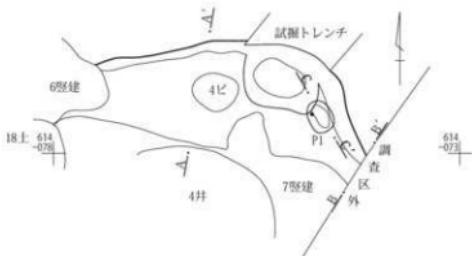
カマド 未確認

柱穴 P1を床下で検出した。深さは約10cmである。

床面 小礫と黄褐色土を含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物 土師器甕・須恵器杯

所見 6号・7号竪穴建物、4号井戸に大部分を壊される。出土遺物から9世紀前半と考えられる。



10号竪穴建物(第27図、PL. 1・7・8・55)

位置 1区

X=44,616 ~ 44,619 Y=-56,072 ~ 56,075

重複 3号・5号竪穴建物

形状 圓丸正方形

規模 長軸3.23m 短軸2.88m 深さ 0.07 ~ 0.25m

方位 N-77°-E 面積 (6.98) m²

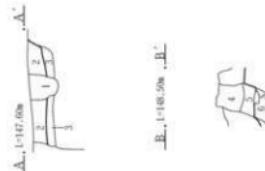
カマド 東壁中央に構築されていた。カマド付近から土師器杯(第27図2)、土師器甕(同図3)が出土した。

柱穴 なし

床面 灰白色土塊を多く含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物 土師器杯・土師器甕

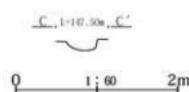
所見 3号竪穴建物の掘り方調査時にカマドの一部分を検出した。遺構確認作業後に10号竪穴建物の調査を実施した。暗褐色土・灰褐色土・灰白色土の混土で埋没していた。出土遺物から7世紀前半と考えられる。



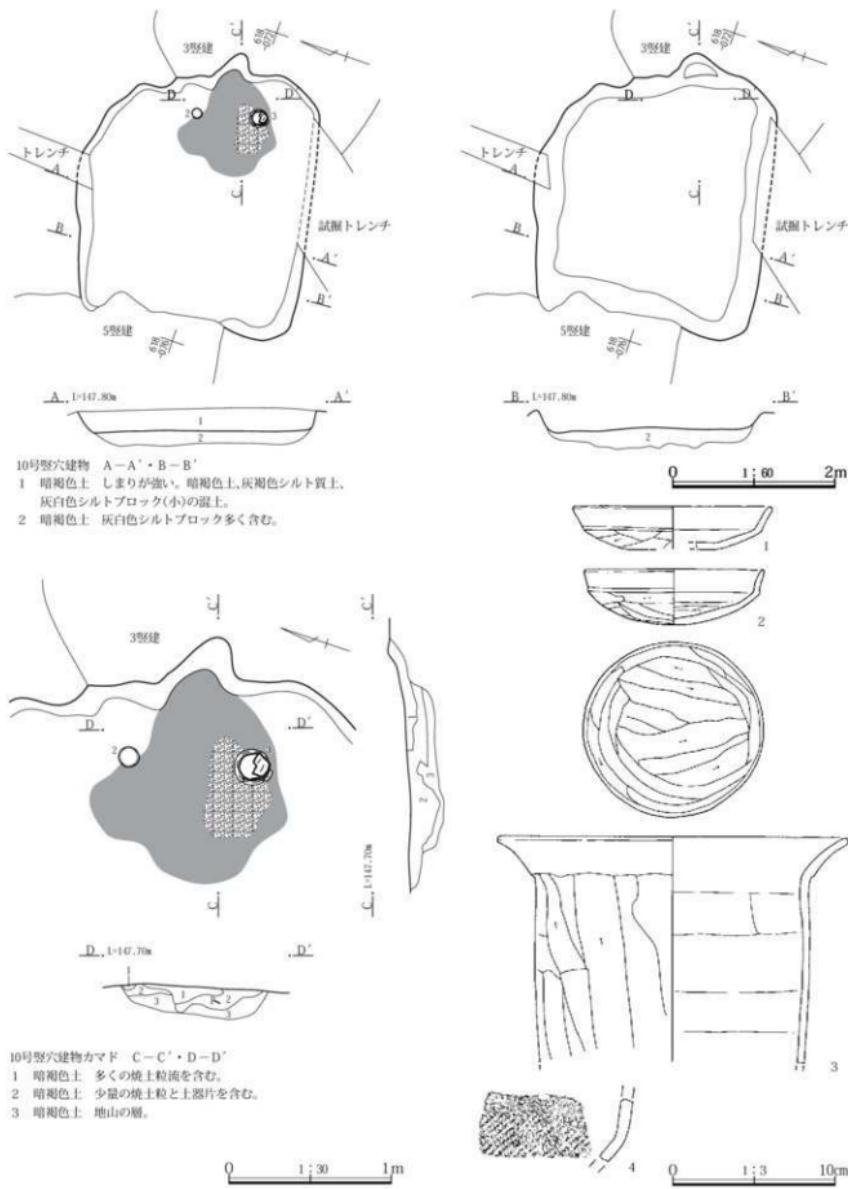
9号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色砂礫層(水性堆積)
- 2 暗褐色土 粒砂を均質に含み、酸化鉄の凝集した層。
- 3 暗褐色土 小礫と黄褐色土粒(大)を含む層。しまりはあるが粘性のない層。
- 4 暗褐色土 しまり弱い。小礫多量。
- 5 暗褐色土 暗褐色土ブロック、黄褐色土ブロックの混土。
- 6 暗褐色土 5層の土主体。2層の崩落土を含む。

P1



第26図 9号竪穴建物と出土遺物



第27図 10号壁穴建物・カマドと出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

11号竪穴建物(第28～30図、PL. 1・8・9・55)

位置 1区・1区-E

X=44,605 ~ 44,610 Y=-56,081 ~ 56,085

重複 21号竪穴建物 形状 圓丸長方形

規模 長軸4.95m 短軸(3.95)m

深さ(0.16 ~ 0.27)m

方位 N-74°-E 面積 (15.88) m²

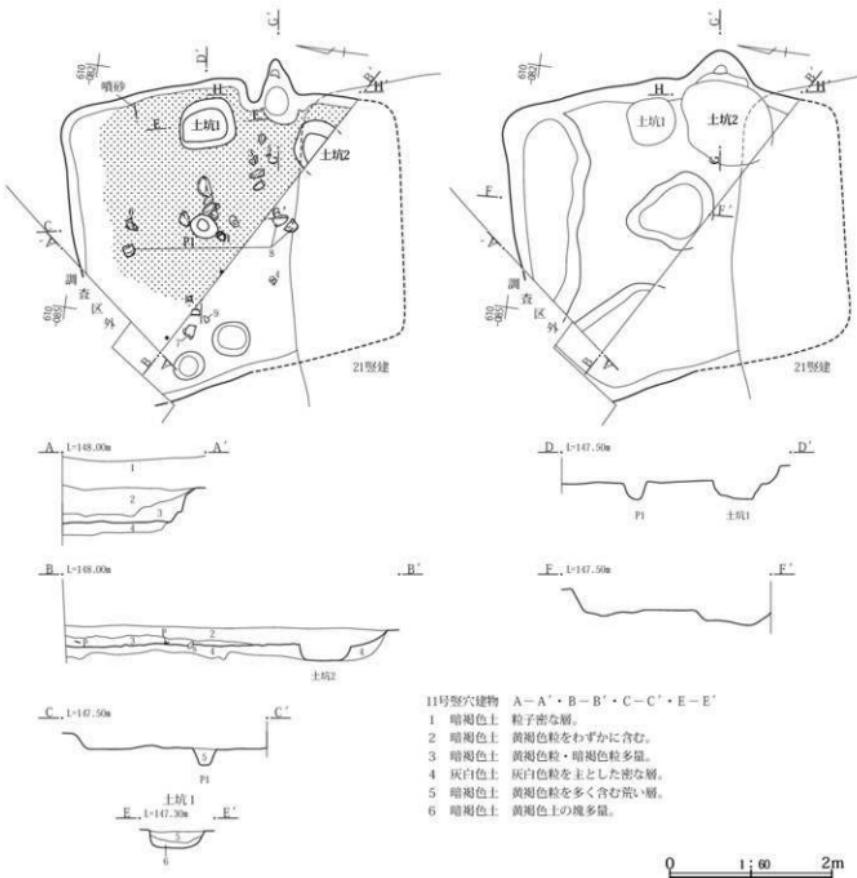
カマド 東壁南寄りに構築していた。灰白色の粘土を用いてカマドは作られていた。

柱穴 掘られていないかった。

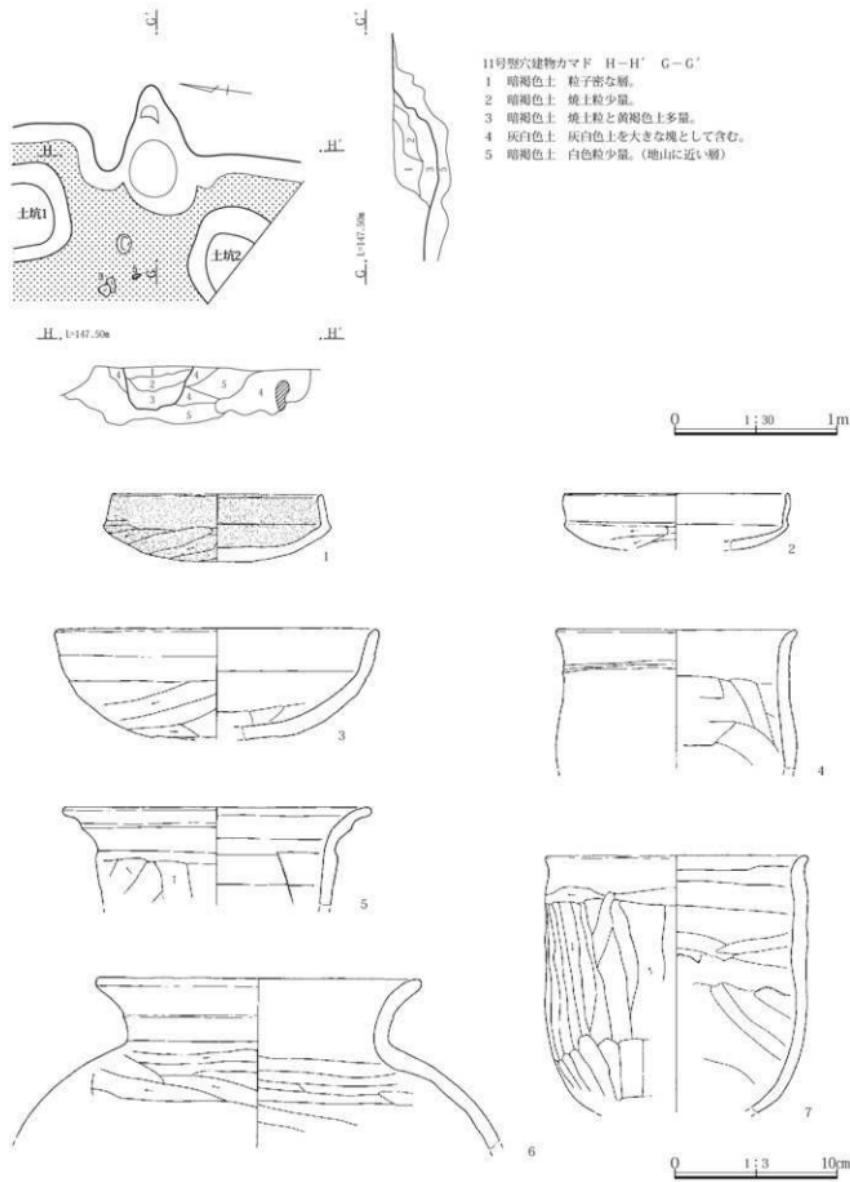
床面 暗褐色土塊を含む灰白色土で作られていた。

出土遺物 土師器杯・土師器小型甌・土師器壺・須恵器甌が竪穴建物の中央部に遺物が集中して出土した。

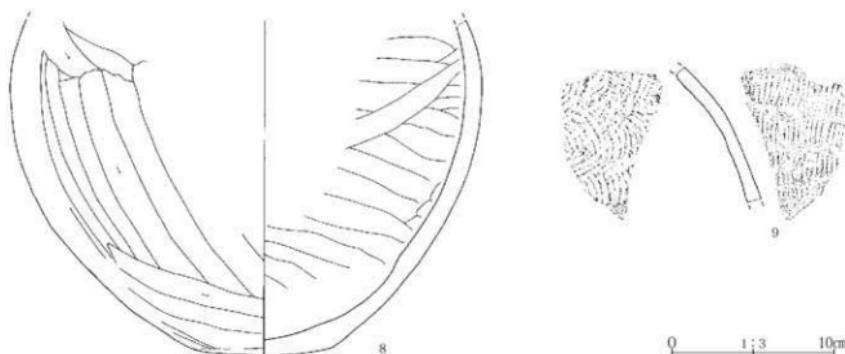
所見 平成29年度(1区)と令和元年度(1区-E)の2か年調査した。平成29年度は北西部を調査し、南東部を令和元年度に調査した。土坑1は竪穴建物を切る遺構であるが、土坑2は床面で検出された床下土坑である。出土遺物から6世紀後半と考えられる。



第28図 11号竪穴建物



第29図 11号壁穴建物カマドと出土遺物(1)



第30図 11号竪穴建物出土遺物(2)

12号竪穴建物(第31図、PL. 10)

位置 1区

X=44,595 ~ 44,597 Y=-56,090 ~ 56,093

重複 13号竪穴建物(8世紀前半)→12号竪穴建物(9世紀前半)、16号土坑

形状 不明

規模 長軸(3.32)m 短軸(0.83)m

深さ(0.35 ~ 0.32)m

方位 N-47°-W 面積 (1.68) m²

カマド 東壁に構築されていた。灰白色土粘質土で作られており、袖部分が良好に残っていた。カマド内から赤褐色の焼土が出土している。

柱穴 未確認

床面 灰白色土、黒色粘土塊、暗褐色土を含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物 土師器甌口縁部

所見 建物は灰褐色粘質土、黒色粘土を含む暗褐色土で埋没していた。弘仁9年(818)年の大地震に伴うと考えられる北東-南西方向に走る噴砂を床面と調査区壁面で確認した。出土遺物から9世紀頃と考えられる。

13号竪穴建物(第32図、PL. 10)

位置 1区

X=44,596 ~ 44,600 Y=-56,090 ~ 56,093

重複 13号竪穴建物(8世紀後半)→12号竪穴建物(9世紀)、7号井戸

形状 不明

規模 長軸(2.58)m 短軸(2.75)m

深さ(0.24 ~ 0.42)m

方位 N-68°-E

面積 (3.76) m²

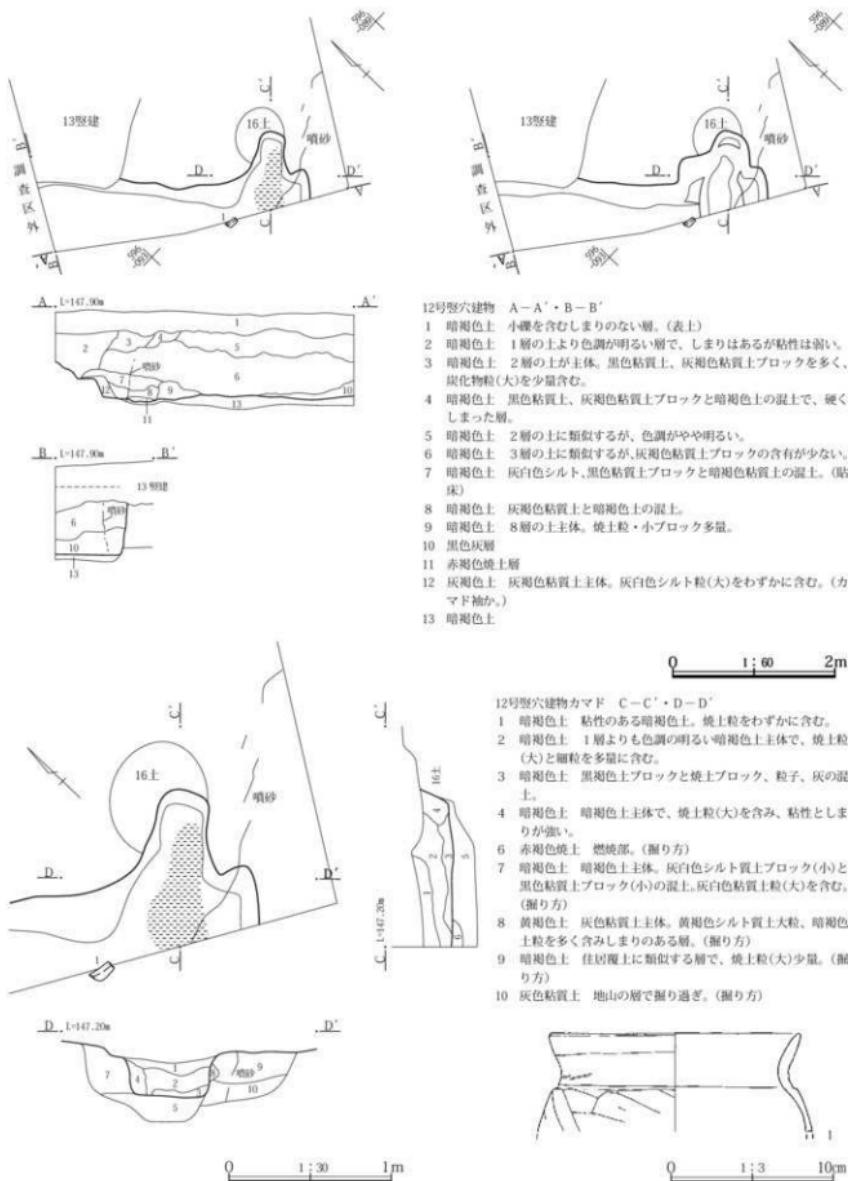
カマド 東壁南寄りに灰白シルト質土を持ち込んで構築していた。カマドの燃焼部や両袖部分の大部分は床面上に作られており、煙道部の一部が壁面を掘り込んでいた。カマド内から少量の焼土粒と炭が出土した。7号井戸に煙道部付近を切り込まれて壊されている。

柱穴 未確認

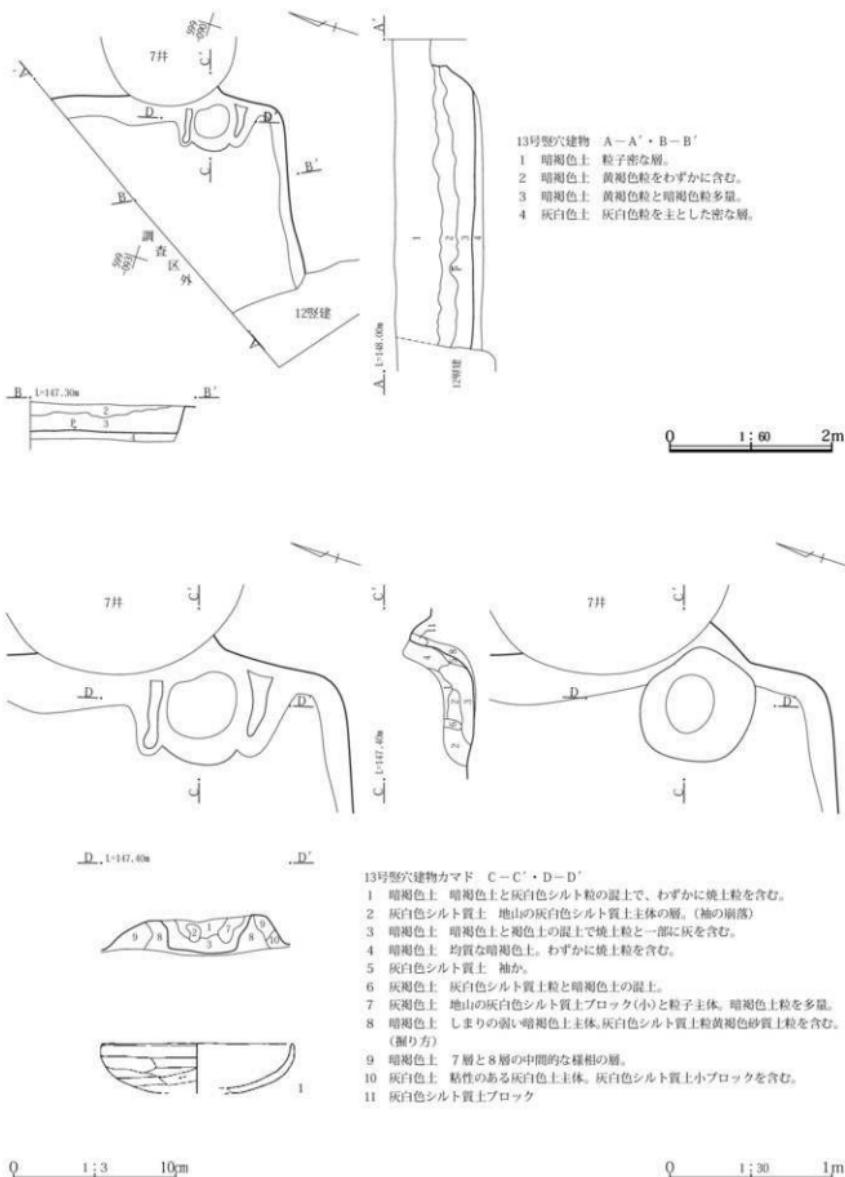
床面 暗褐色土を含む灰白色土で作られていた。

出土遺物 土師器杯

所見 カマドは、東壁の南側に作られている。カマド周辺を発掘することができたが、出土遺物がほとんどなかった。唯一の出土遺物である丸底の土師器杯の年代観から8世紀前半としたが、特定できない。



第31図 12号壁穴建物・カマドと出土遺物



第32図 13号竖穴建物・カマドと出土遺物

14号壁穴建物(第33～36図、PL. 11・12・56)

位置 I区・I区-E

 $X=44,593 \sim 44,601$ $Y=-56,082 \sim 56,089$

重複 22号・23号壁穴建物 形状 不明

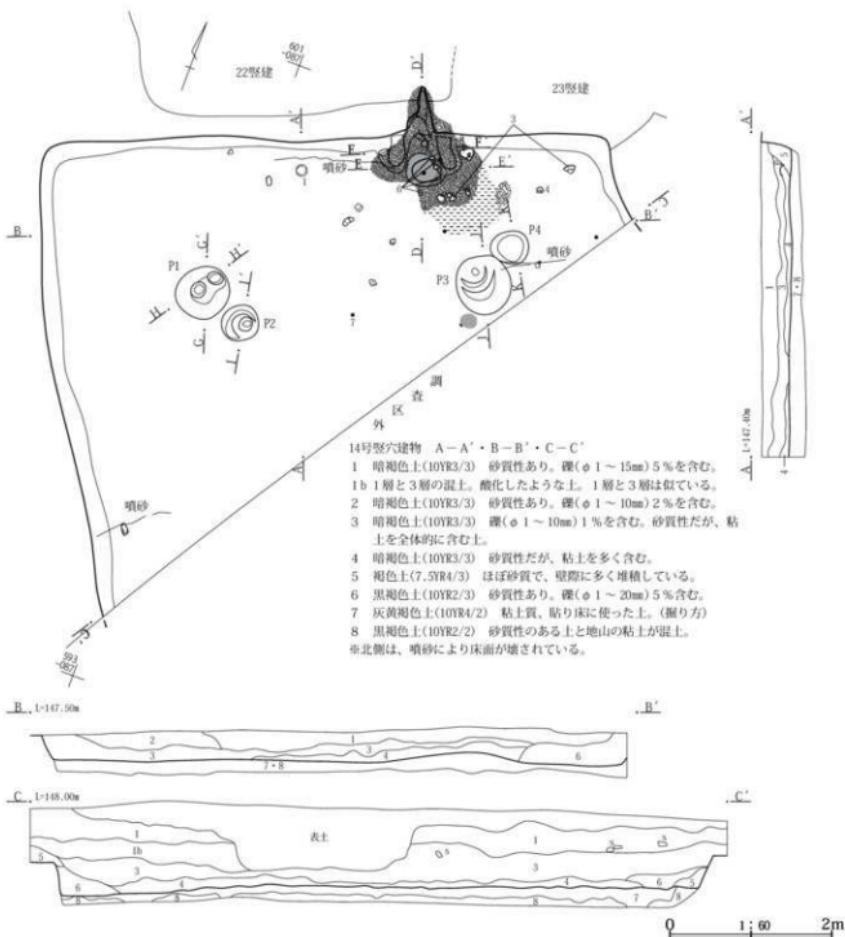
規模 長軸7.25m 短軸(5.78)m

深さ(0.35～0.42)m

方位 N-22°-W 面積 (22.83) m²

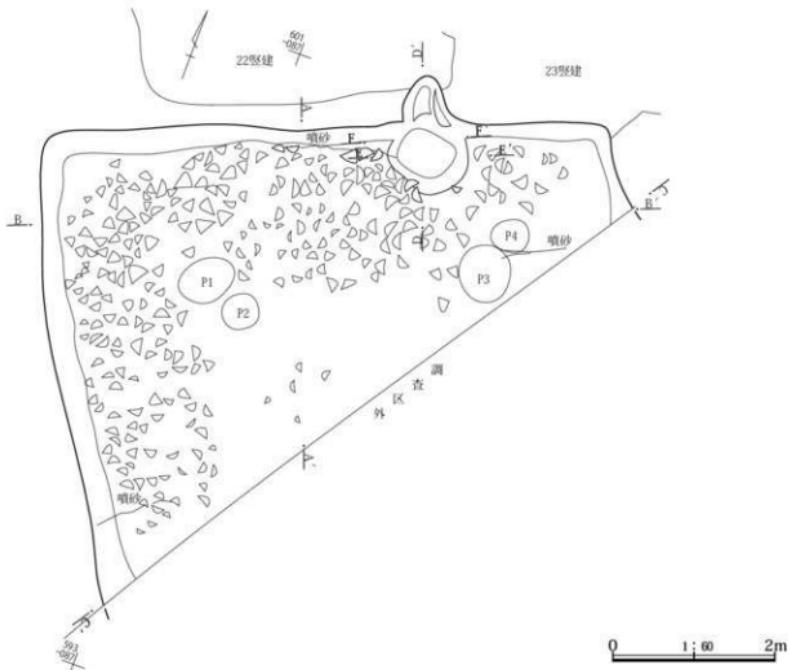
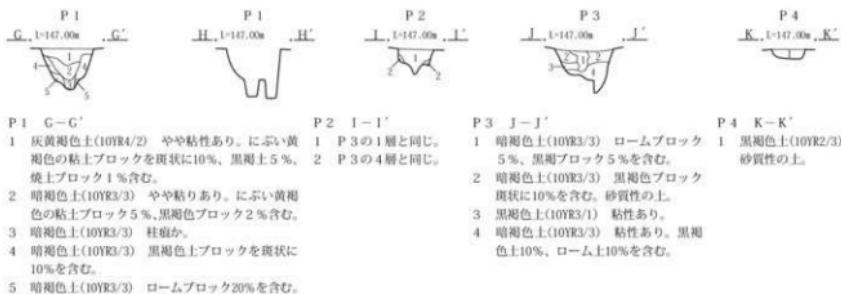
カマド 北壁の東寄りに構築されていた。粘土質の灰白色土が、壁面から床面に流れ込むような状態で厚く堆積しており、粘土質の灰白色土でカマドが作られていたことが明瞭である。カマド内に多くの焼土粒が残っていた。

柱穴 P1～P4の4基を検出した。深さの平均は約35cmである。4基の柱穴が確認されたのは、この壁穴建物と、4区30号壁穴建物だけである。



第33図 14号壁穴建物

第3章 検出された遺構と遺物



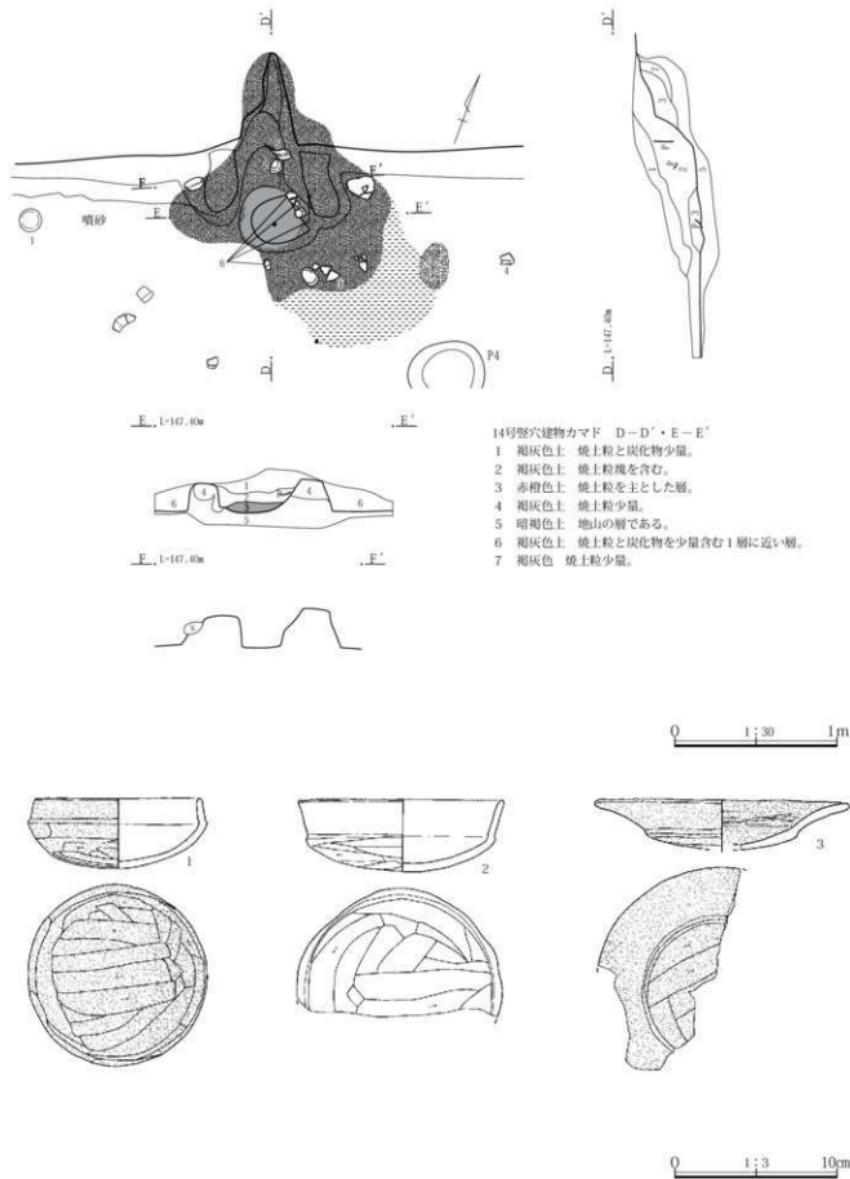
第34図 14号竪穴建物掘り方・土断面

床面 灰褐色土と黒褐色土の混土で作られていた。

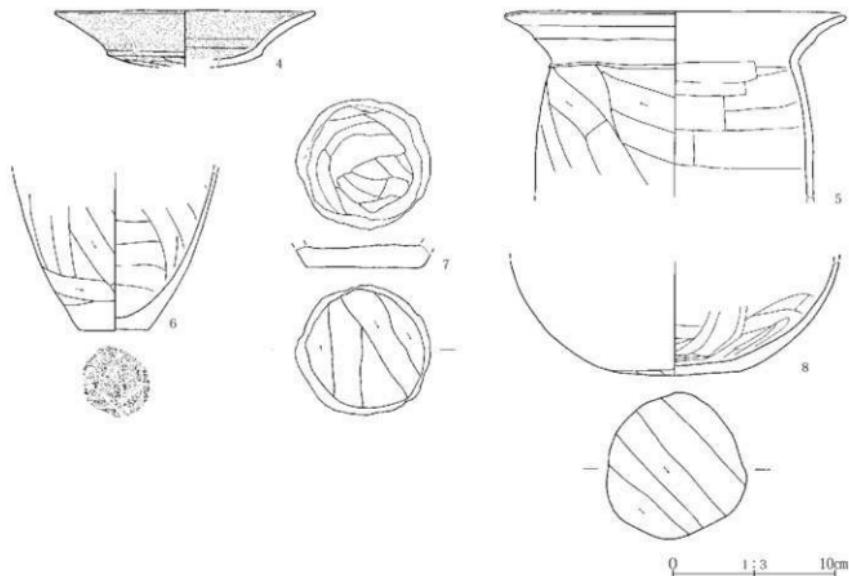
出土遺物 土師器杯と高杯の杯部と思われる破片・胴部器肉の薄い土師器甕・底部回転ヘラ削り後、底部周辺回転ヘラ調整の杯等出土している。

所見 踏み含む黒褐色土～褐色土で埋没していた。基本は砂質性の土であるが、床面直上では粘土を含む土が堆

積していた。竪穴建物の北半には12号竪穴建物と同様に北東から南西方向に走る噴砂を床面で確認した。また、掘り方で工具痕を確認した。長軸の長さは7mを越えており、本遺跡の中では大型の竪穴建物である。出土遺物から7世紀中頃と考えられる。



第35図 14号壁穴建物カマドと出土遺物(1)



第36図 14号堅穴建物出土遺物(2)

15号堅穴建物(第37図、PL. 12・13・56)

位置 1区-A

X=44,659 ~ 44,661 Y=-56,043 ~ 56,045

重複 16号堅穴建物(6世紀後半)→15号堅穴建物(7世紀前半)

形状 不明

規模 長軸(2.50m) 短軸(1.65)m

深さ(0.27 ~ 0.33)m

方位 N-72°-E

面積 (2.20) m²

カマド 未確認

柱穴 未確認

床面 黄褐色土を含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物 北壁面近くにまとまって出土している。長胴の土師器壺・丸底の土師器小甌がある。

所見 堅穴建物の大半が調査区外になる。出土遺物から7世紀前半と考えられる。

16号堅穴建物(第37・38図、PL. 12・13・57)

位置 1区-A

X=44,660 ~ 44,663 Y=-56,042 ~ 56,044

重複 16号堅穴建物(6世紀後半)→15号堅穴建物(7世紀前半)

形状 不明

規模 長軸(2.25m) 短軸(1.75)m

深さ(0.27 ~ 0.33)m

方位 N-0°-E W

面積 (3.01) m²

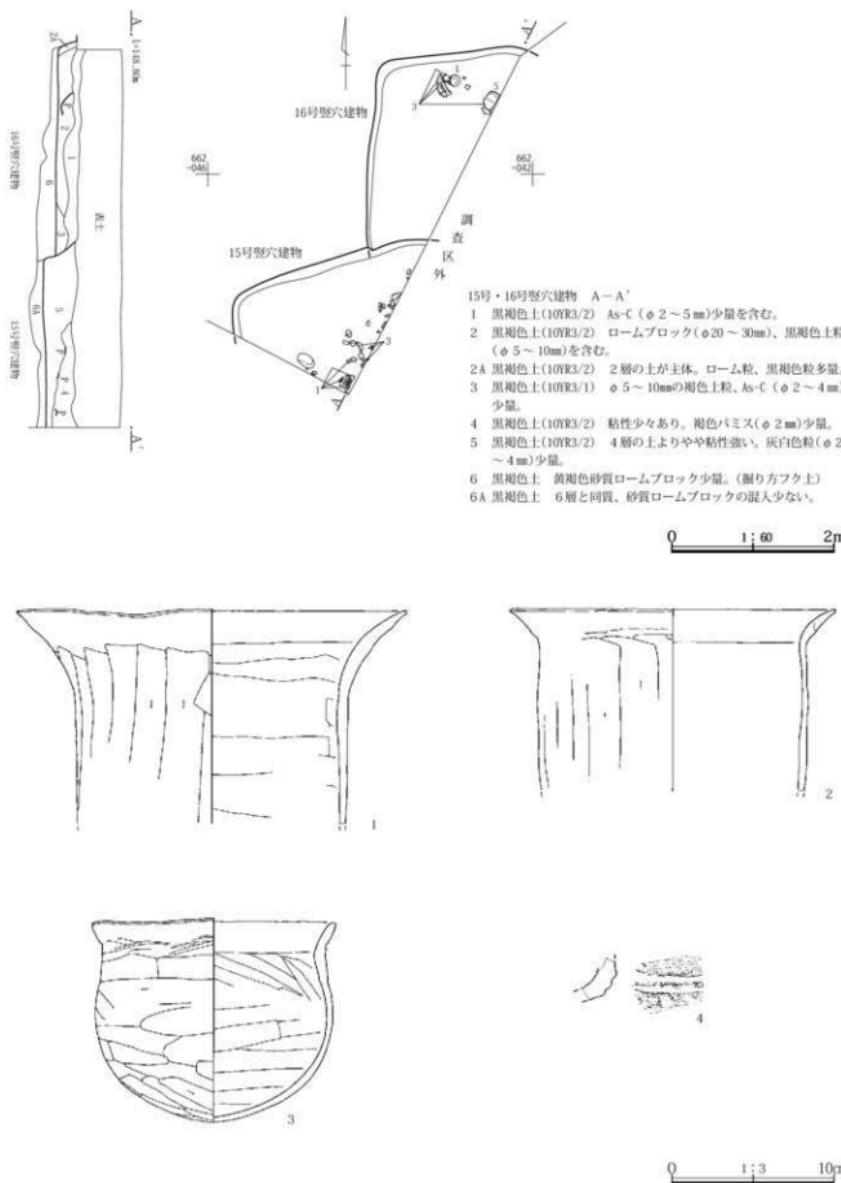
カマド 未確認

柱穴 未確認

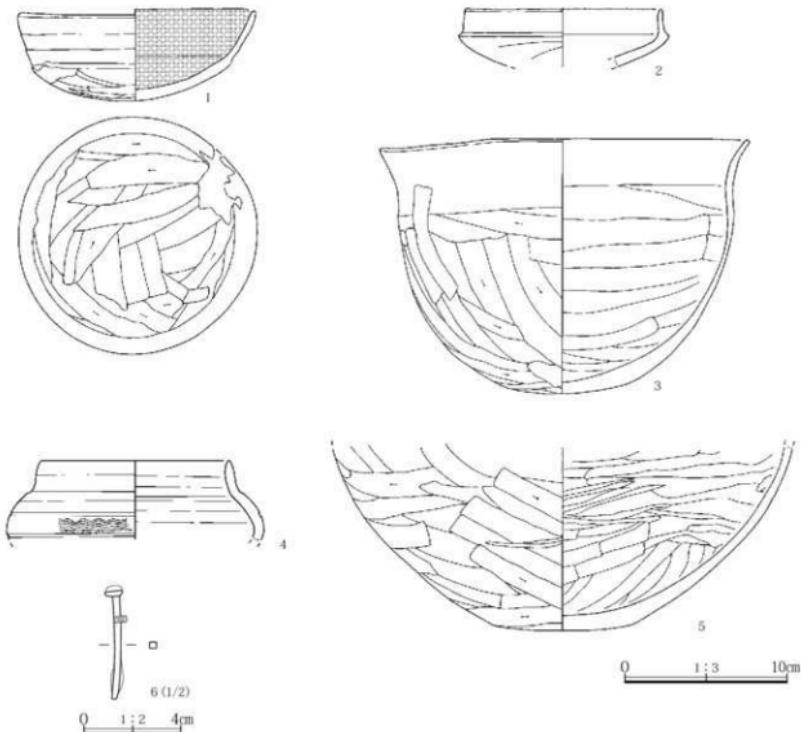
床面 黄褐色土を含む暗褐色土で作られていた。

出土遺物 土師器杯と鉢が近接してまとまって出土している。

所見 出土遺物から6世紀後半と考えられる。



第37図 15号・16号壁穴建物と15号壁穴建物出土遺物



第38図 16号竪穴建物出土遺物

17号竪穴建物(第39図、PL. 12・14・57)

位置 I区-A

X=44,663 ~ 44,665 Y=-56,041 ~ 56,044

重複 なし

形状 不明

規模 長軸(2.00)m 短軸(1.80)m

深さ(0.10 ~ 0.12)m

方位 N-20°-W

面積 (2.47) m²

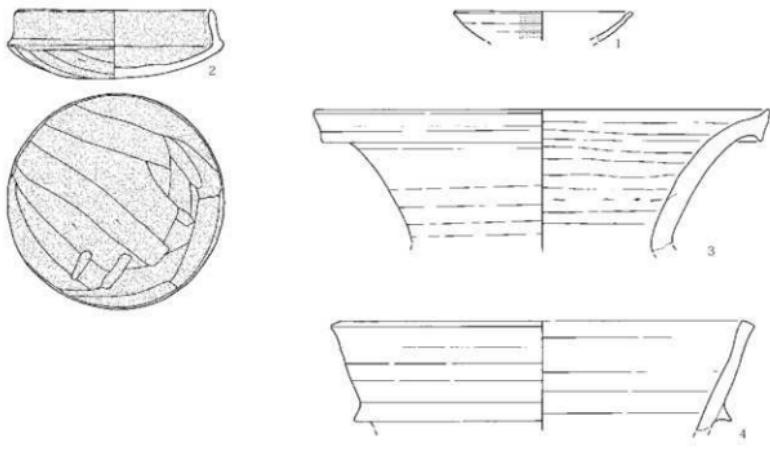
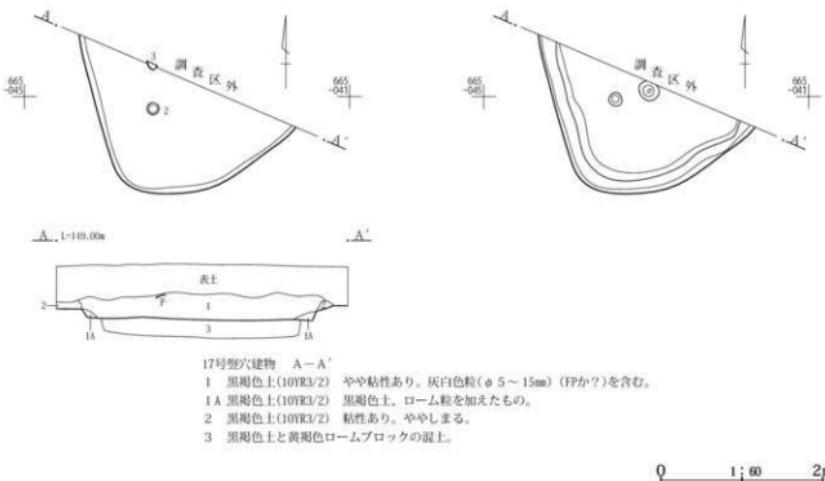
カマド 未確認

柱穴 未確認

床面 黒褐色土と黄褐色ローム塊の混土で作られていた。

出土遺物 古墳時代の土師器杯と平安時代の灰釉陶器碗と須恵器瓶が出土している。須恵器瓶は同時代の羽釜と比較すると倍近くの容量を持つ大きな煮沸器である。出土例は多くない。古墳時代の土師器杯は、南に接する16号竪穴建物を含め、多くの古墳時代の竪穴建物があるので混入したものと考えたい。

所見 I区Aの北端に位置する。同じ狭い調査区南側に15号竪穴建物・16号竪穴建物が調査されている。いずれの建物も大半が調査区外になる。幅20cm程の周溝が巡る。調査範囲は狭いが小さな建物であり、東西2m以下の小さな建物であったものと思われる。出土遺物から10世紀前半と考えられる。



第39図 17号壁穴建物と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

18号竪穴建物(第40・42図、PL. 15 ~ 17・57・58)

位置 9区

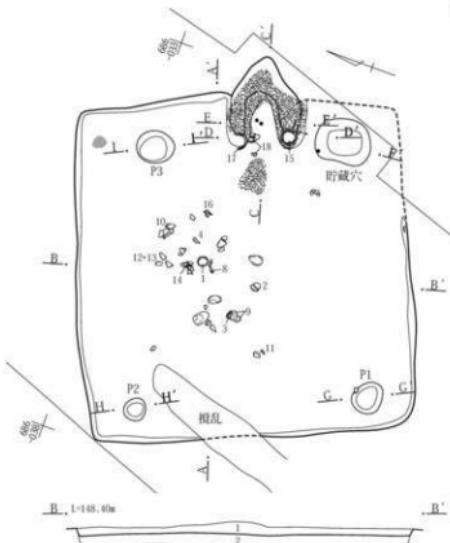
X=44,681 ~ 44,686 Y=-56,033 ~ 56,037

重複なし 形状 正方形

規模 長軸4.18m 短軸4.08m 深さ0.04 ~ 0.10m

方位 N-80° ~ E 面積 15.78m²

カマド 東壁中央に黄褐色土を持ち込んで構築していた。カマドの下部は残っていたが、そこから上の大部分は残っていなかった。土師器の長胴甕(15・17)が、炊口左右の袖部分に、口縁部を下に伏せた状態で出土している。



貯蔵穴 F-F'

- 1 黄褐色土(10YR3/3) 部分的に焼土が混じる。
- 2 黄褐色土(10YR3/3) ローム土を斑状に5%、焼土1%含む。
- 3 黄褐色土(10YR3/3) ローム土10%含む。
- 4 黄褐色土(10YR3/3) 黏性あり。ローム土5%含む。

P 1 G-G'

- 1 黄褐色土(10YR3/3) ロームブロック5%、白色粘土(1mm)1%含む。
- 2 黄褐色土(10YR3/3) しまりあり。焼土ブロック(Φ1mm)1%含む。
- 3 黄褐色土(10YR3/3) 烧土ブロック(Φ1mm)1%含む。
- 3b 黄褐色土(10YR3/3) ロームブロック20%含む。

る。両袖の芯材として、甕のまわりは、黄褐色土でおおわれており、焚口天井部や煙道部も黄褐色土を用いて作られていたものと思われる。

柱穴 P 1 ~ P 3 の3基。深さは10 ~ 20cmである。

床面 ローム塊が多量に含む黄褐色土で作られていた。

出土遺物 土師器杯・土師器鉢・土師器甕・須恵器高杯・須恵器短頸甕・須恵器脚付甕・須恵器甕が出土している。

所見 カマド右袖脇に長さ70cm、深さ30cmの楕円形をした貯蔵穴を検出した。遺物は建物の中央付近でまとまった状態で出土した。出土遺物から6世紀後半から7世紀初頭と考えられる。



A-A'

B-B'

C-C'

D-D'

E-E'

F-F'

G-G'

H-H'

I-I'

J-J'

K-K'

L-L'

M-M'

N-N'

O-O'

P-P'

Q-Q'

R-R'

S-S'

T-T'

U-U'

V-V'

W-W'

X-X'

Y-Y'

Z-Z'

AA'-AA'

BB'-BB'

CC'-CC'

DD'-DD'

EE'-EE'

FF'-FF'

GG'-GG'

HH'-HH'

II'-II'

JJ'-JJ'

KK'-KK'

LL'-LL'

MM'-MM'

NN'-NN'

OO'-OO'

PP'-PP'

QQ'-QQ'

RR'-RR'

SS'-SS'

TT'-TT'

UU'-UU'

VV'-VV'

WW'-WW'

XX'-XX'

YY'-YY'

ZZ'-ZZ'

AA'-AA'

BB'-BB'

CC'-CC'

DD'-DD'

EE'-EE'

FF'-FF'

GG'-GG'

HH'-HH'

II'-II'

JJ'-JJ'

KK'-KK'

LL'-LL'

MM'-MM'

NN'-NN'

OO'-OO'

PP'-PP'

QQ'-QQ'

RR'-RR'

SS'-SS'

TT'-TT'

UU'-UU'

VV'-VV'

WW'-WW'

XX'-XX'

YY'-YY'

ZZ'-ZZ'

AA'-AA'

BB'-BB'

CC'-CC'

DD'-DD'

EE'-EE'

FF'-FF'

GG'-GG'

HH'-HH'

II'-II'

JJ'-JJ'

KK'-KK'

LL'-LL'

MM'-MM'

NN'-NN'

OO'-OO'

PP'-PP'

QQ'-QQ'

RR'-RR'

SS'-SS'

TT'-TT'

UU'-UU'

VV'-VV'

WW'-WW'

XX'-XX'

YY'-YY'

ZZ'-ZZ'

AA'-AA'

BB'-BB'

CC'-CC'

DD'-DD'

EE'-EE'

FF'-FF'

GG'-GG'

HH'-HH'

II'-II'

JJ'-JJ'

KK'-KK'

LL'-LL'

MM'-MM'

NN'-NN'

OO'-OO'

PP'-PP'

QQ'-QQ'

RR'-RR'

SS'-SS'

TT'-TT'

UU'-UU'

VV'-VV'

WW'-WW'

XX'-XX'

YY'-YY'

ZZ'-ZZ'

AA'-AA'

BB'-BB'

CC'-CC'

DD'-DD'

EE'-EE'

FF'-FF'

GG'-GG'

HH'-HH'

II'-II'

JJ'-JJ'

KK'-KK'

LL'-LL'

MM'-MM'

NN'-NN'

OO'-OO'

PP'-PP'

QQ'-QQ'

RR'-RR'

SS'-SS'

TT'-TT'

UU'-UU'

VV'-VV'

WW'-WW'

XX'-XX'

YY'-YY'

ZZ'-ZZ'

AA'-AA'

BB'-BB'

CC'-CC'

DD'-DD'

EE'-EE'

FF'-FF'

GG'-GG'

HH'-HH'

II'-II'

JJ'-JJ'

KK'-KK'

LL'-LL'

MM'-MM'

NN'-NN'

OO'-OO'

PP'-PP'

QQ'-QQ'

RR'-RR'

SS'-SS'

TT'-TT'

UU'-UU'

VV'-VV'

WW'-WW'

XX'-XX'

YY'-YY'

ZZ'-ZZ'

AA'-AA'

BB'-BB'

CC'-CC'

DD'-DD'

EE'-EE'

FF'-FF'

GG'-GG'

HH'-HH'

II'-II'

JJ'-JJ'

KK'-KK'

LL'-LL'

MM'-MM'

NN'-NN'

OO'-OO'

PP'-PP'

QQ'-QQ'

RR'-RR'

SS'-SS'

TT'-TT'

UU'-UU'

VV'-VV'

WW'-WW'

XX'-XX'

YY'-YY'

ZZ'-ZZ'

AA'-AA'

BB'-BB'

CC'-CC'

DD'-DD'

EE'-EE'

FF'-FF'

GG'-GG'

HH'-HH'

II'-II'

JJ'-JJ'

KK'-KK'

LL'-LL'

MM'-MM'

NN'-NN'

OO'-OO'

PP'-PP'

QQ'-QQ'

RR'-RR'

SS'-SS'

TT'-TT'

UU'-UU'

VV'-VV'

WW'-WW'

XX'-XX'

YY'-YY'

ZZ'-ZZ'

AA'-AA'

BB'-BB'

CC'-CC'

DD'-DD'

EE'-EE'

FF'-FF'

GG'-GG'

HH'-HH'

II'-II'

JJ'-JJ'

KK'-KK'

LL'-LL'

MM'-MM'

NN'-NN'

OO'-OO'

PP'-PP'

QQ'-QQ'

RR'-RR'

SS'-SS'

TT'-TT'

UU'-UU'

VV'-VV'

WW'-WW'

XX'-XX'

YY'-YY'

ZZ'-ZZ'

AA'-AA'

BB'-BB'

CC'-CC'

DD'-DD'

EE'-EE'

FF'-FF'

GG'-GG'

HH'-HH'

II'-II'

JJ'-JJ'

KK'-KK'

LL'-LL'

MM'-MM'

NN'-NN'

OO'-OO'

PP'-PP'

QQ'-QQ'

RR'-RR'

SS'-SS'

TT'-TT'

UU'-UU'

VV'-VV'

WW'-WW'

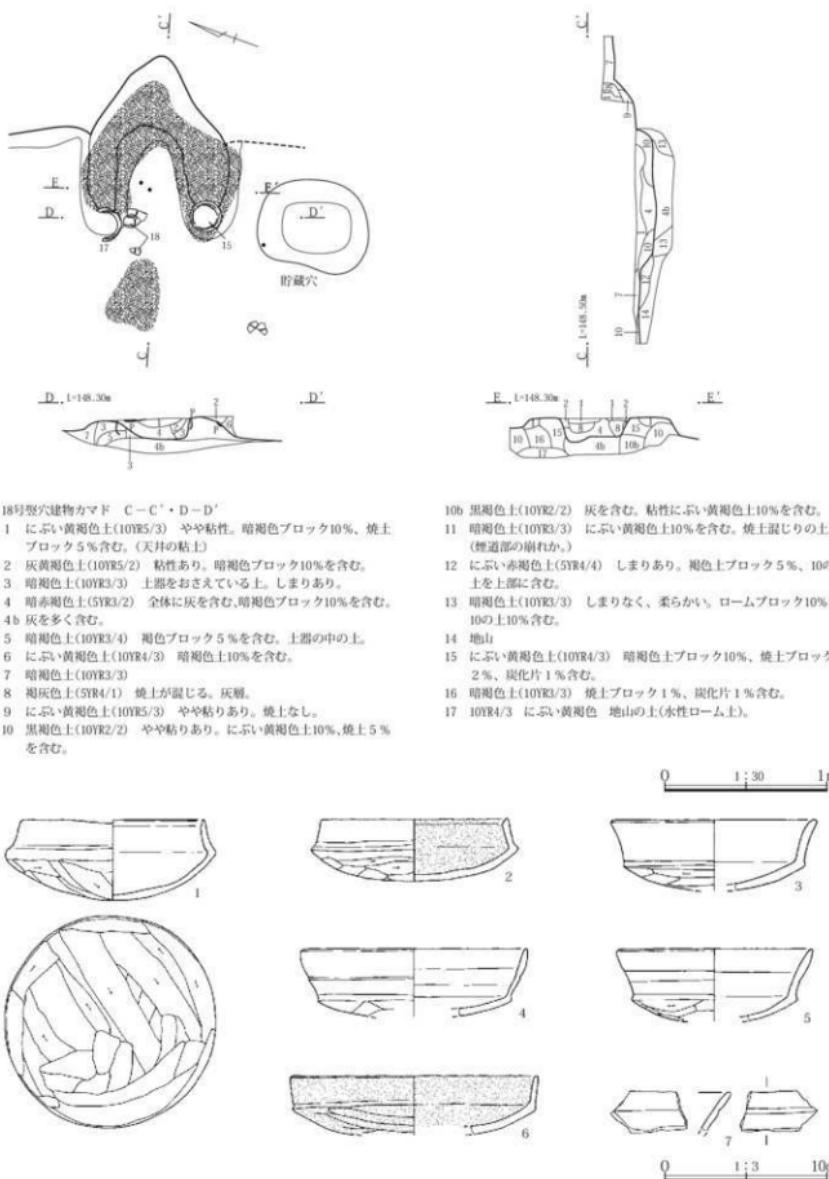
XX'-XX'

YY'-YY'

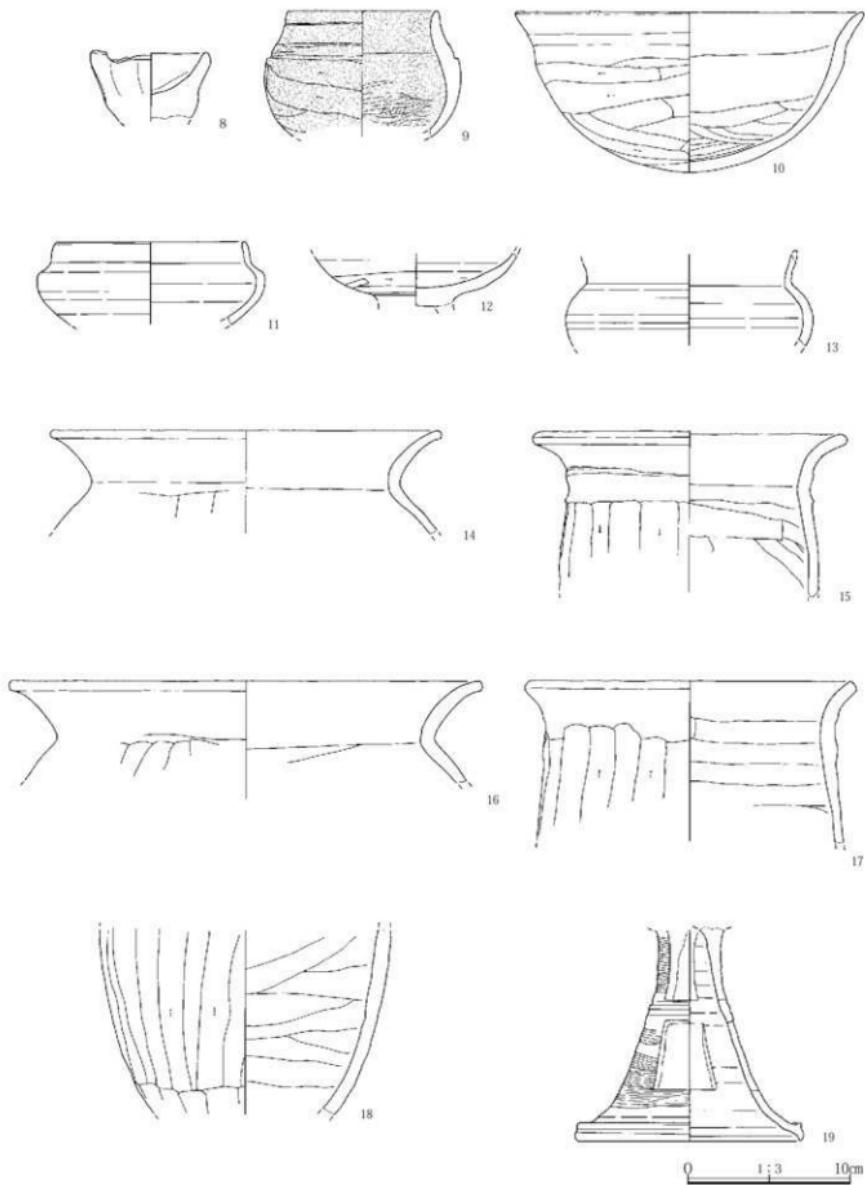
ZZ'-ZZ'

AA'-AA'

BB'-BB'



第41図 18号竪穴建物カマドと出土遺物(1)



第42図 18号竪穴建物出土遺物(2)

19号壁穴建物(第43図、PL. 15・18・19)

位置 9区

X=44,672 ~ 44,675 Y=-56,038 ~ 56,041

形状 圓丸正方形

規模 長軸3.00m 短軸2.80m 深さ0.09 ~ 0.16m

方位 N-83° - E

面積 (7.15) m²

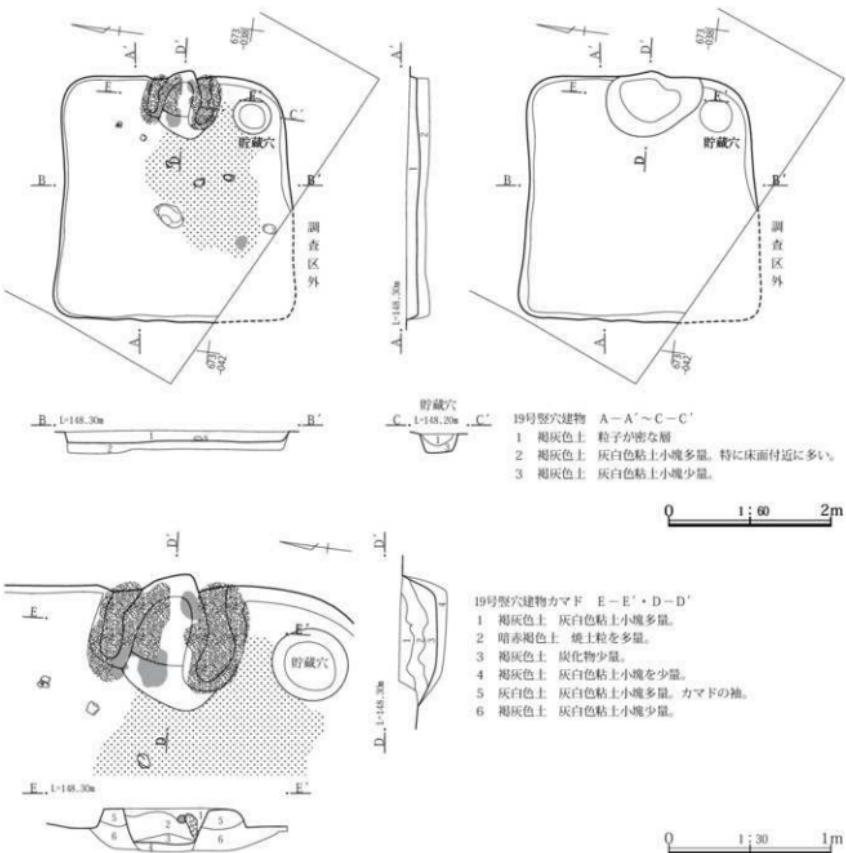
カマド 東壁中央に灰白色土を持ち込んで構築していた。燃焼部を含めた大部分は建物内に位置し、煙道は壁面外側に作られていたものと思われる。燃焼部に面した

袖部分は、焼けて焼化していた。

床面 灰白色粘土塊を含む褐灰色土で、南東部に貼り床を確認した。

出土遺物 なし

所見 規模が3m以下の小さな建物であり、東壁面にカマド、カマドの右側に貯藏穴が掘られていた。柱穴はなし。残りのよい建物であるが、土器等の出土遺物は全くなかった。カマド右側手前床面上にカマドと同じような灰白色土が多く出土した。



第43図 19号壁穴建物・カマド

第3章 検出された遺構と遺物

21号竪穴建物(第44～47図、PL. 19～21・58)

位置 I 区-E

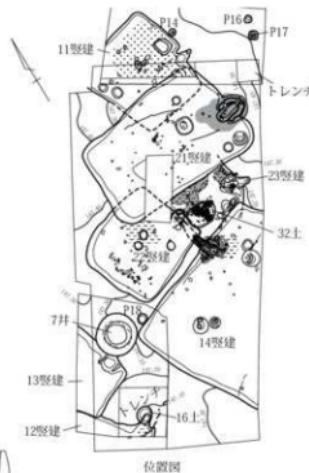
X=44,602～44,607 Y=-56,080～56,087

重複 4棟重複で、最も新しい時期の建物である。北側で11号竪穴建物、南東コーナー部分で22号竪穴建物、南側で23号竪穴建物と重複している。重複関係は23号竪穴建物(5世紀後半)→11号竪穴建物(6世紀後半)→22号竪穴建物(7世紀前半)→21号竪穴建物(8世紀後半)である。

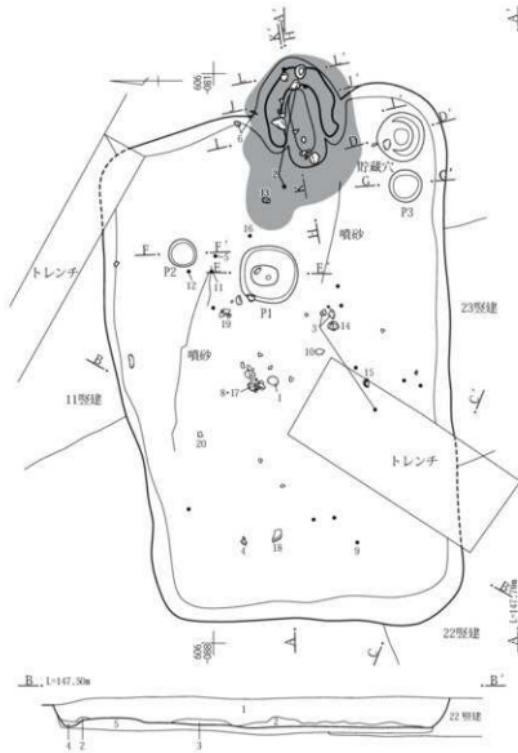
形状 東西方向に長い長方形

規模 長軸6.67m 短軸4.23m 深さ0.17～0.47m

方位 N-77°-E 面積 21.94m²



位置図



21号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 4に焼土粒(Φ 2～50mm)、炭化物粒(Φ 5mm)多量。灰黄褐色粘土ブロック(Φ 10mm)混入。
- 2 黒褐色土(IWYR3/2) 黄褐色ローム(シルト質)が混入。
- 3 黄褐色シルト質ロームと黒色灰の互層。
- 4 砂粒の混入多い。(壁下周溝フク土か。)
- 5 噴砂色質と灰黄褐色シルト質上の混土。

第44図 21号竪穴建物

カマド 東壁やや南寄りに構築していた。カマドの残りは良好である。カマドは地山の掘り抜きでなく、灰黄褐色粘土を持ち込んで作られている。カマド内から焼土粒の出土は多くない。

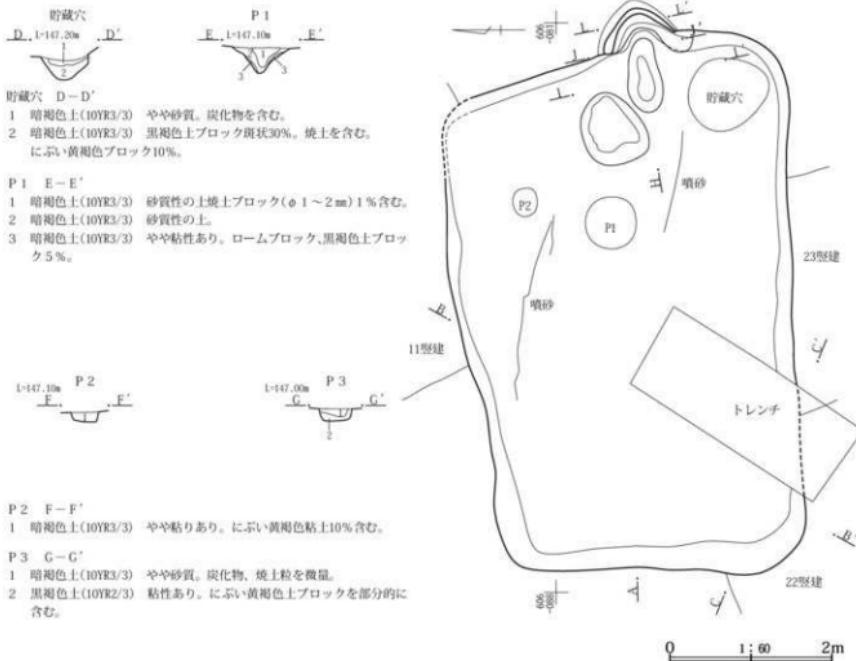
柱穴 明瞭な柱穴はない。カマド手前付近に小穴P1・P2・P3が掘られていた。P1は深さ約30cmである。

貯蔵穴 カマド右側に直径60cm深さ25cmの貯蔵穴が掘られていた。

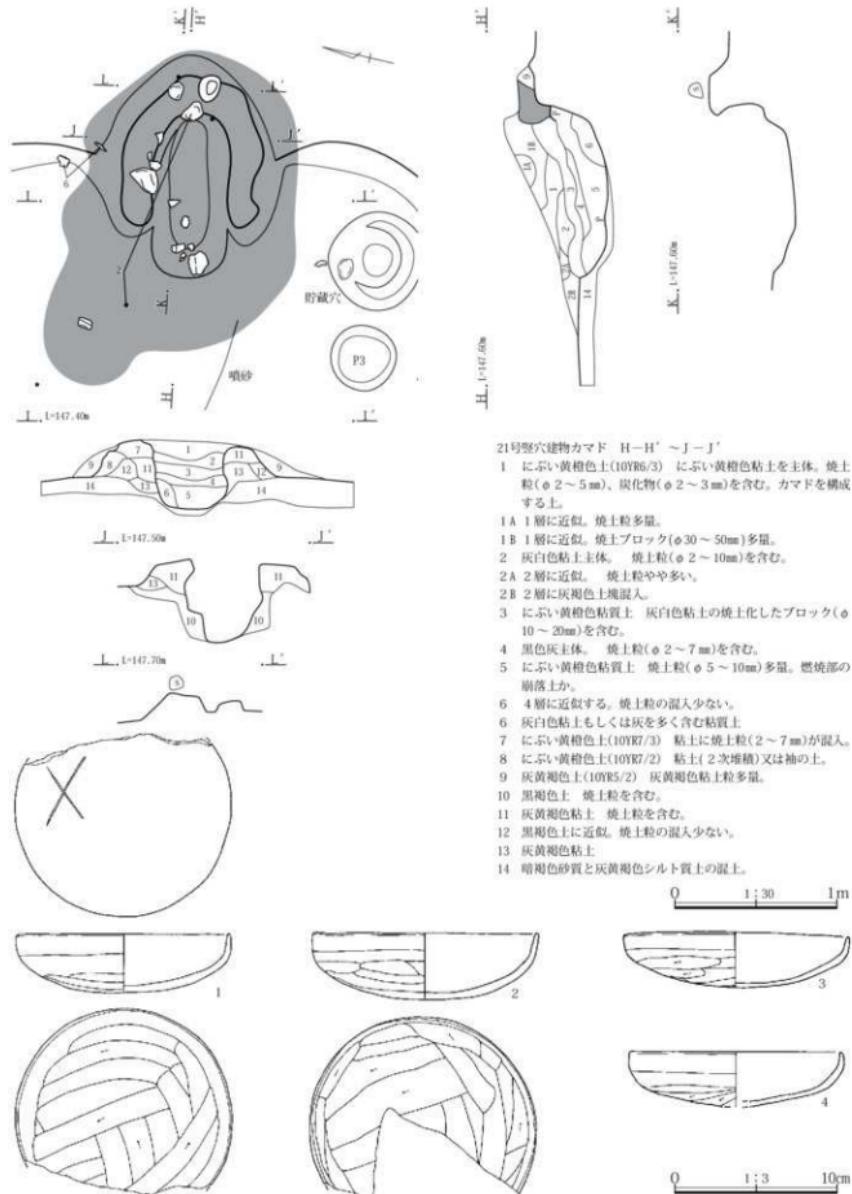
床面 暗褐色土と灰黄褐色土の混土で、東西方向に走る噴砂により床面が一部壊される。

出土遺物 床面中央部付近から多くの遺物がまとまって出土している。出土遺物は丸底の土師器杯10個と甕3個、糸切後周辺回転ヘラ調整須恵器杯3個、敲石が出土している。

所見 出土遺物から8世紀第3四半期から第4四半期と考えられる。

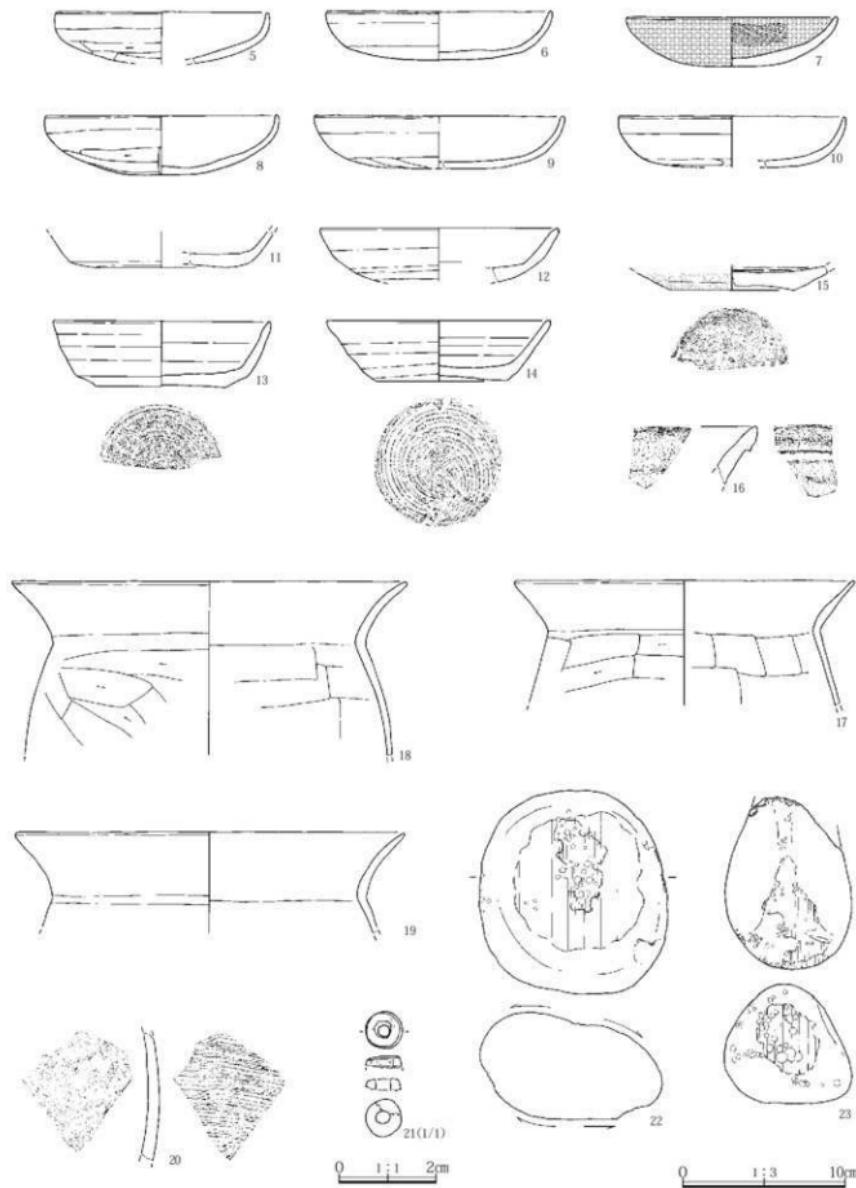


第45図 21号壁穴建物掘り方・土層断面



第46図 21号竪穴建物カマドと出土遺物(1)

第1節 壁穴建物



第47図 21号壁穴建物出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

22号竪穴建物(第48・49図、PL. 21・22・58)

位置 I区-E

X=44,599 ~ 44,603 Y=-56,085 ~ 56,089

重複 23号竪穴建物(5世紀後半)→22号竪穴建物(7世紀前半)→14号竪穴建物(7世紀後半)・21号竪穴建物(8世紀前半)→32号土坑(江戸時代)

形状 ほぼ正方形

規模 長軸3.95m 短軸3.65m 深さ0.29 ~ 0.46m

方位 N-66°-E 面積 (11.55) m²

カマド 東壁面やや南寄りに構築していた。右袖に倒置

した土師器壺を使用している。カマド内の焼土は、覆土上面に大量に残っている。燃焼部床面付近に焼土粒・炭・灰はほとんど残っていなかった。

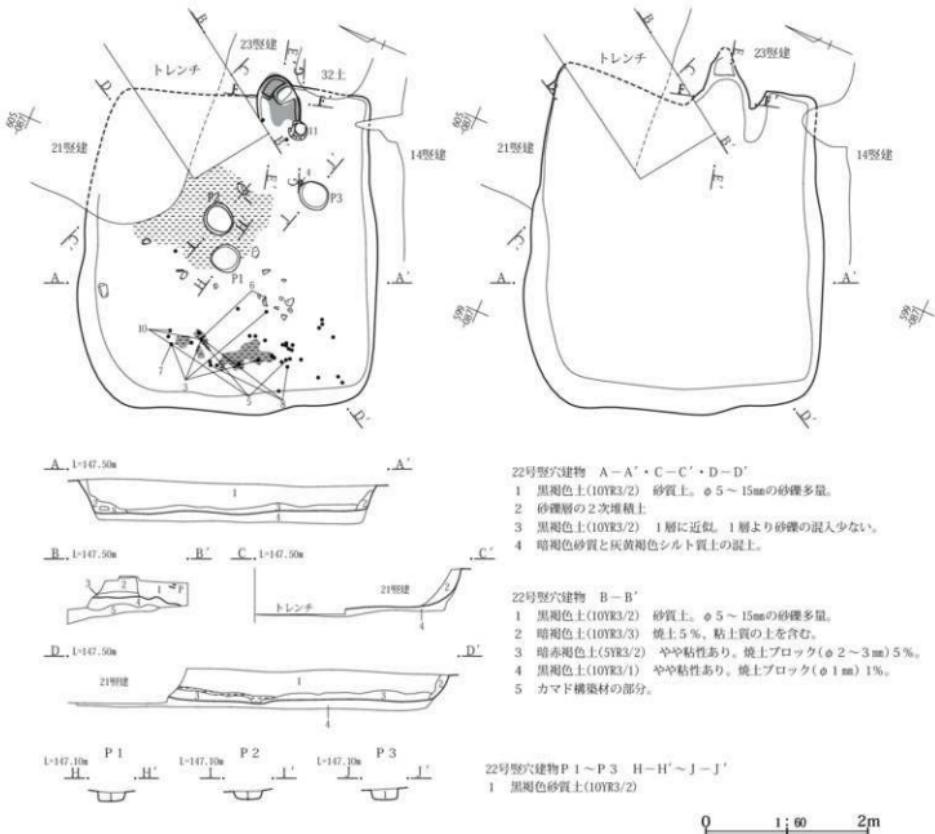
柱穴 柱穴はない。P 1 ~ P 3 の3基を検出した。

貯蔵穴 なし

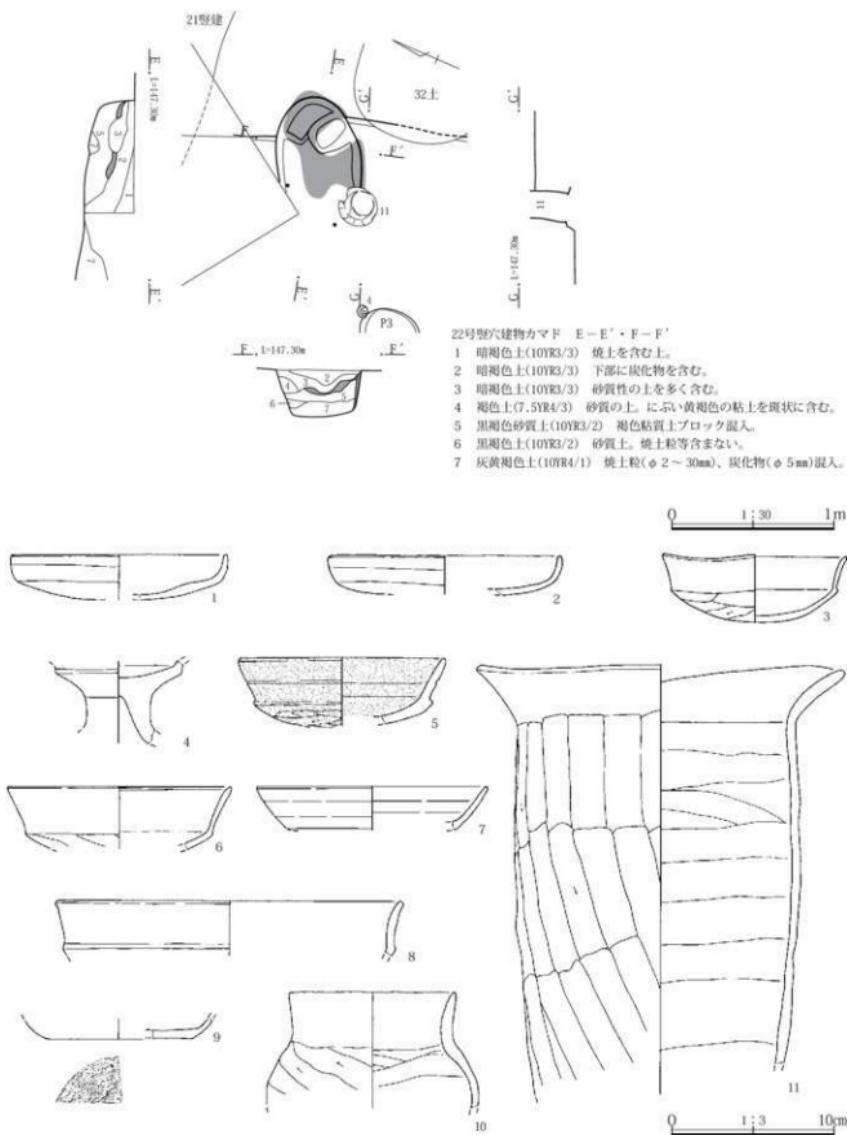
床面 ほぼ平である。

出土遺物 古墳時代と奈良時代の土師器杯が混在。

所見 カマドと反対側の西床面付近から多くの遺物が出土している。袖に使われている壺の年代から古墳時代7世紀前半の建物と思われる。



第48図 22号竪穴建物



第49図 22号壁穴建物カマドと出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

23号竪穴建物(第50～54図、PL. 23～25・59～62)

位置 I 区-E

X=44,601～44,603 Y=-56,082～56,085

概要 23号竪穴建物(5世紀後半)は北側に21号竪穴建物(8世紀前半)、西側に22号竪穴建物(7世紀前半)、南側に14号竪穴建物(7世紀後半)と4棟重複しており、その中で最も古い竪穴建物である。深さは4棟とも標高147m前後であり、床面の深さはほぼ同じである。23号竪穴建物覆土は、時代の新しい北・西・南の3方向から床面の一部まで掘り込まれていた。23号竪穴建物として残っていたのは、カマドから西側床面の一部であり、東西方向2.8、南北1.98mの範囲である。カマドの残りが良好であり、燃焼部には甕が据えられた状態で残っていた。土面には、ほぼ完形の瓶や杯等が残っており、遺跡内では、最も多くの遺物を出土した建物である。

重複 4棟の竪穴建物と土坑1基の重複であり新旧関係は、23号竪穴建物(5世紀後半)→22号竪穴建物(7世紀前半)→14号竪穴建物(7世紀後半)→21号竪穴建物(8世紀前半)→32号土坑(江戸時代)である。

形状 方形と思われるが不明。

規模 長軸(2.80)m 短軸(1.98)m

深さ(0.25～0.29)m

方位 N-83°-E

面積 (5.11) m²

カマド 東壁南寄りに構築していた。遺跡内で最も残りの良好なカマドである。カマドの右袖には高さ27.6cmの甕(22)、左袖には長さ26.4cmの長さの甕(24)が、口縁部を下にした状態で袖の芯材として伏せられていた。両袖内側の炊口床面付近に、大きな土器片の出土はないので、天井部は粘土等で作られていたものと思われる。カマド内中央燃焼部に2個の甕が、口縁部を上にした状態で出土した。25の長甕は32.7cmでカマド中央に据えられた状態で直立している。27の長甕は長さ23cmで焚口付近に倒れこむような状態で出土した。焚口天井部の崩壊に伴い、斜めに倒れたものと思われる。

カマドは灰黄褐色シルト粘土を大量に持ち込み、カマド燃焼部や煙道部を作る。22と24の甕を左右袖の芯材として、甕の外側を灰黄褐色シルト粘土で巻いて、焚口部分を作っているようである。

カマド内部から焼土粒ブロックや炭化物が出土してい

るが、量は多くない。

平安時代のカマドの場合、建物が廃棄される段階で、カマド天井や袖部分を壊して、天井石や焼土粒を焚口付近に散乱させることが多く認められる。23号竪穴建物のカマド焚口部分には、焼土粒の散乱はないので、人為的にカマドを壊すことではなく、27の甕の倒れ方から自然に焚口方向に壊れたのではないだろうか。カマド内から、支脚石は、出土していない。カマドは壊されていないと思われるが、支脚石が、持ち去れてたとは考えにくいので、最初から使用されていなかったものと思われる。

柱穴 調査範囲からは確認できなかった。

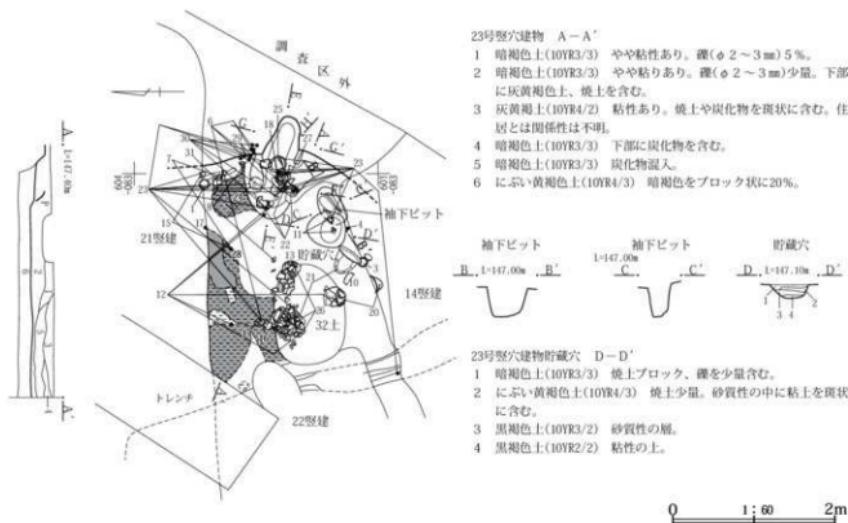
床面 全体に良好な状態で残っていた。カマド北側および床面中央部から北側に、焼土粒が残っていた。

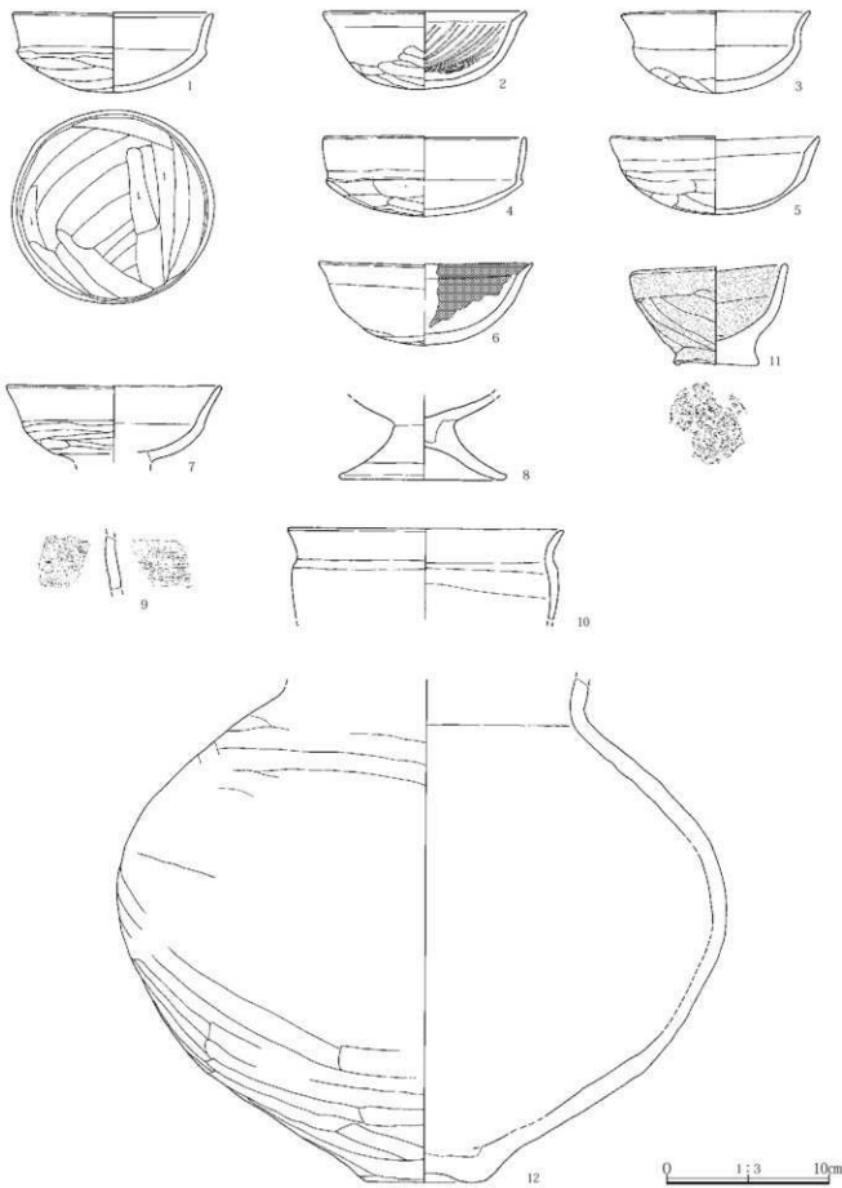
出土遺物 建物一部の発掘調査であったが、カマド周辺とカマド手前部分を発掘調査することができ、良好な状態で多くの遺物を確認することができた。他の多くの建物と異なり、土器類の多くが残された状態で住居が廃棄されていたものと思われる。出土した土器を分類すると、当時の土器の種類を知る貴重な資料となりそうである。

カマド内から出土した25・27の甕は大小2個のセットである。カマドの袖に使われている土器は、甕(22・24)である。カマド右側の床面に、大小2個のほぼ完形の甕が置かれたような状態で出土している。これまでの調査で、大小の甕がそろって出土する例は西側に接する内堀IV遺跡H21で確認されているが、調査例は多くない。甕も大小が出土しており、大小の甕・壺・瓶等が使い分けられていたようである。

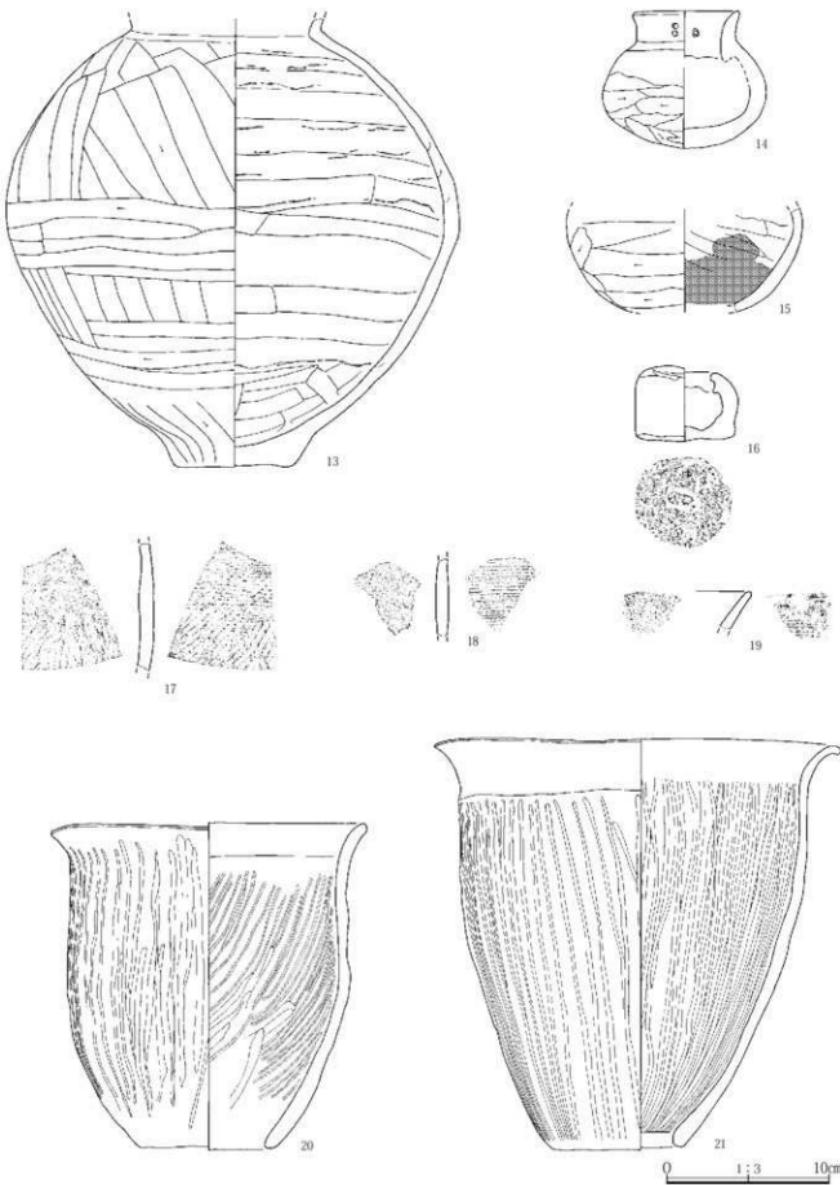
杯類に関しては出土数が少なく、21号竪穴建物のようにまとまった出土はない。

所見 3棟の竪穴建物により多くの部分を削られて調査出来た範囲は、カマドを中心として比較的狭い範囲であったが、多くの遺物を良好な状態で出土しており、多くの情報を得ることができた建物であった。出土遺物から5世紀第3四半期から第4四半期と考えられる。

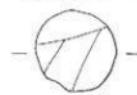
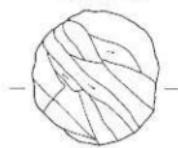
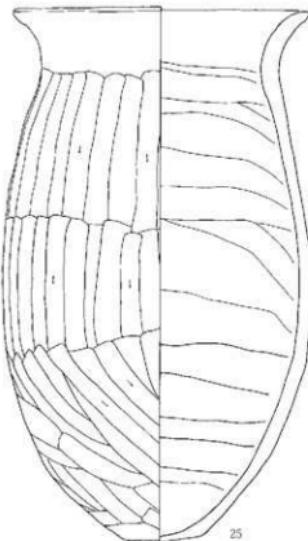
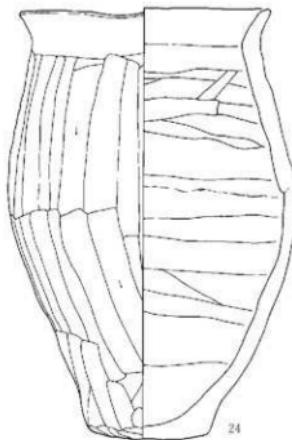
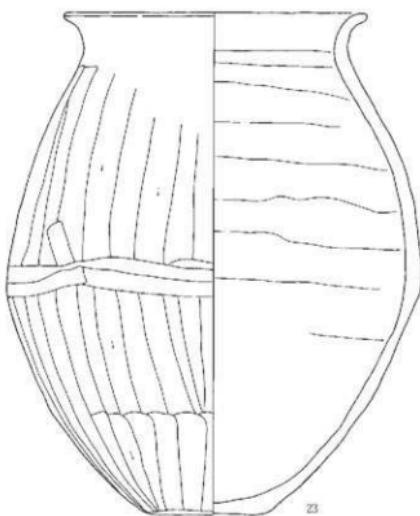
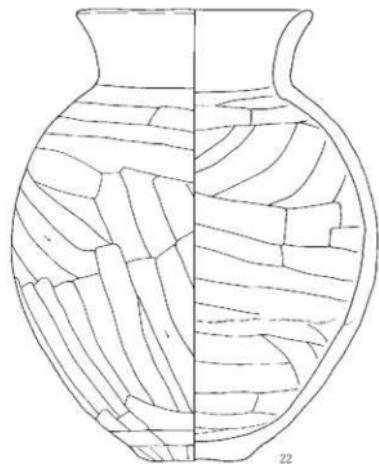




第51図 23号竪穴建物出土遺物(1)

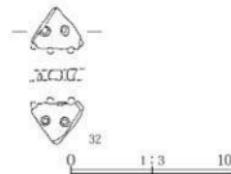
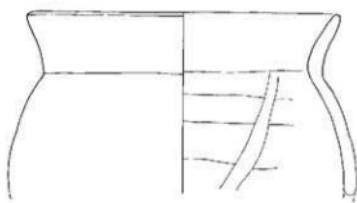
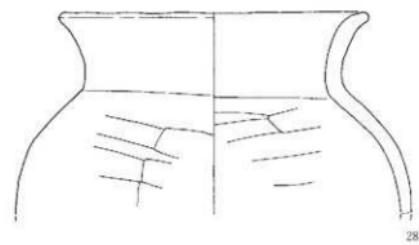
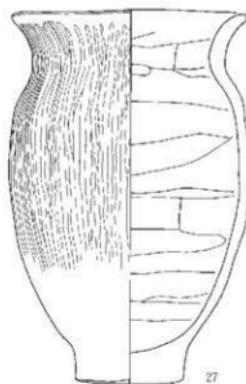
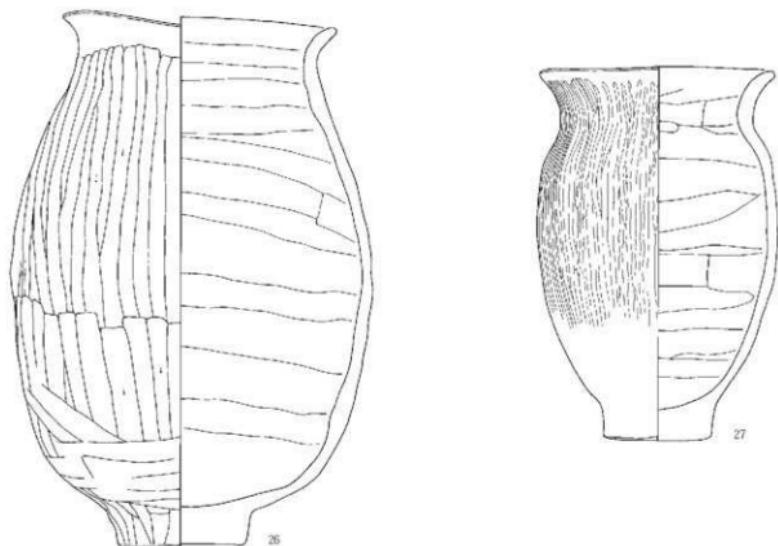


第52圖 23号壁穴建物出土遺物(2)



0 1:3 10cm

第53図 23号竪穴建物出土遺物(3)



第54図 23号壁穴建物出土遺物(4)

第3章 検出された竪穴建物

24号竪穴建物(第55図、PL. 26)

位置 I 区-D

X=44,630 ~ 44,632 Y=-56,081 ~ 56,063

重複 なし

規模 長軸(2.45)m 短軸(2.00)m

深さ(0.21 ~ 0.29)m

方位 N-20°-W

面積 (2.56) m²

カマド 未確認 柱穴 未確認

床面 良好でない。 出土遺物 なし

所見 調査範囲の狭い竪穴建物である。出土遺物もなく、詳しい内容は不明である。

25号竪穴建物(第56図、PL. 26)

位置 I 区-D

X=44,627 ~ 44,628 Y=-56,064 ~ 56,065

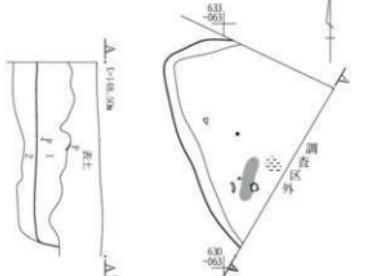
重複 重複関係から27号竪穴建物(6世紀~7世紀)→25

号竪穴建物(時期不明)→26号竪穴建物(時期不明)

と思われる。

規模 長軸(1.55)m 短軸(0.90)m

深さ(0.18 ~ 0.24)m



24号竪穴建物 A-A'

1 褐灰色土(10YR4/1) 砂質上。ks-C軽石粒(Φ 5 ~ 10 mm)少量。

2 黒褐色土ブロックと砂質黄褐色土の混土。(割り方)

方位 N-62°-W

面積 (1.17) m²

カマド 未確認 柱穴 未確認

床面 良好でない。 出土遺物 なし

所見 調査区南東コーナー部分で確認された。

26号竪穴建物(第56図、PL. 26・27)

位置 I 区-D

X=44,627 ~ 44,629 Y=-56,065 ~ 56,067

重複 重複関係から27号竪穴建物(6世紀~7世紀)→25

号竪穴建物(時期不明)→26号竪穴建物(時期不明)

と思われる。

規模 長軸(2.30)m 短軸(1.30)m

深さ(0.13 ~ 0.38)m

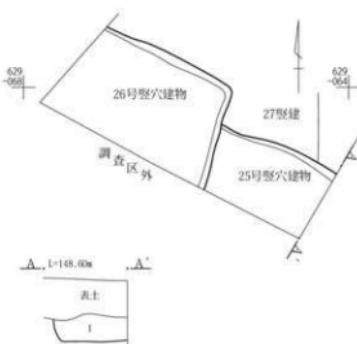
方位 N-62°-W

面積 (2.30) m² カマド 未確認

柱穴 未確認 床面 良好に残っている。

出土遺物 なし

所見 出土遺物もなく、詳しい内容は不明である。



25号竪穴建物 A-A'

1 褐灰色土(10YR4/1) 砂質性あり。小砾(Φ 10mm)を含む。

第55図 24号竪穴建物

第56図 25号・26号竪穴建物

27号壁穴建物(第57・58図、PL. 26 ~ 28・62)

位置 I区-D

 $X=44,627 \sim 44,632$ $Y=-56,064 \sim 56,067$

重複 2棟の壁穴建物と31号土坑と重複している。重複関係から27号壁穴建物(6世紀~7世紀)→25号壁

穴建物(時期不明)→26号壁穴建物(時期不明)。27

号壁穴建物(6世紀~7世紀)→31号土坑と思われる

規模 長軸(4.80)m 短軸(3.44)m

深さ(0.18~0.24)m

方位 N-90°-E

面積 (8.46) m²

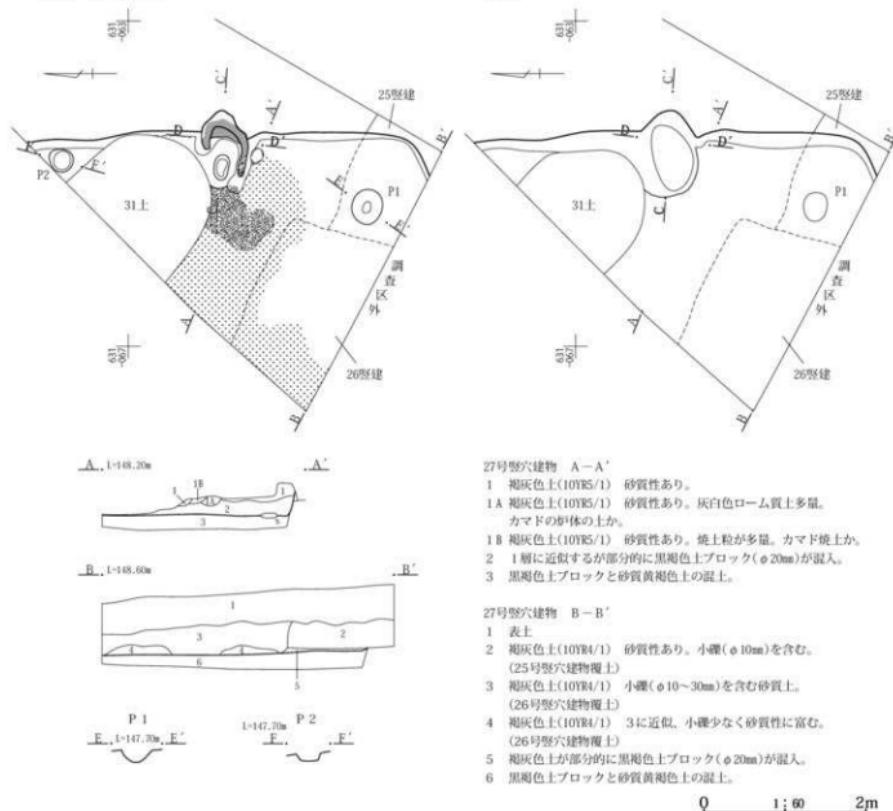
カマド 建物東壁部分に構築していた。カマドは灰黄褐色シルト粘土を大量に持込み作られている。両袖部分と奥壁部分が残っていた。燃焼部奥壁や側壁部分が焼けて多くの焼土粒が残っていた。燃焼部床面に少量の焼土粒と炭化物が残っていた。

柱穴 なし。 **貯藏穴** カマド右側のP1は貯藏穴と思われる。

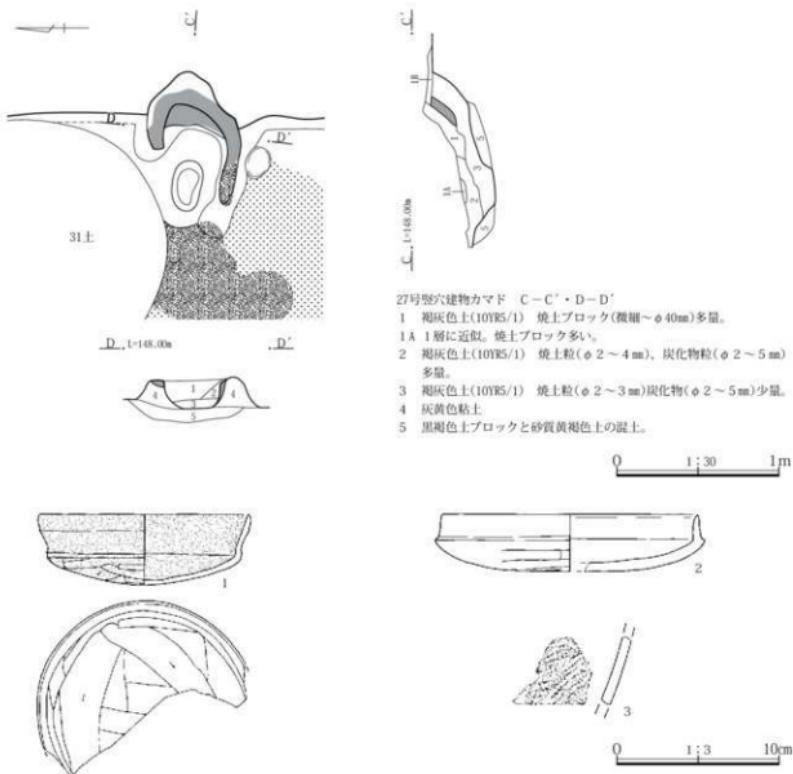
床面 カマド手前付近は、踏み固められ残りは良好であった。

出土遺物 土師器杯が出土している。

所見 出土遺物から6世紀後半から7世紀前半と考えられる。



第57図 27号壁穴建物



第58図 27号竖穴建物カマドと出土遺物

28号竖穴建物(第59図、PL. 29~31・62)

位置 4区

 $X=44,529 \sim 44,534$ $Y=-56,125 \sim 56,128$

重複 なし

形状 南北方向に長い長方形と思われる。

規模 長軸(4.87)m 短軸(3.44)m

深さ(0.21~0.42)m

方位 N-10°-W

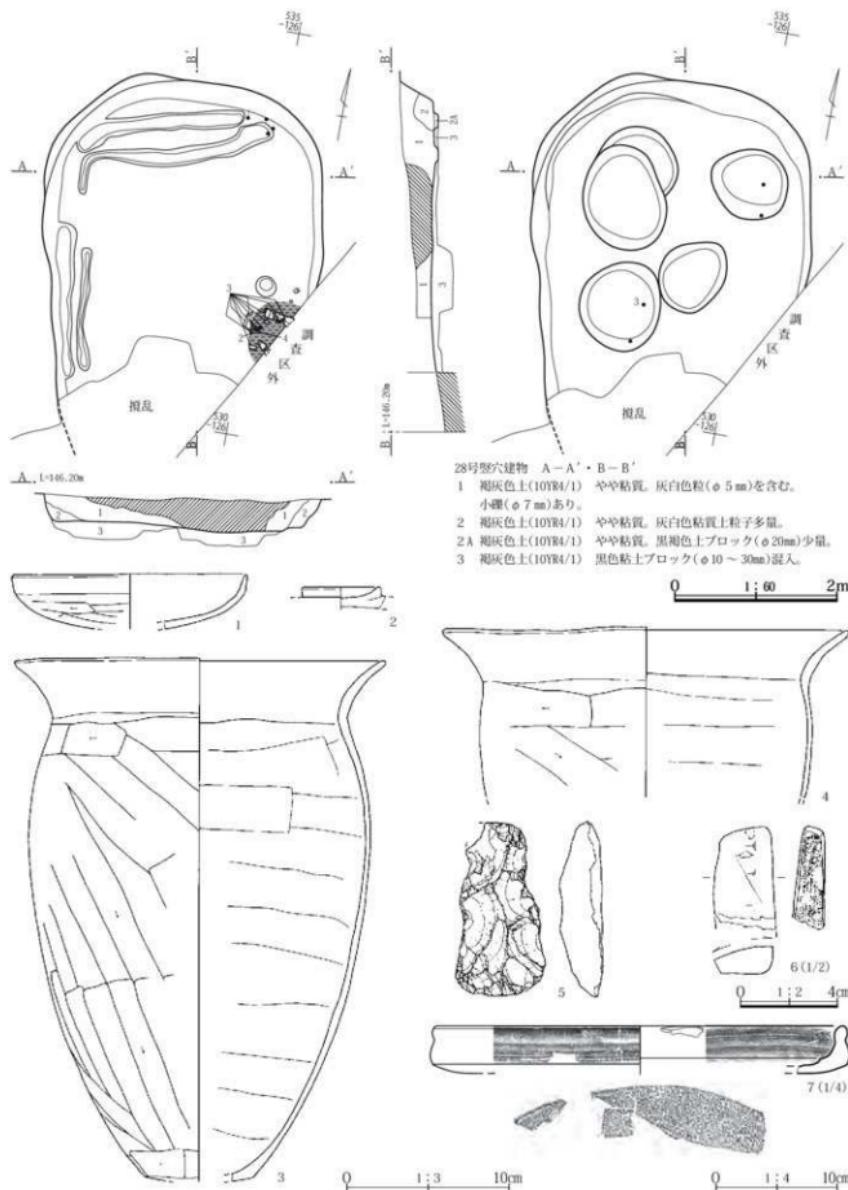
面積 (11.55) m²

カマド カマドは調査範囲内にはなかった。調査出来的た東壁南端の床面付近が踏み固められ、少量の焼土粒とともに多くの土師器壺の破片が出土した。この場所から東側の調査区域外の部分に、カマドがつくられていたことが考えられる。

床面 多くの遺物が出土した付近の床面は、固く踏み固められていた。床下には多くの土坑が掘られていた。

出土遺物 砥石、打製石斧、土師器杯、土師器壺が出土している。

所見 建物北と西側壁面下付近から浅い周溝状の掘り込みが確認されている。東壁面付近では確認されていない。出土遺物から建物の年代は8世紀第3四半期と思われる。



第59図 28号壁穴建物と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

29号堅穴建物(第60図、PL. 31)

位置 4区

X=44,536 ~ 44,541 Y=-56,119 ~ 56,123

重複 なし 形状 不明

規模 長軸3.85m 短軸3.50m

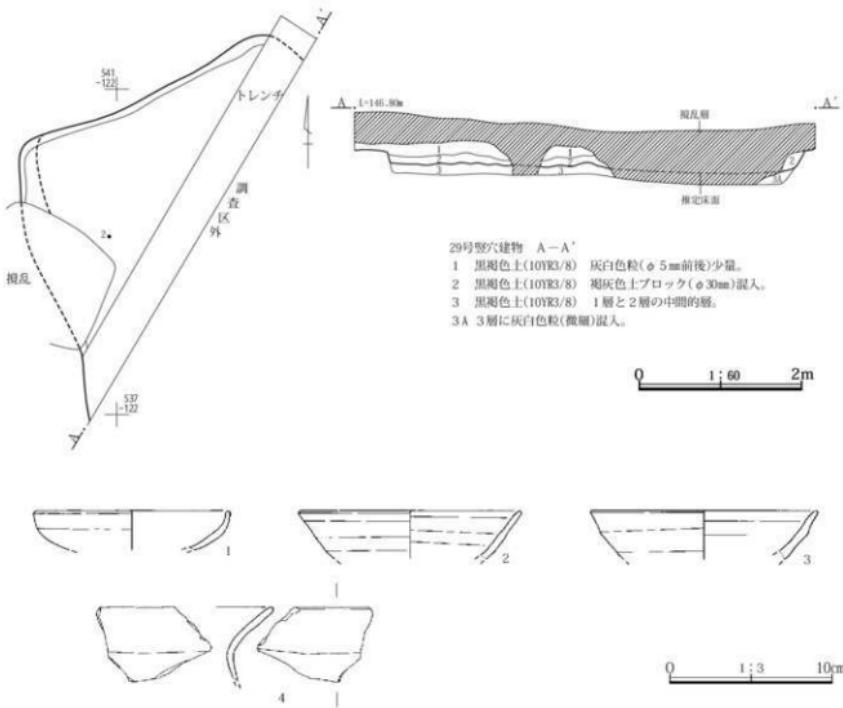
深さ(0.16 ~ 0.21)m

方位 N-16°-W

面積 (6.61) m² カマド 未確認

出土遺物 土師器杯、壺、須恵器杯が出土している。

所見 覆土の大部分と床面の一部が大きく搅乱を受けている残りの悪い建物である。床面の一部に重機の爪痕が残っている。出土遺物として土師器の杯や壺、須恵器の杯等が出土している。それらの年代から9世紀前半の建物であると思われる。



第60図 29号堅穴建物と出土遺物

30号堅穴建物(第61~63図、PL. 31~33・63)

位置 4区

X=44,525 ~ 44,530 Y=-56,128 ~ 56,133

重複 33号土坑 規模 長軸5.03m 短軸4.80m

深さ(0.06 ~ 0.34)m

方位 N-80°-E 面積 21.27m²

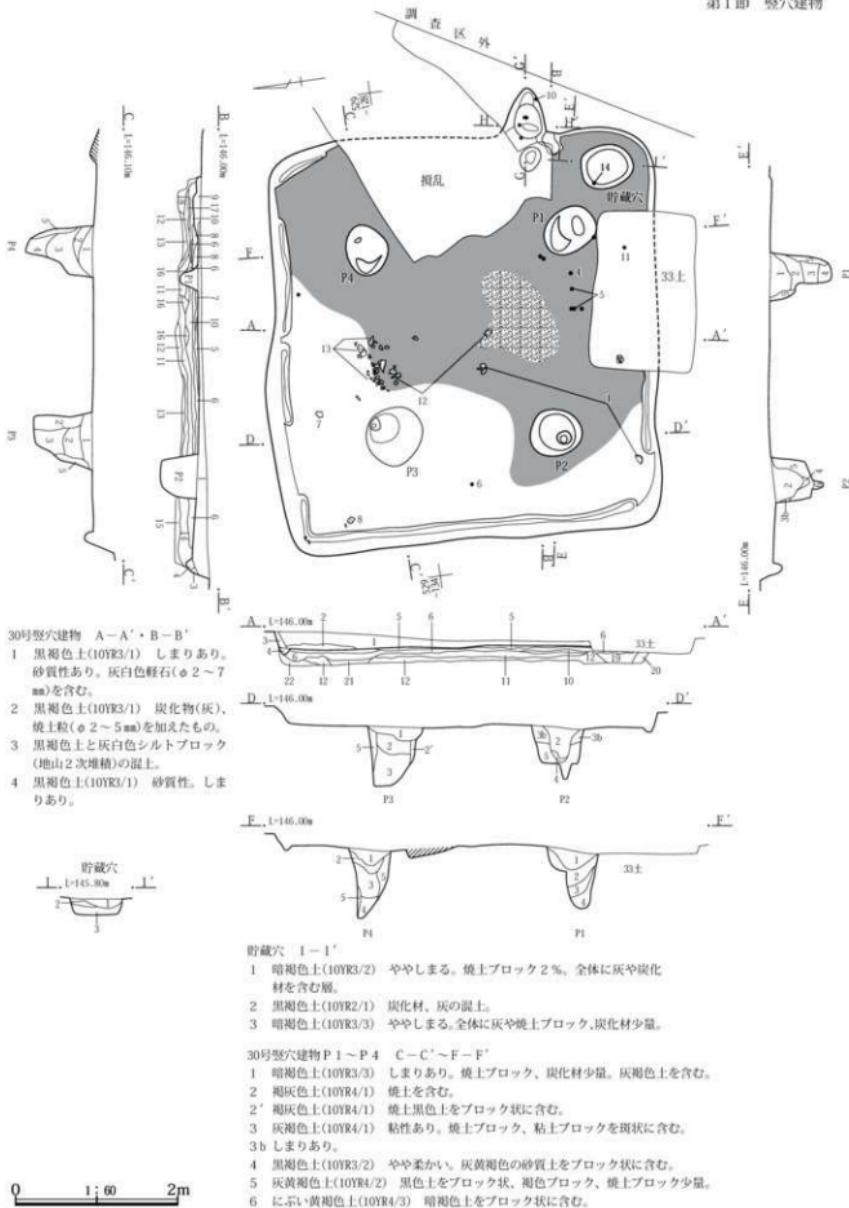
カマド 東壁南寄りに構築していた。

柱穴 P 1 ~ P 4 の 4 基を検出した。

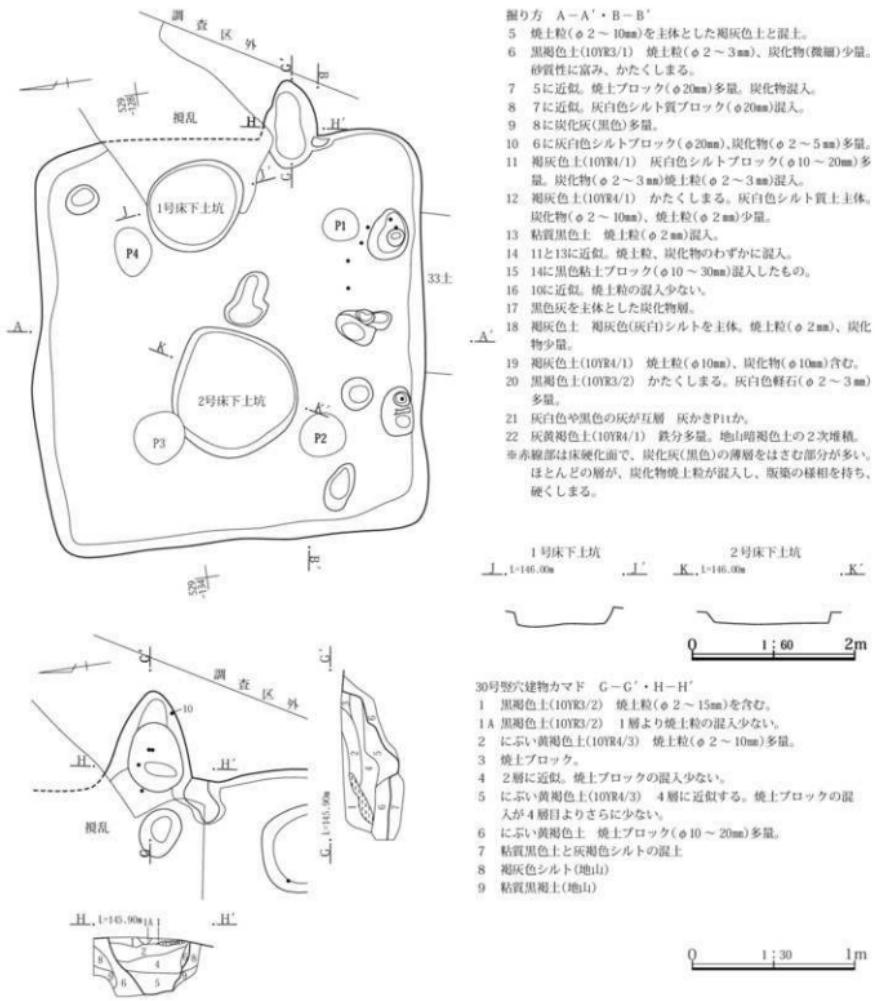
床面 中央部分が固く踏み固められていた。

出土遺物 土師器杯、壺、台付壺、須恵器杯、鉢等を出土している。出土遺物から8世紀後半の建物と思われる。

所見 14号堅穴建物に次ぐ規模を持つ建物であり、4本柱を持つ建物と思われる。覆土や建物の一部は重機により搅乱を受けている。

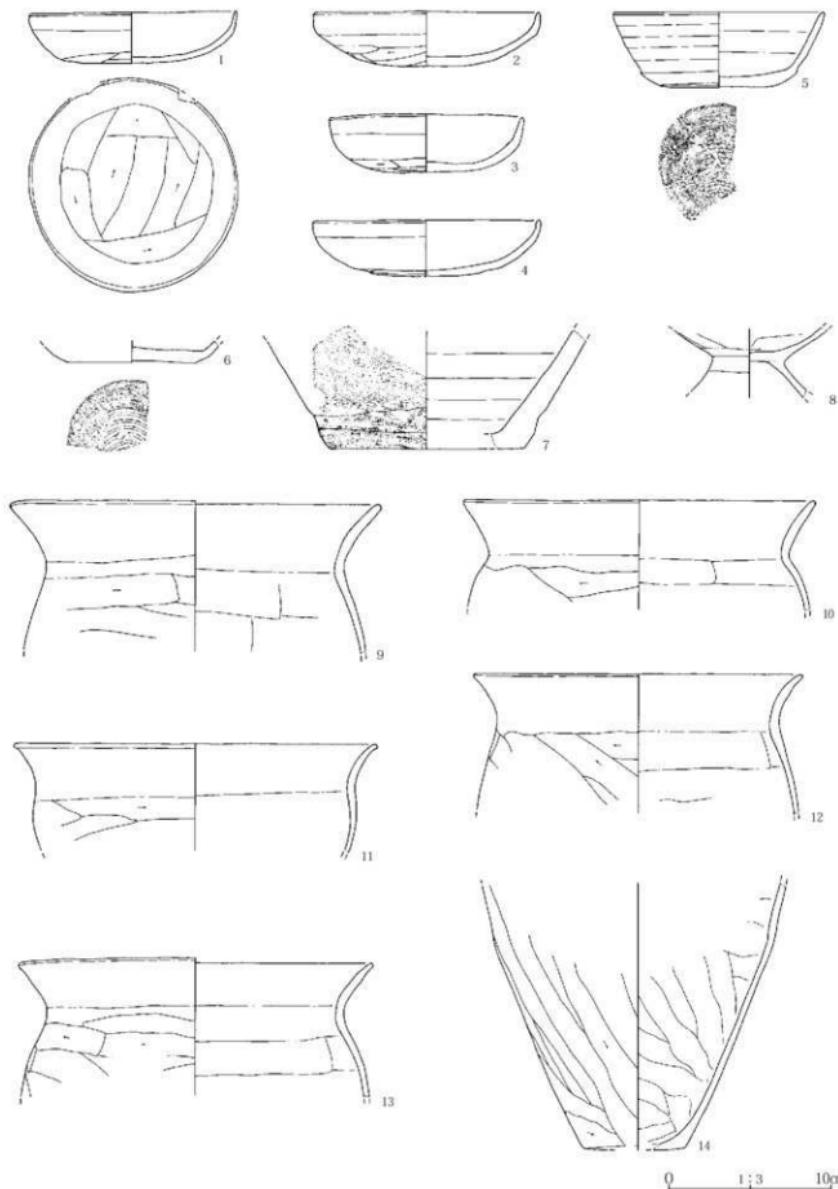


第61図 30号壁穴建物



第62図 30号堅穴建物掘り方・カマド

第1節 壁穴建物



第63圖 30号壁穴建物出土遺物

第2節 竪穴状遺構

竪穴状遺構とは、竪穴建物と同じように掘り込まれてゐるが、調査出来的遺構の範囲が狭く出土遺物も少なく、竪穴建物と特定できない遺構を呼称したものである。同じような遺構でもカマドが確認された場合は、竪穴建物として扱つたものもある。

9区はトレーンチ状に南北方向に細長い調査区である。竪穴建物とした調査したのはカマドの確認されている18号・19号竪穴建物の2棟で、竪穴状遺構は2号・3号・4号竪穴状遺構の3棟である。

4区は東西方向の調査範囲が最も広い調査区である。竪穴建物とした調査したのは、28号・29号・30号竪穴建物の3棟で、竪穴状遺構は5号竪穴状遺構の1棟である。5号竪穴状遺構の平面形は竪穴建物に似ているが、覆土から床面までの多くの部分が壊乱を受けている。

竪穴状遺構の年代を特定する資料は少ない。遺物を出土してるのは2号竪穴状遺構だけである。2号竪穴状遺構では土師器の杯・甕、灰釉陶器、埴輪の破片が出土している。古墳から平安時代の遺物である。この遺物から竪穴状遺構の年代を想定すると、他の竪穴建物とほぼ同

じ古墳から平安時代の遺構の可能性が考えられるが、明らかでない。

2号竪穴状遺構(第64・65図、PL. 33・34・63)

位置 9区

X=706～710 Y=-028～030

重複 不明

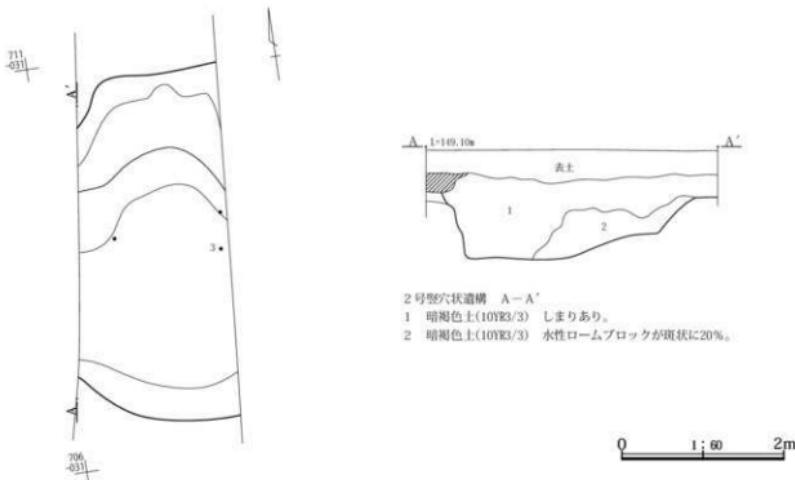
規模 長軸4.37m 短軸(1.80)m

深さ(0.68～0.81)m

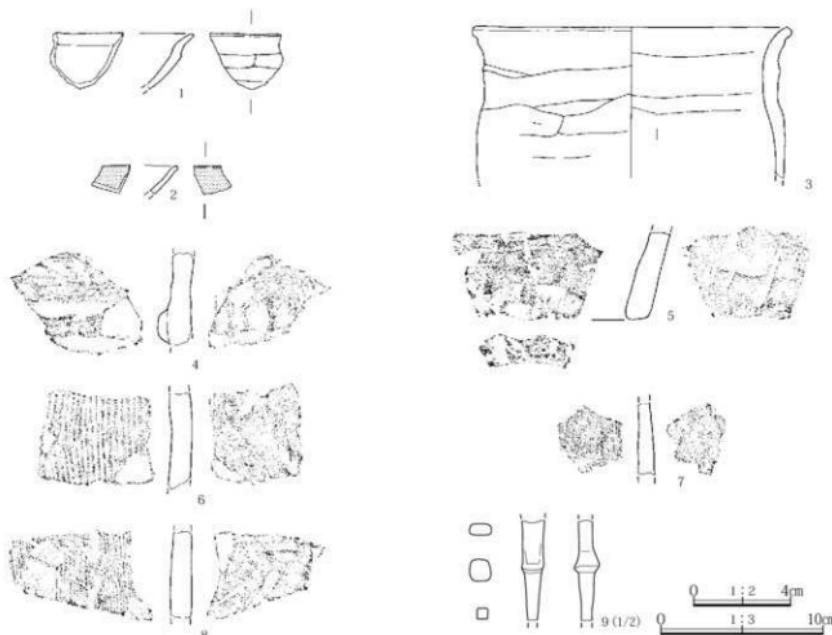
方位 N-20°-E

出土遺物 土師器の杯・甕、灰釉陶器各1点、埴輪の破片4点出土している。

所見 9区の最も北側に位置する幅2m以下の狭い調査範囲である。遺構の底面が平らでなく、南側が少し深くなっている。竪穴建物の可能性は低いと思われる。竪穴状遺構の中で唯一遺物が出土している。土師器の杯・甕、灰釉陶器各1点、埴輪の破片4点が出土している。古墳から平安時代の遺物である。最も新しい遺物は、平安時代の甕である。時代の特定は難しいが、平安時代の遺構の可能性が考えられる。



第64図 2号竪穴状遺構



第65図 2号竖穴状遺構出土遺物

3号竖穴状遺構(第66図、PL. 33・34)

位置 9区

 $X=685 \sim 688 \quad Y=-032 \sim 033$

重複 なし

規模 長軸(2.98)m 短軸1.40m

深さ(0.13 ~ 0.20)m

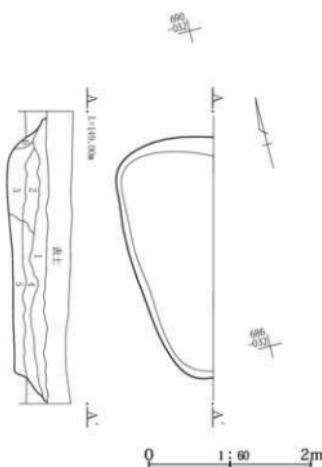
方位 N-5°-W

出土遺物 なし

所見 北側に2号竖穴状遺構、南側に4号竖穴状遺構がある。平面形や床面の状態から竖穴建物の可能性も考えられる。

3号竖穴状遺構 A-A'

- 暗褐色土(10YR3/3) しまりあり。白色粒子($\phi 2 \sim 3\text{mm}$)1%。
- 暗褐色土(10YR3/3) 粒($\phi 2 \sim 5\text{mm}$)5%。搅乱か。
- 暗褐色土(10YR3/3) 粒($\phi 2 \sim 5\text{mm}$)3%。搅乱か。
- 暗褐色土(10YR3/3) 粒($\phi 1 \sim 2\text{mm}$)2%。
- 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック、黒褐色土ブロック5%。
- 暗褐色土(10YR3/3) しまりあり。黒褐色土ブロック5%。焼土ブロック2%。



第66図 3号竖穴状遺構

第3章 検出された遺構と遺物

4号竪穴状遺構(第67図、PL. 33・34)

位置 9区

X=677 ~ 679 Y=-034 ~ 036

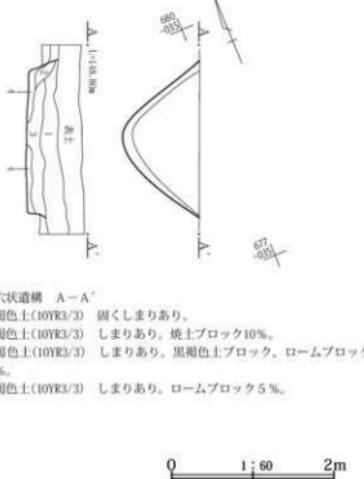
規模 長軸(1.57)m 短軸(1.48)m

深さ(0.15 ~ 0.17)m

方位 N-19°-W

出土遺物 なし

所見 9区の南端部分に位置する。平面形や床面の状態から竪穴建物の可能性も考えられる。



第67図 4号竪穴状遺構

5号竪穴状遺構(第68図、PL. 34)

位置 4区

X=541 ~ 545 Y=-121 ~ 126

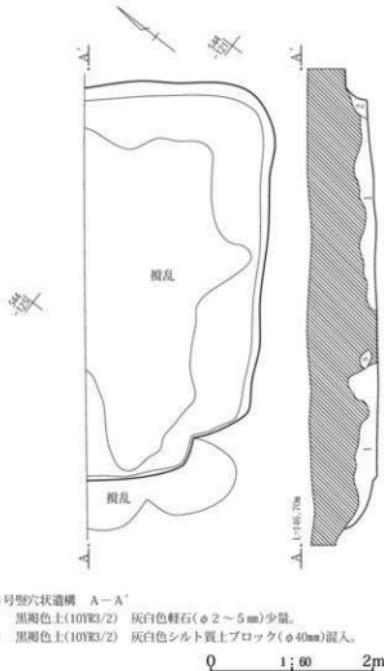
規模 長軸4.72m 短軸2.35m

深さ(0.31 ~ 0.36)m

方位 N-64°-E

出土遺物 なし

所見 平面形は竪穴建物に似ているが、覆土から床面までの多くの部分が擾乱を受けているので竪穴状遺構とした。



第68図 5号竪穴状遺構

第3節 井戸

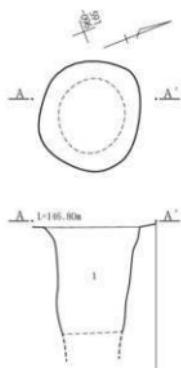
(第69~77図、PL. 35~39・63・64)

12基の井戸が発掘調査されている。調査区では1区2基、2区3基、4区4基、6区2基、9区1基である。調査区は5つに分かれるが、3区と4区の間の水路を挟

んだ北側に6基、南に5基が集中している。平面形状は円形で、断面形は上面が崩れており明らかでないが、多くが円筒状と思われる。5号井戸と6号井戸は残りが良好でありロート状と思われる。

規模等は以下の第4表に掲載した。6基の井戸から遺物が出土している。2号(近世)・4号(古代から中近世)・

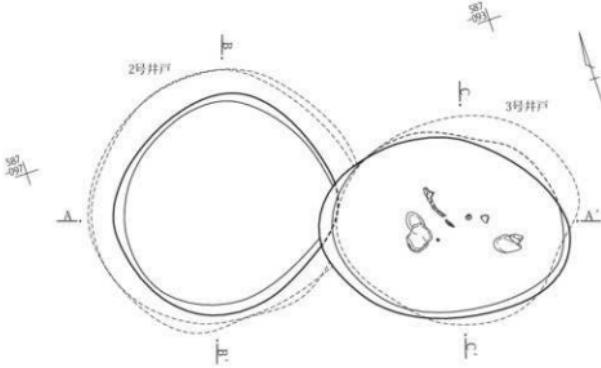
2区1号井戸



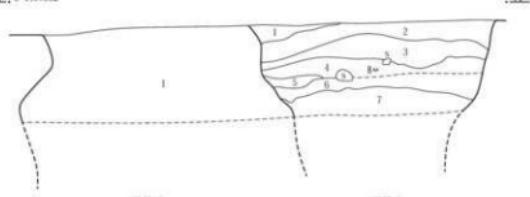
1号井戸 A-A'

1 暗褐色～黄灰色砂質土、黒褐色粘土ブロック、にぶい黄色土微量。

2区2号・3号井戸



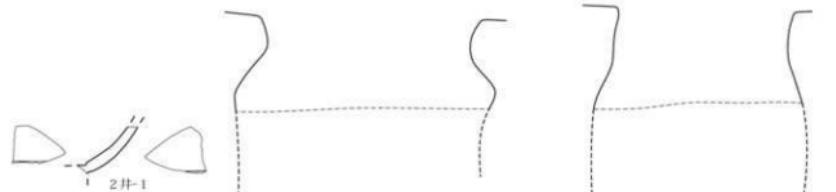
1-146.90m



2号井戸

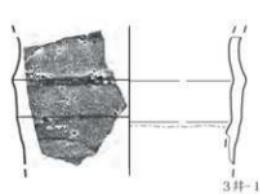
3号井戸

1-146.90m



2号井戸 A-A'

1 暗褐色～黄灰色砂質土、鉄分多量。灰白色～灰色土ブロック、黒褐色粘土ブロック微量。



0 1:3 10cm

3号井戸 A-A'

1 暗褐色砂質土、灰白色粘土ブロック、燒土粒少量。黒褐色粘土ブロック微量。

2 暗褐色砂質土、黒褐色粘土ブロック、にぶい黄色土ブロック中量。灰白色粘土ブロック微量。

3 暗褐色砂質土、黒褐色粘土ブロック多量。にぶい黄色土ブロック、白色粒子微量。

4 黄灰色～暗褐色砂質土、黒褐色粘土ブロック、浅黄色土粒、鉄分微量。

5 暗褐色土 ローム塊少量。

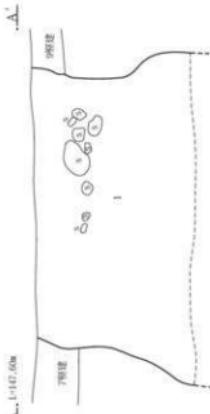
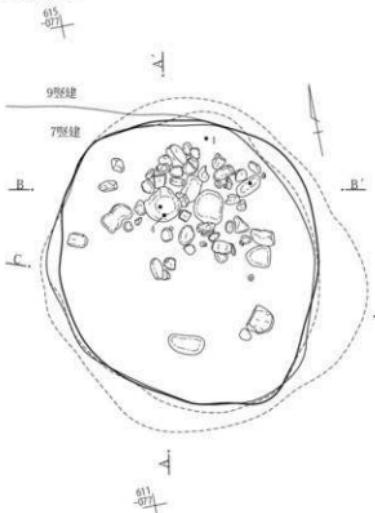
6 暗褐色土 ローム粒少量。

7 明褐色土 ロームを主とした層。

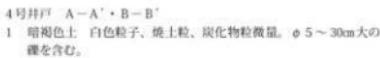
0 1:40 1m

第69図 1号～3号井戸と2号・3号井戸出土遺物

1区4号井戸



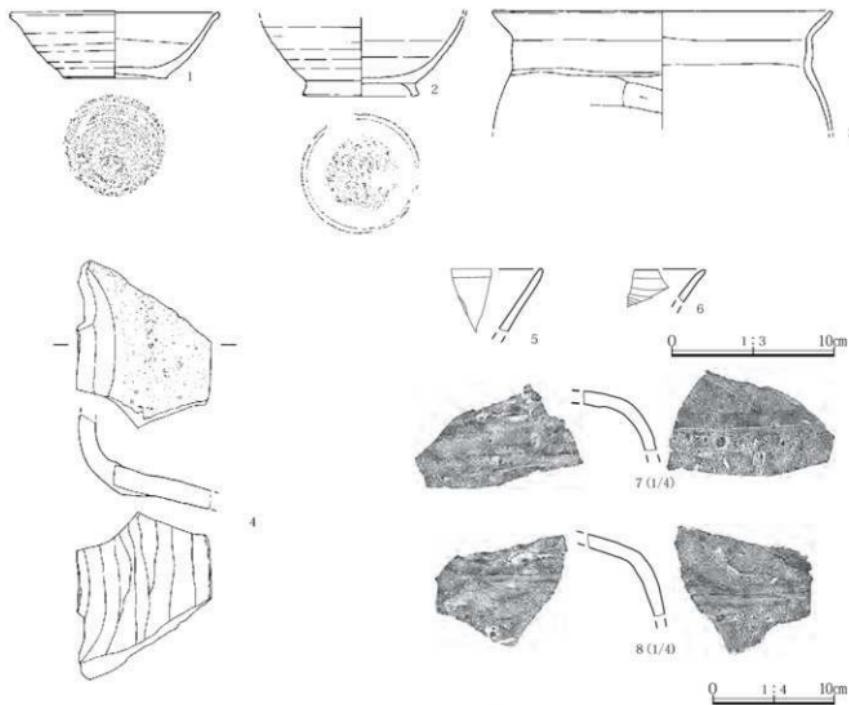
$B_{\text{max}} = 147.60 \text{ m}$



第70図 4号井戸

6号(近世)・7号(古代)・10号(古代)・12号(近現在)井戸から出土した遺物は、井戸が使われた時代に属するものと、周辺の遺物が混入する場合があり、時代を特定することは難しいが、大きく分けて古代と中近世である。

特色ある遺物として青磁破片が北側の2号井戸と4号井戸から出土している。中世の寄居の遺構が存在していたと指摘されている場所の北側であり、関連が注目される。

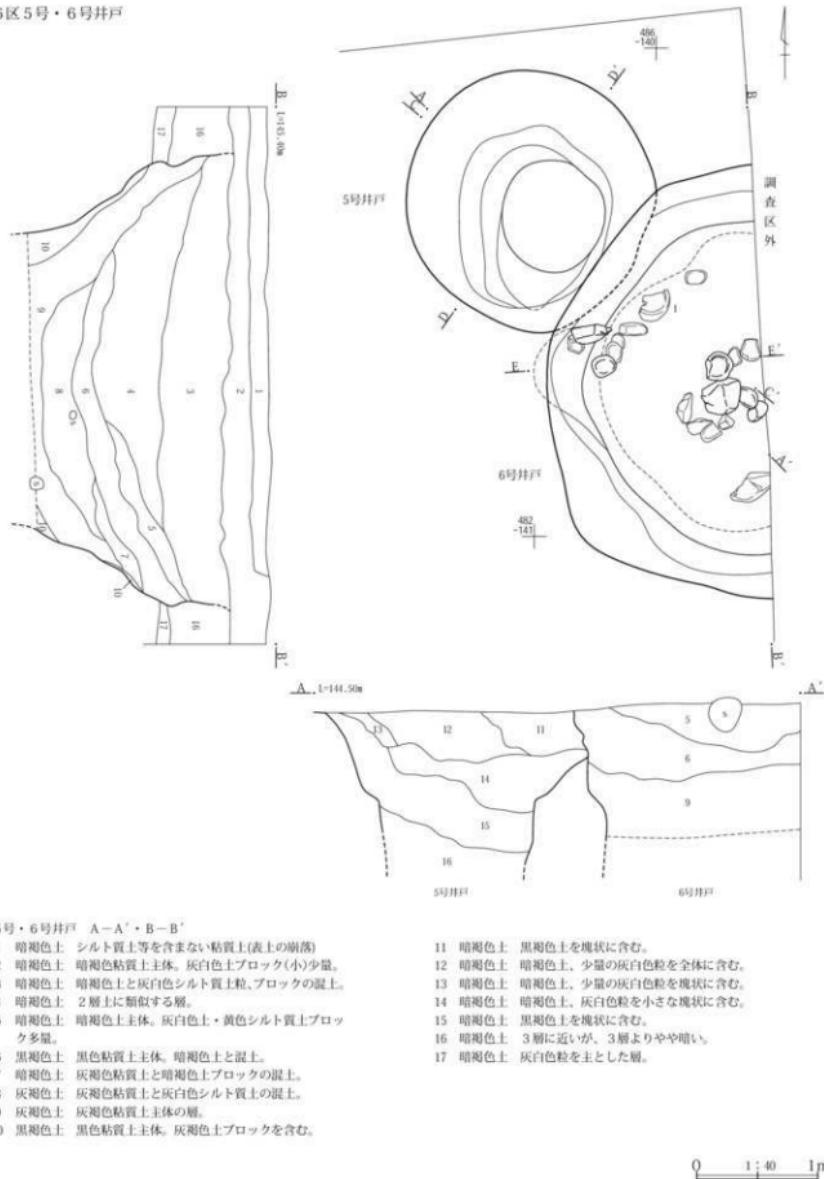


第71図 4号井戸出土遺物

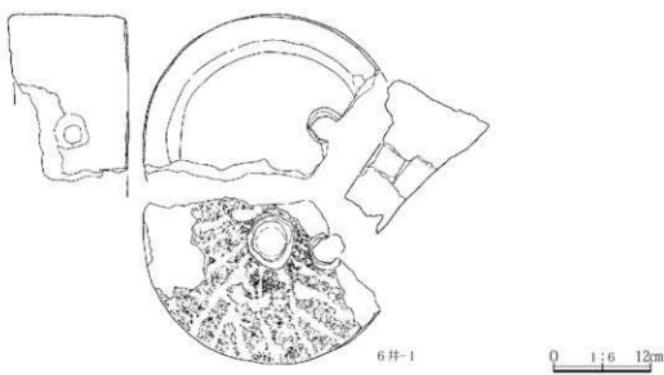
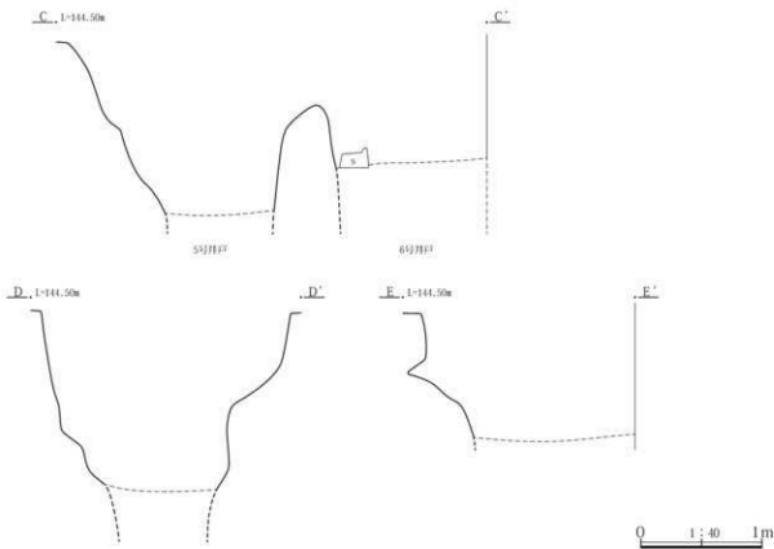
第4表 井戸一覧表

調査区	道場名	グリット	長軸方位	規模		重複
				長軸(m)	短軸(m)	
2	1号井戸	X=44,590 ~ 44,591 Y=-56,094 ~ -56,095	N-49°-W	0.88	(0.80)	1号堅穴建物→1号井戸
2	2号井戸	X=44,585 ~ 44,587 Y=-56,094 ~ -56,096	N-65°-E	1.80	1.65	2号井戸→3号井戸
2	3号井戸	X=44,584 ~ 44,586 Y=-56,092 ~ -56,094	N-63°-W	2.07	1.48	2号井戸→3号井戸
1	4号井戸	X=44,611 ~ 44,614 Y=-56,075 ~ -56,077	N-17°-W	2.54	2.20	7号・9号堅穴建物→4号井戸
6	5号井戸	X=44,483 ~ 44,485 Y=-56,140 ~ -56,142	N-45°-W	2.04	2.05	5号井戸→6号井戸
6	6号井戸	X=44,611 ~ 44,614 Y=-56,075 ~ -56,078	N-17°-W	(3.56)	(1.78)	5号井戸→6号井戸
1	7号井戸	X=44,598 ~ 44,600 Y=-56,089 ~ -56,091	N-43°-E	1.76	1.64	
9	8号井戸	X=44,696 ~ 44,699 Y=-56,029 ~ -56,031	N-44°-W	(2.35)	1.67	25号ピット→8号井戸
4	9号井戸	X=44,537 ~ 44,538 Y=-56,123 ~ -56,125	N-42°-E	1.22	1.06	26号ピット→9号井戸
4	10号井戸	X=44,533 ~ 44,534 Y=-56,132 ~ -56,134	N-60°-W	1.78	1.58	39号土坑→10号井戸
4	11号井戸	X=44,523 ~ 44,524 Y=-56,134 ~ -56,135	N-76°-E	0.65	0.63	
4	12号井戸	X=44,511 ~ 44,513 Y=-56,142 ~ -56,144	N-10°-W	2.20	1.89	

6区5号・6号井戸

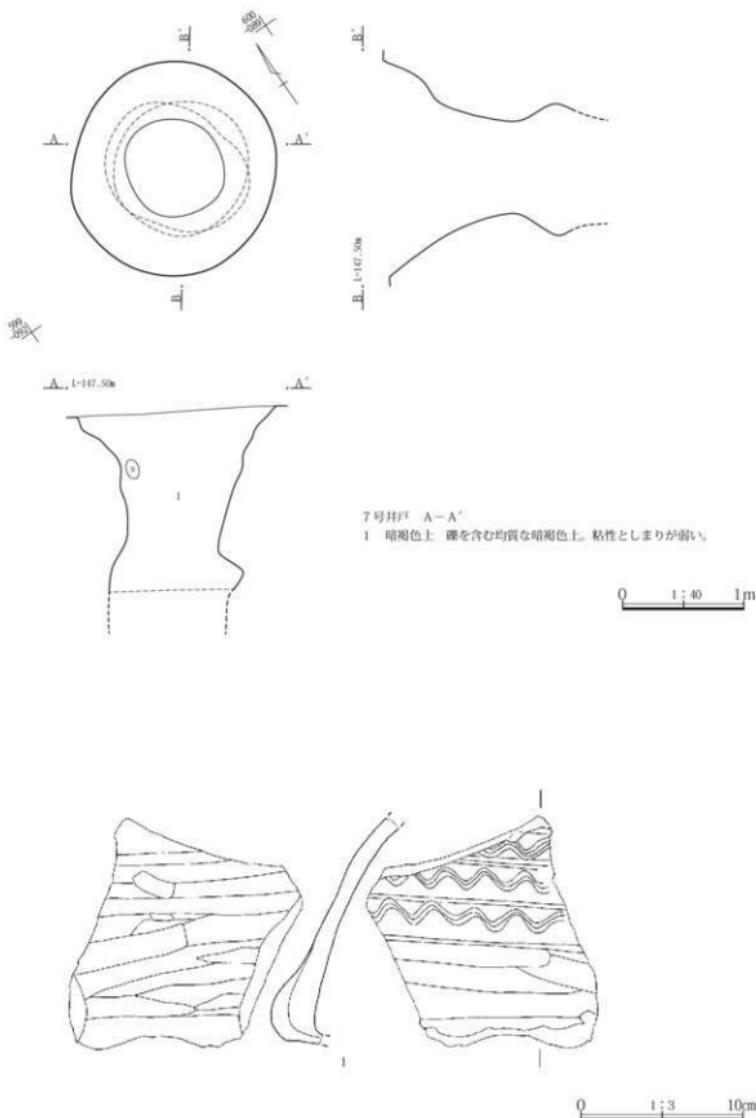


第72図 5号・6号井戸



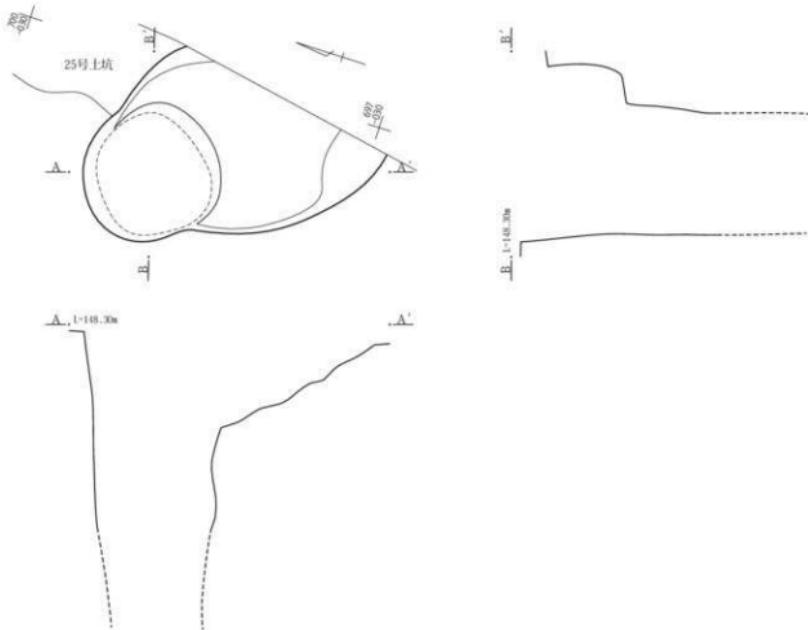
第73図 5号・6号井戸土層断面と6号井戸出土遺物

1区7号井戸

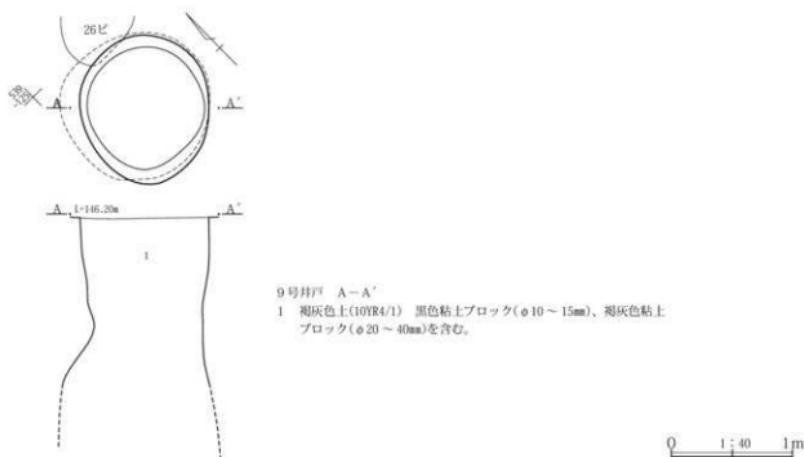


第74図 7号井戸と出土遺物

9区8号井戸



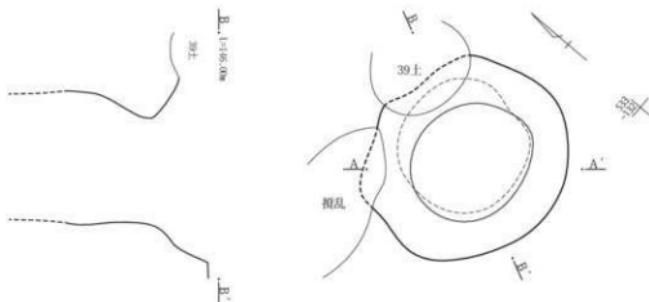
4区9号井戸



第75図 8号・9号井戸

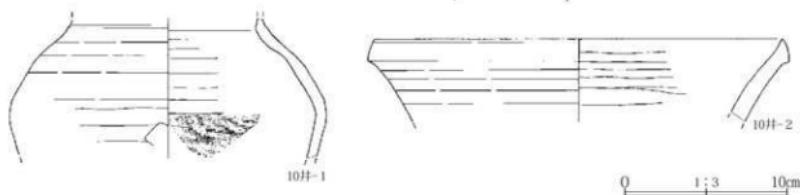
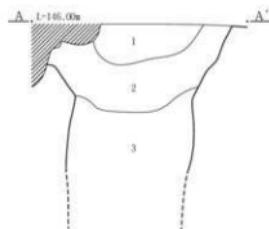
第3章 検出された遺構と遺物

4区10号井戸

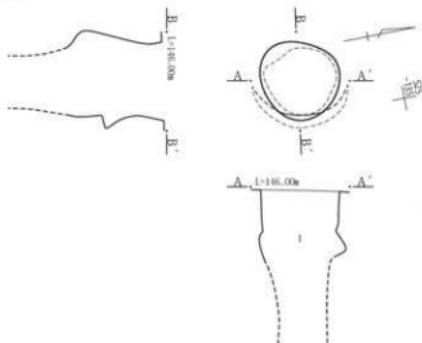


10号井戸 A-A'

- 1 濁灰色土 焼上粒($\phi 2 \sim 5\text{ mm}$)、炭化物($\phi 5 \sim 10\text{ mm}$)を含む。
- 2 1に近似。炭化物、焼上粒の混入少ない。
- 3 濁灰色土 1層に近似。1層よりやや暗い。

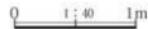


4区11号井戸



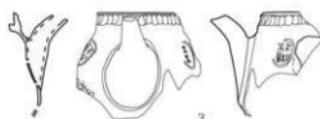
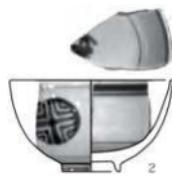
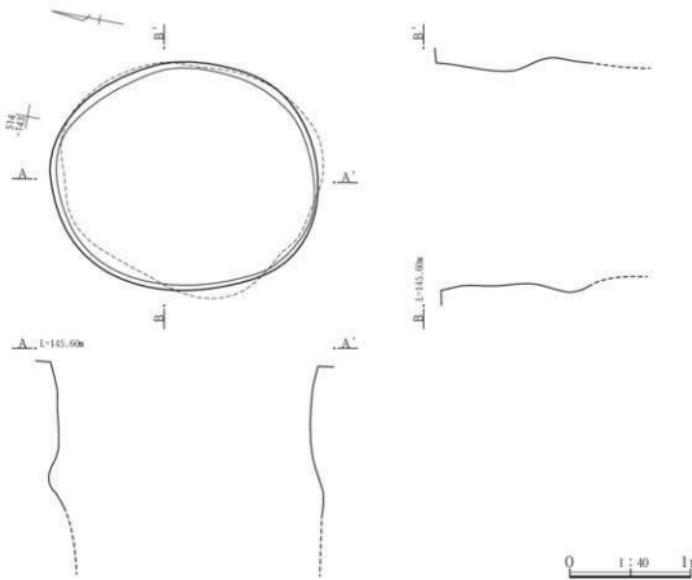
11号井戸 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) よくしまる。灰白色軽石粒($\phi 2 \sim 10\text{ mm}$)を含む。

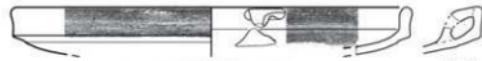
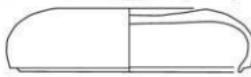


第76図 10号・11号井戸と10号井戸出土遺物

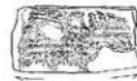
4区12号井戸



0 1:3 10cm



4 (1/4)



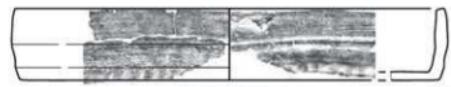
4 (1/4)



0 1:2 4cm



5 (1/4)



0 1:4 10cm

第77図 12号井戸と出土遺物

第4節 溝

(第78 ~ 83図、PL. 39~43・64)

溝の概要

遺跡内から11条の溝が発掘調査されている。発掘調査は、道路屈曲部分を中心とした道路拡張工事に伴い実施されたもので、南北に長く幅が狭い。調査区の長さは南北約460m、幅は1m~11mであった。各溝の調査区内出土位置は第6図(2号・3号溝)、7図(1号・4号・5号・6号溝)、9図(1号溝)、11図(7号・9号・10号溝)、12図(8号・11号溝)、各溝の図面は以下図示した。溝全体の規模や位置等は第5表で概要をまとめた。

このように調査できた11条の溝は、狭い範囲内での調査であり、全体の様子を知ることはできない。

地形と溝の流れた方向

遺跡北側の9区18号竪穴建物付近の標高は148.23m、南側の4区28号竪穴建物付近の標高は146.06mで北側が高い。東西では、東側の4区28号竪穴建物付近の標高は146.06mで西側の5号溝西橋部分では145.9mで西側が低くなっている。遺跡の西側は桂川に接しており、地形全体が桂川に向かって少し低くなっているようである。このような地形に造られている遺跡内の溝は、北から南に流れ、東側から西側に流れている。

4区と5区の間は、川となっており、道路(三夜沢国定停車場線)には寄居橋が架かっている。この川は現在多くの水が東から西方向に流れしており、西側の桂川と直角に合流している。

溝覆土の特色

溝の大きさや深さは、第5表のとおりである。しかし幅や深さは、確認面から計測したものであり、本来の大きさは不明である。

溝底面付近の覆土を観察すると、同じでなく明瞭でないものも多いが、暗褐色土を主とした覆土と明褐色土を主とした堆積の2つに分類することができそうである。さらに10号溝では暗褐色土の上に明褐色土が堆積していることが確認できる。

暗褐色土覆土の溝	2号・4号・7号・9号・10号
明褐色土覆土の溝	1号・5号・6号・8号・11号
不明	3号

溝の出土遺物と溝の造られた時期

以下3条の溝から遺物が出土している。

1号溝(江戸時代の陶磁器)

2号溝(古代の須恵器や羽釜)

6号溝(中世末から江戸時代の陶磁器皿や灯火受皿等)

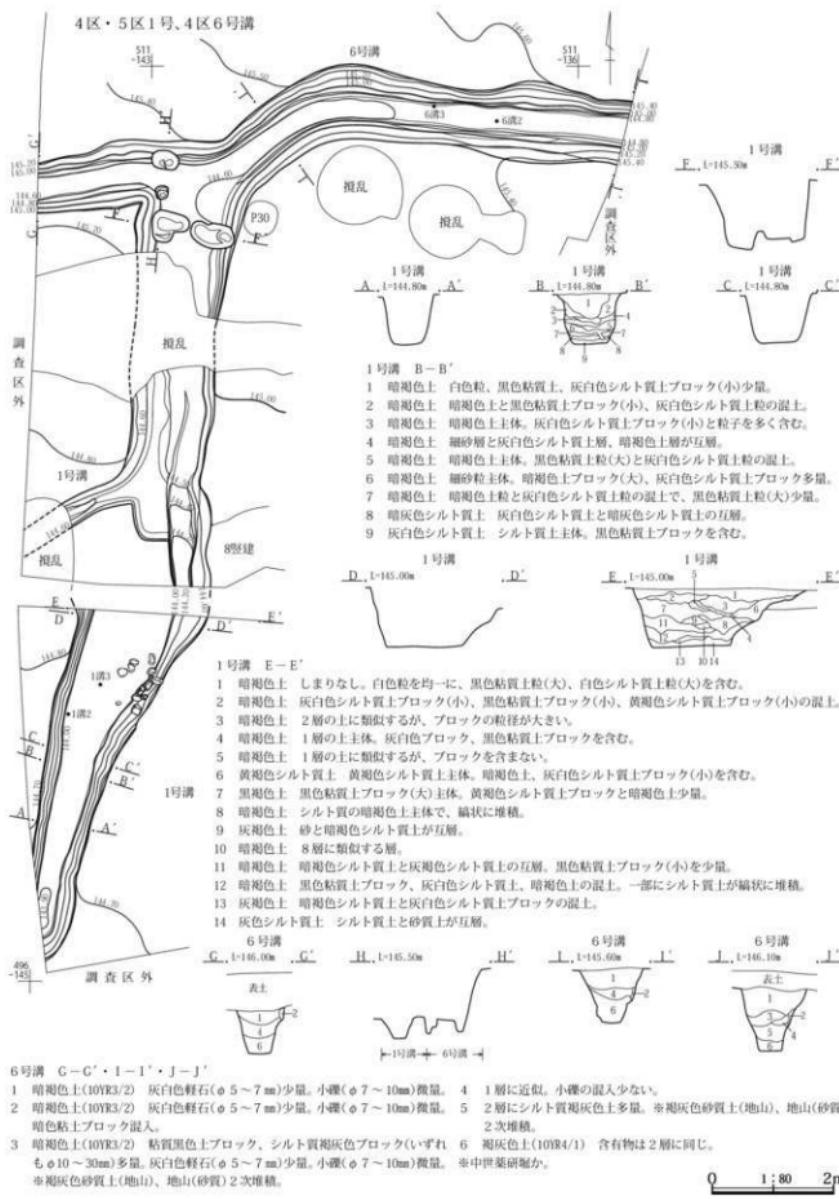
出土遺物から古代と江戸時代を中心とした2つに時期があるものと思われる。

1号溝と6号溝は、明褐色土覆土の溝であり、2号溝は暗褐色土覆土の溝である。このように観察すると、暗褐色土覆土の溝は古代の溝であり、明褐色土覆土の溝は中世の溝であることが、考えられるのではないだろうか。

「深津の寄居」と溝との関連

遺跡内溝の多くは、中近世に存在していたことが、出土遺物と覆土の特色から想定できた。この時期の遺構として4区付近に「深津の寄居」が存在していたことが報告されている。(山崎 一『群馬県古城遺址の研究』補遺編上巻 昭和54年)これらの溝と深津の寄居にどのような関連があるのか不明であるが、何らかの関連が考えられる遺構と思われる。

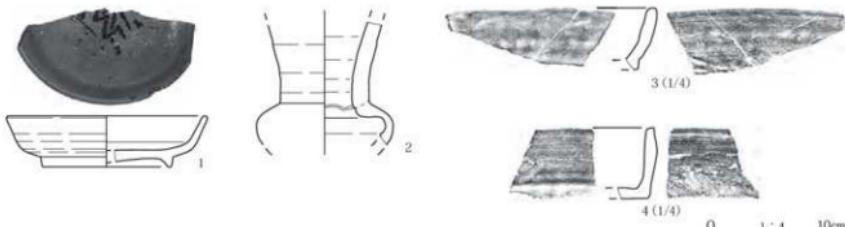
第4章第3節「深津の寄居について」の中で1つの考え方を提示した。



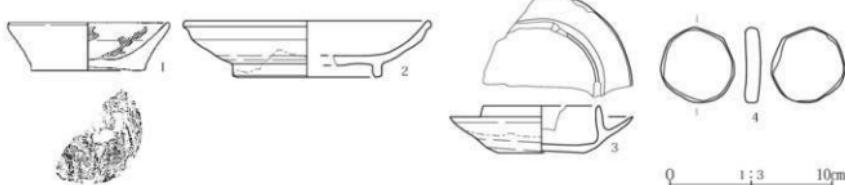
第78図 1号・6号溝

第3章 検出された遺構と遺物

1号溝



6号溝

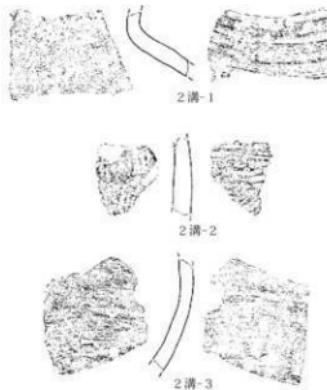
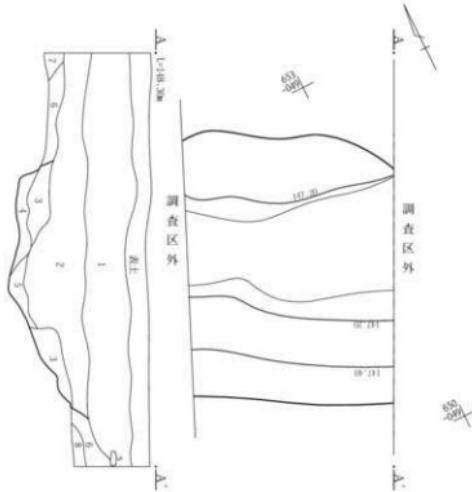


第79図 1号・6号溝出土遺物

第5表 溝一覧表

調査区	調査面	溝番号	グリット	主軸方位	規模			重複	不明
					長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		
4 5		1	X=44,496 ~ 44,502 Y=-56,142 ~ 56,144	N-5°-E	(6.27)	(0.85 ~ 2.17)	0.13 ~ 0.44	6号溝→8号堅穴建物 →1号溝	
1-B		2	X=44,650 ~ 44,653 Y=-56,048 ~ 56,050	N-65°-W	1.65	(1.93 ~ 1.22)	0.21 ~ 0.43		
1-C		3	X=44,641 ~ 44,644 Y=-56,054 ~ 56,055	N-25°-W	0.78	(0.95 ~ 1.07)	0.46 ~ 0.50		
4		4	X=44,544 ~ 44,546 Y=-56,117 ~ 56,119	N-30°-W	(2.00)	(0.78)	0.19 ~ 0.30		
4		5	X=44,514 ~ 44,534 Y=-56,133 ~ 56,136	N-5°-W	(21.2)	(0.77)	0.06 ~ 0.37		
4		6	X=44,508 ~ 44,511 Y=-56,135 ~ 56,144	N-83°-E	(9.90)	(0.90)	0.69 ~ 1.03	6号溝→1号溝	
10	2	7	X=44,412 ~ 44,413 Y=-56,125 ~ 56,127	N-85°-E	(4.10)	(1.90)	0.64 ~ 0.77	7号溝→46号土坑	9号溝
11	1	8	X=44,356 ~ 44,358 Y=-56,110 ~ 56,113	N-81°-E	(2.41)	(5.34 ~ 5.40)	0.15 ~ 0.20		
10	2	9	X=44,408 ~ 44,412 Y=-56,124 ~ 56,128	N-71°-E	(4.03)	(1.33)	0.59 ~ 1.35		7号溝
10	2	10	X=44,412 ~ 44,413 Y=-56,125 ~ 56,127	N-85°-E	(1.35)	(0.83)	0.24 ~ 0.31		
11	2	11	X=44,348 ~ 44,363 Y=-56,110 ~ 56,113	N-12°-E	(145.7)	0.13 ~ 0.53	0.01 ~ 0.05		

1区-B 2号溝

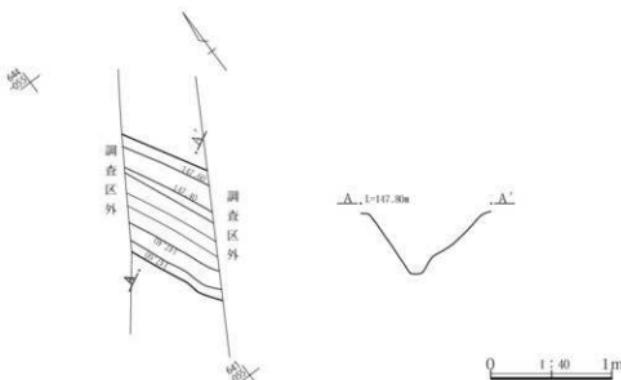


0 1:3 10cm

2号溝 A-A'

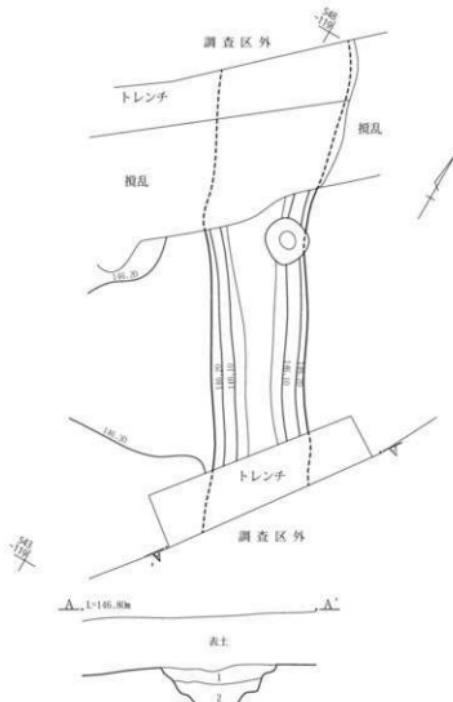
- 1 黒灰色土(10YR4/1) 砂質性あり。しまりない。小礫(φ50 ~ 60mm)少量。
 - 2 黒灰色土(10YR4/1) やや粘質。1層に近似。礫の混入なし。
 - 3 黒灰色土(10YR4/1) 砂質のローム粒(φ10 ~ 20mm)含む。
 - 4 3層に近似。ローム粒の混入多く褐色味が強い。
 - 5 4層よりローム粒(φ2 ~ 5mm)の混入多い。
 - 6 黒褐色土(10YR4/1) やや粘質。礫の混入なし。やや粘質の黒褐色土(φ30mm)が混入。
 - 7 6層に同質黒褐色土ブロックの混入なし。
 - 8 6層にロームブロック(φ30mm)混入。
- 半近世以降の溝。

1区-C 3号溝



第80図 2号・3号溝と2号溝出土遺物

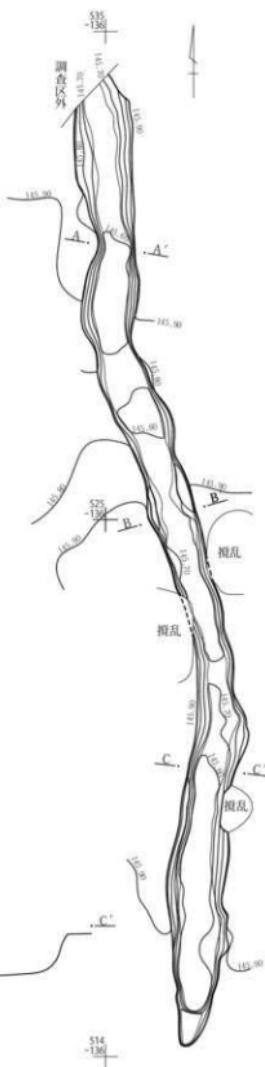
4区4号溝



4号溝 A-A'

- 1 褐灰色土(10YR4/1) 粘質土。炭化物粒(ϕ 2 mm)含む。
- 2 1層に近似。粘性が強い。

4区5号溝



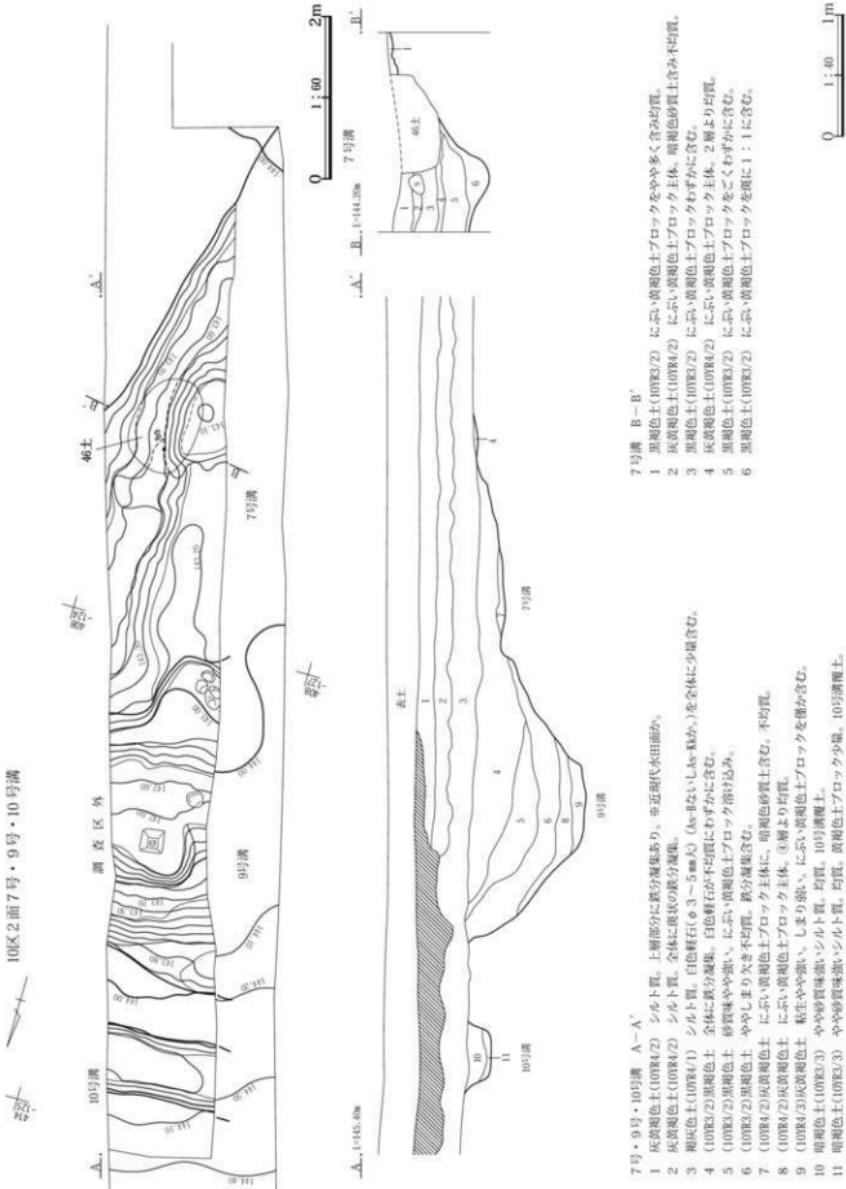
5号溝 A-A'

- 1 褐灰色砂層 砂礫層(ϕ 2 ~ 5 mm)で、一部ラミナ状に堆積。
- 2 シルト及び細砂の砂層 一部砂鉄分がラミナ状に堆積。

0 1:40 1m

0 1:100 5m

第81図 4号・5号溝



7号・9号・10号譜 A-A'

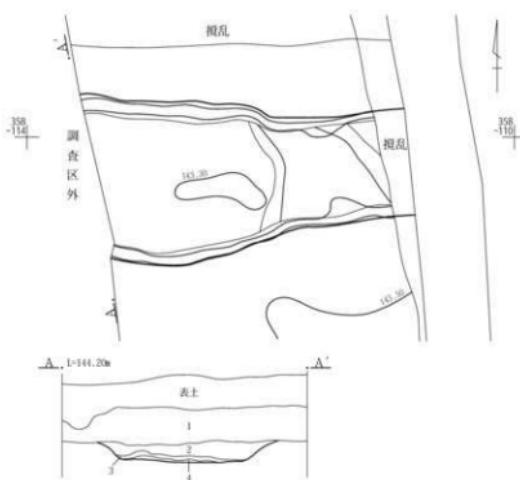
- 黒褐色土(10T8R/2) に高い黄褐色アーロックを多く含む。
 黑褐色土(10T8R/2) に高い黄褐色アーロックを多く含む。
 黑褐色土(10T8R/2) に高い黄褐色アーロックを多く含む。
 黑褐色土(10T8R/2) に高い黄褐色アーロックを多く含む。
 黑褐色土(10T8R/2) に高い黄褐色アーロックを多く含む。

第82回 7号・9号・10号

第82回 7号・9号・10号

第3章 検出された遺構と遺物

11区1面8号溝

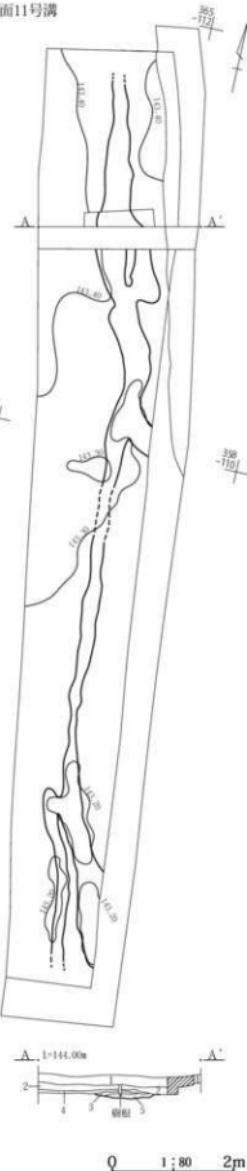


8号溝 A-A'

- 1 広黄褐色土(10YR4/2) シルト質。上層部分に鉄分凝集あり。近現代水田面か。
- 2 広黄褐色土(10YR4/2) シルト質。やや不均質。白色軽石わずかに含む。
- 3 黒色土(10W2/1) しまり、粘性ともにややあり。
- 4 ふい黄褐色土(10YR5/4) 粗粒砂層。

0 1 : 40 1m

11区2面11号溝



11号溝 A-A'

- 1 褐灰色土(10YR4/1) シルト質。白色軽石(ϕ 3 ~ 5 mm大) (As-BないしAs-Kkか)を全体に少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) しまり粘性ともにややあり。
- 3 黑色土(10W2/1) しまり粘性ともにややあり。5層より色調暗く、光沢感あり。
- 4 黄褐色土(10YR4/6) 中～細粒砂層。やや不均質(黄褐色火山灰層はFAか? FA洪水相当か?)
- 5 褐色土(10YR4/4) 細粒砂層と黑色質上の互層。

0 1 : 80 2m

第83図 8号・11号溝

第5節 土坑

(第84~88図、PL. 44~48・65)

30基の土坑が発掘調査されている。調査区では1区9基、4区7基、9区10基で、他の調査区では2区と10区で1基調査されている。規模等は以下の第6表に掲載した。形状としては円形と長方形が多い。遺物を出土して

いる土坑は、5号土坑(9世紀の土師器と須恵器)18号土坑(9世紀の土師器)20号土坑(9世紀の須恵器・土師器)33号土坑(江戸時代陶磁器鍋や焰培)であり、これらの出土遺物から土坑の年代は古代と近世の土坑の可能性が高い。遺物を出土していない他の土坑は年代を特定できないが、出土遺物や覆土の特色から古代と近世が多いものと思われる。

第6表 土坑一覧表

調査区	番号	グリット	長軸方位	規模			平面形状	重複 旧→新
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)		
1	1号井戸							
Z	2	X=44,598 Y=-56,095 ~56,096	N-25°-E	1.40	0.75	0.13	長方形	
	3	2号井戸						
	4	3号井戸						
I	5	X=44,619 ~44,620 Y=-56,071 ~56,072	N-19°-W	(0.98)	(0.88)	0.18	(横円形)	
	6	欠番						
I	7	X=44,613 Y=-56,073 ~56,074	N-48°-W	(0.36)	(0.65)	0.19	(横円形)	
I	8	X=44,620 Y=-56,081	N-20°-E	(1.16)	(0.43)	0.25	横円形	8号土坑→ 4号壁穴建 物
I	9	X=44,615 Y=-56,073	N-3°-W	(1.12)	(0.70)	0.30	(横円形)	
	10	4号井戸						
I	11	X=44,613 ~44,614 Y=-56,079 ~56,080	N-18°-W	(0.94)	(0.80)	0.31	横円形	
	12	5号井戸						
	13	6号井戸						
I	14	X=44,609 ~44,610 Y=-56,078 ~56,080	N-29°-E	(2.08)	(0.75)	0.16	長方形	
	15	7号井戸						
I	16	X=44,595 ~44,596 Y=-56,090 ~56,091	N-39°-E	0.73	0.60	0.14	横円形	
3	17	X=44,575 Y=-56,102 ~56,103	—	(0.64)	(0.30)	0.10	—	
I	18	X=44,613 ~44,614 Y=-56,077 ~56,078	N-27°-E	(1.03)	(0.90)	0.35	横円形	
I	19	X=44,696 ~44,697 Y=-56,031 ~56,032	N-76°-W	1.28	0.87	0.15	長方形	
I	20	X=44,704 ~44,705 Y=-56,030 ~56,031	N-16°-E	1.44	(0.77)	0.10	不明 (横円形 か)	
I	21	X=44,704 ~44,705 Y=-56,029 ~56,030	N-39°-W	0.90	0.67	0.27	横円形	
I	22	X=44,702 ~44,703 Y=-56,029 ~56,030	N-64°-W	(0.92)	0.78	0.58	不明 (横円形 か)	
I	23	X=44,699 ~44,700 Y=-56,031 ~56,032	N-31°-E	1.66	1.13	0.34	長方形	24号土坑 →23号土坑

調査区	番号	グリット	長軸方位	規模			平面形状	重複 旧→新
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)		
9	24	X=44,699 ~44,701 Y=-56,029 ~56,032	N-58°-W	(2.37)	1.33	0.13	不明 (長方形 か)	24号土坑 →23号・25号 土坑
9	25	X=44,698 ~44,700 Y=-56,029 ~56,030	N-17°-E	(1.48)	(0.82)	0.33	不明 (不定形 か)	24号土坑 →25号土坑 →8号井戸
9	26	X=44,697 ~44,698 Y=-56,032 ~56,033	N-26°-E	1.76	(0.80)	0.16	不明 (長方形 か)	
9	27	X=688~ 689 Y=033~ 034	N-30°-E	1.00	0.93		不定形	
	28	欠番						
	29	8号井戸						
	30	欠番						
I-D	31	X=629~ 631 Y=064~ 066	N-42°-W	1.80	1.73		不明 (横円形)	
I-E	32	X=601~ 602 Y=084~ 085	N-85°-E	1.25	0.87		横円形	Z3号壁穴建 物→Z2号壁 穴建物→Z2 号土坑
4	33	X=525~ 526 Y=129~ 131	N-79°-W	1.97	1.28		長方形	30号壁穴建 物→33号土 坑
	34	9号井戸						
4	35	X=697~ 698 Y=032~ 033	N-52°-E	1.04	0.85		横円形	25号ピット →35号土坑
4	36	X=537~ 538 Y=125~ 126	N-72°-W	1.07	0.82		横円形	
4	37	X=535~ 536 Y=125~ 126	N-47°-W	(1.08)	0.98		横円形	
4	38	X=532~ 533 Y=129~ 130	N-13°-W	0.95	0.68		横円形	
4	39	X=534~ 535 Y=132~ 133	N-37°-W	0.82	0.80		横円形	39号土坑 →10号井戸
	40	10号井戸						
4	41	X=533~ 534 Y=134~ 135	N-30°-E	(1.06)	0.55		不明 (横円形)	
	42	欠番						
	43	11号井戸						
	44	12号井戸						
9	45	X=694~ 695 Y=030~ 031	N-0°-EW	1.08	0.96	0.08	不明 (円形)	9区18号土 坑から変更
10	46	X=44,405 Y=56,024	N-6°-E	1.17	0.83	0.42	横円形	7号溝→46 号土坑

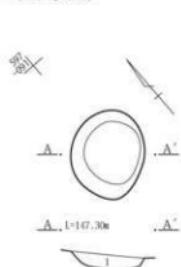
※45号土坑は9区18号土坑から変更

第3章 検出された遺構と遺物



第84図 2号・5号・7号～9号・11号・14号土坑と8号土坑出土遺物

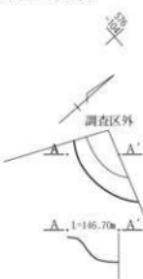
1区16号土坑



16号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 やや砂質の暗褐色土主体。黄色砂質土ブロックを含む。

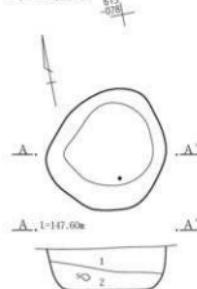
3区17号土坑



17号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 植上粒含む。

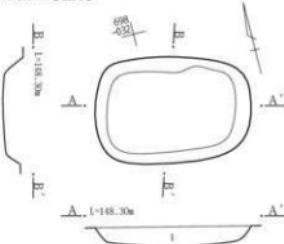
1区18号土坑



18号土坑 A-A'

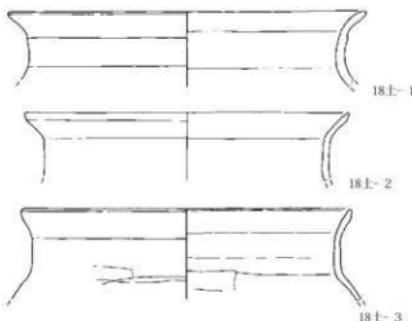
- 1 暗褐色土 植上粒含む。
- 2 暗褐色土 にぶい黄色土多量。植上粒含む。

9区19号土坑

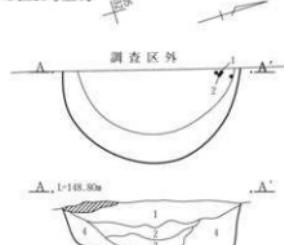


19号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) しまりあり。砂質性あり。ローム粒(φ 2~10mm)、炭化物粒(φ 2 mm)を含む。

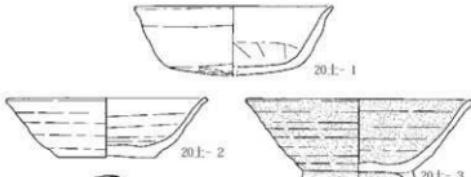


9区20号土坑



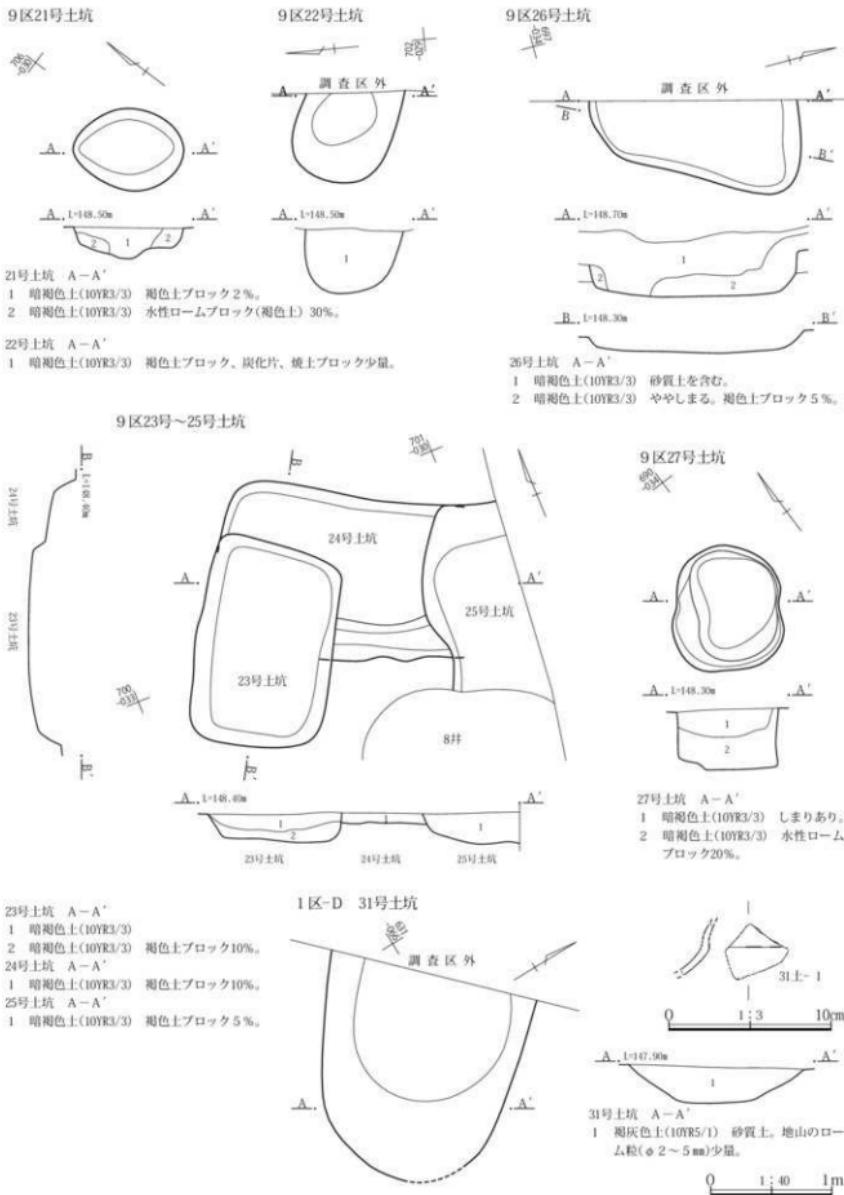
20号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ややしまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ややしまりあり。焼土ブロック(φ 1~2 mm) 2 %、炭化片 2 %、黒褐色土 5 %含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ややしまりあり。水性ローム20%を含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) しまりあり。焼土ブロック(φ 1~2 mm) 2 %、炭化片(φ 1~2 mm) 2 %、黒褐色土ブロック(φ 1~2 mm) 2 %、炭化片(φ 1~2 mm) 2 %。



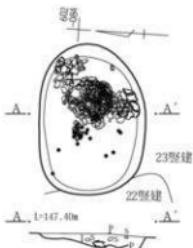
第85図 16号～20号土坑と18号・20号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第86図 21号～27号・31号土坑と31号土坑出土遺物

1区-E 32号土坑



32号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物多量。
- 2 軽石粒($\phi 2 \sim 7\text{ mm}$)少量。

4区33号土坑



33号土坑 A-A'

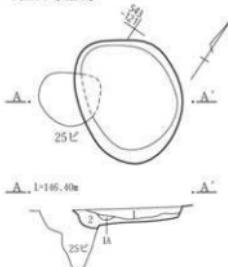
- 1 褐灰色土(10YR5/1) 砂質性あり。粘質ローム粒($\phi 2 \sim 7\text{ mm}$)少量。※住居を壊す。近世遺物あり。



33上-1

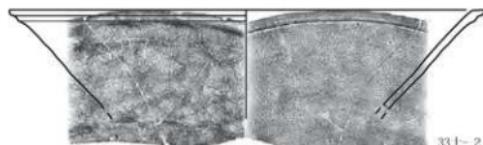
0 1:3 10cm

4区35号土坑

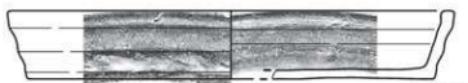


35号土坑 A-A'

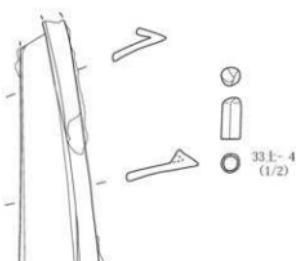
- 1 褐灰色土(10YR4/1) 灰白色粘土ブロックを含む。
- 1A 1層に近似。灰白色粒の多量。
- 2 灰白色シルト質土 砂粒多量。



33上-2

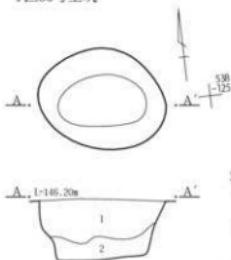


33上-3

33上-4
(1/2)

0 1:4 10cm

4区36号土坑



36号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) しまりあり。粘性あり。上層に灰白色粒輕石($\phi 2 \sim 5\text{ mm}$)を含む。
- 2 褐灰色土(10YR4/1) 灰白色シルト質ブロック($\phi 2 \sim 50\text{ mm}$)多量。

37号土坑 A-A'

- 1 褐灰色土(10YR4/1) しまりあり。灰白色輕石($\phi 2 \sim 5\text{ mm}$)少量。



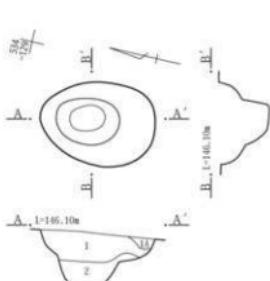
0 1:4 10cm

0 1:40 1m

第87図 32号・33号・35号～37号土坑と33号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

4区38号土坑



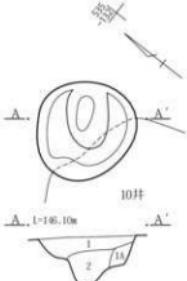
38号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色軽石(ϕ 2~4mm)少量。
- 1A 黒褐色土(10YR3/2) シルト質土粒子(灰白色)多量。
- 2 褐灰色土(10YR4/1) 灰白色シルト質土(ϕ 5~7mm)混入。

39号土坑 A-A'

- 1 黄褐色土(10YR4/2) やや砂質でしまりあり。
- 1A 1層に近似。燒土塊化物のわずかに混入。
- 2 褐灰色土(10YR4/1) やや粘性あり。砂礫(ϕ 5~7mm)少量。

4区39号土坑



39号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色軽石(ϕ 2~5mm)、炭化物(ϕ 5~10mm)を含む。
- 2 1層に近似。炭化物、燒土粒の混入少ない。

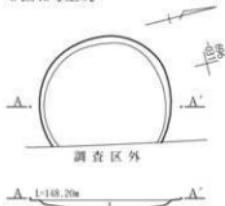
4区41号土坑



41号土坑 A-A'

- 1 褐灰色土(10YR4/1) 燃土粒(ϕ 2~5mm)、炭化物(ϕ 5~10mm)を含む。
- 2 1層に近似。炭化物、燒土粒の混入少ない。

9区45号土坑



45号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ややしまりあり。 ϕ 5~15mmの砂質ローム粒(地山)を含む。

10区46号土坑



46号土坑 A-A'

- 1 黄褐色土(10YR4/2) シルト質。白色軽石わずかに含む。鉄分凝聚なし。にぶい黄褐色土ブロックを少量含む不均質。

第88図 38号・39号・41号・45号・46号土坑



第6節 ピット (第89~92図、PL. 49~53)

50基のピットが発掘調査されている。調査区では1区9基、2区3基、4区8基、6区3基、7区5基、9区4基、10区8基、11区10基である。数の多い1区と10区はまとまって出土しているが、掘立柱建物等を確認することはできなかった。11区は第2面からの出土である。形状は大部分が楕円形であり、短径20~30cm、深さは20~30cmが多い。7区6号ピットでは、断面で直径20cm深さ1m以上の掘り込み面を確認できた。規模等は以下

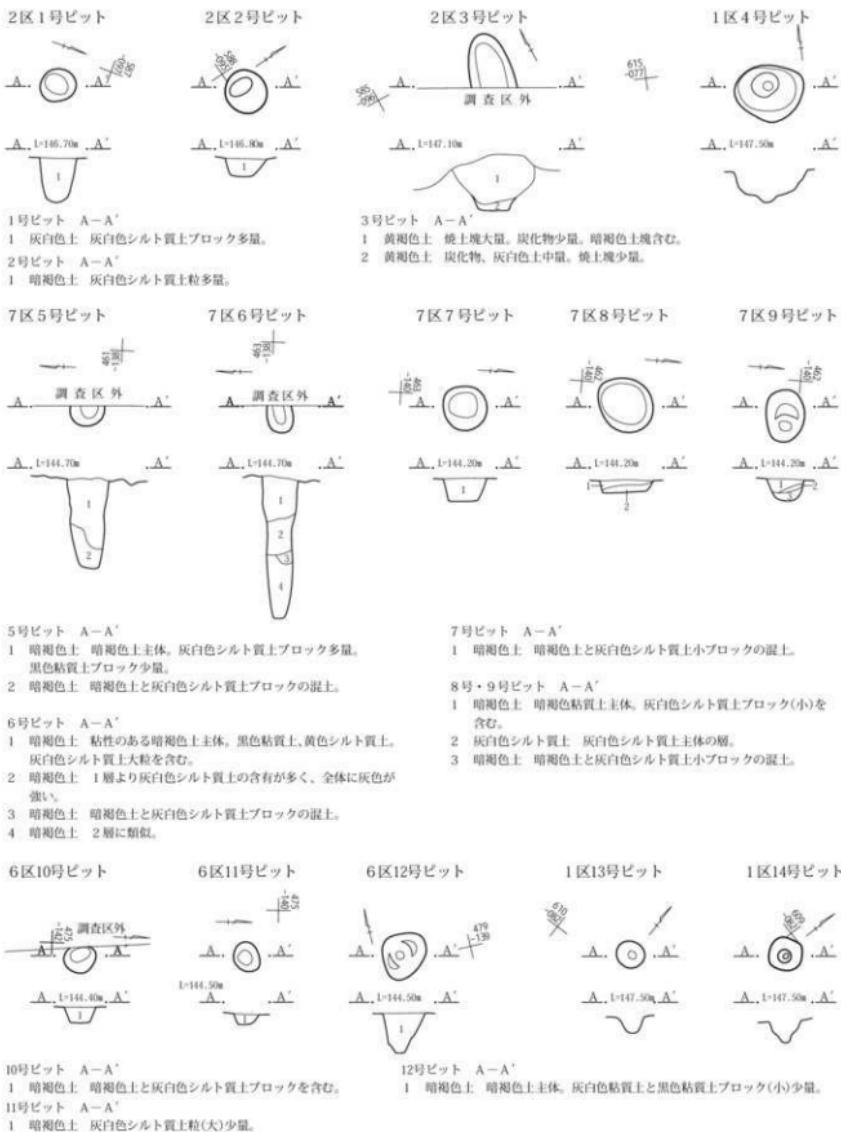
の第7表に掲載した。遺物は出土していない。土坑の年代は明らかでないが、堅穴建物や土坑・溝が古代と近世の遺構であり、ピットを埋めている覆土も近いので、ほぼ同じ時期と思われる。しかし、覆土の違いから古代と近世を区別することはできなかった。

50基のピットの中で2区3号ピットが他のピットと大きく異なっている。覆土中に大量の焼土粒があり、形状はU字状を呈し先端部が北側に位置する。南側は発掘区域外となっているが、南側に堅穴建物が存在し、その建物のカマドの可能性があるのではないだろうか。

第7表 ピット計測表

調査区 調査面 番号	位置	主軸方位	規模			平面形状 旧→新	重複	
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)			
2	1	X=44,586 Y=-56,096	N-42°-W	0.31	0.26	0.36	楕円形	2号堅穴 建物→1 号ビット
2	2	X=44,587 Y=-44,588 Y=-56,094	N-70°-W	0.38	0.35	0.16	楕円形	
2	3	X=44,584 Y=-44,584 Y=-56,094 Y=-56,095	N-15°-E	(0.45)	0.38	0.11	楕円形	
1	4	X=44,614 Y=-44,615 Y=-44,075 Y=-44,076	N-71°-E	(0.62)	(0.54)	0.26	楕円形	9号堅穴 建物→4 号ビット
7	5	X=44,461 Y=-56,138	N-40°-W	(0.24)	(0.21)	0.31	楕円形	
7	6	X=44,463 Y=-56,138	N-80°-E	(0.27)	(0.25)	0.69	楕円形	
7	7	X=44,463 Y=-56,139 Y=-46,140	N-70°-E	0.37	0.35	0.20	楕円形	
7	8	X=44,462 Y=-56,139 Y=-56,140	N-30°-E	0.50	0.41	0.14	楕円形	
7	9	X=44,461 Y=-44,462 Y=-56,139	N-85°-E	0.42	0.32	0.26	楕円形	
6	10	X=44,475 Y=-56,141	N-20°-W	0.27	(0.23)	0.12	楕円形	
6	11	X=44,474 Y=-56,139	N-45°-E	0.25	0.21	0.08	楕円形	
6	12	X=44,478 Y=-44,479 Y=-56,139	N-51°-E	0.41	0.35	0.26	不定形	
1	13	X=44,610 Y=-56,081	N-0°-EW	0.23	0.23	0.15	円形	
1	14	X=44,608 Y=-56,082	N-42°-E	0.28	0.27	0.17	楕円形	
1	15	X=44,608 Y=-44,609 Y=-56,079	N-55°-E	0.35	0.24	0.23	楕円形	
1	16	X=44,607 Y=-56,078 Y=-56,079	N-45°-E	0.32	0.28	0.37	不定形	
1	17	X=44,606 Y=-44,607 Y=-56,078 Y=-56,079	N-46°-W	0.39	0.37	0.28	楕円形	
1	18	X=44,599 Y=-44,088 Y=-56,099	N-47°-E	0.43	0.39	0.13	楕円形	
9	19	X=44,713 Y=-58,028	N-6°-E	0.50	(0.30)	0.48	(楕円形)	
9	20	X=44,695 Y=-56,032	N-20°-E	0.50	0.36	0.26	不定形	
9	21	X=44,705 Y=-44,706 Y=-56,029 Y=-56,030	N-14°-W	0.43	0.33	0.28	楕円形	
1-A	22	X=44,664 Y=-44,665 Y=-56,044	N-5°-E	0.43	0.38	0.30	楕円形	
1-A	23	X=44,663 Y=-56,044	N-60°-W	0.47	0.43	0.36	楕円形	
9	24	X=44,687 Y=-56,034	N-25°-W	0.44	0.42	0.26	不定形	
4	25	X=44,542 Y=-56,120 Y=-56,121	N-57°-E	0.52	0.45	0.51	楕円形	35号上坑 →25号 ピット
4	26	X=44,538 Y=-44,539 Y=-56,123 Y=-56,124	N-81°-E	0.72	0.57	0.49	楕円形	26号ピッ ト→9号 井戸
4	27	X=44,532 Y=-44,533 Y=-56,130 Y=-56,131	N-63°-W	0.47	0.37	0.46	楕円形	
4	28	X=44,512 Y=-56,139	N-68°-E	0.37	0.32	0.33	楕円形	
4	29	X=44,516 Y=-56,142	N-45°-W	0.28	0.27	0.31	楕円形	
4	30	X=44,508 Y=-56,140 Y=-56,141	N-12°-E	0.58	0.52	0.44	楕円形	
4	31	X=44,521 Y=-56,135 Y=-56,136	N-46°-E	0.20	0.18	0.35	楕円形	
4	32	X=44,523 Y=-56,132 Y=-56,133	N-13°-E	0.54	0.47	0.73	楕円形	
10	133	X=44,490 Y=-56,124	N-30°-W	0.44	0.42	0.48	楕円形	
10	134	X=44,400 Y=-56,123	N-63°-W	0.24	0.18	0.08	楕円形	
10	135	X=44,399 Y=-56,123	N-5°-W	0.23	0.17	0.22	楕円形	36号ピッ ト→35号 ピット
10	136	X=44,399 Y=-56,123	N-36°-W	0.33	0.25	0.40	楕円形	36号ピッ ト→35号 ピット
10	137	X=44,400 Y=-56,122 Y=-56,123	N-40°-E	0.35	0.27	0.21	楕円形	
10	138	X=44,402 Y=-44,403 Y=-56,123	N-37°-W	0.35	(0.32)	0.24	楕円形	
10	139	X=44,404 Y=-56,123 Y=-56,124	N-33°-W	0.35	0.32	0.11	楕円形	
10	140	X=44,411 Y=-56,127	N-48°-W	0.33	0.30	0.21	楕円形	
11	241	X=44,374 Y=-56,116	N-37°-W	0.34	0.28	0.29	楕円形	
11	242	X=44,370 Y=-56,114 Y=-56,115	N-5°-E	0.38	0.36	0.17	楕円形	
11	243	X=44,368 Y=-44,369 Y=-56,114 Y=-56,115	N-82°-W	0.48	0.42	0.13	楕円形	44号ピッ ト→43号 ピット
11	244	X=44,368 Y=-44,114	N-82°-W	0.27	0.25	0.22	楕円形	44号ピッ ト→43号 ピット
11	245	X=44,366 Y=-56,114	N-50°-W	(0.45)	0.37	0.35	楕円形	
11	246	X=44,371 Y=-56,115 Y=-56,116	N-79°-W	0.32	0.27	0.06	楕円形	
11	247	X=44,368 Y=-56,114	N-23°-E	0.33	0.30	0.29	楕円形	
11	248	X=44,364 Y=-56,114	N-15°-W	0.43	(0.17)	0.13	(楕円形)	
11	249	X=44,364 Y=-56,112 Y=-56,113	N-17°-W	0.38	(0.26)	0.17	楕円形	
11	250	X=44,368 Y=-56,114 Y=-56,115	N-79°-E	0.33	(0.17)	0.11	(楕円形)	

第3章 検出された遺構と遺物

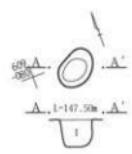


0 1:40 1m

第89図 1号～14号ビット

第6節 ピット

1区15号ピット



1区16号ピット



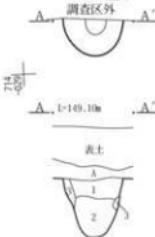
1区17号ピット



1区18号ピット



9区19号ピット



15号ピット A-A'

1 黄褐色砂質土と暗褐色砂質土の混上。炭化物粒含む。

16号ピット A-A'

1 喀褐色土 炭化物粒、燒土粒含む。

17号ピット A-A'

1 喀褐色土 黄褐色土少量。鉄分凝集が見られる。

18号ピット A-A'

1 喀褐色土 均質でしまりと粘性の弱い層。表土に類似する。

19号ピット A-A'

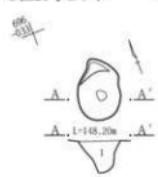
A 表土と黒色土と砂質ロームの混上。

1 黄褐色土(10YR4/2) ローム粒(灰黄褐色6/2:砂質)、炭化物を含む;

2 黄褐色土(10YR4/2) 砂質ローム粒(ϕ 2 mm)、砂質ロームブロック(ϕ 40mm)多量。

3 黄褐色ロームブロック2次堆積。

9区20号ピット



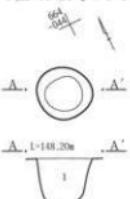
9区21号ピット



1区-A 22号ピット



1区-A 23号ピット



9区24号ピット



20号ピット A-A'

1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ブロック(ϕ 10 ~ 20mm)を含む。

21号ピット A-A'

1 喀褐色土(10YR3/3) 黒色土ブロック2%。

2 喀褐色土(10YR3/3) 水性ロームブロック(褐灰色土) 30%。

3 喀褐色土(10YR3/3) 褐灰色ブロック5%。

22号ピット A-A'

1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒(ϕ 1 mm)少量。

23号ピット A-A'

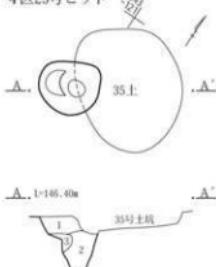
1 黑褐色土(10YR3/2) 灰白色粒(ϕ 1 mm)、ローム粒少量。

24号ピット A-A'

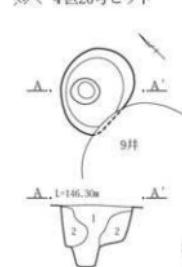
1 喀褐色土(10YR3/3) しまりあり。

2 喀褐色土(10YR3/3) 水性ローム土20%。黒褐色土10%。

4区25号ピット



4区26号ピット



4区27号ピット



4区28号ピット



25号ピット A-A'

1 黑褐色(10YR3/2) 灰白色軽石(ϕ 2 mm)少量。

2 褐灰色土(10YR4/1) 灰白色シルト質土粒子多量。

3 シルト質土(地山)の2次堆積土。

26号ピット A-A'

1 黑褐色土(10YR3/2) しまりあり。灰白色軽石粒(ϕ 1 ~ 2 mm)少量。

2 喀褐色土(10YR3/3) しまりあり。灰白色軽石粒(ϕ 1 ~ 2 mm)少量。

27号ピット A-A'

1 褐灰色土(10YR4/1) やや砂質しまりない。

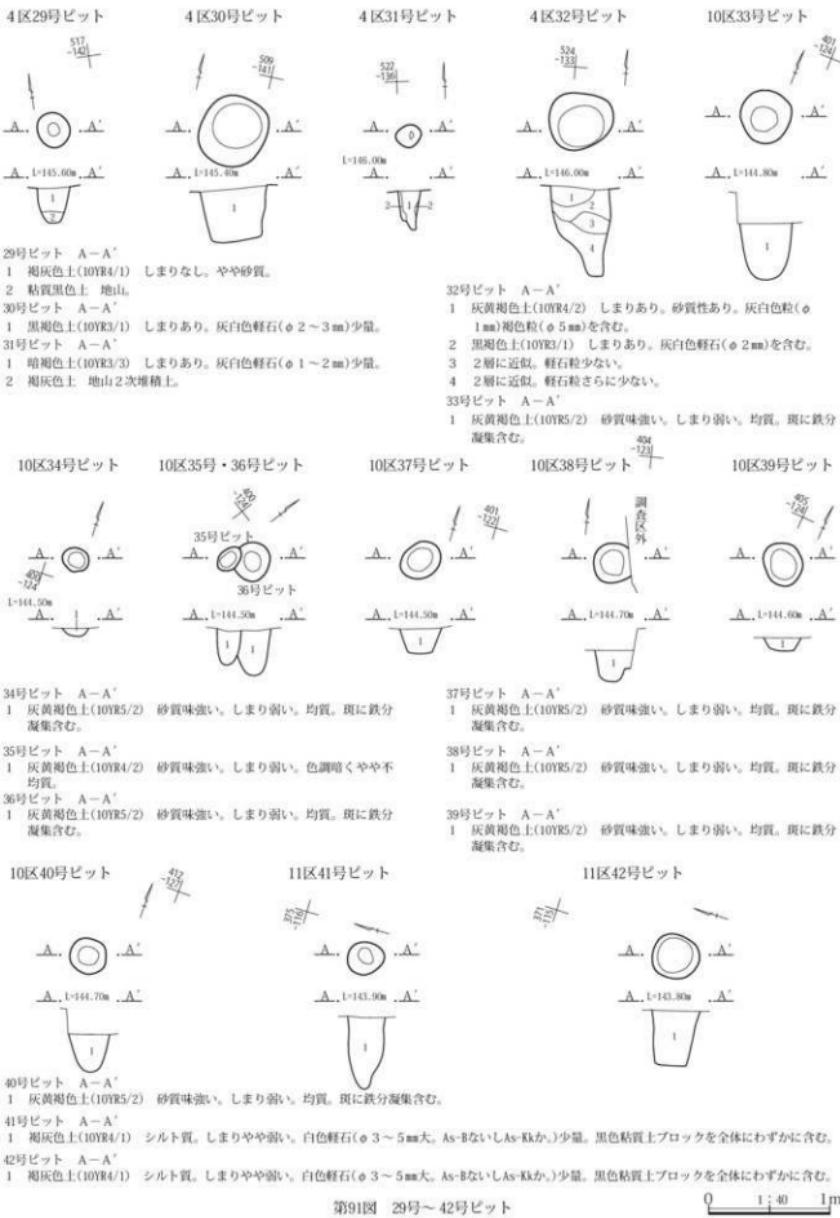
28号ピット A-A'

1 褐灰色土(10YR4/1) しまりなし。やや砂質。

第90図 15号～28号ピット



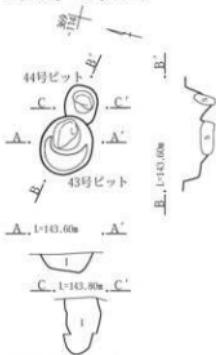
第3章 検出された遺構と遺物



第91図 29号～42号ピット

第6節 ピット

11区43号・44号ピット



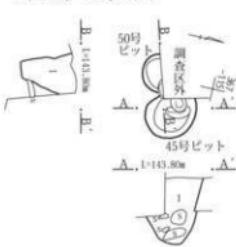
43号ピット A-A'

1 底灰褐色土(10YR5/2) 白色軽石(φ 3~5mm大, As-BないしAs-Kkか。) 少量。黒色粘質土ブロックを全体にわずかに含む。

44号ピット A-A'

1 底灰褐色土(10YR4/1) シルト質。しまりやや弱い。白色軽石(φ 3~5mm大, As-BないしAs-Kkか。) 少量。黒色粘質土ブロックを全体にわずかに含む。

11区45号・50号ピット



45号ピット A-A'

1 底灰褐色土(10YR4/1) シルト質。しまりやや弱い。白色軽石(φ 3~5mm大, As-BないしAs-Kkか。) 少量。黒色粘質土ブロックを全体にわずかに含む。

50号ピット A-A'

1 底灰褐色土(10YR4/1) シルト質。しまりやや弱い。白色軽石(φ 3~5mm大, As-BないしAs-Kkか。) 少量。黒色粘質土ブロックや多い。

46号ピット A-A'

1 底黄褐色土(10YR5/2)

11区47号ピット



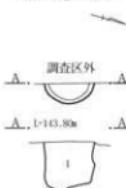
47号ピット A-A'

1 底黄褐色土(10YR5/2) 白色軽石を含む。

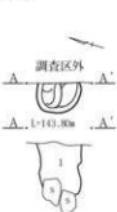
48号ピット A-A'

1 底灰褐色土(10YR4/1) シルト質。しまりやや弱い。白色軽石(φ 3~5mm大, As-BないしAs-Kkか。) 少量。黒色粘質土ブロックを全体にわずかに含む。

11区48号ピット



11区49号ピット



49号ピット A-A'

1 底灰褐色土(10YR4/1) シルト質。しまりやや弱い。白色軽石(φ 3~5mm大, As-BないしAs-Kkか。) 少量。黒色粘質土ブロックを全体にわずかに含む。

0 1:40 1m

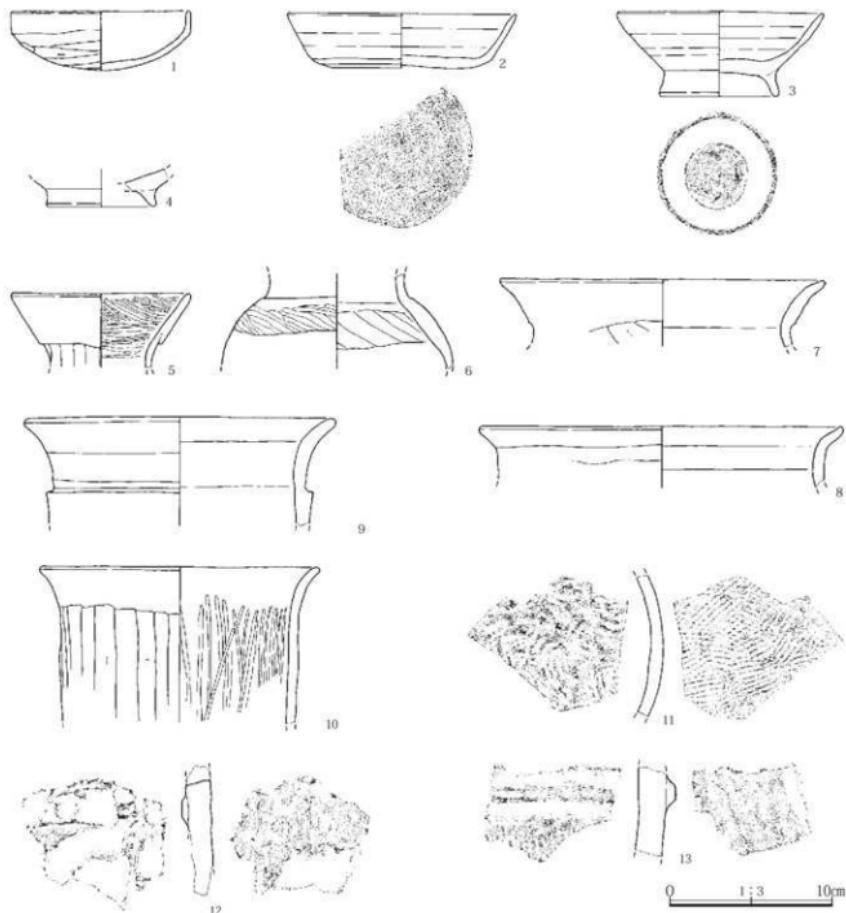
第92図 43号～50号ピット

第7節 遺構外出土遺物

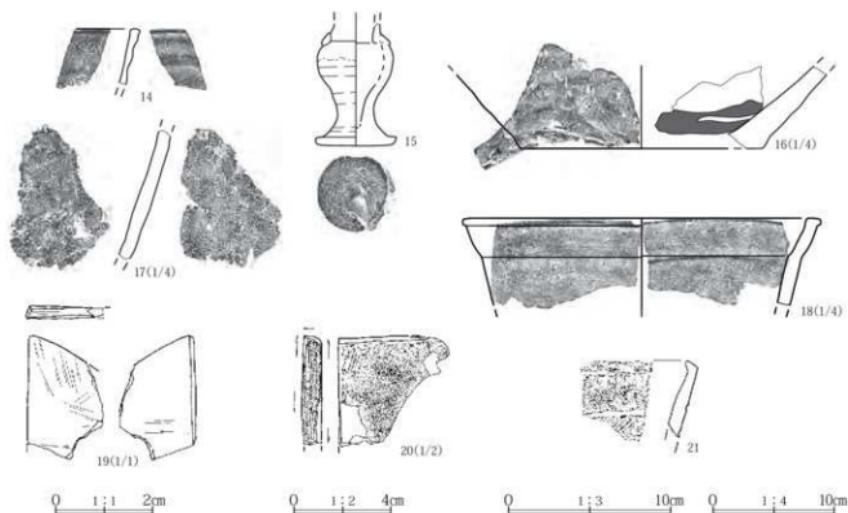
(第93・94図、PL. 65)

特定の遺構からの出土でない遺物が、21点出土している。時期は縄文時代から近世までである。縄文時代後期の深鉢(21)、古墳時代の壺2点(5・6)埴輪の破片(12・13)土師器壺3個(7・9・10)須恵器壺破片(11)、奈良

時代の土師器杯(1)須恵器杯(2)、平安時代の土師器壺(8)須恵器椀(3)、中世の古瀬戸おろし皿(14)、中近世の常滑の甕(17)鉢(16)内耳鍋(18)花瓶(15)、近現代の石板(19)研石(20)等である。縄文時代と弥生時代以外の遺物は、遺跡内から確認された遺構と同じ時代である。



第93図 遺構外出土遺物(1)



第94圖 遺構外出土遺物(2)

第4章　まとめ

第1節 前橋市0891遺跡について

発掘は道路拡幅工事に伴うものであり、南北方向に細長い発掘区である。全長は南北約460m、幅は5m前後が多く、狭いところで約1m、最も広い4区で11mである。調査調査の結果、古墳時代から江戸時代までの多くの遺構と遺物が確認されている。

遺跡は旧粕川村大字深津字本郷を中心とし(2区～12区)、北側(1区・9区)が大字女瀬字根樋である。本郷の東は本郷東、南東方向に本郷前がある。それぞれの地名の中心地と思われる付近は微高地で多くの建物が建っているが、周辺は水田地帯となっている。微高地である1区～6区と9区は、建穴建物や土坑・溝・井戸等が確認されているが、低地部分である発掘南の7区・8区・10区・11区・12区ではそれらの遺構はなかった。

発掘調査により古墳時代から平安時代までの竖穴建物29棟、同じ頃と思われる竖穴状遺構4棟、古墳時代から近世までの井戸12基、溝11条、土坑30基、ピット50基を確認することができた。竖穴建物の時代は古墳時代から平安時代であった。他の遺構は、竖穴建物と同じ時代と、それ以降の中世と思われる。中世末から近世にかけて周辺には多くの館や城が作られる。この頃の遺構として3区と4区周辺に作られた深津の寄居の存在が指摘されている。(引用文献2)

第2節 古墳時代の土器について

竖穴建物29棟を中心として、多くの土坑・井戸・溝等から土器が出土している。幅の狭い調査区であり、竖穴建物等の全体を発掘調査出来た建物は少なく、遺物の出土量も少なかった。その中で完形品に近い多くの土師器を良好な状態で出土した建物が23号竖穴建物であり、完形品は少ないが多くの土師器等を出土しているのが、5号・7号・11号・21号・18号・30号竖穴建物等である。それらの土器年代は古墳時代の5世紀後半から平安時代の9世紀前半である。6世紀前半・7世紀後半・8世紀

前半、および9世紀後半以降の竖穴建物は遺跡内には存在していたと思われるが、発掘調査されていない。これらの土器の中から古墳時代の土器について、最も古い23号竖穴建物の一括遺物を第1段階、11号・16号・18号竖穴建物を第2段階、10号・15号竖穴建物を第3段階として、以下概要を説明する。

第1段階（5世紀後半想定）

この段階の土器は、内斜口縁の杯(1・2・3)と模倣杯(杯蓋)(4・5・6)が出土している。カマド内で同時に使用されていた甕(11・12)の器面は密であり、小石等の混入は認められない。カマド両袖の芯材として口縁部を下にして据えられていた使われた甕(16・17)も器面は密であり、小石等の混入は認められない。杯は杯蓋模倣であり杯身模倣は基本的に出土しない。内斜口縁杯は深く、底部は丸く凹状となっている。

カマド手前の32号土坑付近から出土した丸胴の甕(18・19)は、胴部が大きく張り出している。その南側から大小の甕(20・21)が近接して出土している。甕はカマドに据えられて甕(11・12)同様に大小と使い分けられていたものと思われる。

第2段階（6世紀後半想定）

この段階の土器は内斜口縁杯が使われなくなり、第1段階では出土しなかった模倣杯(杯身)(1・2・3)が出土している。甕は胴部が直線的に長胴化し(22・23)、胴部外面のヘラ削りが垂直方向に直線となってくる。胎土中に小石を多く混入させた甕も多く作られている。

第3段階（7世紀前半想定）

この段階の土器は、土師器杯の口径および器高が小さくなる(1・2)。甕(4・5・6)がさらに長胴化し、器肉が薄くなる。甕の最大径は、第1段階では胴部中央付近、第2段階では口縁部と胴部中央付近がほぼ同じ、第3段階では口縁部となる。

竖穴建物から出土した土器は、生活段階で使用していた土器のすべてではなく、竖穴建物が廃棄された段階で残されたものが多い。23号竖穴建物は、一部の調査であったが、生活の様子を良好に残した建物であった。

第1段階

杯



239建-2



239建-3

高杯



239建-10

鉢



239建-7

ミニチュア模型



239建-10

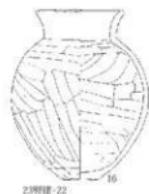
壺



239建-25



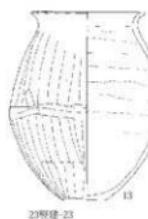
239建-27



239建-22



239建-24



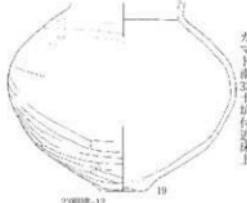
239建-23



239建-30



239建-13



239建-12



239建-29

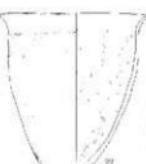


239建-20

壺



239建-20



239建-21



239建-14

0 1:8 20cm

第95図 穂穴建物出土土器(1)

第2段階

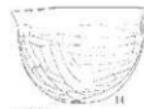
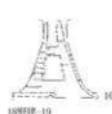
杯



杯

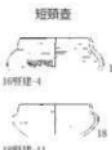
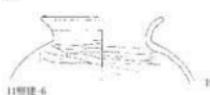


高杯



1099建-3

壺



1099建-8



1099建-11

壺

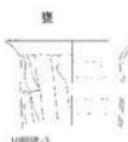


1099建-16

1099建-4

第3段階

杯



1099建-3



0 1 8 20cm

第96図 墓穴建物出土土器(2)

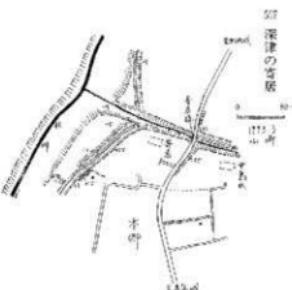
第3節 深津の寄居について

調査北側3区と4区の間に東から西側に流れる細い川がある。川は調査区西約100m付近で東側の桂川と直交し合流している。川には寄居橋が架けられており、山崎一氏は、この橋南側が寄居と呼ばれている場所であり、深津の寄居(中世末頃・引用文献4)とし、川(流路)は恐らく寄居の北堀流路とした利用したものであろうと報告している。

寄居とはどのような構造の施設であったのか不明であるが、小さな館相当の敷地を必要としたと仮定して、川北と南を比較検討したい。川を境に土地区割りを明治六年壬申地引絵図(第97図)と昭和35年前後作成と思われる柏川村全図の深津字本郷付近(第98図)で比較検討する。

壬申地引絵図には川の北側(3区)に大きな東西方向の畠があり、畠三反四畝九歩(約1029坪・3401.7m²)所有者の書かれている場所に個人名でなく西福寺と記入されている。川の南側(4区)には、敷地面積が1~7畝と狭い屋敷や畠が密集している。周辺で三反歩のまとまった敷地は見当たらない。おそらく西福寺と記入されている広い場所は他の畠や屋敷と異なった用途で使われていたものと思われる。3区北側に接する1区・2区の2号・4号井戸の中から12世紀中葉以降の青磁の破片が出土している。他の場所から青磁は出土していない。表土と地層および竪穴建物床面高を比較すると、北側の3区は4区より1~1.5m高くなっている。川の北と南側は古墳時代以前から段差のある地形である。

山崎一氏が指摘した深津の寄居は、川南の狭い区画が集中している一段低い区画ではなく、川北の明治六年頃西福寺の所有地となっていた1,023坪の広い敷地と考えられないだろうか。



第97図 深津の寄居(引用文献4)



第98図 深津の寄居付近の図 明治(引用文献75)



第99図 深津の寄居付近の図 昭和(引用文献76)



3区・4区(深津の寄居)付近空撮 (南上空から)

遺物觀察表

第8表 遺物觀察表

3号堅穴建物

拂 図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第16回 PL.54	1	土師器 杯	覆上 口縁部~体部小 片	口 底	14.0		繊砂粒/良好に/ぶ い覗	口縁部は横ナデ、体部はナデ。		
第16回 PL.54	2	須恵器 碗	覆上 1/2	口 底	13.0	高 5.6	4.0 繊砂粒・粗砂粒・ 礫/還元焰/灰	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。		
第16回 PL.54	3	須恵器 盞	覆上 胴部片				繊砂粒・粗砂粒・ 礫/還元焰/灰	叩きぬめ成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ 貝殻が残る。		
第16回 PL.54	4	須恵器 盞	床面 胴部片				繊砂粒/還元焰/灰	叩きぬめ成形。外面の平行叩き痕はナデ消され微かに残る が原因であるが、内面は同心円状アテ貝殻が残る。		
第16回 PL.54	5	須恵器 盞	覆上 胴部片				繊砂粒・粗砂粒・ 礫/還元焰/灰黄	叩きぬめ成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ 貝殻が残る。		
第16回 PL.54	6	石製品 砥石		長 幅	6.1	厚 3.4	重 85.2	3.1 砥石/	四面使用。各面に縦条痕が良く残る。糸巻状を呈す砥石が 中央付近で破損したもので、砥石上端部・破損面とも研磨 整形されている。	

4号堅穴建物

第17回 PL.54	1	土師器 杯	床面 ほぼ定形	口 底	12.7	高 5.6	3.9 繊砂粒・粗砂粒/ 良好に/ぶい黄褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持 ちヘラ削り。	
第17回 PL.54	2	土師器 高杯	盤方 脚部~杯部下位			底 5.2	繊砂粒/良好/明褐色	杯部と台部の接合状態不規。脚部は台部ともヘラ削り。内 面は杯部がヘラミガナ、脚部はナデ。	

5号堅穴建物

第20回 PL.54	1	須恵器 杯	床面 3/4	口 底	13.5	高 7.6	4.0 繊砂粒/還元焰/ 燒に/ぶい黄褐	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第20回 PL.54	2	須恵器 杯	覆上 1/2	口 底	14.8	高 8.8	3.6 繊砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。底部は 叩きぬめ高台状を呈す。	
第20回 PL.54	3	須恵器 杯	覆上 口縁部~底部小 片	口 底	13.4	高 9.6	3.0 繊砂粒/還元焰/灰	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第20回 PL.54	4	土師器 鉢	カマド 口縁部~体部片	口	13.2		繊砂粒/良好/明褐色	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削りか、器面摩滅のた め單字不明。内面は体部にヘラナデ。	
第20回 PL.54	5	須恵器 盞	盤方 胴部小片				繊砂粒/還元焰/暗 灰	叩きぬめ成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ 貝殻が残る。	
第20回 PL.54	6	土師器 高杯	カマド右袖 口縁部~胴部下 位	口 胴	20.4	20.1	繊砂粒/良好/明水 褐色	口縁部から頭部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。	
第20回 PL.54	7	須恵器 盞	カマド 胴部下半片				繊砂粒/酸化塩化/柏 灰	叩きぬめ成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ 貝殻が残るが、外面部とも1.5~2.5cm間隔に数枚単位の カキメを施す。	

6号堅穴建物

第22回 PL.54	1	土師器 杯	床面 口縁部~底部片	口 底	12.0		繊砂粒/良好に/ぶ い覗	口縁部は横ナデ、体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。	
第22回 PL.54	2	土師器 杯	覆上 口縁部~底部片	口 底	11.1		繊砂粒/良好に/ぶ い覗	口縁部は横ナデ、体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。	
第22回 PL.54	3	須恵器 台付杯	カマド 底	底 台	8.0		繊砂粒/還元焰/灰	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第22回 PL.54	4	須恵器 盞	覆上 底部~胴部下 位片		底 8.2		繊砂粒/還元焰/黃 灰	クロロ整形、回転は右回り。高台は貼付。胴部は回転ヘラ 削り後ヘラナデ。	
第22回 PL.54	5	須恵器 盞	覆上 口縁部~頭部片	口	20.2		繊砂粒/還元焰/褐 灰	クロロ整形、回転は右回りか。口縁部下に小規模な凸帯を作 り、口縁部は間隔の粗ハケメが残る。	

7号堅穴建物

第24回 PL.54	1	土師器 杯	床面 口縁部~底部片	口 底	11.0		繊砂粒/良好に/ぶ い覗	口縁部は横ナデ、体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。	
第24回 PL.54	2	須恵器 盞	床直 底部~体部	台	7.0		繊砂粒/還元焰/黃 灰	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第24回 PL.54	3	須恵器 盞	盤方 天井部片				繊砂粒/還元焰/黃 灰	クロロ整形、回転は右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削 り。	
第24回 PL.54	4	須恵器 盞	盤方 1/3	口 底	13.0	高 8.3	4.3 繊砂粒/還元焰/灰 黄	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲と周 縁を回転ヘラ削り。	
第24回 PL.54	5	須恵器 盞	覆上 底部~体部片	底	7.2		繊砂粒/還元焰/灰 黄	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第24回 PL.54	6	土師器 高杯	床面 口縁部~頭部	口	19.5		繊砂粒/良好/橙	口縁部から頭部は横ナデ。	
第24回 PL.54	7	在地系上器 片口鉢	口縁部	口 底	-	高 -	- 灰色氷器少量含む /灰/	口縁部上面はほぼ平坦で端部内面は内側に小さく突き出 る。	14世紀後半頃
第24回 PL.54	8	石製品 月子か	一部欠損	長		重		全体が鏡に覆われる。下の闇が不明瞭となる。茎の途中か ら割れる。	

9号堅穴建物

第26回 PL.54	1	須恵器 杯	覆上 口縁部片				繊砂粒/還元焰/灰	クロロ整形、回転は右回りか。	
第26回 PL.54	2	土師器 高杯	盤方 頭部片				繊砂粒/良好/橙	頭部は横ナデ、胴部はヘラ削り。	

10号堅穴建物

種類 PL.No.	種類 No.	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第278号 PL.55	1	土師器 杯 1/4	口 12.0 底 11.0	高 2.6 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、縫下から底部は手持ちヘラ削り。	
第278号 PL.55	2	土師器 杯 完形	口 10.8 底 10.7	高 3.4 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、縫下から底部は手持ちヘラ削り。	
第278号 PL.55	3	土師器 甕 カマド 口縁部～胴部上 位片	口 21.2	細砂粒/良好/にふ い黄褐	口縁部は横ナデ、胴部は下から頸部に向けてのヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第278号 PL.55	4	甕文土器 深鉢 10号堅穴建物 剥片	長 (4.0) 厚 (6.9) 幅 (6.9) 重	0.7 細粒砂、石英、黒 雲母/良好/浅黄	内湾する。L.R.甕文横回転。内面横ナデ。無文部分は甕文無文のち、擦り消す。	

11号堅穴建物

第298号 PL.55	1	土師器 杯 1/3	口 12.8 底 14.2	高 4.1 細砂粒/良好/にふ い黄褐	口縁部は横ナデ、縫下から底部は手持ちヘラ削り。内外面とも焼し焼成。	杯身横倣
第298号 PL.55	2	土師器 杯 口縁部～底部片	口 13.8 底 13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、縫下から底部は手持ちヘラ削り。	杯身横倣
第298号 PL.55	3	土師器 大型杯 1/4	口 19.6 底 18.0	高 6.8 細砂粒/良好/にふ い黄褐	口縁部は横ナデ、縫下から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部がヘラナデ。口縁部中位にごく細い内縫が巡る。	
第298号 PL.55	4	土師器 小型甕 口縁部～胴部上 半片	口 14.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削りか、器面摩滅のため単位不明。内面胴部はヘラナデ。	
第298号 PL.55	5	土師器 甕 口縁部～胴部片	口 18.6	細砂粒/良好/灰 褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。口縁部中位に段を作れる。	
第298号 PL.55	6	土師器 甕 口縁部～胴部上 位片	口 19.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にふい黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。胴部は球状を呈す。	
第298号 PL.55	7	土師器 小型甕 口縁部～胴部片	口 15.8 制 16.2	細砂粒/良好/にふ い黄褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。胴部最大径は下半である。	
第308号 PL.55	8	土師器 甕 底面 底部～胴部下位 片	制 29.0 底 8.7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/浅黄	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。底部付近は器面剥落のため不明。	
第308号 PL.55	9	須恵器 甕 底面 胴部片		細砂粒/還元塗/黄 灰	叩き締め成形。外腹は平行叩き痕が残るが、2~3cm間隔に織いナデが施されている。内面は同じ内状アテ具痕が残る。	

12号堅穴建物

第311号 PL.55	1	土師器 甕 カマド 口縁部～胴部上 位片	口 15.2	細砂粒/良好/にふ い黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
----------------	---	----------------------------------	--------	------------------	--------------------------------	--

13号堅穴建物

第321号 PL.55	1	土師器 杯 口縁部～底部片	口 11.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
----------------	---	---------------------	--------	----------	-------------------------	--

14号堅穴建物

第358号 PL.56	1	土師器 杯 完形	口 10.1 底 11.0	高 4.3 細砂粒/良好/にふ い黄褐	口縁部は横ナデ、縫下から底部は手持ちヘラ削り。外面は焼し焼成。	杯身横倣
第358号 PL.56	2	土師器 杯 1/2	口 12.4 底 11.6	高 4.4 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、縫下から底部は手持ちヘラ削り。	
第358号 PL.56	3	土師器 杯 カマド 1/4	口 15.2 底 9.4	高 4.4 細砂粒・粗砂粒/ 良好/焼・灰黄 褐色	口縁部は横ナデ、縫下から底部は手持ちヘラ削り。内面は口縁部下にヘラミガキ。外側とも焼し焼成。	
第368号 PL.56	4	土師器 杯 口縁部～底部 半片	口 15.6 底 9.5	高 4.3 細砂粒/良好/焼 し/黒褐	口縁部は横ナデ、縫下から底部は手持ちヘラ削り。外側とも焼し焼成。	
第368号 PL.56	5	土師器 甕 カマド 口縁部～胴部上 位片	口 20.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/焼 褐色	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。胴部最大径は下半である。	
第368号 PL.56	6	土師器 小型甕 カマド 制部～底部	底 4.2	細砂粒/良好/橙	底部には木葉痕が残る。胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第368号 PL.56	7	土師器 甕 覆土 底部	底 7.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	底部はヘラ削り、内面はナデ。胴部は打ちついで再利用か。	
第368号 PL.56	8	土師器 甕 カマド 底部～胴部下位	底 7.3	細砂粒/良好/にふ い黄褐	底部と胴部はヘラ削り、内面は器面摩滅のため単位不明。内面はヘラナデ。	

15号堅穴建物

第377号 PL.56	1	土師器 甕 床面 口縁部～胴部上 半片	口 23.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部は頸部から下に向けてのヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第378号 PL.56	2	土師器 甕 覆土 口縁部～胴部上 位片	口 19.8	細砂粒/良好/橙	外腹頸部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部は下から頸部に向けてのヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第378号 PL.56	3	土師器 小型甕 床面 1/2	口 14.8 制 14.8	高 12.5 細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ。胴部から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第378号 PL.56	4	須恵器 甕 覆土 胴部片		細砂粒/還元塗/黄 灰	クロコ整形。胴部に2条の凹線が巡る。	

遺物觀察表

16号堅穴建物

種類 PL.No.	種類 No.	器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38回 PL.57	1	土師器 杯	床面 完形	口 14.3 縦 12.3	高 5.6 細砂粒/良好/にぶい黄柾	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、縦下から底部は手持ちヘラ削り。	
第38回 PL.57	2	土師器 杯	覆上 口縁部～底部	口 12.0 縦 13.2	高 4.2 細砂粒/良好/にぶい黄柾	口縁部は横ナデ。内面は底部から体部にヘラナデ。	
第38回 PL.57	3	土師器 鉢	床面 2/3	口 22.5 縦 13.0	高 15.6 細砂粒/良好/にぶい黄柾	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部にヘラナデ。	
第38回 PL.57	4	須恵器 短壺	覆上 口縁部～胴部上 半片	口 11.6 縦 15.8	高 8.6 細砂粒/還元焰/暗灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部中位に凹窓を設け、その中に波状文を施す。	
第38回 PL.57	5	土師器 壺	床面 底面～胴部下位	口 8.6	細砂粒/良好/にぶい黄柾	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第38回 PL.57	6	釘	一部欠損	長 4.7 幅 0.4	厚 0.4 重 2.1	一部木片が付着する。頭は折れが見られる。	有

17号堅穴建物

第39回 PL.57	1	灰陶器 壺	覆上 口縁部片	口 10.8	微砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法不明。	大原2号窯式 期
第39回 PL.57	2	土師器 杯	床面 ほぼ完形	口 11.8 縦 13.2	高 4.2 細砂粒/良好/焼 にぶい黄柾	口縁部は横ナデ、縦下から底部は手持ちヘラ削り。内外面とも焼成。	
第39回 PL.57	3	須恵器 甕	床面 口縁部～胴部片	口 27.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/オリーブ 黒	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部は上下に引く出されている。内面はヘラナデ。	
第39回 PL.57	4	須恵器 甕	覆上 口縁部～胴部上 位片	口 24.6 縦 23.0	高 8.6 細砂粒/還元焰/灰 黒	ロクロ整形、回転方向不明。胴部上位に断面三角形の凸部を貼付、口縁部は外側す平坦面を作る。内面は酸化焰状態。	

18号堅穴建物

第41回 PL.57	1	土師器 杯	床面 完形	口 11.0 縦 12.8	高 4.9 細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄柾	口縁部は横ナデ、縦下から底部は手持ちヘラ削り。	杯身櫛倣
第41回 PL.57	2	土師器 杯	1/2	口 11.7 縦 12.6	高 3.8 細砂粒・粗砂粒/ 良好/焼 成	口縁部は横ナデ、縦下から底部は手持ちヘラ削り。内外面とも焼成。	杯身櫛倣
第41回 PL.57	3	土師器 杯	1/4	口 12.4 縦 11.1	高 4.2 細砂粒/良好/焼	口縁部は横ナデ、縦下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第41回 PL.57	4	土師器 杯	覆上 口縁部～底部片	口 13.8 縦 12.0	高 4.8 細砂粒/良好/灰 黒	口縁部は横ナデ、縦下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部に段を作った。	有段口縁杯
第41回 PL.57	5	土師器 杯	覆上 口縁部～底部片	口 11.8 縦 10.1	高 4.2 細砂粒/良好/にぶい黄柾	口縁部は横ナデ、縦下から底部は手持ちヘラ削り。	
第41回 PL.57	6	土師器 杯	覆上 口縁部～底部片	口 15.0 縦 14.8	高 5.0 細砂粒/良好/焼 黒	口縁部は横ナデ、縦下から底部は手持ちヘラ削り。内外面とも焼成。	
第41回 PL.57	7	土師器 杯	覆上 口縁部片		細砂粒/良好/焼	口縁部は横ナデ。位に段を作った。	有段口縁杯
第42回 PL.57	8	手捏ね土器 瓶	口 3/4	口 6.9	細砂粒/良好/黒	口縁部から体部は内外面ともナデ。	
第42回 PL.57	9	土師器 鉢	口縁部～体部片	口 9.0 縦 11.7	高 12.0 細砂粒/良好/焼 にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部下半にヘラミガキ、体部上半はヘラナデ。外面上に焼成。	盤形
第42回 PL.57	10	土師器 鉢	覆上 1/2	口 21.2 高 9.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄柾	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部下半にヘラナデ。	
第42回 PL.57	11	須恵器 短壺	口縁部～胴部	口 11.6 縦 14.0	高 4.0 細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第42回 PL.57	12	須恵器 高杯	杯部底部片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。杯部底部は回転ヘラ削り。	
第42回 PL.57	13	須恵器 壺	口縁部～胴部	頭 12.6 胴 15.0	粗砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第42回 PL.57	14	土師器 甕	覆上 口縁部～胴部上 位片	口 23.6	細砂粒/良好/にぶい黄柾	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り、一部にヘラミガキ。内面胴部はヘラナデ。	
第42回 PL.57	15	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口 18.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄柾	口縁部から頭部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第42回 PL.57	16	土師器 甕	覆上 口縁部～胴部上 位片	口 28.6	細砂粒/良好/にぶい黄柾	口縁部から頭部は横ナデ。胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第42回 PL.57	17	土師器 甕	瓶方 口縁部～胴部上 位片	口 19.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄柾	口縁部から頭部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第42回 PL.58	18	土師器 甕	カマド 胴部片		細砂粒/良好/黒	外面上はヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第42回 PL.58	19	須恵器 高杯	脚部片	脚 13.6	細砂粒/還元焰/オ リーブ黒	ロクロ整形、回転は右回りか。脚部はカキミ、中位に2条の凹窓を施す。	

21号堅穴建物

第46回 PL.58	1	土師器 杯	3/4	口 13.0 縦 10	高 3.6 細砂粒/良好/粗 黄柾	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	内面底部× のに削書
第46回 PL.58	2	土師器 杯	2/3	口 13.8 高 4.1	細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持 ちヘラ削り。	

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	施工/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第46回 PL.58	3	土師器 杯	3/4 高	口 13.7 底 3.4	細砂粒/良好/明闇 褐色	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第46回 PL.58	4	土師器 杯	1/4	口 13.0	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第47回 PL.58	5	土師器 杯	覆上 1/3	口 13.0 0 0	細砂粒/良好/に赤 い黄褐色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第47回 PL.58	6	土師器 杯	カマド 底 1/3	口 13.8 底 11.0	細砂粒/良好/橙 色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第47回 PL.58	7	黒色土器 杯	カマド 1/5	口 12.8 底 5.0	細砂粒/還元焰 み/黒	クロロ整形。内外面ヘラミガキ、外面は表面が荒れており単位不規。	
第47回 PL.58	8	土師器 杯	口 高 3.6	口 14.2 底 11.0	細砂粒/良好/褐 色	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第47回	9	土師器 杯	1/4	口 15.2 底 11.2	細砂粒/良好/橙 色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第47回	10	土師器 杯	口縁部～底部片 底	口 13.8 底 11.0	細砂粒/良好/橙 色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第47回	11	須恵器 杯	底部～体部下位 辺	底 11.0	細砂粒/還元焰/灰 黃	クロロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第47回	12	須恵器 杯	覆上 口縁部～体部片	口 14.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黃	クロロ整形。回転は右回り。体部下位は回転ヘラ削り。	
第47回 PL.58	13	須恵器 杯	1/3	口 13.2 底 8.0	細砂粒/還元焰/灰 黃	クロロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。底部は疑似高台状を呈す。	
第47回 PL.58	14	須恵器 杯	3/4	口 13.6 底 8.1	細砂粒/還元焰/褐 色	クロロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第47回	15	須恵器 鉢または桶	底部～体部下位 片	底 7.6	細砂粒・粗砂粒/ 醸化焰・焼/灰黃	クロロ整形。回転は右回り。底部と底部周縁は回転ヘラ削り。内外面とも焼し焼成。	
第47回	16	須恵器 盤	覆上 口縁部片		細砂粒/還元焰/灰 黃	クロロ整形。口唇部は肥厚し。下方に引き出されている。	
第47回	17	土師器 盤	口縁部～胴部上 位片	口 20.8	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第47回	18	土師器 盤	口縁部～胴部上 位片	口 24.0	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第47回	19	土師器 盤	口縁部～胴部上 位片	口 23.8	細砂粒/良好/橙 色	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第47回	20	須恵器 盤	胴部		細砂粒/還元焰/灰 黃	叩き締め成形。外表面は平行叩き痕が残るが、内面のアテ具痕はナデ消されている。	
第47回 PL.58	21	石製品 白玉	-	0.8 厚 重 (0.2) 0.2 滑石/		白玉上半部破片。上孔面は著しく摩耗。わずかながら擦剥痕が残る。体部表面は幅広く、斜めタイプ。片理に影響されて破損したもの。形態的には太鼓状、圓錐を呈する。	
第47回 PL.58	22	礫石器 四門	長 幅 10.6	12.4 厚 重 6.7 H88.1	粗粒輝石安山岩/	背面中央側付近にバタ状の打痕が集中するほか、深み部の周辺に摩耗痕がある。礫面にはスリジが付着した痕跡があり、熱被しヒビ割れたものか。	
第47回 PL.58	23	礫石器 敲石	長 幅 7.7	10.5 厚 重 7.3 668.7	粗粒輝石安山岩/	断面三角形状を呈する礫の先端部および鍛錬部に打痕を伴う摩耗痕が広がる。上端側破損面は風化、破損した状態で使用されたものと見られる。	

22号堅穴建物

第49回	1	土師器 杯	覆上 口縁部～底部片	口 13.0	細砂粒/良好/橙 色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第49回	2	土師器 杯	覆上 口縁部～底部片	口 14.0	細砂粒/良好/に赤 い黄褐色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第49回 PL.58	3	土師器 杯	覆上 脚部上位～杯部 底部	口 11.2 高 10.2	4.1 細砂粒/良好/橙 色	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。	
第49回 PL.58	4	土師器 高杯	口縁部～底部片		細砂粒/良好/赤褐色 褐色	脚部と脚部の接合方法不明。脚部は横ナデ、杯に底部はナデ。	
第49回 PL.58	5	須恵器 杯	口縁部～底部片	口 12.4 10.9	細砂粒/良好/に赤 い黄褐色	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。外表面とも焼し焼成。	
第49回	6	須恵器 杯	口縁部～底部片	口 13.6 11.4	細砂粒/良好/に赤 い黄褐色	口縁部は横ナデ、継下から底部は手持ちヘラ削り。	
第49回	7	須恵器 杯	口縁部～体部片	口 14.0 10.4	細砂粒/還元焰/灰 オリーブ	クロロ整形。回転は右回り。	
第49回	8	土師器 大型杯	覆上 口縁部～穂片	口 21.0 20.2	細砂粒/良好/橙 色	口縁部は横ナデ、継下部体部は手持ちヘラ削り。	
第49回	9	須恵器 杯	覆上 底部～体部下位 片	底 9.0	細砂粒/還元焰/灰 黃	クロロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第49回 PL.58	10	土師器 小型壺	口縁部～胴部上 半片	口 10.0 13.0	細砂粒/やや軟質 橙色	口縁部から脚部は横ナデ、脚部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第49回 PL.58	11	土師器 壺	口縁部～胴部中 位	口 22.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/に赤い黄褐色	口縁部は横ナデ、脚部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

遺物觀察表

23号窓穴建物

種 類 PL. No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			口 横 高 幅 厚	12.1 11.5 高 4.9			
第51回 PL.59	1 土師器 杯	完形	口 横 高 幅 厚	12.1 11.5 高 4.9	細砂粒/良好/橙 褐色	口縁部は横ナデ、綾下から底部は手持ちヘラ削り。内面の一部にスグが付着。	杯蓋模倣
第51回 PL.59	2 土師器 杯	横方 1/2	口 高 幅 厚	12.4 4.8 10.2	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部に斜放射状のヘラミガキ。	内斜口縁杯
第51回 PL.59	3 土師器 杯	完形	口 横 高 幅 厚	11.5 11.5 高 5.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、綾下から底部は手持ちヘラ削りナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第51回 PL.59	4 土師器 杯	1/2	口 高 幅 厚	12.4 4.8 10.2	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、綾下から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋模倣
第51回 PL.59	5 土師器 杯	ほぼ完形	口 高 幅 厚	12.7 4.8	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	内斜口縁杯
第51回 PL.59	6 土師器 杯	ほぼ完形	口 高 幅 厚	13.1 5.1	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	内斜口縁杯
第51回 PL.59	7 高杯または 台付杯	口縁部～底部	口 横 高 幅 厚	13.0 11.0	細砂粒/良好/黄褐色	底部に鶴か台に移行する痕跡がみられる。口縁部は横ナデ、縦下から底部は手持ちヘラ削り。	
第51回 PL.59	8 土師器 高杯	脚部～杯部底部 片	脚 幅 厚	10.2	細砂粒/良好/明赤 褐色	杯部底部に突起を作り、脚部に差し込んで接合。脚部底部は横ナデ、他は器面摩滅のため整形不鮮明。	
第51回 PL.59	9 痘患器 高盤	脚部片			細砂粒・還元塩/灰 黄色	ロクロ整形、回転は右回り。外面はカキメ。	
第51回 PL.59	10 土師器 鉢	口縁部～脚部上 位片	口 横 高 幅 厚	16.8	細砂粒/良好/にぶ い黄柏	口縁部は横ナデ、体部は器面剥落により不明。内面体部はヘラナデ。	
第51回 PL.59	11 土師器 鉢	ニギヤヒ形 4/5	口 横 高 幅 厚	9.5 5.0	6.2 細砂粒/良好/煙 黒闇	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は器面摩滅のため不明。内面も燃し焼成。	
第51回 PL.59	12 土師器 壺	脚部～頭部 制 4/5	脚 横 高 幅 厚	19.0 5.0	8.6 細砂粒/良好/にぶ い黄柏	口縁部は横ナデ、脚部と底部はヘラ削り。脚部の一部は器面摩滅のため単位不明。内面は底部から脚部にヘラ削り。	
第52回 PL.59	13 土師器 壺	覆上 底部～頭部 制 4/5	脚 横 高 幅 厚	11.6 27.8	7.4 細砂粒/良好/橙 褐色	脚部は横ナデ、脚部と底部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。	
第52回 PL.59	14 土師器 壺	ほぼ完形	口 横 高 幅 厚	6.3 6.2 10.0 8.4	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、脚部上位はナデ、中位から底部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラ削り。内面に直径3mm程度の孔を対で穿る。	
第52回 PL.59	15 土師器 壺	脚部片	脚 横 高 幅 厚	14.4 7.0	細砂粒/良好/にぶ い黄柏	脚部はヘラ削り。内面はヘラナデ。内面脚部下半の一部に焼付が付着。	
第52回 PL.59	16 土師器 壺	ニギヤヒ形 完形	口 横 高 幅 厚	3.3 6.3 6.0 4.6	細砂粒/良好/にぶ い黒闇	脚部は2.7～1.2cmと厚い。脚部はヘラナデ、底部はヘラ削り。口脚部と内面の凹間はヘラ削りか、内面はナデ。	
第52回 PL.59	17 痘患器 壺	脚部片			細砂粒・還元塩/暗 灰 黑色	手縫補成形。外面は残存部下半に平行引き崩が残るが、上部はカキメ。内面は下半は同心円状アチ具崩が残るが上半はヘラナデ。	
第52回 PL.59	18 痘患器 壺	脚部片			細砂粒・還元塩/黄 灰	外面はカキメ、内面はヘラナデ。	
第52回 PL.59	19 痘患器 壺	カマド 口縁部片			細砂粒・還元塩/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。外面はカキメ。	
第52回 PL.60	20 土師器 壺	口縁部 底	口 横 高 幅 厚	19.0 7.9 20.0	細砂粒/良好/明褐色 褐色	口縁部は横ナデ脚部は縦方向のヘラミガキ。内面は脚部に斜めのヘラミガキ。	
第52回 PL.60	21 土師器 壺	ほぼ完形	口 横 高 幅 厚	24.3 7.7 25.2	細砂粒/良好/にぶ い黄柏	口縁部は横ナデ脚部は縦方向のヘラミガキ。内面は口縁部下半から脚部にヘラミガキ。脚部は縦方向のヘラミガキ。	
第53回 PL.61	22 土師器 壺	1/3	口 横 高 幅 厚	14.0 22.4 6.8 27.6 細砂粒/良好/にぶ い黄柏	内面脚部に輪積み段差がある。口縁部から脚部は横ナデ、脚部と底部はペラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。		
第53回 PL.61	23 土師器 壺	3/4	口 横 高 幅 厚	18.0 25.3 7.4 30.7 細砂粒・粗砂粒/ 良好/明褐色	口縁部から脚部は横ナデ。脚部と底部はペラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。		
第53回 PL.61	24 土師器 壺	完形	口 横 高 幅 厚	15.0 17.6 7.4 26.4 細砂粒・粗砂粒/ 良好/明褐色	口縁部から脚部は横ナデ。脚部と底部はペラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。		
第53回 PL.61	25 土師器 壺	完形	口 横 高 幅 厚	17.8 18.8 4.9 32.7 細砂粒/良好/にぶ い黄柏	口縁部から脚部は横ナデ。脚部と底部はペラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。		
第54回 PL.62	26 土師器 壺	覆上 4/5	口 横 高 幅 厚	16.4 22.0 7.6 32.8 細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙 褐色	口縁部は横ナデ。脚部と底部はペラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ。底部は2.5cmと厚く台状を呈す。		
第54回 PL.62	27 土師器 壺	ほぼ完形	口 横 高 幅 厚	13.9 14.7 6.5 23.0 細砂粒・粗砂粒/ 良好/明褐色	口縁部から脚部は縦方向のヘラミガキ。脚部下位は器面摩滅のため単位不明。内面は底部から脚部にヘラナデ。		
第54回 PL.62	28 土師器 壺	口縁部～脚部上 位片	口 横 高 幅 厚	18.4	細砂粒/良好/にぶ い黄柏	口縁部は横ナデ。内面は底部から脚部にヘラナデ。	
第54回 PL.62	29 土師器 壺	口縁部～脚部上 位片	口 横 高 幅 厚	18.8	細砂粒/良好/橙 褐色	口縁部は横ナデ。脚部は器面摩滅のため整形不明。内面脚部はヘラナデ。	
第54回 PL.62	30 土師器 壺	底部～脚部下平 片	底 横 高 幅 厚	6.6 18.8	細砂粒/良好/明赤 褐色	脚部と脚部はペラ削り。内面は底部から脚部がヘラナデ。	
第54回 PL.62	31 土師器 壺	底部～脚部下位	底 横 高 幅 厚	7.3	細砂粒/良好/にぶ い黄柏	底部と脚部はペラ削り。内面は底部から脚部がヘラナデ。	
第54回 PL.62	32 土師器 壺	覆上 多孔円盤	口 横 高 幅 厚		細砂粒/良好/褐	底面部にはめ込み使用か。径3mm程の孔が複数穿孔されている。	

27号竪穴建物

種類 PL.No.	種類 No.	器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第58回 PL.62	1	土師器 杯	腹方 1/2	口 接. 12.8 12.0	高 4.3	細砂粒/良好/焼 明赤褐色	口縁部は横ナデ、綾下から底部は手持ちヘラ削り。内外面とも焼成。	
第58回 PL.62	2	土師器 杯	覆上 口縁部～底部片	口 接. 15.7 16.6	高 3.5	細砂粒/良好/燒	口縁部は横ナデ、綾下から底部は手持ちヘラ削り。	
第58回 PL.62	3	織文土器 深杯	27号竪穴建物 胴部片	長(4.1) 幅(3.3)	厚 重	0.6 細粒砂、石英、黒 雲母/良好/黒	L型文を横方向に多重に施す。	

28号竪穴建物

第59回 PL.62	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 14.3		細砂粒/良好/燒	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第59回 PL.62	2	須恵器 蓋	摘	口 4.8		細砂粒/還元焰/黃 灰	クロロ整形、回転は右回り。摘はボタン状の粘土板を貼付し裏面をつまみ上げ積層に作る。	
第59回 PL.62	3	土師器 甕	1/2	口 22.6 底 6.6	高 31.8	細砂粒/良好/燒	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第59回 PL.62	4	土師器 甕	口縁部～胴部片	口 24.7		細砂粒/良好/燒	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第59回 PL.62	5	剥片石器 打斧		長 幅 10.6 5.5 厚 重	2.6 165.6	黑色頁岩	内側縁が弱く聞く。頭部側縁は着柄目的で、側縁をノック加工する。裏面側縁面は平坦な墨化剥離面となってしまっており、爪痕痕が無数にある。石器はローリングを受け、種々摩耗が著しい。	
第59回 PL.62	6	石製品 砾石		長(4.2) 幅(2.6) 厚(1.3) 重(1.8)		礫沢石	一面使用。両側面には、櫛歯タガネ状痕が残る。裏面側は破損してしまっているが、粗く磨き整形されている。	
第59回 PL.62	7	在地系土器 焙烙	口 底 (33.2) (33.8)	高 重	-	黑色鈍物含む/灰 白/	口縁部から体部外側表面は黒変、体部外面は墨縞状に斑む。底丸であるが、周縁付近で屈曲気味。	江戸時代末～明治前期

29号竪穴建物

第60回 PL.62	1	土師器 杯	口縁部～底部片	口 11.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削りか、器皿摩滅のため単位不明。
第60回 PL.62	2	須恵器 杯	口縁部～体部片	口 13.5		細砂粒/還元焰/黃 灰	クロロ整形、回転は右回り。
第60回 PL.62	3	須恵器 杯	口縁部～体部片	口 13.8		細砂粒/還元焰/灰 白	クロロ整形、回転は右回り。
第60回 PL.62	4	土師器 甕	口縁部～胴部片			細砂粒/良好/灰黄 褐色	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。

30号竪穴建物

第63回 PL.63	1	土師器 杯	覆上 ほぼ完形	口 底 12.5 9.3	高 3.1	細砂粒/良好/燒	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第63回 PL.63	2	土師器 杯	2ピット 1/2	口 底 13.6 3.3	高 3.3	細砂粒/良好/燒	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。
第63回 PL.63	3	土師器 甕	4ピット 1/3	口 底 11.8 3.5	高 3.5	細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第63回 PL.63	4	土師器 甕	瓶方 1/4	口 底 12.8 3.6	高 3.4	細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第63回 PL.63	5	須恵器 杯	瓶方 1/3	口 底 12.8 7.6	高 4.6	細砂粒/還元焰/灰 褐色	クロロ整形、回転は右回り。底部と体部下位は回転ヘラ削り。
第63回 PL.63	6	須恵器 杯	底部～体部下位片	底 8.0		細砂粒/還元焰/灰 褐色	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。
第63回 PL.63	7	須恵器 鉢	底部～体部下位片	底 12.0		細砂粒/還元焰/黃 灰	クロロ整形か、底部はヘラ削り、体部はヘラナデ。内面は体部にヘラナデ。
第63回 PL.63	8	土師器 台付甕	脚部～胴部下位	底 4.3		細砂粒/良好/明赤 褐色	脚部は底部に貼付。脚部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。
第63回 PL.63	9	土師器 甕	瓶方 口縁部～胴部上 半片	口 底 22.4		細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
第63回 PL.63	10	土師器 甕	口縁部～胴部上 半片	口 底 21.4		細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部から脚部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
第63回 PL.63	11	土師器 甕	瓶方 口縁部～体部上 半片	口 底 22.0		細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。内面体部はヘラナデ。
第63回 PL.63	12	土師器 甕	口縁部～胴部上 半片	口 底 20.0		細砂粒/良好/燒	口縁部から脚部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
第63回 PL.63	13	土師器 甕	口縁部～胴部上 半片	口 底 21.6		細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部から脚部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
第63回 PL.63	14	土師器 甕	貯藏穴 底部～胴部下半 片	底 5.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。

2号竪穴状遺構

第65回 PL.63	1	土師器 甕	覆上 口縁部～体部小 片			細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。
第65回 PL.63	2	灰釉陶器 甕	覆上 口縁部小片			細砂粒/還元焰/灰 褐色	クロロ整形、回転は右回り。施釉方法不明。

遺物觀察表

種類 PL. No.	器種 PL. No.	出上位置 残存率	計測値			施工/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第65回 PL. 63	3 上師器 甕	覆土 口縁部～胴部上 位片	口 底	19.2		細砂粒/良好/に ぶい黄柾	口縁部から頭部は横ナデ。胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。	
第65回 PL. 63	4 塗輪 形象か	覆土 口縁部片				細砂粒/良好/概 ね	詳細不明。断面四角形の凸縁を貼付。凸縁上位は横ハケが 施されているが、器表面感のため詳細不明。	
第65回 PL. 63	5 塗輪 円筒か	覆土 基底部片				細砂粒・粗砂粒/ 良好/明黄柾	外面部と内面部ともナデ。	
第65回 PL. 63	6 塗輪 円筒	覆土 胴部片				細砂粒/良好/概 ね	外面部はハケメ(2cm当たり6本)、内面部はナデ。	
第65回 PL. 63	7 塗輪 形象か	覆土 部位不明				細砂粒/良好/概 ね	外面部はハケメ(2cm当たり15本)、内面部はナデ。	
第65回 PL. 63	8 塗輪 円筒	覆土 胴部片				細砂粒/良好/概 ね	外面部はハケメ(2cm当たり10本)、内面部はナデ。	
第65回 PL. 63	9 鉄製品 鑑か	破片	長 幅	(4.0) 0.9	厚 重	0.9 4.3	基部と頭部の一部のように見られる。台形の圓を持ち、断 面形状はやや丸みを帯びる方形。基部の断面形状は方形。	

2号井戸

第69回 PL. 63	1 龍泉窯系 青磁碗	体部下位片	口 底	-	高 度	-	/灰/	残存部内外面無文。底部内面周縁部による擦痕。大宰府分 類の龍泉窯系青磁碗1-2・3・4類)か。
----------------	---------------	-------	--------	---	--------	---	-----	--

3号井戸

第69回 PL. 63	1 製作地不詳 陶器 瓶か	体部片	口 底	-	高 度	-	/暗赤灰/	外面部と内面上位1/3に光沢のない錆色の鉄錆。素地は炻器 質。
----------------	---------------------	-----	--------	---	--------	---	-------	------------------------------------

4号井戸

第71回 PL. 63	1 須恵器 甕	覆土 ほぼ完形	口 底	12.7 6.4	高 度	4.1	細砂粒・粗砂粒/ 磚/化粧/灰黄 細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第71回 PL. 63	2 須恵器 甕	覆土 底部～体部	口 底	6.8 6.6				ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。
第71回 PL. 63	3 上師器 甕	覆土 口縁部～胴部上 位片	口 底	20.8			細砂粒/良好/に ぶい闊	口縁部から頭部は横ナデ。胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。
第71回 PL. 63	4 須恵器 甕	覆土 頭部～胴部上位 片					細砂粒/還元焰/灰 黄柾	叩き揃め成形、頭部にて口縁部と接合。外面部は降灰が厚く 付いたため技術不良。内面部はアテ具痕ナデ消している。
第71回 PL. 63	5 龍泉窯系 青磁碗	口縁部	口 底	-	高 度	-	/灰/	外面部は無文、内面部は民による施文。内外面青磁釉。大宰府 分類の龍泉窯系青磁碗1-2・3・4類)。
第71回 PL. 63	6 龍泉窯系 青磁碗	口縁部	口 底	-	高 度	-	/灰/	外面部は無文、内面部は民による施文。内外面青磁釉。大宰府 分類の龍泉窯系青磁碗1-2・3・4類)。
第71回 PL. 63	7 常滑陶器 甕	肩部	口 底	-	高 度	-	/黄灰/	外面部器表は赤褐色で上部に自然釉薄くかかる。内面部器表は 黒褐色。8と同一直体の可能性高い。
第71回 PL. 63	8 常滑陶器 甕	肩部	口 底	-	高 度	-	/黄灰/	外面部器表は赤褐色で上部に自然釉薄くかかる。内面部器表は 黒褐色。7と同一直体の可能性高い。

6号井戸

第73回 PL. 64	1 石製品 石臼		径 -	高 6100	重	14.9	粗粒輝石安山岩/	6分割した上臼、輪孔穴は略方形に割まれ、孔中央に径 3.6cmの輪受け痕が残る。挽き手孔は外径3.8cm、物入れ孔 は両側穿孔。
----------------	-------------	--	--------	-----------	---	------	----------	--

7号井戸

第74回 PL. 64	1 須恵器 甕	覆土 底部～口縁部					細砂粒/還元焰/灰	頭部にて胴部と口縁部を接合。胴部側から幅広く粘土を貼 り付けている。口縁部上半は四線による区画と区画内に波 状文を巡らす。内面部はヘラナデ。
----------------	------------	--------------	--	--	--	--	-----------	--

10号井戸

第76回 PL. 64	1 須恵器 甕	覆土 頭部～胴部中位 片	径 19.4	高 11.8	重	5.6	細砂粒/還元焰/灰	胴部下半は叩き揃め成形、上半はロクロ整形。胴部下半は ヘラナデ。内面部は胴部上半がヘラナデ、下半は同心円状ア ーテ具痕が残る。
第76回 PL. 64	2 須恵器 甕	覆土 口縁部片	口 底	25.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。回転は右回り。口縁部は外面部ともヘラナ デ。

12号井戸

第77回 PL. 64	1 肥前窑器 青磁染付蓋	口縁部1/3欠	口 天井	13.4 9.2	高 底	4.0	/白/	内面部と天井部外面部に透明釉。天井部を除く外面部に青磁釉。 天井部外面部に雲龍文。身受け部は無釉。
第77回 PL. 64	2 磁器か 染付瓶	1/6	口 底	(9.8) (3.5)	高 度	5.6	/白/	外面部丸。口縁部内面2重縁線。底部内面1重縁線内に不 明文様。
第77回 PL. 64	3 製作地不詳 陶器急須	1/3	口 底	(6.0)	高 度	-	- 夷物含まない 灰/	器表は暗褐色。内型成型で外面部に指紋状圧痕残る。取っ 手欠損。外面部に「千秋万古」印2カ所。1カ所に不明印。
第77回 PL. 64	4 製作地不詳 陶器急須	1/6	口 底	(3.6)	高 度	5.6	- 黒色急須含む/に ぶい黄柾/	口縁部から体部外面部器表は黒茶、体部外面部は四線状に窪む。 丸底であるが、周縁部近くで屈曲気味。
第77回 PL. 64	5 在地系上器 急須	1/8	口 底	(3.2) (3.8)	高 度	5.8	黒色急須含む/黑 灰/灰柾/	断面中央は黒茶、器表付近は灰褐色、器表は黒褐色。内面 耳剥離。
第77回 PL. 64	6 石製品 砾石		長 幅	7 5.3	厚 重	2.7 150.7	砾沢石/	一面使用。砾石は片ベリ、綫条痕が残る。両側面は切削後 に粗く磨き整修。上端小口部および裏面側は平刃ミサク工 具にて平坦に整形する。下半部を欠く。

1号溝

種類 PL.No.	器種	出土位置 残存率	計測値		施工/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第7984 PL.64	1 陶器 壺	瀬戸・美濃 1/3	口 底 (12.0 (8.0)	高 底 — —	3.1 /灰白/	底部内面鉄絵具による型紙模り。内面から高台脇灰軸。	18世紀前葉～中葉
第7984 PL.64	2 陶器 壺	瀬戸・美濃 颈部から体部上 位1/2	口 底 (13.0 (9.0)	高 底 — —	— /灰白/	外面上灰軸。貫入る。残存部に取っ手なし。	江戸時代
第7984 PL.64	3 在地系土器 焰培	口縁部から体部上 位1/2	口 底 (13.0 (9.0)	高 底 — —	— /黒色鉛物含む/灰 白/	内面器表は灰白色、外外面表は褐色。	江戸時代
第7984 PL.64	4 在地系土器 焰培	小片	口 底 (13.0 (9.0)	高 底 — —	— /黒色鉛物含む/灰 白/	外外面表は黒色。外外面表に接合痕残る。	江戸時代

6号溝

第7984 PL.64	1 須恵器 杯	瀬戸 1/3	口 底 (9.8 (7.0)	高 底 — —	2.9 /細砂粒/酸化塩/に ぶい赤	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。内 面の一部に煤が付着。	
第7984 PL.64	2 陶器 壺	瀬戸・美濃 1/3	口 底 (14.8 (9.0)	高 底 — —	3.5 /灰白/	口縁部外反。内面から高台脇灰軸。底部内面高台の重ね燒 き痕。	17世紀か
第7984 PL.64	3 志戸呂陶器 火火受	口縁部1/3、底 部1/2	口 底 (11.1 (5.5)	高 底 — —	2.9 /灰白/	受け部のアーチ状くり抜き欠損。体部外面以下回転削り。 内面から外面中位に踏跡。	18世紀
第7984 PL.64	4 製作地不詳 陶器	完形 二次加工品	径 径 (4.5 (4.3)	厚 —	0.8 /橙/	土質質の素地にやや内側した透明釉を薄くかける。破片の 周囲を削って円盤形に仕上げる。凸面側中央の輪は剥落か 熱れにより消失。	江戸時代以降

2号溝

第8084 PL.65	1 須恵器 壺	瀬戸 頭部～胴部上位 小片	口 底 — —	— —	細砂粒/還元塩/に ぶい赤	ロクロ整形、回転は右回り。	
第8084 PL.65	2 須恵器 壺	瀬戸 頭部小片	口 底 — —	— —	細砂粒/還元塩/灰 黄	叩き締め成形。外面は平行叩き痕が残るが、内面はアテ具 瓶をナデ消している。	
第8084 PL.65	3 須恵器 鋤釜	瀬戸 頭部小片	口 底 — —	— —	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄	ロクロ整形、回転は右回りか。	

8号土坑

第8484 PL.65	1 上師器 壺	瀬戸 2/3	口 底 (14.1 (7.1)	台 高 5.2	7.1 /細砂粒/良好/に ぶい黄柏	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部は横ナデ、体部は手持 ちヘラ削り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。	
第8484 PL.65	2 須恵器 杯	瀬戸 口縁部～底部片	口 底 (13.0 (10.2)	— —	— —	ロクロ整形、回転は右回り。底部切り離し技法不明。	

18号土坑

第8584 PL.65	1 上師器 壺	瀬戸 頭部～胴部小 片	口 底 (21.8 (7.8)	— —	細砂粒/良好/に ぶい赤	口縁部から頭部は横ナデ。	
第8584 PL.65	2 上師器 壺	瀬戸 口縁部～頭部小 片	口 底 (19.8 (6.0)	— —	細砂粒/良好/に ぶい赤	口縁部から頭部は横ナデ。	
第8584 PL.65	3 上師器 壺	瀬戸 口縁部～胴部上 位片	口 底 (20.2 (6.7)	— —	細砂粒/良好/橙	口縁部から頭部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。	

20号土坑

第8584 PL.65	1 上師器 杯	瀬戸 1/2	口 底 (12.0 (7.8)	高 底 — —	4.2 /細砂粒/良好/に ぶい赤	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第8584 PL.65	2 須恵器 杯	瀬戸 1/3	口 底 (12.2 (6.0)	高 底 — —	3.6 /細砂粒/還元塩/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第8584 PL.65	3 須恵器 杯	瀬戸 1/3	口 底 (13.6 (6.7)	台 高 5.1	6.3 /細砂粒/還元塩/灰 色/オリーブ黒	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼 付。外側にも燒し痕成る。	

31号土坑

第8684 PL.65	1 上師器 杯	瀬戸 口縁部～体部片	口 底 — —	— —	細砂粒/良好/に ぶい黄柏	口縁部は横ナデ、綾下の体部はヘラ削りか。器面摩滅のた め単位不明。	
----------------	------------	---------------	------------------	--------	------------------	--------------------------------------	--

33号土坑

第8784 PL.65	1 陶器 水注	瀬戸・美濃 一部欠	口 底 — 5.0	高 底 — —	— /灰白/	内面から体部外面下位に鉄軸。底部右回転糸切り無調整。口 縁部細かい剥離で欠損。	江戸時代か
第8784 PL.65	2 在地系土器 焰培	瀬戸 1/3	口 底 (30.0 (6.0)	高 底 — —	— /白色鉛物少量含む/ 黒、灰白/	断面中央黒色、器表灰白色、器表灰褐色から黒色、 口縁部上面は平坦。	江戸時代
第8784 PL.65	3 在地系土器 焰培	瀬戸 1/6	口 底 (36.2 (33.2)	高 底 — —	5.6 /黑色鉛物含む/に ぶい黄柏/	内面器表は灰白色、口縁部から体部外面器表は黒色、底部 外側は灰黃褐色。底部内面に小判形の不明押印。文字は3 文字か。	江戸時代
第8784 PL.65	4 鋼製品 不明	完形	長 径 1.7 0.8	重 量 2.5	—	三方の口が閉じられており鋼製の筒状製品。内部には砂が 多く含まれている。	有
第8784 PL.65	5 鋼製品 鍊先か	一部	長 幅 12.8 3.5	厚 重 1.6 84.1	—	端部が折り返されて立ち上がっており、木製の風呂につけ られていたか。多く欠けているため詳細不明。	有

遺物觀察表

遺構外

種類 PL.No.	器種 No.	出土位置 埋蔵状況	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
			高さ	幅				
第9384 PL.65	1 土師器 杯	表土 1/2	口 10.8 高 3.6	細砂粒/良好/明赤	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。			
第9384 PL.65	2 須恵器 杯	表土 1/3	口 14.0 高 3.3	細砂粒/還元焰/灰 白	クロロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り、周縁は回転ヘラ削り。			
第9384 PL.65	3 須恵器 壺	一括 4/5	口 12.5 底 6.8	台 7.0 高 5.2	細砂粒/酸化焰/灰 黄褐色	クロロ整形、回転は左回り。底部は回転糸切りか、高台は削り付。		
第9384 PL.65	4 須恵器 壺	一括 底部片	底 6.8	台 6.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐色	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切りか、高台は削り付。		
第9384 PL.65	5 土師器 壺	一括 口縁部片	口 10.8		細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部は折り返し、頸部はナデ。内面はヘラミガキ。		
第9384 PL.65	6 土師器 壺	表土 強部～胴部上半 片	頭 9.0		細砂粒/良好/黒褐色	頭部は横ナデ、胴部上位はヘラミガキ、中位はヘラ削り。内面は胴部上位がナデ、中位はヘラナデ。		
第9384 PL.65	7 土師器 壺	表土 口縁部～頸部片	口 19.8		細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部は横ナデ、頸部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第9384 PL.65	8 土師器 壺	一括 口縁部～頸部小 片	口 22.0		細砂粒/良好/灰 黄褐色	口縁部から頸部は横ナデ。		
第9384 PL.65	9 土師器 壺	表土 口縁部～胴部上 位片	口 18.8		細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縱方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第9384 PL.65	10 土師器 壺	表土 口縁部～胴部上 位片	口 16.8		細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラミガキ。		
第9384 PL.65	11 須恵器 壺	財石器トレンチ 剥離片			細砂粒/還元焰/黄 灰	叩き舗め成形。外面上には平行叩き痕、内面は同心円状アテ 痕痕が残る。		
第9384 PL.65	12 埴輪 形象か	壇瓦 剥離片			細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	内面は貼付、外面上は器面削離のため整形不明。内面はナデ。 柄に貼付された凸部の下方に弧状に削離した凸部痕がみられる ことから大刀形か。		
第9384 PL.65	13 埴輪 壺	表土 円筒 胴部片			細砂粒/良好/明赤 褐色	凸部は貼付。胴部は單方向ハケメ、器面摩滅のため詳細不明。 内面はナデ。		
第9484 PL.65	14 陶器 おろし皿か	口縁部片	口 ~ 底 ~	高 ~	/浅黄褐色	外面顯著な輪縁目。口縁部に薄い灰釉。体部内面に鉄目。 古瀬(?)。	中世	
第9484 PL.65	15 陶器 單耳瓶	口縁部欠損	口 底	高 4.5	/灰白色	小型單耳瓶。上半は灰釉、下半は鉄釉の掛け分け。脚底面は 右回転糸切無調整。	18世紀後葉	
第9484 PL.65	16 在地系土器 片口鉢	体部下位から底 部片	口 底	高 ~	片岩由來の微細礫 物?含む/灰白色	外面器表は黒褐色、内面器表は灰色。内面器表は使用によ り部分的に摩滅。	中世	
第9484 PL.65	17 常滑陶器 壺	体部片	口 底	高 ~	/灰白色	内外面器表は暗赤褐色。	中世	
第9484 PL.65	18 在地系土器 内耳鍋	1/6	口 底	(29.1) ~	~ 黑色鉱物含む/に ぶい橙	器表は黒色。口縁部外反。口縁部内面は低い段を有する。 外面屈曲部は門線状に隆む。	14世紀後半～ 15世紀中葉	
第9484 PL.65	19 石製品 不明		長 (2.5) 幅 (1.6)	厚 0.3 重 1.5	頁岩/	薄い石板様の石片を用いたもので、左辺を斜め方向に研磨 する一方、上端を弧状に研磨整形する。小片で詳細は不明。		
第9484 PL.65	20 石製品 砥石		長 (4.5) 幅 (4.6)	厚 0.7 重 17.8	頁岩粘板岩/	二面使用。左側面にノコギリ痕を残す。裏面には細かな線 条痕が残されているが、片減り等はない。細粒石材を用い た仕上げ風。		
第9484 PL.65	21 織文土器 深鉢	2号臼石器トレ ンチ16層褐色粘 質土	長 (4.3) 幅 (4.0)	厚 重	0.8 ~	織紋・長石・黑 雲母/良好/灰黃	平口縁。内外面に丁寧なミガキ。半裁竹管による横方向の 沈殿2条。沈線の間には織文。	

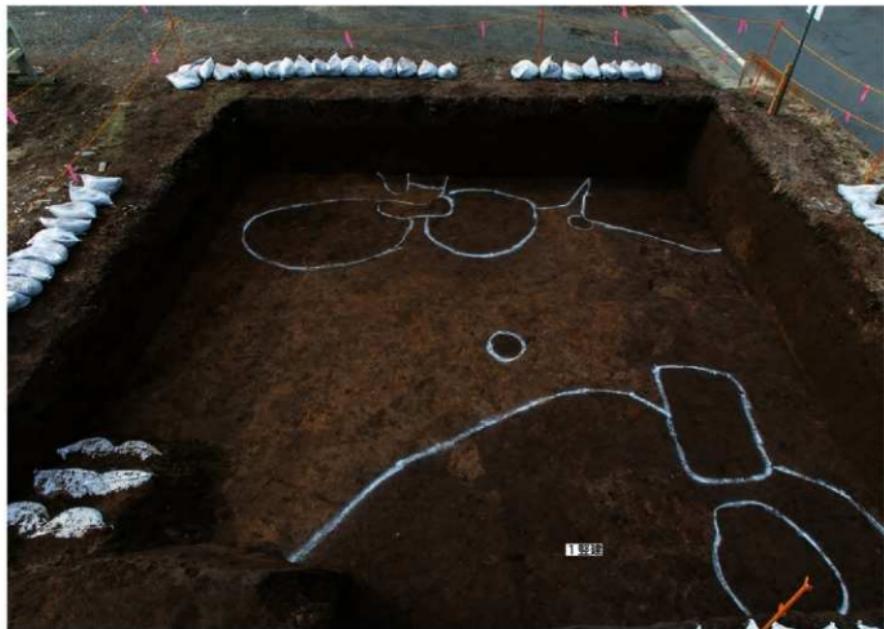
写 真 図 版



1 1区～11区調査区全景(南から)



2 1区4号・5号・6号・7号・10号・11号堅穴建物全景(上から)



1 2区1号竖穴建物検出状況(北から)



2 2区1号竖穴建物全景(南から)



3 2区1号竖穴建物全景(南から)



4 2区1号竖穴建物焼土・炭化物検出状況(南から)



5 2区2号竖穴建物全景(北東から)



1 1区3号・4号竪穴建物検出状況(南から)



2 1区3号竪穴建物土層断面A-A' (西から)



3 1区3号竪穴建物全景(西から)



4 1区3号竪穴建物内集石全景(西から)



5 1区3号竪穴建物全景(西から)



1 1区4号竪穴建物全景(南から)



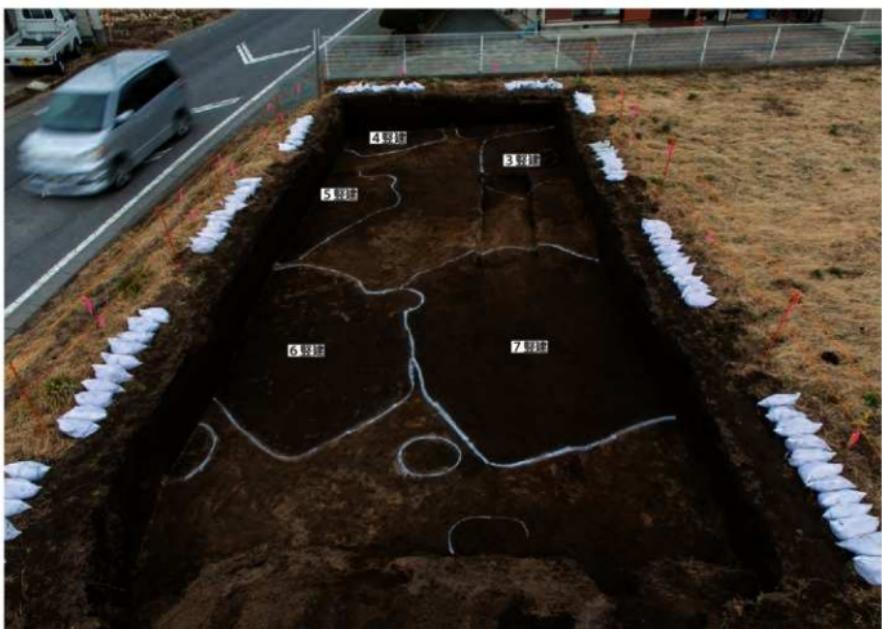
2 1区4号竪穴建物全景(西から)



3 1区4号竪穴建物全景(南から)



4 1区4号竪穴建物遺物出土状況(南から)



5 1区3号～7号竪穴建物検出状況(南から)



1 1区5号竖穴建物全景(南から)



2 1区5号竖穴建物カマド土層断面C-C' (南から)



3 1区5号竖穴建物カマド遺物出土状態(西から)



4 1区5号竖穴建物カマド掘り方全景(西から)



5 1区6号竖穴建物全景(西から)



6 1区6号竖穴建物掘り方全景(南から)



7 1区6号竖穴建物カマド土層断面E-E' (西から)



8 1区6号竖穴建物カマド全景(南西から)



1 1区7号竪穴建物全景(南から)



2 1区7号竪穴建物全景(西から)



3 1区7号竪穴建物カマド検出状況(西から)



4 1区7号竪穴建物カマド検出状況(南から)



5 1区7号竪穴建物カマド土層断面D-D' (南から)



1 4区8号竪穴建物検出状況(南から)



2 4区8号竪穴建物北半全景(南から)



3 1区9号竪穴建物検出状況(南から)



4 1区9号竪穴建物掘り方全景(南から)



5 1区10号竪穴建物掘り方全景(南西から)



1 1区10号竪穴建物掘り方土層断面A-A'（北東から）



2 1区10号竪穴建物カマド土層断面D-D'（南から）



3 1区10号竪穴建物カマド掘り方土層断面D-D'（南から）



4 1区10号竪穴建物カマド掘り方全景(南西から)



5 1区-E 11号竪穴建物北側半分(南から)



1 1区-E 11号竪穴建物北側半分(南から)



2 1区-E 11号竪穴建物カマド周辺(南から)



3 1区-E 11号竪穴建物遺物出土状態(南から)



4 1区-E 11号竪穴建物全景(北から)



5 1区-E 11号竪穴建物南半分(南から)



6 1区-E 11号竪穴建物カマド全景(西から)



7 1区-E 11号竪穴建物カマド土層断面H-H' (西から)



8 1区-E 11号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)



1 1区-E 12号竖穴建物全景(西から)



2 1区-E 12号竖穴建物カマド土層断面D-D' (南から)



3 1区-E 12号竖穴建物土層断面A-A' (南から)



4 1区-E 13号竖穴建物全景(南から)



5 1区-E 13号竖穴建物掘り方全景(南から)



6 1区-E 13号竖穴建物カマド掘り方土層断面D-D' (南から)



1 1区-E 14号竖穴建物全景(西から)



2 1区-E 14号竖穴建物遺物出土状態(南から)



1 1区-E 14号竪穴建物掘り方土層断面C-C' (西から)



2 1区-E 14号竪穴建物カマド焼土検出状況(南東から)



3 1区-E 14号竪穴建物カマド全景(南東から)



4 1区-E 14号竪穴建物カマド土層断面D-D' (北東から)



5 1区-A 15号・16号・17号竪穴建物全景(南から)



1 1区-A 15号・16号竪穴建物土層断面A-A' (西から)



2 1区-A 15号竪穴建物全景(北西から)



3 1区-A 15号竪穴建物遺物出土状態(西から)



4 1区-A 16号竪穴建物遺物出土状態(北東から)



5 1区-A 16号竪穴建物遺物出土状態(南から)



1 1区17号竪穴建物土層断面A-A'（南から）



2 1区17号竪穴建物全景(南西から)



3 1区17号竪穴建物掘り方全景(南西から)



4 1区17号竪穴建物遺物出土状態(南から)



5 1区17号竪穴建物遺物出土状態(西から)



1 9区18号・19号堅穴建物、3号・4号堅穴状遺構全景(南から)



2 9区18号・19号堅穴建物、3号・4号堅穴状遺構全景(東から)



1 9区18号壁穴建物全景(南西から)



2 9区18号壁穴建物遺物出土状態(南西から)



1 9区18号竪穴建物土層断面B-B'（南西から）



2 9区18号竪穴建物掘り方全景（南西から）



3 9区18号竪穴建物遺物出土状態（南西から）



4 9区18号竪穴建物遺物出土状態（北西から）



5 9区18号竪穴建物カマド土層断面C-C'（南東から）



6 9区18号竪穴建物カマド土層断面E-E'（南西から）



7 9区18号竪穴建物カマド遺物出土状態（南西から）



8 9区18号竪穴建物カマド掘り方土層断面C-C'（南から）



1 9区19号竪穴建物全景(西から)



2 9区19号竪穴建物土層断面A-A' (西から)



3 9区19号竪穴建物土層断面B-B' (東から)



4 9区19号竪穴建物掘り方土層断面A-A' (西から)



5 9区19号竪穴建物掘り方全景(西から)



1 9区19号竪穴建物カマド土層断面E-E'（西から）



2 9区19号竪穴建物カマド全景(西から)



3 9区19号竪穴建物カマド全景(西から)



4 9区19号竪穴建物カマド土層断面E-E'（西から）



5 1区-E 21号・22号・23号竪穴建物全景(北東から)



1 1区-E 21号竪穴建物全景(西から)



2 1区-E 21号竪穴建物土層断面B-B' (西から)



3 1区-E 21号竪穴建物遺物出土状態(西から)



4 1区-E 21号竪穴建物遺物出土状態(西から)



5 1区-E 21号竪穴建物遺物出土状態(西から)



1 1区-E 21号竖穴建物カマド焼土検出状況(西から)



2 1区-E 21号竖穴建物カマド土層断面I-I' (西から)



3 1区-E 21号竖穴建物カマド全景(西から)



4 1区-E 21号竖穴建物カマド土層断面H-H' (北から)



5 1区-E 22号竖穴建物全景(南から)



1 1区-E 22号竪穴建物掘り方全景(南西から)



2 1区-E 22号竪穴建物遺物出土状態(西から)



3 1区-E 22号竪穴建物土層断面A-A' (西から)



4 1区-E 22号竪穴建物カマド土層断面F-F' (南から)



5 1区-E 22号竪穴建物カマド遺物出土状態(南西から)



6 1区-E 22号竪穴建物カマド土層断面F-F' (南から)



7 1区-E 22号竪穴建物カマド土層断面E-E' (西から)



8 1区-E 22号竪穴建物カマド掘り方全景(南から)



1 1区-E 23号竖穴建物全景(西から) 数字は遺物番号



2 1区-E 23号竖穴建物遺物出土状態(西から)



3 1区-E 23号竖穴建物遺物出土状態(西から)



4 1区-E 23号竖穴建物遺物出土状態(西から)



5 1区-E 23号竖穴建物遺物出土状態(西から)



1 1区-E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)



2 1区-E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(南から)



1 1区-E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(西から)



2 1区-E 23号竪穴建物カマド土層断面F-F' (西から)



3 1区-E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(東から)



4 1区-E 23号竪穴建物カマド遺物出土状態(北から)



5 1区-E 23号竪穴建物カマド土層断面E-E' (北から)



6 1区-E 23号竪穴建物カマド全景(西から)



7 1区-E 23号竪穴建物カマド土層断面G-G' (西から)



8 1区-E 23号竪穴建物カマド土層断面G-G' (西から)



1 1区-D 24号・25号・26号・27号竪穴建物全景(南から)



2 1区-D 24号竪穴建物土層断面A-A' (西から)



3 1区-D 24号竪穴建物土層断面A-A' (西から)



4 1区-D 25号竪穴建物全景(南から)



5 1区-D 25号竪穴建物土層断面A-A' (西から)



1 1区-D 26号竖穴建物全景(南から)



2 1区-D 27号竖穴建物全景(西から)



1 1区-D 27号竪穴建物掘り方全景(南西から)



2 1区-D 27号竪穴建物カマド全景(西から)



3 1区-D 27号竪穴建物掘り方全景(南から)



4 1区-D 27号竪穴建物カマド土層断面D-D' (南東から)



5 1区-D 27号竪穴建物カマド全景(西から)



6 1区-D 27号竪穴建物カマド全景(西から)



7 1区-D 27号竪穴建物カマド土層断面C-C' (南から)



8 1区-D 27号竪穴建物カマド掘り方全景(西から)



1 4区28号・30号竪穴建物全景(南から)



2 4区28号竪穴建物掘り方全景(南から)



1 4区28号竪穴建物土層断面B-B'（東から）



2 4区28号竪穴建物土層断面A-A'（北から）



3 4区28号竪穴建物遺物出土状態(西から)



4 4区28号竪穴建物北側周溝（南西から）



5 4区28号竪穴建物全景(南西から)



6 4区28号竪穴建物掘り方土層断面B-B'（北東から）



7 4区28号竪穴建物掘り方土層断面A-A'（北西から）



8 4区28号竪穴建物焼土・炭化物検出状況(南西から)



1 4区28号・29号・30号堅穴建物全景(南から)



2 4区29号堅穴建物全景(南から)



1 4区30号竪穴建物全景(西から)



2 4区30号竪穴建物土層断面B-B' (北西から)



3 4区30号竪穴建物遺物出土状態(南から)



4 4区30号竪穴建物遺物出土状態(南から)



5 4区30号竪穴建物掘り方全景(西から)



1 4区30号竪穴建物カマド土層断面H-H'（西から）



2 4区30号竪穴建物カマド掘り方土層断面H-H'（西から）



3 4区30号竪穴建物貯藏穴全景(西から)



4 4区30号竪穴建物P1全景(南から)



5 9区2号・3号・4号竪穴状遺構全景(南東から)



1 4区 5号竖穴状遺構全景(北から)



2 9区 2号竖穴状遺構全景(南東から)



3 9区 3号竖穴状遺構全景(西から)



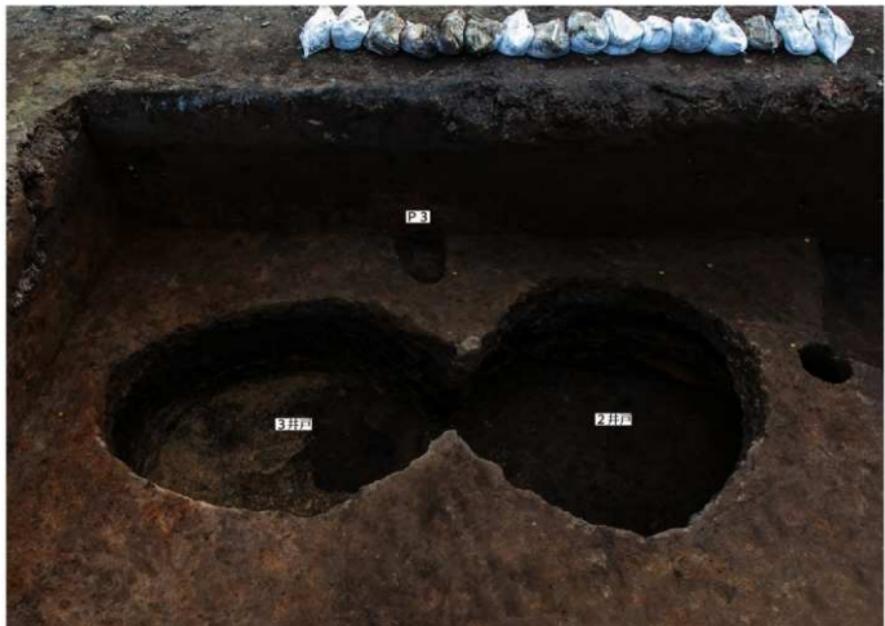
4 9区 4号竖穴状遺構全景(西から)



5 4区 5号竖穴状遺構全景(東から)



1 2区1号・2号・3号井戸全景(南から)



2 2区2号・3号井戸全景(北から)



1 2区1号井戸全景(東から)



2 2区1号井戸土層断面A-A' (東から)



3 2区2号・3号井戸全景(南から)



4 2区2号井戸全景(南から)



5 2区3号井戸遺物出土状態(北から)



6 2区3号井戸全景(北から)



7 1区4号井戸礫出土状態(南東から)



8 1区4号井戸全景(北東から)



1 6区5号・6号井戸全景(西から)



2 6区5号井戸土層断面A-A' (南西から)



3 6区5号井戸全景(南西から)



4 6区6号井戸土層断面B-B' (西から)



5 6区6号井戸遺物出土状態(南西から)



1 1区-E 7号井戸全景(南から)



2 1区-E 7号井戸全景(南から)



3 1区-E 7号井戸土層断面A-A' (南から)



4 9区 8号井戸全景(南から)



5 9区 8号井戸全景(南西から)



6 4区 9号・10号井戸全景(北から)



7 4区 9号井戸全景(南から)



8 4区 9号井戸土層断面A-A' (南から)



1 4区10号井戸全景(北から)



2 4区10号井戸土壠断面A-A' (南から)



3 4区11号井戸全景(西から)



4 4区12号井戸全景(東から)



5 4区11号・12号井戸、1号・5号・6号溝全景(南から)



1 4区1号・6号溝全景(北から)



2 5区1号溝全景(北から)



3 5区1号溝土層断面B-B' (南から)



4 5区1号溝全景(南から)



1 1区-B 2号溝全景(西から)



2 1区-C 3号溝全景(南西から)



3 4区 4号溝全景(北から)



5 4区 5号溝全景(南から)



6 4区 6号溝全景(南から)



7 4区 6号溝土層断面G-G' (東から)



1 10区7号・9号・10号溝全景(北から)



2 10区7号溝全景(北から)



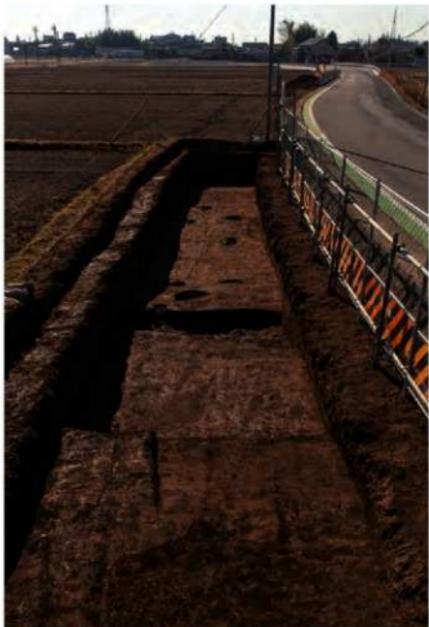
3 10区9号溝土肩断面A-A' (西から)



4 10区10号溝全景(西から)



5 10区10号溝土肩断面A-A' (西から)



1 11区8号溝全景(北から)



2 11区11号溝全景(南から)



3 11区8号溝全景(東から)



4 11区8号溝土肩断面A-A' (東から)



5 11区11号溝土肩断面A-A' (北から)



6 11区11号溝土肩断面A-A' (北から)



1 2区2号土坑全景(東から)



2 2区2号土坑土層断面A-A' (東から)



3 1区5号土坑全景(南から)



4 1区5号土坑土層断面A-A' (南から)



5 1区9号土坑全景(西から)



6 1区9号土坑土層断面A-A' (西から)



7 1区11号土坑全景(西から)



8 1区11号土坑全景(西から)



1 1区14号土坑全景(南から)



2 1区14号土坑土層断面A-A' (南から)



3 1区16号土坑全景(北から)



4 1区16号土坑土層断面A-A' (北から)



5 3区17号土坑全景(南から)



6 1区18号土坑全景(北から)



7 1区18号土坑遺物出土状態(北から)



8 9区19号土坑土層断面A-A' (南から)



1 9区20号土坑土層断面A-A'（東から）



2 9区20号土坑遺物出土状態（北から）



3 9区21号土坑全景（北から）



4 9区21号土坑土層断面A-A'（北から）



5 9区22号土坑全景（西から）



6 9区24号土坑土層断面A-A'（南東から）



7 9区24号土坑全景（南西から）



8 9区25号土坑全景（南西から）



1 9区26号土坑全景(東から)



2 9区27号土坑土層断面A-A' (南から)



3 1区-D 31号土坑全景(西から)



4 1区-D 31号土坑土層断面A-A' (東から)



5 1区-E 32号土坑全景(西から)



6 4区33号土坑全景(北から)



7 4区33号土坑土層断面A-A' (北から)



8 4区33号土坑遺物出土状態(東から)



1 4区35号土坑全景(南から)



2 4区35号土坑土層断面A-A' (西から)



3 4区36号土坑全景(南から)



4 4区37号土坑全景(南から)



5 4区37号土坑土層断面A-A' (南から)



6 4区38号土坑全景(南から)



7 4区38号土坑土層断面A-A' (南から)



8 4区39号土坑全景(北から)



1 2区1号ピット土層断面A-A' (南東から)



2 2区2号ピット全景(東から)



3 2区2号ピット土層断面A-A' (東から)



4 2区3号ピット全景(北から)



5 7区5号ピット全景(西から)



6 7区6号ピット全景(西から)



7 7区7号・8号ピット全景(東から)



8 7区8号ピット全景(東から)



9 6区10号ピット全景(東から)



10 6区11号ピット全景(東から)



11 6区11号ピット土層断面A-A' (東から)



12 6区12号ピット全景(西から)



13 6区12号ピット土層断面A-A' (南から)



14 1区13号ピット全景(南から)



15 1区13号ピット土層断面A-A' (南から)



1 1区14号ピット全景(南から)



2 1区14号ピット土層断面A-A'(南から)



3 1区15号ピット全景(南から)



4 1区15号ピット土層断面A-A'(南から)



5 1区16号ピット全景(南から)



6 1区16号ピット土層断面A-A'(南から)



7 1区17号ピット全景(南から)



8 1区17号ピット土層断面A-A'(南から)



9 1区18号ピット全景(南から)



10 1区18号ピット土層断面A-A'(南から)



11 9区19号ピット土層断面A-A'(西から)



12 9区20号ピット全景(西から)



13 9区20号ピット土層断面A-A'(南から)



14 9区21号ピット土層断面A-A'(西から)



15 1区22号ピット全景(南から)



1 1区-A 22号ピット土層断面A-A' (北から)



2 1区-A 23号ピット全景(南から)



3 1区-A 2号ピット土層断面A-A' (南から)



4 9区24号ピット全景(南から)



5 4区25号ピット全景(南から)



6 4区26号ピット全景(南から)



7 4区26号ピット土層断面A-A' (南から)



8 4区27号ピット全景(南から)



9 4区27号ピット土層断面A-A' (南から)



10 4区28号ピット全景(南から)



11 4区28号ピット土層断面A-A' (南から)



12 4区29号ピット全景(南から)



13 4区29号ピット土層断面A-A' (南から)



14 4区30号ピット全景(南から)



15 4区30号ピット土層断面A-A' (南から)



1 4区31号ピット全景(南から)



2 4区31号ピット土層断面A-A' (南から)



3 4区32号ピット全景(北から)



4 4区32号ピット土層断面A-A' (北から)



5 10区33号ピット全景(南から)



6 10区33号ピット土層断面A-A' (南から)



7 10区34号ピット全景(南から)



8 10区34号ピット土層断面A-A' (南から)



9 10区35号・36号ピット全景(南から)



10 10区35号・36号ピット土層断面A-A' (南から)



11 10区37号ピット全景(南から)



12 10区37号ピット土層断面A-A' (南から)



13 10区38号ピット全景(南から)



14 10区38号ピット土層断面A-A' (南から)



15 10区39号ピット全景(南から)



1 10区39号ピット土層断面A-A' (南から)



2 10区40号ピット全景(南から)



3 10区40号ピット土層断面A-A' (南から)



4 11区41号ピット全景(西から)



5 11区41号ピット土層断面A-A' (西から)



6 11区42号ピット全景(西から)



7 11区42号ピット土層断面A-A' (西から)



8 11区44号ピット全景(北から)



9 11区45号ピット全景(東から)



10 11区45号ピット全景(東から)



11 11区46号ピット全景(東から)



12 11区47号ピット土層断面A-A' (西から)



13 11区48号ピット土層断面A-A' (東から)



14 11区49号ピット土層断面A-A' (西から)



15 11区50号ピット全景(南から)

PL.54

3号壁穴建物



2



5



6

4号壁穴建物



1

5号壁穴建物



1



2



4



6



7

7号壁穴建物



2



3

10号竖穴建物



2



3



4

11号竖穴建物



1



3



6



7



8

PL.56

14号竖穴建物



15号竖穴建物



16号竖穴建物



17号竖穴建物



18号竖穴建物



PL.58

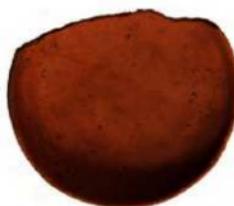


18



19

21号竖穴建物



1



2



13



8



14



22



23

21

22号竖穴建物



3



5



10



11

23号竖穴建物



13

16



20



21





22



23



24



25



26



27



28



1



3

27号壁穴建物

28号壁穴建物



3



4



5

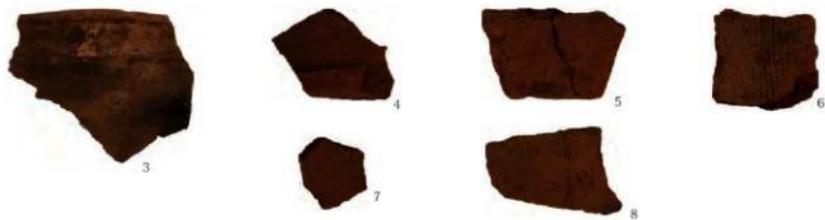


6

30号竖穴建物



2号竖穴状遗構



2号井戸



3号井戸



4号井戸



PL.64

6号井戶



6井1

7号井戶



7井1

12号井戶



1



2



3



6

1号溝



1

2

6号溝



3

2

4

8号土坑



8土 1

20号土坑



20土 1



20土 2

33号土坑



33土 1



33土 3



33土 2



33土 5



33土 4

遗物外



2



3



12



9



11



13



14



15



16



18



19



20



21

報 告 書 抄 錄

書名ふりがな	まえぼししそろはちきゅういちいせき
書 名	前橋市0891遺跡
副 書 名	(一)三夜沢国定停車場線社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷 次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	708
編 著 者 名	石川真理子・中沢 智
編 集 機 閣	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発 行 機 閣	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20220314
作成法人 I D	21005
郵 便 番 号	377-8555
電 話 番 号	0279-52-2511
住 所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	まえぼししそろはちきゅういちいせき
遺 跡 名	前橋市0891遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえぼししこすかわまちふかつ
遺 蹤 所 在 地	群馬県前橋市粕川町深津
市町村コード	10201
遺 蹤 番 号	0891
北緯(世界測地系)	36.3998
東経(世界測地系)	139.2076
調査期間	'20180301-20180331 '20190701-20190831 '20200101-20200131
調査面積	2,712.14
調査原因	道路整備(歩道整備)
種 別	集落/城館跡/水田
主 な 時 代	古墳/平安/中・近世
遺 蹤 概 要	古墳・平安・竪穴建物29+竪穴状遺構4-土器+石器+石製品 古墳・中近世-井戸12+溝11+土坑30+ピット50-土器+陶磁器+金属器+石製品
特 記 事 項	5世紀末から6世紀初頭にかけての土器がまとまって出土した竪穴建物で構成される集落
要 約	前橋市粕川町大字深津に所在する。粕川と桂川に挟まれた場所にあり、扇状地と同扇状地により残丘された独立丘陵等があり混じる複雑な地形である。本遺跡からは、5世紀末から10世紀にかけての竪穴建物や中世の井戸や江戸時代の遺構が発見された。5世紀末から6世紀初頭にかけての土器がまとまって出土し、その当時の人々が暮らした様子の一端が明らかになった。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第708集

前橋市0891遺跡

(一)三夜沢国定停車場線社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和4(2022)年3月11日 発行

令和4(2022)年3月14日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県邑楽郡大泉町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaiban.org/>

自刷／ジャーナル印刷株式会社



付図 前橋市0891遺跡 全体図(1:600)

